

授 業 名	人間と仏教			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1101
英 文 名	Human and Buddhism			開講 時期	春・秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	伊藤 茂樹・平間 尚子			対象 学生	総合文化1回生、幼児教育1回生				
授業の概要	<p>本授業は仏教の起源である開祖釈尊の生き方とその教え、また法然の生涯と教えを中心として概説することにより、我々の生きる意義を理解することを目指す。「ブッダの生涯」「ブッダの教え」「法然の生涯」「法然の教え」というテーマの下に、宗教観、仏教という宗教誕生の必然を概説し、私たちの人間形成に意義を持つ内容を学び、建学の理念を学んでいきたい。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 建学の精神を理解することが出来る。 2) 釈尊の教えである「苦」の理念を自らの問題として理解することが出来る。 3) 法然の平等思想を理解することが出来る。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 60% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	『ブッダと法然』( 学術図書出版社、2019年 )								
参 考 書	授業内で適宜紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	発表についてはコメントします。								
留意事項	板書や講義の内容をしっかりとノートに取ること。								
オフィス アワー	後日研究室前に掲示します。								
実践的教育									

授業名	人間と仏教	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「仏教とは何か」	(学修内容) 宗教とは? 仏教とはどのような教え? 何故仏教を学ぶの? 仏教を学ぶ基本中の基本を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく。
第2回	「仏教から学ぶこと」	(学修内容) 建学の精神を概説します。学校周辺の環境をみつめてみましょう。仏教を学ぶ意義について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊について、教科書を一通り読んでおくこと。建学の精神をノートにまとめる。
第3回	「インドの文化」	(学修内容) 釈尊誕生の前提としてインドの歴史と文化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) インドの文化を調べる。
第4回	「ブッダの生涯 誕生」	(学修内容) 仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ブッダの誕生について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後は、ノートを整理する。
第5回	「ブッダの生涯 四門出遊」	(学修内容) ブッダの出家の経緯(四門出遊等)について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四門出遊について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後は、ノートを整理する。
第6回	「ブッダの生涯 苦行」	(学修内容) ブッダが出家の後、苦しい修行を何度も経験し、三十五歳で悟りを開いたことについて概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 出家後のブッダについて、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後は、ノートを整理する。
第7回	「ブッダの生涯 悟り」	(学修内容) 悟りの内容である縁起の思想。四諦八正道について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 四諦八正道について、該当する教科書を読むこと。授業後はノートを整理する。
第8回	「ブッダの生涯 釈尊の伝道」	(学修内容) 釈尊は、35歳で悟りを開いて後、教化伝道の生活を送ります。釈尊の教化伝道の生活を学びます。確認テストを実施します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 釈尊の伝道について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後は、ノートを整理する。
第9回	「法然の生涯と思想 誕生」	(学修内容) 法然上人の誕生とその背景について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法然上人の誕生について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第10回	「法然の生涯と思想 父の死」	(学修内容) 法然上人は9歳で父の死に直面します。その後、僧侶としての道を進んでゆきます。比叡山登山と、延暦寺での修学について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 父の死について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第11回	「法然の生涯と思想 比叡山修学・南都遊学」	(学修内容) 法然上人は、比叡山で一定の年月を修行して過ごした後、南都遊学をします。浄土教に出会うまでを概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法然上人の比叡山修学、南都遊学について、教科書の該当する範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第12回	「法然の生涯と思想 立教開宗」	(学修内容) 法然上人の浄土宗開宗と、浄土宗の教えについて学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 浄土宗の開宗について、該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第13回	「法然の生涯と思想 大原問答・東大寺講説」	(学修内容) 大原問答と東大寺講説について、概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大原問答と東大寺講説について該当する教科書の範囲を読むこと。授業後、ノートを整理する。
第14回	「法然の生涯と思想 法難・臨終」	(学修内容) 専修念仏教団の法難と法然上人の臨終について概説します。また知恩院の成立も理解します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 法難、臨終について、該当する教科書の範囲を読むこと授業後、ノートの整理をする。
第15回	講義総括	(学修内容) 講義のまとめ、ブッダ・法然の教えが現代の我々とどのように関わるかを考えます。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 全15回分授業のノートを読み返しておくこと。ブッダの悟り、法然上人の教えをまとめる。

授 業 名	基礎ゼミナール A～H			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CS1102
英 文 名	Freshman Seminar			開講 時期	春学期	必修 選択	必修		
担 当 者	高岡 理恵・坂本 渉・小川 隆昭・林 静香・荘巖 茶茶・渋谷 郁子・野田 隆生・坂口 みゆき			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	1 回生春学期の基礎ゼミナール は「初年次教育」と位置づけ、大学での学びの特徴、目的を見据えて学ぶ意義、学びの方法として講義の受け方、レポートや小論文の書き方などを体験的に学ぶ。また、その中に幼児教育学科としての取り組みを盛り込んでいく。授業形態としては、20人までの少人数クラスを専任教員が担当し、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなど演習を基本として実施する。また、客観的評価としてのPROGテストや主観的評価としての学修ポートフォリオ等も活用しながら、学生が自分自身と向き合うことができるようゼミナールを運営していく。								
学修成果 到達目標	1) 幼児教育学科のディプロマポリシーを理解している。 2) プレゼンテーションの仕方を学び実践できるようになる。 3) レポートの書き方の基礎を身につけ実践できるようになる。 4) 担当教員や学生と良好なコミュニケーションを図ることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	必要に応じて資料等を配布する。								
参 考 書	必要に応じて紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については必ず添削し、授業の運営や個別面談の資料として活用する。また、必要に応じ、コメントして返却する。								
留意事項	基礎ゼミナールは、授業の1つですが、学修や学生生活の基礎を支える役割も果たします。毎回の出席はもちろん、担当教員や学生同士で積極的にコミュニケーションを図って下さい。個別面談を適宜実施します。								
オフィス アワー	各教員が授業時に伝える。								
実践的教育									

授業名	基礎ゼミナール A~H	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーションとゼミへの導入(2年間の流れ, Gメールの使い方など) 全体で授業を実施	(学修内容)基礎ゼミナールの初年次教育としての位置づけやプログラム等を確認する。Gメール, ポータルサイト, Google Classroomについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 『情報サービスマニュアル』を持参する。 事後学修として, ゼミナール担当教員にメールを送信する。
第2回	大学生活について知る	(学修内容)ゼミのメンバーと知りあう。履修登録について確認し, わからないことを解消する。学校行事や学科行事を知る。ゼミ代表について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 時間割を組んでみる。ポータルサイトへアクセスし掲示板を確認する。わからないことをメモしてくる。
第3回	授業の受け方を学ぶ	(学修内容)高校までとは違う授業形態や授業の受け方, 話の聞き方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前学修として, 配布資料の該当箇所を読んでおく。
第4回	学内シールラリーを通して学内のことを知る	(学修内容)学内シールラリーを実施し, 教員研究室や各部署の位置, また各部署の役割などを知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) キャンパスライフを読んでおく(特に学内の地図, 見取り図)。
第5回	PROGテストについて理解し, 実際に取り組む : リテラシー	(学修内容)PROGテスト(リテラシー)について説明を受け理解する。リテラシー45分をゼミ内で実施する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) PROGテストについて説明動画を見ておく。
第6回	PROGテストについて理解し, 実際に取り組む : コンピテンシー	(学修内容)PROGテスト(コンピテンシー)について説明を受け理解する。コンピテンシーをゼミ内で実施する。 (事前事後学修課題の内容)(45分) PROGテストについて説明動画を見ておく。
第7回	プレゼンテーションの方法を学ぶ	(学修内容)スライドと発表原稿の作り方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として, 大学周辺の文化施設等を訪問・見学し, 写真や文章でその内容を記録しておく。
第8回	プレゼンテーション	(学修内容)大学周辺の文化施設等を訪問・見学した内容をスライドを用いて発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として, 訪問の内容を発表する準備をする。
第9回	書簡文の作成	(学修内容)正式な手紙の書き方を知る。お世話になった人に近況報告の手紙を書く。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として, 手紙を完成させ(あるいは清書をして)投函する。投函の方法については授業内で説明する。
第10回	正式なEメールの作成	(学修内容)正式なEメールの書き方を知り, 作成する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として教員が指定する内容のGメールを送る。
第11回	保育現場を知る 全体で授業を実施予定	(学修内容)現場の保育者の話を聞き, 保育現場について理解を深める(学外講師の都合により日程が前後することがある) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として, 学んだことを小レポートにまとめ提出する。
第12回	レポートの書き方を学ぶ	(学修内容)レポートの体裁, 構成, 文献の参照の仕方, 研究倫理を学び, 実際に短いレポートを書いてみる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として, 短いレポートを書く。
第13回	レポートを修正する	(学修内容)提出したレポートを教員の助言に従って修正する。なぜ修正が必要か理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として, レポートの修正を完成させる。
第14回	レポートの見直しと提出の練習をする	(学修内容)再度レポートの内容を見直し, 修正点を確認する。定期試験に備えてレポートの提出方法を確認・練習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として, 完成したレポートを提出する。
第15回	春学期の振り返り 定期試験の諸注意と夏季休暇に向けて 全体で授業を実施	(学修内容)定期試験について知る(わからないことを解消する)。夏休みに向けて春学期を振り返る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 定期試験の注意事項について, 説明を受けた内容を復習しておく。

授 業 名	基礎ゼミナール xa・xb			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CS1102
英 文 名	Freshman Seminar I			開講 時期	春学期	必修 選択	必修		
担 当 者	工藤 美和子・平間 尚子			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	高校から大学への円滑な移行を図り、大学での学びを高めることを目的とする。高校と大学の学生生活の違い、レポートの書き方、情報収集の方法、プレゼンテーション能力など、大学に必要な知識や技術を習得する。								
学修成果 到達目標	1) 初年次教育の学びに関する項目を説明することができる。 2) 形式に則ってレポートを書くことができる。 3) 課題を発見し、資料(レジュメやスライド)を作成・発表することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	特に指定しない。授業内で資料を配付する。								
参 考 書	適宜、授業内で紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	発表には口頭で意見を述べる。提出された課題はコメントを付して返却する。								
留意事項	積極的に取り組むこと。								
オフィス アワー	授業内で指示する。研究室に在室していれば対応する。 【備考】オフィスアワーの時間でも会議等で不在の場合がある。事前にGmailで連絡をとることが望ましい。								
実践的教育									

授業名	基礎ゼミナール xa・xb	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 全体で授業を実施する。	(学修内容)履修登録・Gmail・ポータルサイト・Classroomについて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 『履修要項』『情報サービスマニュアル』『CAMPUS LIFFE』を持参す 。授業後、ゼミ担当教員にGmailを送る。
第2回	高校と大学の学生生活の違いを知る	(学修内容)履修登録・時間割の確認。大学教員の役割(教育と研究、研究室の利用 方法、研究日等)を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 『履修要項』『CAMPUS LIFFE』を持参する。授業内容を整理する。
第3回	大学での学び方を知る	(学修内容)出欠・単位・定期試験・ノートの取り方等を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 『履修要項』『CAMPUS LIFFE』を持参する。授業内容を整理する。
第4回	学生生活をデザインする	(学修内容)ゼミ・クラブ活動・ボランティア・学校行事等を知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業内容を整理する。
第5回	PROGテスト	(学修内容)PROGテストについて説明を受ける、リテラシーもしくはコンピテンシー テストをゼミ内で実施する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) PROGテストの意味を整理する。
第6回	フィールドワーク	(学修内容)フィールドワークの行き先を決定し見学。 調整により日程変更の可能性有り。 (事前事後学修課題の内容)(60分) フィールドワーク先について調べる。フィールドワークを振り返り課題 を提出する。
第7回	レポートの書き方を学ぶ	(学修内容)作文とレポートの違い、レポートの構成・書式・表現・規則等について 学ぶ。各自レポートのテーマを決める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) レポートを作成する。
第8回	レポートを書く	(学修内容)前回の授業を踏まえてレポートを完成させゼミ担当教員に提出する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レポート内容を見直し、修正して提出する。
第9回	個別発表の資料作成	(学修内容)前回授業のレポートに基づいた資料を作成する(レジユメとPowerPoint )。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表資料を作成する。
第10回	個別面談(面談時間については調整する)	(学修内容)個別面談を実施する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 面談内容を振り返り、課題について考える。
第11回	個別発表と討論	(学修内容)作成した資料を用いてプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表に向けて練習する。発表者以外の学生は気づいたことや感想をまと める。
第12回	個別発表と討論	(学修内容)作成した資料を用いてプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表に向けて練習する。発表者以外の学生は気づいたことや感想をまと める。
第13回	個別発表と討論	(学修内容)作成した資料を用いてプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表に向けて練習する。発表者以外の学生は気づいたことや感想をまと める。
第14回	学生生活の目的と方法	(学修内容)望む将来像について考え、目的を見据えて計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) ワークシートへの書き込み、授業内容を振り返る。
第15回	定期試験への取り組み、夏期休暇課題を発表 全体で授業を行う。	(学修内容)学生生活の振り返り、定期試験に関する諸注意、夏期休暇中の課題につ いて理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 春学期の振り返りと定期試験の準備をする。

授 業 名	基礎ゼミナール A～H			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CS1110
英 文 名	Freshman Seminar			開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	高岡 理恵・坂本 渉・小川 隆昭・林 静香・荘巖 茶茶・渋谷 郁子・野田 隆生・坂口 みゆき			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	基礎ゼミナール は、春学期に引き続き教員と学生、学生同士のコミュニケーションや協働を基本とし、学修や学生生活の基盤となる時間と位置づけられる。春学期に受験したPROGテストの結果を読み取り自己理解を深め、望む将来像について具体的に考える他、あそびや絵本について実践を交えながら理解を深める。また、保育者としてメンタルヘルスへの意識を高める。								
学修成果 到達目標	1) 幼児教育学科のディプロマポリシーを理解している。 2) 自分の強みと課題を理解し、目指す将来像を明確に説明できる。 3) ストレスマネジメントについて理解し説明できる。 4) あそびや絵本の意義を理解し説明できる。 5) 担当教員や学生と良好なコミュニケーションを図ることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション					
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	必要に応じて資料等を配布する。								
参 考 書	必要に応じて紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については必ず添削し、授業の運営や個別面談の資料として活用する。また、必要に応じ、コメントして返却する。								
留意事項	基礎ゼミナールは、授業の1つですが、学修や学生生活の基礎を支える役割も果たします。毎回の出席はもちろん、担当教員や学生同士で積極的にコミュニケーションを図って下さい。適宜個別面談を行います。								
オフィス アワー	各教員が授業時に伝える。								
実践的教育									

授業名	基礎ゼミナール A～H	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	秋学期ゼミへのオリエンテーション 履修登録の確認	(学修内容) 秋学期のゼミの取り組みを確認する。春学期の単位修得状況を確認し、不明点があればゼミの教員に質問する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 春学期の単位習得状況を確認しておく。免許・資格の取得意思を確認し履修登録をすすめる。
第2回	大学での授業の受け方を再確認する	(学修内容) 春学期のゼミで学んだ大学での授業の受け方、ノートの取り方、話の聞き方などを再度確認し、理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前学修として春学期に配布した資料の該当箇所を読み復習しておく。
第3回	望む将来像について考える : 自分の強みを理解する	(学修内容) PROGテストの結果を受け取り、個別面談を通して今の自分の強みを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後学修として自分の強みをまとめる。
第4回	望む将来像について考える : 自分の課題を理解する	(学修内容) PROGテストの結果を受け取り、個別面談を通して今の自分の課題を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後学修として自分の課題をまとめる。
第5回	望む将来像について考える : 強みと課題と向き合う	(学修内容) 自分の強みを伸ばし、課題を克服する方法を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後学修として、自分の強みを伸ばし、課題を克服するためにどうするかまとめる。
第6回	望む将来像について考える : 望む将来像を明確にする	(学修内容) 望む将来像について具体的に考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 望む将来像について考えるワークを完成させる。
第7回	メンタルヘルスリテラシー : メンタルヘルスの重要性を知る	(学修内容) メンタルヘルスやストレスマネジメントについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分にとってのストレスマネジメントの方法を考える。
第8回	メンタルヘルスリテラシー : ワーク	(学修内容) メンタルヘルスについて、ワークを通してさらに理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ワークを通して学んだことをまとめる。
第9回	あそび : 体を動かす	(学修内容) 体を動かすあそびについて実践しながら考える(フィールドワークなど学外の学びを含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) 体を動かすあそびについて学んだことをまとめる。
第10回	あそび : 手先を使う	(学修内容) 手先を使うあそびについて実践しながら考える(学外での学びを含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) 手先を使うあそびについて学んだことをまとめる。
第11回	あそび : 共同的にあそぶ	(学修内容) 他者と共同であそぶことについて実践しながら考える(学外での学びを含む) (事前事後学修課題の内容) (30分) 他者と共にあそぶことについて学んだことをまとめる。
第12回	絵本の探求 : 絵本大賞に向けて 全体での授業を予定	(学修内容) 2回生で取り組む絵本づくりについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 絵本づくりで大切なことをまとめる。
第13回	絵本の探求 : 絵本の選び方を学ぶ	(学修内容) 絵本の選び方と読み聞かせを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後学修として具体的な意図をもって(年齢や季節や行事など)子どもに読み聞かせる絵本を選んでくる。
第14回	絵本の探求 : 絵本の読み聞かせ	(学修内容) 子どもに向けて絵本の読み聞かせをすると想定して、ゼミ内で読み聞かせを実践する(グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学修として子どもに向けて読み聞かせをするための準備(下読みと練習)をしておく。
第15回	1年間の振り返り 全体で実施を予定	(学修内容) 基礎ゼミナールで取り組んできた内容を中心に1年間の学生生活を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 説明のあった内容を復習しておく。



授 業 名	基礎ゼミナール xa・xb			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CS1110
英 文 名	Freshman Seminar			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修		
担 当 者	工藤 美和子・平間 尚子			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	京都文化・現代社会・多文化共生における知識を学び、社会人としての基本的教養を身につけ、社会に貢献できる基礎力と応用力を育成することを目的とする。また、プレゼンテーションの機会を設け、2回生時の「創作表現演習」（卒業研究）に取り組む準備を行う。								
学修成果 到達目標	1) 京都文化・現代社会・多文化共生について必要な知識を学び、教養を有することができる。 2) レポート作成や発表の場を通して、考えをまとめ分かりやすく伝えることができる。 3) 参考文献や資料読解を通して、2回生の「創作表現演習」で自分が取り組むテーマを定めることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	特に指定しない。授業内で資料を配付する。								
参 考 書	適宜、授業内で紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	発表には口頭で意見を述べる。提出された課題はコメントを付して返却する。								
留意事項	授業の進捗状況に応じて授業計画が前後する場合もある。積極的に取り組み、発表準備は余裕をもって行うこと。								
オフィス アワー	授業内で指示する。研究室に在室していれば対応する。 【備考】オフィスアワーの時間でも会議等で不在の場合がある。事前にGmailで連絡をとることが望ましい。								
実践的教育									

授業名	基礎ゼミナール xa・xb	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	春学期の振り返り 全体で授業を実施	(学修内容) 春学期の授業内容の振り返りと夏期休暇の課題について確認する。履修登録の確認 (事前事後学修課題の内容) (30分) 『履修要項』を持参する。授業内容を整理する。
第2回	課題の発表準備	(学修内容) 夏期休暇の課題について各自発表の準備を行う (PowerPoint)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表用の資料を作成し担当教員に確認をとる (レジュメとスライド)。
第3回	課題の個別発表	(学修内容) 個別発表を行う (PowerPoint)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者は作成したレジュメを配付する。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第4回	課題の個別発表	(学修内容) 個別発表を行う (PowerPoint)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者は作成したレジュメを配付する。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第5回	卒業研究中間発表会への参加 日程調整により日時変更の可能性有り	(学修内容) 2回生の卒業研究中間発表会1週目に参加し、卒業研究への取り組みを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 卒業研究中間発表会に参加した感想をまとめる。
第6回	卒業研究中間発表会2週目への参加 日程調整により日時変更の可能性有り	(学修内容) 2回生の卒業研究中間発表会1週目に参加し、卒業研究への取り組みを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 卒業研究中間発表会に参加した感想をまとめる。次回授業時の個別面談で使用するアンケートに回答し期日までに担当教員に提出する。
第7回	個別面談 面談時間については調整する	(学修内容) アンケートをもとに教員と個別面談を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 個別面談で話したことの振り返り。今後の方向性 (卒業研究や進路など) を考える。
第8回	フィールドワーク	(学修内容) フィールドワークを実施する。 日程調整により日時変更の可能性有り。 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワーク先で収集したメモや画像などを整理しレポートをまとめる。
第9回	卒業研究に向けた取り組み 発表準備	(学修内容) 卒業研究テーマを考え、発表用のレジュメを作成する (レジュメとスライド)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ゼミ担当教員に相談しながら卒業研究テーマを決める。
第10回	卒業研究に向けた取り組み 個別発表	(学修内容) 卒業研究に関する個別発表を行う (PowerPoint)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表後、卒業研究で取り組むテーマや方向性を定める。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第11回	卒業研究に向けた取り組み 個別発表	(学修内容) 卒業研究に関する個別発表を行う (PowerPoint) (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表後、卒業研究で取り組むテーマや方向性を定める。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第12回	卒業研究に向けた取り組み レポート作成	(学修内容) 卒業研究テーマと方向性をレポートにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ゼミ担当教員に相談しながら卒業研究テーマを決める。レポートを作成する。
第13回	卒業研究に向けた取り組み レポート作成	(学修内容) 卒業研究テーマと方向性をレポートにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ゼミ担当教員に相談しながら卒業研究テーマを決める。レポートを作成する。
第14回	卒業研究に向けた取り組み レポート作成	(学修内容) 卒業研究テーマと方向性をレポートにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ゼミ担当教員に相談しながら卒業研究テーマを決める。レポートを作成する。
第15回	基礎ゼミナールの振り返り	(学修内容) 春期休暇中の課題の説明を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容を整理する。定期試験に備える。

授 業 名	総合ゼミナール			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CS2116
英 文 名	Senior Seminar I			開講 時期	春学期	必修 選択	必修		
担 当 者	林 静香・渋谷 郁子・小川 隆昭・柘植 誠子・高岡 理恵・鈴木 えり子・坂本 渉・坂口 みゆき			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>これまでの授業や実習での経験をふまえ、自らの能力を客観的に把握する。          その上で、長所をいっそう活かすための手立てを考え、それぞれの子ども理解と保育実践の力を確実に伸ばしていく。さら          に、卒業後もその良いところを伸ばし続けることができるよう、上記の手立てを実践する。          その過程においては、ゼミ生同士が積極的に交流を図り、お互いを高め合い、集団の一人としての自覚を持って活動をす          る。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1. 幼児教育・保育関連の領域における自己の得意なことを客観的に把握できる。          2. 各自の得意なことから、それをさらに伸ばすための取り組みについてプレゼンテーションができる。          3. 自身の創作絵本を保育現場で実際に使えるように完成させることができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	必要に応じて資料等を配布します。								
参 考 書	必要に応じて紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	制作物・提出物については、適宜教員からのフィードバックをおこないます。								
留意事項	総合ゼミナールは短大生活の集大成としてとらえています。毎回出席はもちろんですが、教員や学生同士での積極的なコ ミュニケーションを図ってください。								
オフィス アワー	第 1 回目の授業で伝えます。								
実践的教育									

授業名	総合ゼミナール	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス お互いに知り合うゲーム 全体で実施予定	(学修内容) 総合ゼミナールのねらいや目的を共有する。新しいメンバーと協同活動を通じてお互いのコミュニケーションを図る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 全体クラスルームへの登録を確認する。ゼミメンバーを確認しておく。
第2回	履修科目の登録確認 学修ポートフォリオを作成する	(学修内容) 履修などについての疑問を解決する。2年次の学びの目標を設定し学修ポートフォリオを記入する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 履修科目状況を把握し、時間割を作成・持参する。自分のキャリアについての考えや卒業後の将来について考えてくる。
第3回	絵本大賞 表彰式 全体で実施予定	(学修内容) 基礎ゼミナールの取り組み(絵本制作)を振り返る。受賞作品の講評を聞き各自の絵本について再考する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 基礎ゼミナールの担当者から絵本をもらっておく。再読し対象児を想定し文章の校正をしておく。
第4回	創作絵本の見直し・製本	(学修内容) 基礎ゼミで作成した各自の手作り絵本を見直し製本化する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 手作り絵本を見直し文章の校正を行い、製本にして提出する。
第5回	ブレ発表に向けて(1)	(学修内容) 各自が取り組むテーマを考える。(学外での学習・フィールドワークを含む。授業の進み具合で学外学習の日程は前後することがある) (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自が取り組むテーマを考え、個別指導が受けられるようにアイデアをまとめておく。
第6回	ブレ発表に向けて(2)	(学修内容) 各自が取り組むテーマを考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自が取り組むテーマを考え、個別指導が受けられるようにアイデアをまとめておく。
第7回	ブレ発表に向けて(3)	(学修内容) ディスカッションしながら設定したテーマを深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自が取り組むテーマを考え、個別指導が受けられるようにアイデアをまとめておく。
第8回	ブレ発表に向けて(4)	(学修内容) ディスカッションしながら設定したテーマを深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自が取り組むテーマを考え、個別指導が受けられるようにアイデアをまとめておく。
第9回	プレゼンテーションへの個別指導(1)	(学修内容) 各自が取り組むテーマを確認・検討すると同時に、総合ゼミナールで実施するプレゼンテーションについて指導する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分が取り組みたいテーマを考え、教員から個別指導が受けられるようにしておく。
第10回	プレゼンテーションへの個別指導(2)	(学修内容) 各自が取り組むテーマ、設定理由の確認、具体的な取り組み方について指導。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ブレ発表の準備をし、教員から個別指導が受けられるようにまとめておく。
第11回	ブレ発表に向けての準備(1)	(学修内容) ブレ発表の準備を行い、発表用のPPを作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自のテーマ、設定理由、具体的な取り組み方をまとめてPPにして提出する。
第12回	ブレ発表に向けての準備(2)	(学修内容) ブレ発表の準備を行い、発表用のPPを作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自のテーマ、設定理由、具体的な取り組み方をまとめてPPにして提出する。
第13回	ブレ発表(1) 複数の合同ゼミで実施予定	(学修内容) 自己の設定した課題についてゼミメンバーと情報を共有する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ブレ発表の準備をする。
第14回	ブレ発表(2) 複数の合同ゼミで実施予定	(学修内容) 自己の設定した課題についてゼミメンバーと情報を共有する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ブレ発表の準備をする。
第15回	秋学期に向けての企画を考える 春学期のまとめ	(学修内容) 秋学期の企画についてゼミメンバーで話し合う。半年間の活動の振り返りを行い、学修ポートフォリオを作成する。将来について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 半年間の活動について、自分の考えをまとめる。学外実習での学びなどを振り返り、自分のキャリアについて考える時間を持つ。

授 業 名	総合ゼミナール			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CS2122
英 文 名	Senior Seminar			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修		
担 当 者	林 静香・渋谷 郁子・小川 隆昭・柘植 誠子・高岡 理恵・鈴木 えり子・坂本 渉・坂口 みゆき			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>これまでの授業や実習での経験をふまえ、自らの能力を客観的に把握する。その上で、長所をいっそう活かすための手立てを考え、それぞれの子ども理解と保育実践の力を確実に伸ばしていく。 さらに、卒業後もその良いところを伸ばし続けることができるよう、上記の手立てを実践する。 その過程においては、ゼミ生同士が積極的に交流を図り、お互いを高め合い、集団の一人としての自覚を持って活動をする。 また、長所を活かす手立ての実践過程とその成果についてプレゼンテーションを行う。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1. 自分自身の取り組みに必要な情報を自主的に調べ、その達成のために必要な製作、フィールドワーク、ワークショップ等を計画・調整・実践することができる。 2. 自分自身の取り組みの過程とその成果について、プレゼンテーションができる。 3. 各自のプレゼンテーションを経て、再度自分の将来に向けて取り組むべき課題を明確にすることができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	必要に応じて資料等を配布します。								
参 考 書	必要に応じて紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	制作物・提出物については、適宜教員からのフィードバックをおこないます。								
留意事項	総合ゼミナールは短大生活の集大成としてとらえています。毎回出席はもちろんですが、教員や学生同士での積極的なコミュニケーションを図ってください。								
オフィス アワー	第1回目の授業で伝えます。								
実践的教育									

授業名	総合ゼミナール	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	履修登録確認 プレゼンテーションに向けて(1)	(学修内容) 秋学期に向けて、夏休みの学修を振り返り、目標を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自、履修登録を行い、ゼミ教員が確認できるようにしてくる。 プレ発表、レポートを思い出す。
第2回	プレゼンテーションに向けて(2)	(学修内容) プレゼンテーションに向けて考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) プレ発表、レポートを思い出す。
第3回	プレゼンテーションに向けて(3)	(学修内容) プレゼンテーションに向けて考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) プレ発表、レポートを思い出す。
第4回	企画に関する計画と実践(1)	(学修内容) 学生企画に関する計画と実践を行う。PROGテストの受験説明を聞く。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分の役割に沿った準備をおこなう。PROGテストを実施する。
第5回	企画に関する計画と実践(2)	(学修内容) 学生企画に関する計画と実践を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 企画の流れを確認し自分の役割を確認し準備をしておく。
第6回	企画実践に関する振り返り	(学修内容) 学生企画に関しての計画・実践に関する反省会をおこなう。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学生企画の内容に対する自らの行動、役割を振り返りレポートを提出する。
第7回	学外学習、その他	(学修内容) 秋の季節感を感じる行事(遠足)の意義を実践を通して学ぶ。また、担当教員の裁量により保育に関連する内容について探求する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 秋の季節(遠足)などをテーマにした活動の目的や行程、留意事項を考えてくる。探求成果をノートにまとめておく。
第8回	プレゼンテーションの用意をする(1)	(学修内容) 各自のテーマに応じたプレゼンテーションの用意をする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教員の指導をもとに発表方法・内容をブラッシュアップする。
第9回	プレゼンテーションの用意をする(2)	(学修内容) 各自のテーマに応じたプレゼンテーションの用意をする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教員の指導をもとに発表方法・内容をブラッシュアップする。
第10回	プレゼンテーションの用意をする(3)	(学修内容) 各自のテーマに応じたプレゼンテーションの用意をする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教員の指導をもとに発表方法・内容をブラッシュアップする。
第11回	プレゼンテーション(1) 合同ゼミでの実施予定	(学修内容) 各個人が自らのプレゼンテーションを実施する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自のテーマをまとめ、プレゼンテーションできるように練習をしておく。
第12回	プレゼンテーション(2) 合同ゼミでの実施予定	(学修内容) 各個人が自らのプレゼンテーションを実施する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 各自のテーマをまとめ、プレゼンテーションできるように練習をしておく。
第13回	プレゼンテーション(3) 合同ゼミでの実施予定	(学修内容) 各個人が自らのプレゼンテーションを実施する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 他人の発表をも参考にしてプレゼンテーションの完成度を高める。
第14回	プレゼンテーション(4) 合同ゼミでの実施予定	(学修内容) 各個人が自らのプレゼンテーションを実施する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 他人の発表をも参考にしてプレゼンテーションの完成度を高める。
第15回	まとめ	(学修内容) 卒業後に向けて、短期大学生活の振り返りを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) プレゼンテーション発表を振り返っておく。

授 業 名	創作表現演習			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CS2119
英 文 名	Senior Seminar I			開講 時期	春学期	必修 選択	必修		
担 当 者	新矢 昌昭・工藤 美和子・伊藤 茂樹			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	課題発見を通して自らの学修を完成させる。主体的、継続的に探究しようとする意欲をもって、多面的、論理的に考え、適切な表現方法を用いて卒業研究の完成を目指す。								
学修成果 到達目標	1) 卒業研究テーマを立て、調査・考察力を養うことができる。 2) 卒業研究に関する考察や問題点を説得力をもって人前で話す力、文章表現力を身につけることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	特に指定しない。								
参 考 書	授業内で適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	発表には口頭で意見を述べる。提出された課題にはコメントを付して返却する。								
留意事項	主体的に研究を進めること。 演習授業であるから、他の受講生の報告・発表に対して積極的な発言や意見交換ができるようにすること。								
オフィス アワー	授業内で日時を示す。それ以外の時間であっても在室していれば対応する。 【備考】オフィスアワーの時間帯であっても、会議等で在室できない場合がある。事前にGmailで連絡することが望ましい。								
実践的教育									

授業名	創作表現演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 課題の発表準備	(学修内容) 授業の進め方について説明する。春休み中の課題の発表準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を整理する。レジュメを作成し指導教員に提出する。
第2回	春休み課題の(1)テーマ・研究概要	(学修内容) 春休みの課題発表と質疑応答 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者はレジュメを作成し指導教員の確認を受ける。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第3回	春休み課題の発表(2)テーマ・研究概要	(学修内容) 春休みの課題発表と質疑応答 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者はレジュメを作成し指導教員の確認を受ける。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第4回	春休み課題の発表(3)テーマ・研究概要	(学修内容) 受講生による春休みの課題発表と質疑応答。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者はレジュメを作成し指導教員の確認を受ける。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第5回	個別面談(1)進捗状況の確認	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成する。面談時に指導教員に提出する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートの作成。指摘された課題を整理する。
第6回	個別面談(2)進捗状況の確認	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成する。面談時に指導教員に提出する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートの作成。指摘された課題を再考する。
第7回	個別研究発表の準備 先行研究の整理と発表準備	(学修内容) 卒業研究に関する先行研究を収集・整理しレジュメを作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメを作成し発表内容について指導教員の確認を受ける。
第8回	研究発表(1)卒業研究テーマに関する先行研究	(学修内容) 卒業研究に関する先行研究を読み自分の意見を発表する。質疑応答を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表内容について指導教員に確認を取る。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第9回	研究発表(2)卒業研究テーマに関する先行研究	(学修内容) 卒業研究に関する先行研究を読み自分の意見を発表する。質疑応答を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表内容について指導教員の確認を取る。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第10回	研究発表(3)卒業研究テーマに関する先行研究	(学修内容) 卒業研究に関する先行研究を読み自分の意見を発表する。質疑応答を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表内容について指導教員の確認を取る。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第11回	個別面談(3)進捗状況の確認	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成し、面談時に担当教員に提出する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートを作成する。指摘された課題について再考する。
第12回	個別面談(4)進捗状況の確認	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成し、面談時に担当教員に提出する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートを作成する。指摘された課題について再考する。
第13回	研究発表(4)卒業研究テーマの決定と章立て	(学修内容) 研究テーマを決定、章立てを考える発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメを作成し発表準備をする。発表者以外は発表に対して質疑応答をする。
第14回	研究発表(5)卒業研究テーマの決定と章立て	(学修内容) 研究テーマを決定、章立てを考え発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメを作成し発表準備をする。発表者以外は発表に対して質疑応答をする。
第15回	授業の振り返り	(学修内容) 夏休み中の卒業研究計画の作成。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 夏休み中の卒業計画をゼミ担当教員に提出する。



授 業 名	創作表現演習			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CS2127
英 文 名	Senior Seminar II			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修		
担 当 者	新矢 昌昭・工藤 美和子・伊藤 茂樹			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	課題発見を通して自らの学修を完成させる。主体的、継続的に探究しようとする意欲をもって、多面的、論理的に考え、適切な表現方法を用いて卒業研究の完成を目指す。								
学修成果 到達目標	卒業研究に関する考察や問題点を説得力をもって人前で話す力や文章表現力を身につけることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (80%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	特に指定しない。								
参 考 書	適宜、授業中に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートや発表はコメントを付して返却する。 報告発表にはその都度コメントする。								
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に研究を進めること。</li> <li>・演習授業であるから、他の受講生の発表に対して積極的な発言や意見交換ができるようにすること。</li> <li>・先行研究や史資料にあたり研究方法を見つけていくこと。</li> </ul>								
オフィス アワー	授業内に日時を指示する。それ以外の時間でも研究室に在室していれば対応する。急ぎの場合は事前にメールで連絡すること。 【備考】オフィスアワーの時間帯であっても、会議等で在室できない場合がある。								
実践的教育									

授 業 名		創作表現演習
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 夏期休暇中の進捗状況の確認	(学修内容) 卒業研究の進捗状況を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 夏期休暇中の課題をまとめる。
第2回	個別面談(1) 卒業研究の進捗状況について報告	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成し面談時に指導教員に提出する。 。担当教員の指導を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートを作成し発表の準備をする。レジュメの確認を指導教員から得る。
第3回	個別面談(2) 卒業研究の進捗状況について報告	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成し面談時に指導教員に提出する。 。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートを作成し発表の準備をする。レジュメの確認を指導教員から得る。
第4回	卒業研究中間発表会の準備(1)	(学修内容) 中間発表会の準備をする。レジュメの作成、模擬発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメを作成し指導教員の確認をとる。
第5回	卒業研究中間発表会の準備(2)	(学修内容) 間発表会の準備をする。レジュメの作成、模擬発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメを作成し指導教員の確認をとる。
第6回	卒業研究中間発表会(1) 個別発表と質疑応答	(学修内容) 卒業研究中間発表会を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 質疑応答や指導教員のアドバイスをもとに再考する。
第7回	卒業研究中間発表会(2) 個別発表と質疑応答	(学修内容) 卒業研究中間発表会を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 質疑応答や指導教員のアドバイスをもとに再考する。
第8回	個別面談(1) 卒業研究の進捗状況の報告	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成する。面談時に指導教員に提出する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートを作成する。
第9回	個別面談(2) 卒業研究の進捗状況の報告	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成する。面談時に指導教員に提出する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートを作成する。
第10回	草稿の作成(1) 序論を書く	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 草稿を作成する。指導教員に進捗状況を報告する。
第11回	草稿の作成(2) 本論を書く	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 草稿を作成する。指導教員に進捗状況を報告する。
第12回	草稿の作成(3) 本論を書く(前回の続き)	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 草稿を作成する。指導教員に進捗状況を報告する。
第13回	草稿の作成(4) 結論を書く	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 草稿を作成する。指導教員に進捗状況を報告する。
第14回	卒業研究レポート提出前の点検	(学修内容) 卒業研究レポートを仕上げる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 研究内容や文章表現の確認を行う。指導教員の確認を受ける。
第15回	卒業研究レポート提出前の点検(前回の続き)	(学修内容) 卒業研究レポートを仕上げる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 研究内容や文章表現の最終確認をする。指導教員の確認を受ける。

授 業 名	総合文化入門			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1104
英 文 名	Introduction to Integrated Culture Studies			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	伊藤 茂樹・松尾 章子・新矢 昌昭・工藤 美和子・ 平間 尚子			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>「文化」には様々な定義が存在します。「文化」という言葉に対し、個々が持つイメージも同じであるとはいえません。「総合文化学科」という学科に対するイメージや期待もそれぞれ異なっているでしょう。この授業では、多岐に渡る総合文化学科の学びの一部を、専任教員がオムニバス形式で紹介します。京都文化、現代社会、多文化共生の学びに触れ、自身の興味・関心のある分野を見つけ、コース決定ができることを目指します。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 「総合文化学科」で学ぶ内容について説明できる。 2) 「文化」という言葉を、授業で学んだ事柄に基づいて説明できる。 3) 自身の興味・関心に応じて、コース決定ができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	なし。必要に応じて資料を配布します。								
参 考 書	必要に応じて、授業内で紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	課題に対し適宜コメントを付します。 小レポートなどは授業内やクラスルーム内どちらかで講評します。								
留意事項	オムニバスの授業です。毎回、授業の担当者や進め方が異なります。 シラバスを熟読し、講義に臨んで下さい。 各自、歴史や文化、社会に対して関心や問題意識を探りながら受講してください。 課題を見つけ積極的になってください。 わからないことは聞くこと。								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示、又は授業内で指示します。 堀出先生：授業実施期間中の水曜日お昼休み 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。								
実践的教育									

授業名	総合文化入門	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション(松尾) 多文化について	(学修内容)「総合文化入門」の授業内容・進め方について説明する。 「文化」とは何かを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:シラバスを読む。 事後:授業内容を振り返り、まとめて提出する。
第2回	異文化探し(松尾)	(学修内容)学内フィールドワークを実施し、異文化を探す。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:授業内容を振り返り、まとめて提出する。
第3回	アクティビティ「ルームメイトを探そう」(松尾)	(学修内容)ルームメイト探しのアクティビティを通して、自分を知る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:授業内容を振り返り、まとめて提出する。
第4回	フィールドワークについて(伊藤)	(学修内容)フィールドワークとは何か。その概要を知ってもらいます。そして華頂近隣の京都の名所を調べましょう。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:フィールドワークについて調べる。 事後:近隣の名所の内容を調べる。
第5回	フィールドワーク実施(伊藤)	(学修内容)みんなで考えた華頂近隣の名所に行ってみましょう。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:現地の概要を調べる。 事後:フィールドワーク実施後、感想を書く。
第6回	プレゼンテーション(伊藤)	(学修内容)フィールドワークで感じたことを発表する。名所の歴史の調べ方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:フィールドワーク後の感想のレジュメを作る。 事後:ノートを整理する。
第7回	仏教文化と写経(1)(平間)	(学修内容)写経の歴史と作法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配付資料を読み、授業内容をノートにまとめる。筆ペンを準備しておく。
第8回	仏教文化と写経(2)(平間)	(学修内容)写経を体験する。(各自、筆ペンを持参すること) (事前事後学修課題の内容)(60分) 配付資料を読み、授業内容をノートにまとめる。
第9回	仏教文化と写経(3)(平間)	(学修内容)写経を体験する。(各自、筆ペンを持参すること) (事前事後学修課題の内容)(60分) 配付資料を読み、授業内容をノートにまとめる。
第10回	社会的動物(新矢)	(学修内容)社会的動物とは何か。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:配布プリントを読んでおく。
第11回	「わたし」とは誰か(新矢)	(学修内容)アイデンティティの話。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:配布プリントを読んでおく。
第12回	社会の見方(新矢)	(学修内容)新聞を読む。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:配布プリントを読んでおく。
第13回	日本の文化と思想(1)文化の概念(工藤)	(学修内容)「文化」という概念について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:配付資料を読み、授業内容をノートにまとめる。
第14回	日本の文化と思想(2)神話と文化(工藤)	(学修内容)神話の構造について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:配付資料を読み、授業内容をノートにまとめる。
第15回	日本の文化と思想(3)宗教と文化(工藤)	(学修内容)宗教と日本文化の関係について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:配付資料を読み、授業内容をノートにまとめる。

授 業 名	音楽史			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2716
英 文 名	History of Music			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	山中 信子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	本講義の目的は、古代から現代までの西洋音楽史を概観することである。授業に際しては、できるだけ楽譜、音源（生演奏含む）、映像資料を通して、その音楽的特徴を具体的に考察するように心がける。また、日本をはじめとした非西洋の音楽とも比較しながら、西洋音楽を相対化する視点も盛り込む。一方的な講義になることは極力避け、受講生によるプレゼンテーションやディスカッションの機会も取り入れて実施する。								
学修成果 到達目標	1) 西洋音楽の史的展開を把握するとともに各時代・各作曲家の様式について理解できる。 2) 西洋および非西洋音楽の史的展開の特徴を比較・検討することにより、各々の様式変遷について幅広い視野から把握できる。 3) 西洋音楽と身近な音楽（ポップスなど）との繋がりについて関心が持てる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	北村英明 著【改訂版】『いちばんやさしい音楽史』メトロポリタンプレス、2012年								
参 考 書	授業時に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	小レポートは回収後、次回の授業に還元する。また、発表に関しては履修者全員がコメントシートに記入し、それをもとに討議を行う。								
留意事項	授業で取り上げた音源・映像資料については各自で何度も視聴して確認しておくこと。								
オフィス アワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。								
実践的教育									

授業名	音楽史	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 音楽史を学ぶ意味	(学修内容) 授業の内容・評価等について説明。人間にとって音楽がなぜ必要かについて考察し、音楽の歴史を学ぶ意味について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前には自分なりに予備的考察を行い、授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第2回	古代の音楽	(学修内容) 音楽の起源、古代ギリシア、古代ローマの音楽について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第3回	中世の音楽	(学修内容) グレゴリオ聖歌からルネッサンス音楽までの流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第4回	バロック音楽(1)様式	(学修内容) オペラ、コンチェルト、器楽音楽について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後はバロック音楽の様式について小レポートを作成し、提出すること。
第5回	バロック音楽(2)音楽家	(学修内容) バロック時代の音楽家について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後はバロックの音楽家たちについて小レポートを作成し、提出すること。
第6回	前古典派の音楽	(学修内容) シンフォニーとソナタ形式から前古典派の音楽について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後は前古典派音楽の特徴について小レポートを作成し、提出すること。
第7回	古典派の音楽(1)ハイドン、モーツァルト	(学修内容) 古典派の作曲家ハイドンとモーツァルトの音楽について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキストの該当ページを読み、発表準備をしておくこと。授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第8回	古典派の音楽(2)ベートーヴェン	(学修内容) 古典派の作曲家ベートーヴェンの音楽について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキストの該当ページを読み、発表準備をしておくこと。授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第9回	前期ロマン派の音楽	(学修内容) 前期ロマン派の特色と音楽家についてグループ発表・ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキストの該当ページを読み、発表準備をしておくこと。授業後は前期ロマン派の音楽について小レポートを作成し、提出すること。
第10回	後期ロマン派の音楽	(学修内容) 後期ロマン派の特色と音楽家についてグループ発表・ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキストの該当ページを読み、発表準備をしておくこと。授業後は後期ロマン派の音楽について小レポートを作成し、提出すること。
第11回	近代の音楽	(学修内容) 19世紀後半から20世紀前半までの印象派音楽等について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後は近代音楽の特徴や傾向について小レポートを作成し、提出すること。
第12回	現代の音楽	(学修内容) シェーンベルクの12音技法、ジョン・ケージの偶然性の音楽等について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後は多様な現代の音楽について小レポートを作成し、提出すること。
第13回	日本音楽史と西洋音楽史の変遷とその比較	(学修内容) 日本音楽と西洋音楽を比較しながら、それぞれの歴史の変遷を辿る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第14回	西洋音楽と非西洋音楽	(学修内容) 西洋音楽と非西洋音楽を比較しながら、それぞれを相対的に捉える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業前に配布資料を読み、授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第15回	まとめと考察	(学修内容) 講義全体を踏まえて、人間にとって音楽がなぜ必要かについて自分の考えをまとめ、グループで共有する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 5～10分程度の発表準備をする。

授 業 名	音楽療法概論			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CL1701
英 文 名	Introduction to Music Therapy			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	音楽療法の歴史を踏まえながら、現在行われている音楽療法の実践・理論の概要と、臨床場面で音楽を活用する意義について、特に音楽療法の先進国である欧米の現状から学ぶ。また、音楽療法がクライアント(対象者)のどのようなニーズを取り扱うのかを学ぶ。さらに、楽器を用いたワークショップやそれに伴うディスカッション等を通して、音楽療法における「音楽」と一般的な「音楽」の相違点と類似点を体験的に学ぶ。								
学修成果 到達目標	1) 音楽療法の歴史・実践・理論の概要を説明することができる。 2) 音楽療法の実践領域と音楽療法が取り扱うニーズを説明することができる。 3) 音楽療法における「音楽」の意義について説明することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	適宜プリントを配布する。								
参 考 書	稲田雅美 (2016) 『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房 藤田哲也監修 申崎真志編著 (2016) 『絶対役立つ臨床心理学：カウンセラーを目指さないあなたにも』ミネルヴァ書房								
課題に対する フィードバック の方法	授業内で提出したレポートについてはコメント等を入れて返却するか、翌週にまとめて全体に対して口頭でフィードバックを行う。 ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。								
留意事項	ワークショップでは、特に積極的・主体的な取り組みを評価します。学生からの積極的な発言も歓迎します。								
オフィス アワー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて事例の具体的な解説や実践的なワークショップなどを行う。								

授業名	音楽療法概論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション	(学修内容) 春学期の授業計画について/音楽療法士(2種)資格について/音楽療法とは何か,その理解のための導入 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として,配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第2回	音楽療法とは何か	(学修内容) 音楽療法とは何かその概略を知る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として,配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第3回	ワークショップ(実技とディスカッション):音楽療法で使う楽器に触れる・気持ちを音で表してみる	(学修内容) 音楽療法で使用する楽器に触れる。いろいろな気持ちや感情を様々な楽器を使って即興的に表す体験をする。感じたことを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として,ワークショップを通して感じたことや思ったこと,考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第4回	音楽療法の歴史と発展	(学修内容) 音楽療法の誕生から現在までの発展について学ぶ。音楽療法とは何か,国際的な共通認識を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として,配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第5回	心理療法としての音楽療法 : 人間性心理学的アプローチ	(学修内容) 人間性心理学に基づく音楽療法の理論と実践について学ぶ。人間性心理学から他のアプローチにも通底する「セラピストの在り方」を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として,配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第6回	ワークショップ(実技とディスカッション):図形楽譜を使って即興する	(学修内容) 図形楽譜を用いて,即興的な音楽づくりを体験的に学ぶ。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として,ワークショップを通して感じたことや思ったこと,考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第7回	心理療法としての音楽療法 : 精神分析的アプローチ(1)	(学修内容) 精神分析理論に基づく音楽療法の理論と実践について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として,配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第8回	心理療法としての音楽療法 : 精神分析的アプローチ(2)	(学修内容) 前回に引き続き,精神分析理論に基づく音楽療法の理論と実践について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として,配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第9回	ワークショップ(実技とディスカッション):絵を演奏する	(学修内容) 絵を見ながら,即興的な音楽づくりを行う。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として,ワークショップを通して感じたことや思ったこと,考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第10回	音楽療法の対象者と実践形態	(学修内容) 音楽療法が対象者のどのようなニーズを取り扱うのかを学ぶ。またニーズに応じた実践形態を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として,配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第11回	音楽療法の「音楽」について	(学修内容) 音楽療法における「音楽」について学ぶ。「即興的な音楽づくり」が音楽療法の臨床に用いられる意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として,配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第12回	ワークショップ(実技とディスカッション):物語を演奏する	(学修内容) 絵本などの物語を読み,即興的な音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として,ワークショップを通して感じたことや思ったこと,考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第13回	心理療法と芸術の意義	(学修内容) ここまで学んできたことを踏まえて,改めて「心理療法」とは何か考察し,心理療法における芸術の意義を検討する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として,この授業で学んだ「心理療法における芸術の意義」を小レポートのまとめ提出する。
第14回	近年の音楽療法の動向:音楽中心音楽療法と文化中心音楽療法	(学修内容) 近年提唱されたアプローチを学ぶ中で,即興的な音楽づくりの本質や,人と文化の関係と,クライアントの抱えるニーズについて理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前学修として,配布資料を読み内容を小レポートにまとめて提出する。
第15回	ワークショップ(実技とディスカッション):「今」を演奏する	(学修内容) 「今」思いつくままに,即興で音を奏で,音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として,ワークショップを通して感じたことや思ったこと,考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。



授 業 名	音楽療法各論			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CL1704
英 文 名	Advanced Music Therapy			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	音楽療法概論を踏まえて、心理療法としての音楽療法についてさらに理解を深める。クライアント(対象者)のニーズをさらに詳しく学び、音楽療法がクライアントをどのように援助するのか考察する。音楽療法概論に引き続き、音楽療法の「音楽」について、ワークショップやそれに伴うディスカッション等を通して体験的に理解を深める。								
学修成果 到達目標	1) 対象者の抱える様々なニーズを説明することができる 2) 様々なニーズを抱える対象者に対する音楽療法の概要を説明することができる。 3) 芸術的手段を通して創造的かつ自由に自己表現をすることができ、同時に表現中の自分自身の内的反応を素直に感じることができるようになる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)	グループワーク ICT活用(自主学習支援)	プレゼンテーション				
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (	)			
テキスト	適宜プリントを配布する。								
参 考 書	稲田雅美(2016)『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房 藤田哲也監修 申崎真志編著(2016)『絶対役立つ臨床心理学：カウンセラーを目指さないあなたにも』ミネルヴァ書房								
課題に対する フィードバック の方法	授業内で提出したレポートについてはコメント等を入れて返却するか、翌週の授業で全体に向けて口頭でフィードバックを行う。 ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。								
留意事項	ワークショップでは特に、積極的・主体的な取り組みを評価します。また、学生からの積極的な発言は歓迎します。								
オフィス アワー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて事例の具体的な解説や実践的なワークショップを行う。								

授業名	音楽療法各論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション：音楽療法士に求められるもの	(学修内容) 秋学期の授業計画について説明を受け理解する/音楽療法士(2種)資格について確認する/音楽療法士に求められるものについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、今回の授業で学んだことを小レポートにまとめて提出する。
第2回	音楽療法士の仕事を概観する	(学修内容) 音楽療法士の仕事の実際について、配布資料を読みながら理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、今回の授業で学んだことを小レポートにまとめて提出する。
第3回	ワークショップ(実技とディスカッション)：コラージュを演奏する	(学修内容) コラージュを制作し、作ったコラージュを見ながら即興的な音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第4回	発達の援助と音楽療法：発達障害と知的障害の概観	(学修内容) 発達障害と知的障害について概観し、これらの障害を持つ子どものニーズを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、今回の授業で学んだことを小レポートにまとめて提出する。
第5回	発達の援助と音楽療法：ニーズのある子どもの発達を援助する音楽療法	(学修内容) 様々なニーズを持つ子どもの発達を援助する音楽療法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、今回の授業で学んだことを小レポートにまとめて提出する。
第6回	ワークショップ(実技とディスカッション)：音楽を目に見える形で表現する	(学修内容) 音楽を鑑賞しながら、様々な素材を用いて自由に描画・制作をする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第7回	知的障害と音楽療法：知的障害者の心のニーズ	(学修内容) 知的障害者の心のニーズについて、特にシナソンのセカンダリー・ハンディキャップの概念を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、今回の授業で学んだことを小レポートにまとめて提出する。
第8回	知的障害と音楽療法：知的障害者の心のニーズを取り扱う音楽療法	(学修内容) 知的障害者の心のニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、今回の授業で学んだことを小レポートにまとめて提出する。
第9回	ワークショップ(実技とディスカッション)：制作したものを音楽で表す	(学修内容) 前回のワークショップで制作したのを見ながら即興的な音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第10回	精神疾患と音楽療法：精神疾患の概要	(学修内容) 精神疾患の概要を学び、精神障害を患う人びとの心のニーズや社会的ニーズについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、今回の授業で学んだことを小レポートにまとめて提出する。
第11回	精神疾患と音楽療法：精神障害者のニーズを取り扱う音楽療法	(学修内容) 精神障害者のニーズを取り扱う音楽療法とニーズに応じた実践形態について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、今回の授業で学んだことを小レポートにまとめて提出する。
第12回	ワークショップ(実技とディスカッション)：言葉を音楽で表す	(学修内容) 形容詞と名詞を組み合わせる言葉をつくり、その言葉を即興的に音楽で表す。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。
第13回	高齢者と音楽療法：高齢者が患う病と心のニーズ	(学修内容) 高齢者が患う病の概要を学び、高齢者の心のニーズを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、今回の授業で学んだことを小レポートにまとめて提出する。
第14回	高齢者と音楽療法：高齢者のニーズを取り扱う音楽療法	(学修内容) 高齢者のニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、今回の授業で学んだことを小レポートにまとめて提出する。
第15回	秋学期のまとめとワークショップ(実技とディスカッション)：年度終わりの即興演奏	(学修内容) 秋学期に学んだことのまとめと、グループ即興を行う。ワークショップを通して感じたことなどを感想を話し合う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、ワークショップを通して感じたことや思ったこと、考えたことなどを小レポートにまとめて提出する。

授 業 名	音楽療法演習			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2709
英 文 名	Seminar on Music Therapy			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	即興的かつ創造的な音楽活動を学生自ら展開し、体験的な学びをさらに深める（ワークショップ）。また、音楽療法実習（保育実習 又は ）に向けて子どもの発達を促す音楽活動を考え発表し（プレゼンテーション）、クラスメイトを対象者に見立てて実践する（ワークショップ）。ディスカッションやレポート作業を通して、体験的な学びを言語化し考察する力や、考え・感じたことを他者と共有する力を身につける。								
学修成果 到達目標	1) 即興的な音楽活動を考案し、活動を主導・調整することができる 2) 子どもの発達を踏まえた音楽活動を考案することができる 3) 2)の音楽活動を発表し、ワークショップを展開することができる 4) 上記の体験的学びををレポートにまとめ考察することができる								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	必要に応じて資料を配布する								
参 考 書	稲田雅美著『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房								
課題に対する フィードバック の方法	授業内で提出したレポートについては、コメント等を入れて返却する。 ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。								
留意事項	本演習は音楽療法実習の事前指導的な性格を持つため、本科目未履修の場合、また提出物の未提出や無断欠席等により単位を取得できなかった場合、実習ができなくなることがあります。積極的な取り組みと努力を特に必要とします。								
オフィス アワー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて実践的なワークショップなどを行う。								

授業名	音楽療法演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	・イントロダクション ・グループ即興の経験1	(学修内容) 春学期の授業計画と音楽活動の発表について説明を受け理解する。クラスメイトと即興的な音楽づくりを通して再会する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後学修として、グループ即興を通して感じたことや考えたことを小レポートにまとめて提出する。
第2回	・子どもの発達と援助 : 音楽療法と保育の共通点と相違点 ・グループ即興の経験2	(学修内容) 子どもの発達とその援助について学ぶ中で、音楽療法と保育の共通点と相違点を理解する。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、グループ即興を通して感じたことや考えたことを小レポートにまとめて提出する。
第3回	・子どもの発達と援助 : 子どもの音楽発達 ・グループ即興の経験3	(学修内容) 子どもの音楽発達について概観し、音楽を介した発達の援助にどのように生かすことができるか考える。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、グループ即興を通して感じたことや考えたことを小レポートにまとめて提出する。
第4回	・即興的な音楽づくりのワークショップの考案と実践 ・グループ即興の経験4	(学修内容) 発表者が考えた即興的な音楽づくりのワークショップを実施しディスカッションをする。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者はワークショップの準備をする。事後学修として、グループ即興を通して感じたことや考えたことを小レポートにまとめて提出する。
第5回	・即興的な音楽づくりのワークショップの考案と実践 ・グループ即興の経験5	(学修内容) 発表者が考えた即興的な音楽づくりのワークショップを実施しディスカッションをする。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者はワークショップの準備をする。事後学修として、グループ即興を通して感じたことや考えたことを小レポートにまとめて提出する。
第6回	・即興的な音楽づくりのワークショップの考案と実践 ・グループ即興の経験6	(学修内容) 発表者が考えた即興的な音楽づくりのワークショップを実施しディスカッションをする。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者はワークショップの準備をする。事後学修として、グループ即興を通して感じたことや考えたことを小レポートにまとめて提出する。
第7回	・即興的な音楽づくりのワークショップの考案と実践 ・グループ即興の経験7	(学修内容) 発表者が考えた即興的な音楽づくりのワークショップを実施しディスカッションをする。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者はワークショップの準備をする。事後学修として、グループ即興を通して感じたことや考えたことを小レポートにまとめて提出する。
第8回	グループ即興の経験8	(学修内容) 継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、グループ即興を通して感じたことや考えたことを小レポートにまとめて提出する。
第9回	個別指導 : 子どもの発達に即した音楽活動の発表に向けて	(学修内容) 「子どもの発達に即した音楽活動」の発表に向けて、個別指導を受ける。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どもの発達に即した音楽活動の発表内容を考え、ノート等にまとめて持参する。
第10回	個別指導 : 子どもの発達に即した音楽活動の発表に向けて	(学修内容) 「子どもの発達に即した音楽活動」の発表に向けて、個別指導を受ける(前回からの続き)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どもの発達に即した音楽活動の発表内容を考え、ノート等にまとめて持参する。
第11回	・子どもの発達に即した音楽活動 : 0/1歳児クラス ・グループ即興の経験9	(学修内容) 0または1歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表・実施し、ディスカッションする。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。事後学修として、グループ即興の経験について小レポートにまとめて提出する。
第12回	・子どもの発達に即した音楽活動 : 2/3歳児クラス ・グループ即興の経験10	(学修内容) 2または3歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表・実施し、ディスカッションする。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。事後学修として、グループ即興の経験について小レポートにまとめて提出する。
第13回	・子どもの発達に即した音楽活動 : 4/5歳児クラス ・グループ即興の経験11	(学修内容) 4または5歳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表・実施し、ディスカッションする。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。事後学修として、グループ即興の経験について小レポートにまとめて提出する。
第14回	・対象者のニーズに即した音楽活動 : 施設 ・グループ即興の経験12	(学修内容) 施設利用者を対象とした音楽活動について発表担当者が発表・実施し、ディスカッションをする。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表者は発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。事後学修として、グループ即興の経験について小レポートにまとめて提出する。
第15回	グループ即興の経験13	(学修内容) 継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後学修として、グループ即興の経験について小レポートにまとめて提出する。

授 業 名	音楽療法総合演習			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2717
英 文 名	Integrated Seminar of Music Therapy			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	音楽療法の実践について事例を通して学ぶことを中心とする。必要な理論や対象者のニーズを学び、ディスカッション・ワークショップを通して考察を深める。また、即興的音楽づくりのワークショップを行い、即興的・創造的に自己表現し他者とコミュニケーションすることを学ぶ。自分自身を理解することを通して対象者への理解を深めることを経験する。								
学修成果 到達目標	1) 音楽療法の対象者のニーズを理解・考察することができる 2) 事例を通して音楽療法の臨床を学び、その在り方や介入について考察することができる 3) 講義・ディスカッション・ワークショップを通して学んだ内容をレポートにまとめ考察することができる								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	適宜資料を配布する								
参 考 書	稲田雅美著『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房								
課題に対する フィードバック の方法	ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。								
留意事項	ディスカッションやワークショップを通して学びを深めます。積極的・自主的にクラスに貢献する姿勢を評価します。								
オフィス アワー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では臨床経験に基づいて事例の具体的な解説や実践的なワークショップなどを行う。								

授業名	音楽療法総合演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	・イントロダクション：実習の振り返り ・グループ即興の経験14	(学修内容) 夏休み中の実習で実際に行った音楽活動についてそれぞれ発表しディスカッションする。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 実習で行った音楽活動の内容や感想・反省点を発表する準備をしておく。事後学修としてグループ即興の経験について小レポートにまとめる。
第2回	・心の発達を援助する音楽療法の実際：音楽療法の在り方 ・グループ即興の経験15	(学修内容) 自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について事例を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 【事前】配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。【事後】グループ即興の小レポート
第3回	・心の発達を援助する音楽療法の実際：介入の実際 ・グループ即興の経験16	(学修内容) 自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について事例を通して理解を深める(グループワークとディスカッションの続き) (事前事後学修課題の内容)(60分) 【事前】配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。【事後】グループ即興の小レポート
第4回	・心の発達を援助する音楽療法の実際：体験的学び ・グループ即興の経験17	(学修内容) 前回までの学びを踏まえ、ワークショップを行い体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 【事後】グループ即興の小レポート
第5回	・心の発達を援助する音楽療法の実際：介入の実際 ・グループ即興の経験18	(学修内容) 自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について、さらに事例を読み進める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 【事前】配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。【事後】グループ即興の小レポート
第6回	・心の発達を援助する音楽療法の実際：介入の実際 ・グループ即興の経験19	(学修内容) 引き続き自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について、事例を読み進める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 【事前】配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。【事後】グループ即興の小レポート
第7回	・音楽療法センター見学の事前準備 ・グループ即興の経験20	(学修内容) 次回訪問する音楽療法センターについて知る。訪問時のマナーを確認する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 【事後】グループ即興の小レポート
第8回	音楽療法センターの見学(学外授業)	(学修内容) 音楽療法センターを訪問する。(訪問先の都合により訪問日程が前後することがある。) (事前事後学修課題の内容)(60分) 【事後】音楽療法センター訪問の感想を小レポートにまとめる
第9回	音楽療法センターの見学(学外授業)	(学修内容) 音楽療法センターを訪問する。(訪問先の都合により訪問日程が前後することがある。) (事前事後学修課題の内容)(60分) 【事後】音楽療法センター訪問の感想を小レポートにまとめる
第10回	・ワークショップ：他者を音楽的に伴走(伴奏)すること、音楽的に「共にいる」こと ・グループ即興の経験21	(学修内容) 音楽療法士はどのようにクライアントの在り方を音楽的に支えるのか体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 【事後】グループ即興の小レポート
第11回	・グループ形態の音楽療法：グループが形成されるプロセス ・グループ即興の経験22	(学修内容) 小グループでのセラピーについて、文献を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 【事前】配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。【事後】グループ即興の小レポート
第12回	・グループ形態の音楽療法：相手を受けとめることから音楽的体験へ ・グループ即興の経験23	(学修内容) 引き続き、小グループでのセラピーについて、文献を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 【事前】配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。【事後】グループ即興の小レポート
第13回	・グループ形態の音楽療法：グループで「音楽すること」 ・グループ即興の経験24	(学修内容) 引き続き、小グループでのセラピーについて、文献を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 【事前】配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。【事後】グループ即興の小レポート
第14回	・「音楽療法の終結」と学びの終わりに向けて ・グループ即興の経験25	(学修内容) 音楽療法の終結について学び、その重要性を理解・考察する。2年間の音楽療法の学びを振り返り、音楽療法の仲間とお別れする準備をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 【事後】グループ即興の小レポート
第15回	・「音楽療法の終結」と学びのまとめ ・グループ即興の経験26	(学修内容) 前回に引き続き2年間の学びを振り返り、音楽療法の仲間とお別れする中で、「終結」の重要性にさらに思いを巡らせる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 【事後】グループ即興の小レポート

授 業 名	音楽療法の器楽			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2708
英 文 名	Instruments for Music Therapy			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	小川 隆昭			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>本授業では、音楽療法の実践の基礎となる音楽技術を身につけることを目的とする。授業では、ギター、リコーダー、木琴、鉄琴などの演奏を行う。具体的には、初心者でも、簡単な演奏ができるように次のように授業を進める。まず、ギター、リコーダーの、音階やコードの押さえ方を習得し、また、木琴、鉄琴など、鍵盤打楽器の練習も行う。授業後半は各パートごとに分かれて合奏を行う。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) ピアノ以外（ギター・リコーダー）の旋律楽器の音階、コードを弾くことができる。  2) 打楽器（木琴・鉄琴等）の基礎的な演奏ができる。  3) グループワークを通してピアノ以外の旋律楽器の合奏ができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	プリント								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	練習してきたパートは授業の中で個々に指導する。								
留意事項	受講生は、授業以外でも、担当楽器を必ず練習することが必要。								
オフィス アワー	後日研究室前に掲示。								
実践的教育									

授業名	音楽療法の器楽	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス ギター	(学修内容) 授業についての説明 ギターのチューニング、指の押さえ方、音階 (事前事後学修課題の内容) (30分) ギターのチューニングが一人のできるようになる
第2回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターのチューニング、指の押さえ方、音階 リコーダー運指の練習 (事前事後学修課題の内容) (30分) ギターの練習 リコーダーの練習
第3回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターのチューニング、指の押さえ方、音階 リコーダー運指の練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習
第4回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習
第5回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習
第6回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダーの練習
第7回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (60分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第8回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (90分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第9回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (120分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第10回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (120分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第11回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) (120分) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第12回	合奏	(学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習
第13回	合奏	(学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習
第14回	合奏	(学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習
第15回	合奏	(学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (120分) 各自パートの練習



授 業 名	保育内容総論			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2331
英 文 名	Outline of Child Care			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	鈴木 えり子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」における保育の基本と構造を理解し、保育の目標や子どもの発達を5領域に関連づけてとらえ、総合的に学ぶ。子ども理解を具体的事例やDVDの視聴覚教材をもとに深め、グループワークを主として保育者としての必要な知識と技術、実践力の習得及び強化を目指す。								
学修成果 到達目標	1) 保育内容5領域について理解できる。 2) 各年齢に応じた保育内容のねらいが理解できる。 3) 具体的な保育内容について実践と理論を関係づけることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (課題レポート)	プレゼンテーション能力 (小テスト)		課題発見・解決能力		
テキスト	前田和代編著「新・保育内容総論 保育って、おもしろい」教育情報出版								
参 考 書	文部科学省編『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートについては授業内でコメントをします。 グループ発表については授業内で評価コメントを行います。 小テストについては採点して返却します。								
留意事項	保育内容を実践する。材料など指定されたものを忘れずに必ず各自で用意し持ってくること。								
オフィス アワー	研究室に掲示しますので確認してください。								
実践的教育									

授業名	保育内容総論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 保育の全体構造について	(学修内容) 授業の概要を説明する。保育の全体構造と保育内容との関連を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく。「保育内容」のことは説明できるように調べておく
第2回	保育の基本と保育内容	(学修内容) 保育内容と保育実践へのつながりを理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 3法令について教科書第1章を読んでおく
第3回	乳児期の発達特性と保育内容 1	(学修内容) 子どもの発達理解の観点から、子どもの発達特性と過程について理解する。3歳未満児の発達にふさわしい保育内容を事例を通して考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 乳児クラスでの実習を振り返って保育活動を書き出してくる
第4回	幼児期の発達特性と保育内容 2	(学修内容) 子どもの発達理解の観点から、子どもの発達特性と過程について理解する。3歳以上児の発達にふさわしい保育内容を事例を通して考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 幼児クラスでの実習を振り返って保育活動を書き出してくる
第5回	遊びの意義と特徴 DVD視聴	(学修内容) 子どもにとっての遊びの意義と特徴について、DVDを視聴し理解する。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 教科書第6章を読んでくる。
第6回	遊びを通した総合的な保育	(学修内容) 遊びを通した保育活動について実践を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第2章を読んでおく。実践の振り返りをレポートにまとめて提出する。
第7回	個と集団の関係	(学修内容) 個と集団の保育活動について実践を通して同異を話し合いまとめる (事前事後学修課題の内容) (60分) 集団での絵本の読み聞かせに適した絵本を選び素読をしてくる。読み聞かせ実践の後、気づきをレポートにまとめて提出する。
第8回	保育内容と行事	(学修内容) 園における保育内容としての行事のとらえ方について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 幼稚園や保育所での年間行事をHPを参考に調べてくる。
第9回	保育内容の展開 ～牛乳パック制作～	(学修内容) 保育内容の総合的な展開を考える演習を行う。牛乳パック制作を通して、保育活動のねらい・内容、活動展開、保育者のかかわりを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 牛乳パックなど廃材を使った保育教材を考えてみる。制作に必要なものを準備する。
第10回	保育内容の計画	(学修内容) 年齢に応じた行事活動を話し合っ計画する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)を要領、指針を参考にしておき
第11回	保育内容の計画	(学修内容) 年齢に応じた行事活動を話し合っ発表準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表した行事活動について領域から考えてまとめておく
第12回	保育内容の実践	(学修内容) 年齢に応じた行事活動の展開を実践発表し、保育展開を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 行事活動をテーマとした指導計画(略案)を提出すること
第13回	保育内容の評価	(学修内容) 保育内容の計画・実践・評価について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) グループで話し合い実践の振り返りを作成して提出すること
第14回	「育みたい資質・能力」および「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながり	(学修内容) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育保育要領の保育内容の共通点及び各領域と10の姿との関連について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 5領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考えてくる。小テストの準備をしてくる。
第15回	まとめ	(学修内容) 保育者の専門性を向上させるためにこれから何をすべきかを考え話し合う (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業全体を振り返っておく。第10章を読んでおく。

実 習 名	保育実習 a (CE2430)	対象学生	幼児教育2回生
担 当 者	鈴木 えり子・坂口 みゆき・小川 隆昭・福井 百合子・渋谷 郁子・眞崎 雅子・柘植 誠子・荘厳 茶茶・坂本 渉・林 静香・武田 康晴・野田 隆生・高岡 理恵・柴田 精一		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 「保育実習 (保育所・施設)」の保育所実習で学んだ内容を発展的に深化させ、実践力や応用力をさらに高めることを目的とする。</p> <p>2. 保育実習 (施設)の内容 児童・利用者の状況を理解し、個々に応じた保育者・援助者の援助について学ぶ。 健康管理、安全対策、児童・利用者の心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ。 保育実習 の内容(観察・参加・部分実習)に加えて、指導計画を立案し研究実習(部分、半日、全日のいずれか)を行う。 保育者・援助者の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。</p> <p>3. 実習生に対する指導方法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p> <p>4. 実習形態 大学の契約する社会福祉施設で行ない、原則「保育実習」の施設とは異なる実習先とする。 期間は、2回生の8月のうち10日間以上(休みを除く)かつ80時間以上の実習を行わなければならない。</p> <p>5. 事前事後指導等の内容等(必要性)について 「保育実習指導」で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとすることがある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。</p>		
備 考	<p>1. 実習受講の条件 ○「保育実習」の実習を終了している。 ○「保育実習」の単位を取得するには「保育実習指導」の単位を取得することを条件となる。 ○「保育実習」と「保育実習指導」は形式上個別に単位認定されるが、連動しているので個別に単位認定されることはない。</p> <p>2. 実習態度・参加意欲 ○実習中に知り得た情報を第三者等に漏らしてはならない。 ○児童・利用者者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように危険防止、体調管理を徹底して行う。</p>		

授 業 名	教育原理			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1113
英 文 名	Principles of Education			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	堀出 雅人			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>洋の東西を問わず、教育に求められる役割はますます肥大化し、教師の役割も同様になりつつある。本講義では、教育の基本的な考え方やしぐみを社会や歴史との関係をふまえながら学習する。とりわけ幼児教育に大きな影響を与えた思想家を中心に、幼児教育に求められる基本概念について理解する。また、今後の幼児教育のあり方を予測するとともに、人間の発達や現代社会と教育との関係をもとに、幼児教育で大切なことは何か、さまざまな資料や記事をもとに自らの意見を述べるのが授業の目的である。なお、資料の共有やレポート作成・提出のためにICT機器を活用する予定である。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 諸外国における教育の変遷や原理の違いについて説明することができる。  2) 幼児教育の発展過程について、専門的な知識をもとに説明することができる。  3) 乳幼児に対する教育観・保育観について、説明することができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 課題発見・解決能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( )							
テキスト	竹内聖子・内山絵美子編著『生活事例からはじめる教育原理』第2版 青踏社 2021年								
参 考 書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレール館 2018年 その他適宜指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	各回の最後にふりかえりシートの記述を求めます。チェックしその次の授業にて返却します。優れたふりかえりは授業中に紹介し、他の受講生の見本としてどこが優れていたのか説明を行います。								
留意事項	主として講義により授業を進めます。テキストを読みその内容から幼児教育の基本的な知識を習得するとともに自らの考えを書き出すことが授業の中心となります。そのため、必ずテキストは購入してください。提出課題は期日を守り提出しましょう。欠席する場合は事前に連絡をしましょう。また、配慮事項がある場合は早めに相談してください。								
オフィス アワー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み								
実践的教育									

授業名	教育原理	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	教育とは何か、教育と福祉	(学修内容)教育という言葉の語源を学び、教育の目的を説明することができる 教育と福祉、あるいは保育の定義を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:「教育」から連想されるイメージや単語を書き出してくる 後:テキスト第1、2章を再読し、キーワードを復習する
第2回	世界の子ども観の変遷と歴史	(学修内容)世界の近代以前・以降の子ども観について説明することができる 世界の教育の歴史の概要を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:幼児教育の偉人について春学期の他の授業で習ったことを復習する 後:テキスト第13、14章を再読し、キーワードを復習する
第3回	「幼稚園の父」フレーベルの思想と実践	(学修内容)フレーベルの思想に基づく幼稚園の教育実践をDVDを視聴しポイントを書き出すことでフレーベル教育のキーワードを説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:フレーベルについて調べ書き出してくる 後:テキスト第13、14章を再読し、キーワードを復習する
第4回	日本の子ども観の変遷	(学修内容)我が国の近代以前・以降の子ども観について説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:浮絵など昔の子どもの描かれ方を調べてくる 後:テキスト第11章を再読し、キーワードを復習する
第5回	日本の教育の歴史	(学修内容)我が国の幼児教育・保育の歴史を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:「寺子屋」について調べてくる 後:テキスト第12章を再読し、キーワードを復習する
第6回	「心のあり方」を大切するシュタイナーの思想と実践	(学修内容)シュタイナーの思想に基づく幼稚園の教育実践をDVDを視聴しポイントを書き出すことでシュタイナー教育のキーワードを説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:シュタイナーについて調べ書き出してくる 後:テキスト第13、14章を再読し、キーワードを復習する
第7回	教育の目的、機能	(学修内容)教育の今日的課題と法律上の教育の位置づけや役割を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:テレビや新聞から現在の教育保育現場の課題を1つ調べてくる 後:テキスト第3章を再読し、キーワードを復習する
第8回	就学前教育の制度	(学修内容)幼児教育・保育の無償化と諸外国の就学前教育の制度を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:幼児教育・保育の無償化について調べてくる 後:テキスト第6章を再読し、キーワードを復習する
第9回	乳幼児期の発達と教育の特性	(学修内容)乳幼児期の発達を踏まえ教育実践を転換する意義を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:見学等で触れた幼児教育実践の内容とねらいを書き出してくる 後:テキスト第5章を再読し、キーワードを復習する
第10回	乳幼児教育期における教育実践の基礎	(学修内容)子ども理解に基づく保育の計画、実践、省察を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:各幼稚園のホームページからその教育目標を調べてくる 後:テキスト第7章を再読し、キーワードを復習する
第11回	乳幼児期における遊びの意義と教育実践	(学修内容)乳幼児期における「遊び」の意味とその特徴を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:乳幼児期の具体的な「遊び」をイメージして書き出す 後:テキスト第8章を再読し、キーワードを復習する
第12回	就学前教育と小学校教育の違い	(学修内容)就学前教育と小学校教育との差異と連携の在り方を説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携について調べてくる 後:テキスト第9章を再読し、キーワードを復習する
第13回	保育者の専門性	(学修内容)保育者の専門性と現場での同僚性について説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:保育者の専門性について考え書き出してくる 後:テキスト第10章を再読し、キーワードを復習する
第14回	「自律した学習者になるために」モンテッソーリの思想と実践	(学修内容)シュタイナーの思想に基づく幼稚園の教育実践をDVDを視聴しポイントを書き出すことでシュタイナー教育のキーワードを説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:モンテッソーリについて調べ書き出してくる 後:テキスト第15章を再読し、キーワードを復習する
第15回	生涯学習	(学修内容)生涯学習の意味と我が国のその現状について説明することができる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前:「生涯学習」から連想されるイメージや単語を書き出してくる 後:テキスト第4章を再読し、キーワードを復習する

授 業 名	保育原理			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1105
英 文 名	Principles of Child Care			開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	鈴木 えり子			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	保育の意義や目的について理解し、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領を中心とした保育に関する法令や制度を学ぶ。また、現代の多様な保育の在り方を歴史的保育思想から学び、保育の現状と課題を学びから深めていく。								
学修成果 到達目標	1) 保育の意義及び目的が理解できる。 2) 保育所、幼稚園、認定こども園における保育の基本が理解できる。 3) 保育に関する法令や制度、保育の思想や歴史的変遷について理解できる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (小テスト)	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 (課題提出)		
テキスト	『哲学する 保育原理』第2版 伊藤潔志編著 教育情報出版 厚生労働省編『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』フレーベル館								
参 考 書	文部科学省編『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題・レポートは授業内でコメントを返します。 小テストは添削をして返却し解答の解説を行います。								
留意事項	講義を中心とするが、理解を深めるために視聴覚資料も取り入れる。教科書をしっかり読んでおく。途中で理解度を把握するため、小テストを実施する。								
オフィス アワー	研究室に掲示しますので確認してください。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。								
実践的教育									

授業名	保育原理	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション ー保育原理で学ぶことー	(学修内容) 講義の目的や授業の進め方を理解する。到達目標について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認し授業全体の流れと内容を理解しておくこと
第2回	保育用語の理解	(学修内容) 保育施設で使用される保育用語について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育施設で使われる保育用語のリスト(ワークシート)を書き出し意味を調べてくる。
第3回	保育に関する諸法令	(学修内容) 保育所、幼稚園、認定こども園に関する法令や制度を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第1章-1を読んでワークシートを見直す。指針、要領のそれぞれの総則部分を読んでおく
第4回	保育の方向性と発達観	(学修内容) 幼児教育を行う施設としての共有すべき事項の内容について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 指針や要領を参考にして「育みたい資質・能力」の3つの内容を書き出してくる
第5回	保育の目標と内容	(学修内容) 保育所保育指針、幼陳教育要領、教育・保育要領にみる保育の原理を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領を比較しレポートにまとめてくる
第6回	保育環境とは	(学修内容) DVDの視聴を通して集団保育の一日の生活や「環境」について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 自分の幼小期を振り返ってレポートにまとめておく
第7回	小テスト	(学修内容) 小テストを実施する。小テストの解説を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 小テストの準備をする。
第8回	保育を過去から考えるー西洋における保育の思想ー	(学修内容) 西洋における保育の思想に関心を持ち、オーウェン、フレーベル、モンテッソーリについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第2章-1,2を参考にして配布プリントを仕上げしておく
第9回	日本における保育の歴史 - 近代ー	(学修内容) 近代における保育に関する諸制度や時代背景について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第2章-3,4,5を参考にして配布プリントを仕上げ提出する。
第10回	日本における保育の思想 - 現代へのつながりー	(学修内容) 倉橋惣三の保育思想について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の経験した就学前教育について振り返っておく。出身園や気になる園のHPをみて関係する人物について調べてくる。
第11回	養護と教育の一体化	(学修内容) 教育と養護の目的について理解する。教育と養護の一体化についてDVDを視聴して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園保育教育要領の第1章総則の部分を読みワークシートを仕上げ提出する
第12回	保育の計画	(学修内容) 指導計画・評価の必要性を理解し保育者の役割を具体的に学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト第1章-2を読んで「保育の計画」「指導計画」の意味についてレポートにまとめておく
第13回	保育内容の総合性	(学修内容) 遊びを中心とした生活について5領域から理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第6章を読んでおく
第14回	子育て支援 ー地域や保育施設に求められる子育て支援とはー	(学修内容) 保育者に求められる社会的な役割について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育指針 第4章子育て支援の部分を読んでワークを仕上げてくる
第15回	まとめ	(学修内容) 授業の振り返りをする (事前事後学修課題の内容) (30分) 返却した小テストや配布プリントを見直しまとめをしておく

授 業 名	子どもの理解と援助		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1111
英 文 名	Understanding and Supporting Children		開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	西川 由紀子		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	保育において、ひとりひとりの発達を把握して実践を展開することの意義を理解し、具体的な保育場面からそのイメージを具体的にもつことを目的とする。授業においては、発達の状態を把握する意義を押さえた後、各年齢の発達の特徴を解説した後、その特徴があらわれている保育実践を紹介し、保育の展開を理解できるようにする。							
学修成果 到達目標	1) 生後6年間の子どもの発達を理解する。 2) 保育のなかでどのように子どもたちを援助しているかを理解する。 3) 集団保育の中で気になる子どもへの支援をどのようにしているかを理解する。							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 ( 80% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (	
テキスト	西川由紀子『子どもの思いにこころをよせて』(かもがわ出版) 西川由紀子『かわりあって育つこどもたち』(かもがわ出版)							
参 考 書								
課題に対する フィードバック の方法	授業への感想や質問について、翌週の授業冒頭で解説する。							
留意事項								
オフィス アワー	授業時に伝える							
実践的教育								



授業名	子どもの理解と援助	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもの発達を学ぶ意義	(学修内容) 子どもを理解するために発達を学ぶことにどんな意義があるかを解説する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 1章を読んで、たいせつなポイントにラインを引いてくる
第2回	0歳児の発達	(学修内容) 0歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 2章、3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第3回	0歳児の保育	(学修内容) 0歳児クラスの保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 2章3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第4回	1歳児の発達	(学修内容) 1歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第5回	1歳児の保育	(学修内容) 1歳児クラスの保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第6回	2歳児の発達	(学修内容) 2歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第7回	2歳児の保育	(学修内容) 2歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第8回	3歳児の発達	(学修内容) 3歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第9回	3歳児の保育	(学修内容) 3歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第10回	4歳児の発達	(学修内容) 4歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第11回	4歳児の保育	(学修内容) 4歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章を読んでくる
第12回	5歳児の発達	(学修内容) 5歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第13回	5歳児の保育	(学修内容) 5歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 5章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第14回	気になる子への対応(乳児クラス)	(学修内容) 乳児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章p75から79、テキスト 2章p40から43を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる
第15回	気になる子への対応(幼児クラス)	(学修内容) 幼児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト 4章p117から119、5章p156から160を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる

授 業 名	家庭と子育て支援			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CS2117
英 文 名	Family and Child Care Support			開講 時期	春学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	流石 智子・高岡 理恵			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	現代の家庭は、親のみでは子育てすることが難しくなっている。この現状を理解して子育て支援策をどのようにするのか、検討が必要である。現代家庭の抱える問題を把握して、現在、親は子育て支援を有効に活用しているか、現代の家庭に必要な子育て支援策は何かを検討したい。子どもの育ちにとってどのような子育て支援が良いのかも考察する。グループに分かれて、課題についての討議をし、他の人の考えについて理解を深める。できれば、ロールプレイも行いたい。								
学修成果 到達目標	1) 家庭における様々な子育ての問題点を理解できる。 2) 家庭における子育て支援策を具体的に理解することができる。 3) 自分の子育て観の確認ができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 60% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	松原康雄他編『新基本保育シリーズ5、子ども家庭支援論』第2版 中央法規 2023年								
参 考 書	授業の時に、適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	リアクションペーパーに対してコメントする								
留意事項	リフレクションシートに記入し、授業の学びの確認をする。授業終了時に提出してこれをもって出席とする。必ず提出してください。提出の無い時は欠席となる。これは、平常試験に反映されるので、学びの確認ができるように、しっかり記述してください。レポートは2回程度を予定しています。随時担当教員が説明をします。								
オフィス アワー	演習室等に掲示をします。在室の時は可能であれば対応します。Gメール等で連絡をいただくと予定を調整してご連絡します。								
実践的教育									

授業名	家庭と子育て支援	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに 子ども家庭支援の意義と必要性(1)	(学修内容) 授業の進め方等について話す。家庭支援の意義と子育て支援 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、授業の全体像を把握しておく
第2回	子ども家庭支援の意義と必要性(2)	(学修内容) 子ども家庭支援の意義・子育て支援のポイント (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：第1講を読み理解する
第3回	子ども家庭支援の目的と機能	(学修内容) 家庭支援の制度、目的等について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：第2講について読み理解する
第4回	子育て支援施策・次世代育成支援の推進	(学修内容) 保育所、幼稚園における新制度の理解をする (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：第3講を読み理解する
第5回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	(学修内容) 社会資源について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：第4講を読み理解する
第6回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	(学修内容) 保育者の専門性と子ども家庭支援について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：第5講を読み理解する
第7回	子どもの育ちの喜びの共有	(学修内容) 子どもの育ちを共有することとは (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：第6講を読み理解する
第8回	保護者および地域が有する子育てを自らが実践する力の向上に資する支援	(学修内容) 地域での子育て・保育士に求められる支援について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：第7講読み理解する
第9回	保育士に求められる基本的態度	(学修内容) 保育士と保護者との信頼関係とは (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：第8講を読み理解する
第10回	家庭の状況に応じた支援	(学修内容) 家庭状況の把握とその支援について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：第9講を読み理解する
第11回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	(学修内容) 子ども家庭支援と地域資源の活用 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：第10講、第15講を読み理解する
第12回	子ども家庭支援の内容と対象	(学修内容) さまざまな子ども家庭支援の対象：子ども、保護者、地域 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：第11講を読み理解する
第13回	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	(学修内容) 家庭がかかえる生活課題と保育者等の役割 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：第12講を読み理解する。
第14回	地域の子育て家庭への支援	(学修内容) 地域の子育て家庭への支援・支援者の姿勢 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：第13講を読み理解する
第15回	要保護児童およびその家庭に対する支援 子育て支援に関する課題と展望：まとめ	(学修内容) 要保護児童とその家庭に対する支援について 子育て支援のニーズの多様化と連携機関(まとめ) (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前：第14講、第15講を読み理解する

授 業 名	子どもの遊びと生活			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CS2125
英 文 名	Children's Play and Living			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択		
担 当 者	宮川 紀宏			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>「生活科」の設置目的や内容を理解する。幼児の遊びや生活経験をかきね身についた学びを小学校以降の生活や学習の芽生えとして伸ばしていくことの重要性を学ぶ。グループワークを通して、幼児にふさわしい生活展開ができるよう、幼稚園教員としての専門性を高めての資質の向上を図る。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 生活科の目標や概要を理解し説明することができる。 2) 自然教材を用いた保育について、保育者としての視点を説明することができる。 3) 子どもの非認知的能力を育てるためのかわりについて説明することができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	必要に応じて授業時にプリントを配布する。								
参 考 書	文部科学省編『小学校学習指導要領解説 生活編』平成29年とその他は適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については点検し、コメントをつけて返却する。または、授業内にてフィードバックを行う。								
留意事項	出席を重視する。								
オフィス アワー	1回目の授業で発表する								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：実践的教育 教員の実務経験など： 京都市立西院小学校，京都教育大学附属小学校，京都市立衣笠小学校，教諭 等</p>								

授業名	子どもの遊びと生活	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 「生活科」について理解する ～幼児教育と小学校教育の連続性～	(学修内容) 授業の進め方・流れ・評価の仕方を確認する。 「生活科」の目標・内容・改訂の要点などを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、内容をまとめておく。
第2回	幼児の「遊び」と小学校教育以降の「学習」の連続性について理解する	(学修内容) 幼児の「遊び」と小学校教育以降の「学習」の連続性について理解し、教材を考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を読み、内容をまとめておく。
第3回	幼児理解に基づいた教材づくり 遊びと学びについて (1) 実技を通して子どもにつけたい力とは	(学修内容) 素材の特性を生かし、飛ぶおもちゃをつかって遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 自分の作品のアイデアや遊び方を考えておく。
第4回	幼児理解に基づいた教材づくり 遊びと学びについて (2) 実技を通して指導者に必要なまなざしとは	(学修内容) 素材の特性を生かし、遊びのための道具を工夫してつくり遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 自分の作品のアイデアや遊び方を考えておく。
第5回	幼児理解に基づいた教材づくり 遊びと学びについて (3) 実技を通して指導者に必要な支援とは	(学修内容) 身近な材料を使って、遊びのための道具を工夫してつくり遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 自分の作品のアイデアや遊び方を考えておく。
第6回	幼児理解に基づいた教材づくり 季節と遊ぼう(フィールドワーク) (1) 秋を見つけよう	(学修内容) 秋の自然を諸感覚で感じながら観察を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) フィールドワークを通して秋の自然を観察し、撮った写真や観察した資料をまとめておく。
第7回	幼児理解に基づいた教材づくり 秋と遊ぼう (2) 秋のもので森の生き物たちをつかって遊ぼう	(学修内容) 秋の自然観察をパワーポイントにまとめ、発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表の準備をしておく
第8回	幼児理解に基づいた教材づくり 秋と遊ぼう (3) 見つけた秋を伝え合おう	(学修内容) 秋の自然観察をパワーポイントにまとめ、発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表の準備をしておく。
第9回	アプローチカリキュラムとは	(学修内容) 幼稚園から小学校へのつなぎを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) アプローチカリキュラムについて調べてまとめておく。
第10回	遊びを中心とした子どもの学びと育ち	(学修内容) グループワークを通して、遊びにおける子どもの学びと育ちの意味を考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 幼稚園や保育園の実習で体験した遊びを整理し子どもの学びを考える。
第11回	子どもの遊びを考えてみる	(学修内容) アプローチカリキュラムを意識して具体的な遊びを考え発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どもの様々な遊びを考えて整理しておく。
第12回	子どもの学びを意識した保育プログラムを考える	(学修内容) 大学の外に出て保育にふさわしい場所を散策し、子どもの学びを意識した保育プログラムの企画枠組みを考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どもの学びを意識した保育プログラムを調べておく。
第13回	保育プログラムの企画を考える	(学修内容) 考えた内容を企画書にまとめるにあたっての下見をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 企画書とはどのようなものか調べて、パワーポイントにまとめる準備をしておく。
第14回	子どもの学びを意識した保育プログラムの企画書を作成する	(学修内容) 下見を踏まえてパワーポイントで具体的に企画書を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 下見の内容を振り返り、要点を整理し企画書にまとめる準備をしておく。
第15回	作成した保育プログラム企画の発表、共有、評価をすることで、ここまでの学びを整理し深める	(学修内容) パワーポイントにまとめた企画書を発表し全員で評価する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) パワーポイント発表に必要な準備を進めておく。ここまでの授業全体を振り返っておく。

授 業 名	現代子ども学			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1103
英 文 名	Study of Modern Children			開講 時期	春学期	必修 選択	必修		
担 当 者	名賀 亨 (R6~)			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>子どもには、成長発達する権利があり、どのような状況でも守られる権利がある。そのことは社会で理解されているのであるが、近年子どもに関係した問題や課題、理解が不十分であるためにおこる子どもの生活不安の問題が顕在化している。そうした中で、「子ども」を理解することはとても重要なことである。とりわけ子どもの成長の理解は保育を行う上で、不可欠な学びの要素である。</p> <p>この授業では、子どもに関係するさまざまな事柄を理解するために、さまざまな面から考えていくとともに、グループ討議や発表あるいはプレゼンテーションなどにも取り組んでもらいながら、個々の学びを深めていければと考えている。</p>								
学修成果 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活をする子どもの姿を知ること、子どもとはどのような存在かを理解することができる。</li> <li>2. 子どもの学びのプロセスについて理解し、子どもの成長発達について理解することができる。</li> <li>3. 子どもを取り巻く環境が子どもの学びや成長に及ぼす影響について理解することができる。</li> </ol>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (	)	
テキスト	なし。適宜、資料を配付する。								
参 考 書	授業内で、提示する。								
課題に対する フィードバック の方法	試験返却時に、説明、解説をする。								
留意事項	授業期間中のレポートは、各担当複数回を予定しており、その評価も全体の評価に組み入れる。また、出欠状況や授業態度なども評価に組み入れる。								
オフィス アワー	研究室に掲示、演習室にも掲示あり。在室時、時間があれば対応する。								
実践的教育									

授業名	現代子ども学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業オリエンテーション 「子どもとは・・・」	(学修内容) 授業内容の概要や進め方、評価方法などを理解するとともに、子どもについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 子どもとは何か、これまでの経験を基に整理しておく。 事後: 授業内容を整理し疑問・質問をまとめる。
第2回	子どもと発達	(学修内容) 子どもの発達に関して基本概念を理解し、関わり方を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 発達という言葉の意味を調べて整理しまとめておく。 事後: 授業内容を整理し疑問・質問をまとめる。
第3回	子どもと健康	(学修内容) 健康という言葉の意味を理解し、子どもたちの健康について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 健康ということについて調べて整理しまとめておく。 事後: 授業内容を整理し疑問・質問をまとめる。
第4回	養育環境と子ども	(学修内容) 子どもの育ちに大切な要素である養育環境について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 愛着について調べてまとめておく。 事後: 授業内容を整理し疑問・質問をまとめる。
第5回	子どもの社会的スキルと仲間関係	(学修内容) 社会的スキルという概念から子どもが育つ対人関係について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 人との関わりの面白さや難しさの必要性についてまとめておく。 事後: 授業内容を整理し疑問・質問をまとめる。
第6回	社会的つながりと子ども	(学修内容) 子どもの養育に関して、親、家族、地域の人たち、地域社会などの関りについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 社会的つながりという言葉の意味についてまとめておく。 事後: 授業内容を整理し疑問・質問をまとめる。
第7回	保育と子どもたち	(学修内容) 保育という言葉の意味や歴史の変遷、保育現場の日常について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 保育という言葉の持つイメージを自分なりにまとめておく。 事後: 授業内容を整理し疑問・質問をまとめる。
第8回	認知能力と非認知能力	(学修内容) 子どもの学びの基本となる認知能力・非認知能力について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 認知能力と非認知能力について調べてまとめておく。 事後: 授業内容を整理し疑問・質問をまとめる。
第9回	子どもの学びと育ちの特性	(学修内容) 多様な体験から生み出される子どもの学びを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 体験学習について調べてノートにまとめておく。 事後: 授業内容を整理し疑問・質問をまとめる。
第10回	子どもの学びを支える大人の役割	(学修内容) 子どもを取り巻く大人が子どもの学びと育ちに与える影響と役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: ファシリテーションについて調べてまとめておく。 事後: 授業内容を整理し疑問・質問をまとめる。
第11回	学びと育ちを生み出す子どもの遊び	(学修内容) 子どもの多彩な学びを創り出す遊びにどのようなものがあるか理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 体験学習について、その意味と具体例を調べてまとめておく。 事後: 授業内容を整理し疑問・質問をまとめる。
第12回	子どもの遊びを広げる児童文化財	(学修内容) 絵本や絵雑誌、童話や昔話など子どもの遊びを支える児童文化財について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 児童文化財にどのようなものがあるのか調べてまとめておく。 事後: 授業内容を整理し疑問・質問をまとめる。
第13回	子どもの学びを体感する	(学修内容) グループワークを通して学びを体感する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 体験学習の意味や効果について整理しまとめておく。 事後: 授業内容を整理し疑問・質問をまとめる。
第14回	子どもの学びを体感する	(学修内容) グループワークを通して学びを体感する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 前回の体験学習を振り返り、自身の学びについて整理しておく。 事後: 授業内容を整理し疑問・質問をまとめる。
第15回	子どもとは...大人の関わりとは...	(学修内容) これまで14回の授業全体を振り返りまとめるとともに保育者の在り方について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: これまでの授業を整理しまとめておく。 事後: 授業内容を整理し疑問・質問をまとめる。

授 業 名	子育て支援の心理学			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2231
英 文 名	Psychology of Child Rearing Support			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	狂 巖 茶 茶			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	我が国における多様な子育て家庭の現状とニーズを知り、保育職に就く者が子育て家庭への支援を行う上で必要とされる意識・態度・知識を学ぶ。								
学修成果 到達目標	1)子育て家庭のあり方の多様性を理解しようとする態度を有する。 2)子育て家庭の社会的な現状とニーズの傾向について理解することができる。 3)子育て家庭への基本的な支援内容について説明することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	青木紀久代(編) 『シリーズ 知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学』 みらい 2019年								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	筆記試験：答案返却とともに模範解答の閲覧期間を設ける。 レポート：コメントを付して返却する。								
留意事項	日頃から子育て家庭に関する社会的動向に興味をもって積極的にニュース等を見聞する習慣をつけ、授業に臨むことが望ましい。								
オフィス アワー	曜日・時間は研究室入口に掲示。 メールによる問い合わせは常時受け付け。								
実践的教育									



授業名	子育て支援の心理学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の概略、および授業計画の説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認する。
第2回	生涯発達とは何か(1) 生涯発達の考え方	(学修内容) 心理学における生涯発達の考え方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第3回	生涯発達とは何か(2) ライフサイクルとライフコース	(学修内容) ライフサイクル・ライフコースとは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第4回	生涯発達とは何か(3) エリクソンのライフサイクル論	(学修内容) ライフサイクル論的観点から見る問題・課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第5回	生涯発達とは何か(4) 生涯発達から見た心の問題と家族	(学修内容) 生涯にわたるメンタルヘルスの諸問題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第6回	子育てを取り巻く社会的状況(1) 社会と家族の変化	(学修内容) 社会と家族の変化の歴史・背景 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第7回	子育てを取り巻く社会的状況(2) 現代の子育ての難しさ	(学修内容) 子育ての現代的問題とその背景 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第8回	子育てを取り巻く社会的状況(3) 保育における子育て支援	(学修内容) 保育現場における子育て支援の種類と内容 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第9回	多様な家庭形態とその理解(1) 現代の多様な家庭	(学修内容) 多様な家庭形態の実情 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第10回	多様な家庭形態とその理解(2) 援助にあたってのポイント	(学修内容) 法令に基づく援助の実際 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第11回	多様な家庭形態とその理解(3) 多様な家庭の援助につながるアセスメント	(学修内容) 養育アセスメントと支援の循環 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第12回	特別な配慮を必要とする家庭(1) 特別な配慮を必要とする家庭	(学修内容) 特別な配慮を要する家庭とは (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第13回	特別な配慮を必要とする家庭(2) 予期せぬ出来事に遭遇した家庭	(学修内容) 特別な配慮を必要とする予期せぬ出来事とは (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第14回	特別な配慮を必要とする家庭(3) 配慮・支援にあたってのポイント	(学修内容) 特別な配慮を必要とするケースにおけるアセスメントと支援 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第15回	まとめ、振り返り	(学修内容) 14回の学修内容の総括、振り返り (事前事後学修課題の内容) (180分) 全回の学修内容の流れを振り返ってノート整理をおこない、解決していない疑問・質問等をまとめる。

授 業 名	子どもの保健		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1212
英 文 名	Infant Health		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	福井 百合子		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>保育の現場では、適切に養育する力量（子どもの健康と発育・発達を支援し、病気やケガの保健的対応や、保育環境の衛生管理・安全管理について必要な知識と技術を身につけていること）が求められる。本授業では、この専門家として養育に必要な育児技術、健康管理、安全管理について学ぶ。「子どもの保健」で学んだ基礎知識をふまえて、乳幼児のお世話と保健的対応、疾病予防、感染予防、応急・救急処置、安全確保の基本的知識の理解を深め、具体的な方法や技術を学ぶ。適宜、動画視聴、演習、ワーク、ディスカッションやグループワークを実施する。</p>							
学修成果 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの健康増進、心身の発育・発達を促す保健活動や保育環境を考え、保育場面での安全管理と衛生管理を学び、ガイドラインや指針をふまえて具体的な方法がわかる。</li> <li>2. 子どもの健康状態と、成長・発達の観察、判断について理解できる。</li> <li>3. 子どもの健康と子育てに必要な日常的な養護について、子どもの特徴をふまえて考えることができる。</li> <li>4. 保育場面での子どもの体調不良やケガ等に対する適切な対応、予防対策について理解し、ガイドラインや指針をふまえて考えることができる。</li> <li>5. 病気や障害をもつ子どもの保育について理解できる。</li> <li>6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について理解できる。</li> </ol>							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (課題提出)	プレゼンテーション能力 (学習ノート)		課題発見・解決能力 ( )	
テキスト	<p>松本峰雄 監修「よくわかる保育士エクササイズ7 子どもの保健と安全 演習ブック」ミネルヴァ書房  今井七重 編『新時代の保育草書 演習 子どもの保健 第2版』株式会社みらい  【注意】  は「子どもの保健」で使用していたテキストのため、既に皆さん所持されています。今回 をご用意ください。併用します。</p>							
参 考 書	<p>大西文子・遠藤幸子・興水めぐみ ほか『子どもの健康と安全』中山書店  井狩芳子『演習 保育内容 健康 大人から子どもへつなぐ健康の視点』萌文書林  野原八千代 編『子どもの健康と安全』建帛社  高内正子・梶美保 編『保育の場で生きる子どもの健康と安全』建帛社  その他は適宜提示。</p>							
課題に対する フィードバック の方法	課題やミニテストは解答後に答えと解説を表示する。							
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書とノートを持参して受講してください。（適時、確認すること有）</li> <li>・授業で使用する大学の備品は大切に丁寧に取り扱い扱うこと。</li> <li>・授業内容や試験方法は状況により調整変更することがある。</li> <li>・演習時は、髪をまとめ、エプロン着用で行うこと。</li> <li>・出欠回数や課題提出の未済は自己管理すること。</li> </ul>							
オフィス アワー	授業ガイダンス時に知らせる。							
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：看護師、助産師、大学教員としての実務経験から、乳幼児の様子や、病気・ケガの対応がイメージしやすいよう工夫しながら授業を進めていく。</p>							

授業名	子どもの保健	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 個の健康と集団の健康の視点	(学修内容) 授業の案内。ひとりひとりの子どもの健康管理や個別配慮、医療的ケアと、集団の健康管理や健康教育の必要性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの保健 で学んだ子どもにとっての健康や保健活動の意義を復習しておく。事後はミニテストで復習する。
第2回	基本的な生活習慣の獲得と支援(食事、睡眠、排泄、清潔、衣類の着脱)	(学修内容) 食事、睡眠、排泄、清潔、衣類の着脱などの基本的な生活習慣の獲得と支援ポイントについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ご自身のトイレトレーニング(おむつ外れ)が完了したのは何歳頃だったか家人に聞いておく。事後はミニテストで復習する。
第3回	子どもの養護 保健的観点をふまえた子どもの健康と健やかな育ちのための望ましい保育環境と援助	(学修内容) 保育環境(健康、安全、発育促進、快適性)と援助(信頼関係構築と愛着形成、安心、情緒の安定、マザリース)について学びGWにて深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第1章15コマ(P116~121)、保育所保育指針の保育室の環境に関する箇所を読む。事後はミニテストで復習する。
第4回	保育における衛生管理、感染症対策 衛生教育	(学修内容) 保育施設における衛生管理および感染症対策、清潔行動などの衛生教育についてガイドラインやガイドブック、関係法規などを見ながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書(P117~121)、保育所における感染症対策ガイドライン、保育所における感染症対策ガイドラインガイドブック、学校保健安全法を読む。
第5回	保育における安全管理(事故防止及び安全対策) 安全教育	(学修内容) 保育施設における安全管理(事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策、リスクハザード)についてイラストや動画、GWを交えて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書第1章7コマ(P124~139)、第2章23コマ(P182~185)を読む。事後はミニテストで復習する。
第6回	子どもの健康状態の把握と管理(母子手帳、連絡帳、生活管理指導表)、健康教育	(学修内容) 子どもの健康状態および発達の把握の方法と判断、健康管理(母子手帳、連絡帳、生活管理指導表の活用と保護者への報告)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第1章8コマ(P61~64)、2コマ(P17~27)、第2章22コマ(P178~185、P189の3)、母子手帳の掲載内容を見る。事後はミニテストで復習。
第7回	子どもの体調不良に対する適切な対応 発熱、熱中症、脱水、下痢、嘔気・嘔吐、けいれん、咳	(学修内容) 子どもの発熱、熱中症、脱水、下痢、嘔気・嘔吐、けいれん、咳のある時の対応について、問いかけや動画視聴を交えて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第2章18コマ19コマ(P140~147、150~155、P159)を読む。配布資料がある場合はみておく。事後はミニテストで復習する。
第8回	子どもの体調不良に対する適切な対応 吐物の処理、氷枕	(学修内容) 子どもの嘔吐時の吐物処理、発熱や熱中症時の冷罨法のポイントと氷枕作成について、講義に加え、実演見学や実践を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第2章18コマ(P148)を読む。配布資料がある場合は必ず目を通してしておく。事後はミニテストで復習する。
第9回	子どものケガ等に対する適切な対応 外傷、出血	(学修内容) 子どものケガ(外傷、出血)時の対応について、資料、画像や動画も用いて学ぶ。前腕の包帯の巻き方を実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第2章19コマ(P152~155)を読む。事前資料がある場合は目を通してしておく。事後はミニテストで復習する。
第10回	子どものケガ等に対する適切な対応 応急処置(骨折・捻挫・打撲、頭部外傷、虫刺され)	(学修内容) 子どものケガ(骨折・捻挫・打撲、頭部外傷、虫刺され)時の対応について、資料、画像も見ながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第2章19コマ(P152~155)を読む。事後はミニテストで復習する。
第11回	子どもの急変時に対する適切な対応 アナフィラキシー、気道異物、喘息発作、	(学修内容) 子どものアナフィラキシー、気道異物、喘息発作時の対応(エピペンの使用、気道異物の除去方法、吸入薬の使用)について動画を交えて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第2章19コマ(P154~159)、28コマ(P222~224)を読む。事後はミニテストで復習する。
第12回	子どもの急変時に対する適切な対応 重篤な状態の時の対処(救命処置)	(学修内容) ショック状態など重篤な状態の時の対応の手順、救命処置について、動画や実演見学も交えて学ぶ。一連の対処の流れについて演習を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第2章18コマ28コマ(P150~159)を読む。事前資料がある場合は目を通してしておく。事後はミニテストで復習する。
第13回	個別的な配慮を要する子どもへの対応 慢性疾患、肢体不自由児、医療的ケアを要する子ども	(学修内容) 統合保育、肢体不自由児、医療的ケアを必要とする子どもの対応について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第2章26コマ(P200~205)、28コマ(P216~225)を読む。事前資料がある場合は目を通してしておく。事後はミニテストで復習する。
第14回	個別的な配慮を要する子どもへの対応 視覚障害・聴覚障害、発達障害	(学修内容) 子どもの視覚障害・聴覚障害、発達障害について学び、動画を用いて聴覚過敏、視覚過敏を疑似体験し理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第1章6コマ(P44~51)、第2章29コマ(P206~215、P233~235)と、事前資料がある場合は目を通してしておく。事後はミニテストで復習する。
第15回	統合保育、地域の保健活動と連携、母子保健施策、定期試験の案内	(学修内容) 統合保育、地域の保健活動と連携、母子保健施策について学ぶ。定期試験の案内。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 第2章29コマ(P206~208、P228~235)を読む。

授 業 名	音楽の基礎理論			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1206
英 文 名	Basic Theory of Music			開講 時期	春学期	必修 選択	必修 選択		
担 当 者	小川 隆昭			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	保育現場に必要な音楽理論の基礎学習と並行しながら、初歩的なピアノ技術を身につける。理論（楽典）については、グループに分かれ、問題を考察し合い、解決するまで互いに話し合う。また、ピアノについては、音楽表現の補助的役割を担っている。								
学修成果 到達目標	1) 保育現場で使う音楽理論の基礎が理解できる。 2) グループワークによる理論の習得及び、発表によって自身の習得が確認できる。 3) 音楽理論を理解した上で、ピアノを弾くことによって正しく楽譜が読めるようになる。 4) 一人で新しい曲を弾くことが出来るための基礎的な能力を身につける。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	『ジュニアクラスの楽典問題集』（ドレミ楽譜出版社）森本琢朗・池田恭子 共著 『バイエルピアノ教則本』（音楽之友社）他 経験者は進度に応じた曲								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	音楽理論の課題について、毎回解答の解説を行う。								
留意事項	音楽理論について、理解できるまで担当者に質問すること。								
オフィス アワー	週1回、曜日と時間は研究室前に掲示。								
実践的教育	実践的教育 教員の實務経験など：・私立音楽院助手 ・おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導								

授業名	音楽の基礎理論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	音楽理論(1) 線と間 ト音記号 音名 ヘ音記号	(学修内容) 授業の進め方を理解する。 バイエルを使いピアノの練習(原書番号3~) (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第2回	音楽理論(2) 音符と休符 小節と縦線 拍子記号	(学修内容) バイエルを使いピアノの練習(原書番号7) (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第3回	音楽理論(3) 譜表 オクターブ	(学修内容) バイエルを使いピアノの練習(原書番号44) (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第4回	音楽理論(4) 音符と休符 拍子とリズム	(学修内容) バイエルを使いピアノの練習(原書番号61) (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第5回	音楽理論(5) 強起と弱起 奏法を指示する記号	(学修内容) バイエルを使いピアノの練習(原書番号81) (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第6回	音楽理論(6) 強弱を表す記号 シンコペーション	(学修内容) バイエルを使いピアノの練習(原書番号94) (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第7回	音楽理論(7) 複縦線と反復記号 連符	(学修内容) バイエルを使いピアノの練習(原書番号86) (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第8回	音楽理論(8) 速度記号 装飾音符と装飾記号	(学修内容) バイエルを使いピアノの練習(原書番号100) (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第9回	音楽理論(9) 奏法を指示する用語と記号 変化記号	(学修内容) バイエルを使いピアノの練習(原書番号80) (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く。 今回習ったピアノの復習。
第10回	音楽理論(10) 幹音と派生音	(学修内容) バイエルを使いピアノの練習(原書番号80) (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第11回	音楽理論(11) 音程(完全音と長音程、短音程)	(学修内容) 音程の数え方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第12回	音楽理論(12) 音程(幹音、派生音)	(学修内容) 幹音どうしの音程の数え方、派生音を含んだ音程の数え方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 次回までにテキストの(問題)を解く
第13回	音楽理論(13) 音階(長音階)	(学修内容) バイエル(八長調の音階)を使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第14回	音楽理論(14) 音階(短音階)	(学修内容) バイエル(イ短調の音階)を使いピアノの練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 次回までにテキストの(問題)を解く 今回習ったピアノの復習
第15回	音楽理論(15) 和音	(学修内容) 『子どものうた』よりカデンツを練習する (事前事後学修課題の内容)(120分) 今回習った和音の復習

授 業 名	教育相談（幼児理解を含む。）			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2332
英 文 名	Educational Counseling (Understanding Infants)			開講 時期	秋学期	必修 選択		選択	
担 当 者	武田 康晴			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>保育現場における「相談」の必要性は高まっている。この授業では、保育現場における保育相談の意義と理論、保育相談の前提となる幼児の特性（幼児理解）、保育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングや相談支援に関する基礎的知識も含む）を理解した上で、保育相談の具体的な進め方、ポイント、組織的な取り組みや地域の専門機関との連携について理解を深める。現場実践においては、理論を知っているだけでなく、実際に相談に応じることが求められるため、ワークシートの記入、考えの表明、ディスカッション等によって「自分自身の対応」を常に意識しながら授業を進める。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 幼児の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や発達課題を適切にとらえることができるようになる。  2) 保育現場における保育相談の意義と役割について理解できる。  3) 幼児の不応答や葛藤の意味および幼児に見られるさまざまな問題行動の兆候に気づき把握する方法を理解している。  4) 保育相談に関わる基礎的な理論・概念（カウンセリングや相談支援に関する基礎知識を含む）を理解している。  5) 保育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや地域の専門機関との連携の必要性を理解する。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	必要に応じてプリントまたはデータで配布する。								
参 考 書	杉崎雅子『スギ先生と学ぶ 教育相談の基本』萌文書林,2018、その他にも必要に応じて紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	質問事項や全体に関連する事項は授業中に口頭で説明するほか、レポートについては必要に応じてコメントを記入して返却する。								
留意事項	事例検討については、自分の考えをワークシートやノートに記入し、プレゼンテーションとディスカッションを行うので、聴講だけでなく積極的に授業に参加すること。								
オフィス アワー	研究室前に掲示し、授業時にも口頭で伝える。								
実践的教育									

授業名	教育相談（幼児理解を含む。）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス、保育相談の意義と役割、保育相談の目的	（学修内容）保育相談の意義や目的を理解する。相談に応じる際の基本的知識を習得する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。
第2回	保育相談の基本的知識	（学修内容）保育所保育指針等を活用し、保育所保育の特徴、保育所における子育て支援、保育士の専門性について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 保育所保育指針を確認しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。
第3回	カウンセリングと相談支援の基本的知識 （1）カウンセリングと相談支援の基礎	（学修内容）全国保育士会倫理綱領の内容を確認しながら、保育士の視点について学ぶ。カウンセリングと相談支援の基礎について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 全国保育士会倫理綱領について事前学習しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。
第4回	カウンセリングと相談支援の基本的知識（事例の検討と発表を含む） （2）保護者との信頼関係の構築	（学修内容）保護者のまなざしを念頭に、子どもの成長を保護者と共有する視点、保護者との信頼関係の構築の方法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。
第5回	カウンセリングと相談支援の基本的知識（事例の検討と発表を含む） （3）傾聴・共感・受容	（学修内容）カウンセリングと相談支援の基礎として、傾聴、共感的理解、受容について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。
第6回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （1）基本的生活習慣に関すること	（学修内容）基本的生活習慣の意義を学び適切な指導方法や保護者への助言の仕方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。
第7回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （2）言葉の遅れが見られる場合	（学修内容）言葉の遅れの原因や発達支援を学び保護者への助言や適切な保育知識の提供を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。
第8回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （3）発達の偏りが見られる場合	（学修内容）発達障害や配慮が必要とされる子どもの保護者への支援を学び、必要に応じて専門家とのコンサルテーションや連携の方法について習得する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。
第9回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （4）問題行動（登園しぶり、過度の乱暴）が見られる場合	（学修内容）子どもの気になる行動の種類や背景を学び、保護者への解決への助言や支援を学ぶ。必要に応じて専門機関との連携について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。
第10回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （5）育児不安や育児ストレスの見られる保護者への支援	（学修内容）養育上の不安や自信喪失の保護者への対応、心身に不調のある保護者への理解と支援を学び子育て支援を理解を深める。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。
第11回	保育相談の目標の立て方、進め方（事例の検討と発表を含む） （6）虐待や不適切な養育の見られる保護者への支援	（学修内容）虐待や放任、不適切な養育の見られる保護者の状況を理解し、適切な子どもとの関わりについて支援し、助言する方法を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。
第12回	保育相談の評価、省察、PDCAサイクル（事例の検討と発表を含む）	（学修内容）保育相談におけるPDCAサイクルを理解し、計画的な保育相談が進められるように方法や技術を習得する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。
第13回	保護相談に必要な組織的な取り組みと園内の体制整備（事例の検討と発表を含む）	（学修内容）保育相談を効果的に進めるための園内の体制の整備を図り、役割分担やチームワークの在り方について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。
第14回	地域の関係機関、専門機関との連携や協働（事例の検討と発表を含む）	（学修内容）地域の関係機関、専門機関の役割や機能を学び、必要に応じて連携・協働が取れるように実践的に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 事前に配布する事例に目を通しておく。授業で扱った専門用語について自分の言葉で説明できるようになる。
第15回	全体の振り返り	（学修内容）これまでの授業内容を順に振り返り、質疑応答を通じて不明な部分を解消する。 （事前事後学修課題の内容）（90分） これまでのプリントやノートを確認し質問事項を考えてくる。全体を総括してレポートをまとめる。

授 業 名	保育内容・表現（造形）			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2325
英 文 名	Child Care: Formative Art			開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	柴田 精一			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	領域「表現」、とりわけ描いたり作ったりする活動における子どもの表現の姿やその発達に即して、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びを、具体的な場面を想定した上で、保育として構想する力を身につける。								
学修成果 到達目標	1) 領域「表現」のねらい及び内容とその位置づけを理解する。 2) 子どもが活動の中で身につけていく内容を理解して保育を構想できる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形材料」樋口一成編 萌文書林（1回生春学期購入のものを使います）								
参 考 書	参考プリントを配布								
課題に対する フィードバック の方法	作品、プレゼンテーションについて改善点など指導し、学生同士で評価し合う機会を持つ。								
留意事項	普段からさまざまな表現活動に対する関心を持つこと。造形表現にふさわしい服装に留意すること。他者に対する優しい態度や気持ちを忘れないこと。								
オフィス アワー	学生の時間割により判断し、研究室前に掲示する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：エンゼル学園幼稚園非常勤講師(2012～2017年、2022年～現在に至る) バドマ幼稚園研究員（2023年～現在に至る）								



授 業 名	保育内容・表現（造形）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）「表現」領域の概要を知る （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト208から211頁を読んで考えをまとめておく
第2回	季節と製作 - 大きなこいのぼりをつくる -	（学修内容）身近な素材や環境を活用した造形遊びを通して、5月の行事などの具体的な場面を想定した活動を学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 端午の節句について調べておく
第3回	活動の導入に役立つ教材	（学修内容）設定保育など、担当する保育の導入部分を想定して、子どもの意欲を高める教材を製作する （事前事後学修課題の内容）（30分） 活動の導入として使用できるものを調べてまとめておく
第4回	手先の発達と表現	（学修内容）紐通しを用いた活動を体験する / 生活の空間に飾るねらいを考える （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト90から91頁を読んで考えをまとめておく
第5回	見立てによる表現	（学修内容）手形を見立てて遊ぶ表現活動を体験する （事前事後学修課題の内容）（30分） 手の形を観察してアイデア、考えをまとめておく
第6回	紙コップを使った製作	（学修内容）紙コップなどを活用した製作を通して子どもの興味や発達に即した保育について考える （事前事後学修課題の内容）（30分） テキスト80から81頁を読んで考えをまとめておく
第7回	紙皿を使った製作	（学修内容）紙皿などを活用した製作を通して子どもの興味や発達に即した保育について考える （事前事後学修課題の内容）（30分） 紙皿を活用した製作のアイデアについて調べておく
第8回	コピー用紙で高さ比べ	（学修内容）紙を使った背の高い構造体をグループで製作する活動を通して、子どもにとっても身近な紙の性質を理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 身近にある丈夫な紙製品を調べておく
第9回	紙帯を用いて	（学修内容）帯状の色画用紙を使った製作を通して、子どもの遊びと創造性の広がりについて考える （事前事後学修課題の内容）（30分） 作品のアイデアをまとめておく
第10回	紙帯を用いて	（学修内容）帯状の色画用紙を使った製作を完了し、紙の性質と子どもの活動についてまとめる （事前事後学修課題の内容）（30分） これまで行った紙を用いた製作を振り返り、紙の性質について考えをまとめておく
第11回	季節と製作 - 夏を題材にして -	（学修内容）身近な素材や環境を活用した造形遊びを通して、夏の行事などの具体的な場面を想定した活動を学ぶ （事前事後学修課題の内容）（30分） 夏らしい製作のアイデアについて調べておく
第12回	共同製作（物語を題材にして）	（学修内容）生活発表会などの様々な表現活動が連動する状況を想定して、物語をテーマにした壁面製作をグループで計画する （事前事後学修課題の内容）（30分） 製作したい物語を候補から選択しておく
第13回	共同製作（物語を題材にして）	（学修内容）物語をテーマにした壁面製作をグループで取り組み、子どもが活動しやすい物的環境について考える （事前事後学修課題の内容）（30分） どのような道具・材料があれば主体的に製作できるのか、テキスト84から85頁を読んで考えをまとめておく
第14回	共同製作（物語を題材にして）	（学修内容）物語をテーマにした壁面製作をグループで完成させ、共同製作について考えをまとめる （事前事後学修課題の内容）（30分） 計画通りにならなかった部分について、代案を考え製作に備えておく
第15回	まとめ	（学修内容）表現活動の意味について振り返りまとめる （事前事後学修課題の内容）（30分） いままでの活動をふりかえり、教科書の該当ページを読んでおく

授 業 名	ピアノ実技			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2442
英 文 名	Piano			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	坂口 みゆき・阿久津 啓			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼稚園・保育所の就職試験に対応できるピアノ技術を身につける。ピアノ曲だけでなく、初見や弾き歌いなど、随時受験する園に応じた曲も練習する。								
学修成果 到達目標	『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』・『ソナタアルバム1』など、個々の進度に応じた曲を1曲でも多く弾くことができるようになる。 2) 音符だけでなく記号等も含め、楽譜を正確に読むことができる。 3) 感情を込めた演奏をすることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (演奏技術)	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 (表現力)		
テキスト	『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』・『ソナタアルバム1』等、受講生個々の進度に合わせて、随時指定する。								
参 考 書	使用しない								
課題に対する フィードバック の方法	毎回、練習してきた曲について個別指導を行う。								
留意事項	音楽療法士(2種)資格の取得を目指す学生は必ず履修すること								
オフィス アワー	坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)阿久津(担当授業終了後に実施) *阿久津のレッスンを受ける学生は、坂口のオフィスアワーも利用してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、ピアノ講師等の経歴を持つ教員が 担当								

授 業 名		ピアノ実技
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)レッスンの進め方と注意事項等の説明・レッスン進捗の確認・レッスン曲の決定 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自最後にレッスンを受けた曲を弾けるように練習しておく
第2回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容)教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上),弾けるようにしておく
第3回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容)教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上),弾けるようにしておく
第4回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容)教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上),弾けるようにしておく
第5回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容)教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上),弾けるようにしておく
第6回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容)教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上),弾けるようにしておく
第7回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容)教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上),弾けるようにしておく
第8回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容)教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上),弾けるようにしておく
第9回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容)教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上),弾けるようにしておく
第10回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容)教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上),弾けるようにしておく
第11回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容)教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上),弾けるようにしておく
第12回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容)教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上),弾けるようにしておく
第13回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容)教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上),弾けるようにしておく
第14回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容)教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上),弾けるようにしておく
第15回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容)教員より指定された試験曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自教員より指定された試験曲を練習し(1日20分~30分以上),完成させておく

授 業 名	現代の児童文化			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CS2424
英 文 名	Contemporary Children's Culture			開講 時期	春学期	必修 選択	必修 選択		
担 当 者	柿本 真代			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	児童文化財の役割や保育現場や家庭での活用を学ぶとともに、現代の児童文化についての調査および発表や児童文化財の制作および発表を通して具体的な指導場面を想定して保育を構想する技術・方法を身に付ける。								
学修成果 到達目標	1)現代の子どもたちを取り巻くメディア環境の特徴について説明できる。 2)様々な児童文化財の特徴とその活用方法について説明できる。 3)児童文化財を制作し、それを活用した指導計画を立案・実践することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	適宜配布資料を用意します。								
参 考 書	授業中に適宜紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	発表についてはその都度コメントをします。								
留意事項	製作・発表を行う。裁縫道具などは各自準備が必要である。授業時間内に製作が終わらない場合は各自持ち帰っておすすめしておくこと。								
オフィス アワー	初回の授業の際に説明します。								
実践的教育									

授 業 名		現代の児童文化
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容や目的、内容に関するアンケート (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) シラバスを読んでおく (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第2回	絵本の構造	(学修内容) 絵本の構造やことばと絵の関係について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 配布資料を予習してノートにまとめる (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第3回	図書館の活用	(学修内容) 様々な図書館の活用方法やデータベースの使い方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 自身のアクセスしやすい図書館について調べておく (事後) 近隣の図書館に訪れ資料を探す
第4回	現代のメディア環境と子ども	(学修内容) グループディスカッションを通して子どもとメディアの関係について考えをまとめる (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) データベース等の使い方を確認しておく (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第5回	現代のメディア環境と子ども	(学修内容) 子どもとメディアの関係についてグループごとに発表をする (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) グループに分かれて発表の準備をする (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第6回	児童文化財と情報機器の活用	(学修内容) 保育現場での児童文化財と情報機器の活用について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 配布資料の該当箇所を予習しておく (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第7回	手づくり絵本	(学修内容) 手づくり絵本の制作方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 配布資料の該当箇所を予習しておく (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第8回	紙芝居	(学修内容) 紙芝居の実演と制作について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 配布資料の該当箇所を予習しておく (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第9回	シアタースタイルの児童文化財	(学修内容) シアタースタイルの児童文化財の実演と制作について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 配布資料の該当箇所を予習しておく (事後) 配布資料を読み直しノートにまとめる
第10回	文化財の制作	(学修内容) 選択した文化財の制作を行う (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 選択した文化財の制作方法を復習する (事後) 制作をすすめる
第11回	文化財の制作	(学修内容) 選択した文化財の制作を行う (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 選択した文化財の制作方法を復習する (事後) 制作をすすめる
第12回	文化財の制作	(学修内容) 選択した文化財の制作を行う (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 選択した文化財の制作方法を復習する (事後) 制作をすすめる
第13回	文化財の発表	(学修内容) 制作した文化財を用いた指導計画を立案・発表する (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導計画を立案する (事後) コメントシートをもとに今後の課題をまとめる
第14回	文化財の発表	(学修内容) 制作した文化財を用いた指導計画を立案・発表する (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 指導計画を立案する (事後) コメントシートをもとに今後の課題をまとめる
第15回	まとめ	(学修内容) 文化財の制作・模擬保育についての講評を行う (事前事後学修課題の内容)(120分) (事前) 配布資料の内容を復習しておく (事後) これまでの学びをもとにミニレポートにまとめる

授 業 名	子どもの保健			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1203
英 文 名	Infant Health			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	福井 百合子			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>保育を行う上で子どもの命を守り、安心・安全で健やかな発育を支援することは必須事項であり、本授業では、これに必要な基礎的な知識を学ぶ。          子どもの健康と保健活動の意義を知り、心身の発育・発達のプロセスや特徴、子どもに多い病気について学び、子どもの健康管理に必要な基礎知識を身につける。          理解を深めるために適宜、動画視聴、ワーク、ディスカッションやグループワークを実施する。</p>								
学修成果 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもにとっての健康と、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を知り、子どもの保健活動の意義を説明できる。</li> <li>2. 子どもの成長・発達(形態、運動機能、精神機能、生理機能の発達)の過程を学び、年齢に応じた成長・発達をイメージし説明できる。</li> <li>3. 子どもの健康管理について学び、健康状態の把握の方法が理解できる。</li> <li>4. 子育てに必要な養護について、子どもの特徴をふまえて考えることができる。</li> <li>5. 子どもの病気や障害についての基礎知識を学び、特徴的な症状などが言える。</li> <li>6. 子どもを守り育てるための安全管理、保健活動に必要な保護者支援や関係機関との連携について学び、考えることができる。</li> </ol>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 (課題提出)			プレゼンテーション能力 課題発見・解決能力 (学習ノート)				
テキスト	松本峰雄 監修「よくわかる保育士エクササイズ7 子どもの保健と安全 演習ブック」ミネルヴァ書房								
参 考 書	井狩芳子『演習 保育内容 健康 大人から子どもへつなぐ健康の視点』萌文書林 大西文子『子どもの保健 演習 改訂第2版』中山書店 及川郁子・草川功『子どもの保健』建帛社 その他は適宜提示。								
課題に対する フィードバック の方法	課題やミニテストは解答後に答えと解説を表示する。								
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書とノートを持参して受講してください。(適時確認すること有)</li> <li>・授業で使用する大学の備品は大切に丁寧に取り扱い扱うこと。</li> <li>・授業内容や試験方法は状況により調整変更することがある。</li> <li>・まずは子どもや自分自身の健康に関心を持つこと。</li> <li>・出欠回数や課題提出の未済は自己管理すること。</li> </ul>								
オフィス アワー	授業ガイダンス時に知らせる。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：看護師、助産師、大学教員としての実務経験から、乳幼児の様子や、病気・ケガの対応がイメージしやすいよう工夫しながら授業を進めていく。								

授業名	子どもの保健	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 生命の誕生と保持 養護、保健活動の意義と重要性	(学修内容) 授業の案内。生命の誕生と保持(マズローの欲求の段階と養護、愛着形成)、保健活動の意義について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章1コマ(P8~15、P17の3、P28~30)を読む。事後はミニテストで復習する。
第2回	子どもの健康 子どもの健康水準と現代社会の健康に関する現状と課題	(学修内容) 健康の概念と子どもにとっての健康、健康指標・保健学統計からみた健康水準と現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に教科書第1章1コマ(P8~15)を読む。事後はミニテストで復習する。
第3回	乳幼児の養護と愛着形成、感覚刺激の重要性	(学修内容) 子どもへのかかわり方(触れ合い・声掛け・抱っこ)から安心感や心地よさ五感刺激を与える重要性を学び、沐浴を通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第2章25コマ(P192~199)、第1章5コマ(P41~42)、事前資料に目を通す。事後はミニテスト・課題で復習する。
第4回	子どもの発育 成長・発達、発育について 発育の原則 身体的発育(体重、身長、骨、歯)	(学修内容) 成長・発達、発育、発育の原則、身体的発育(体重、身長、骨、歯)について実践ガイド、マニュアルなどを合わせて見ながら学び理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書(P16~27、P36、P188)や乳幼児健康診査事業実践ガイド、乳幼児健康診査身体診察マニュアル、乳幼児身体発育評価マニュアルを読む。
第5回	子どもの発育 生理機能の発達(恒常性 体温、水分出納 排泄、体内時計と睡眠、免疫機能)	(学修内容) 子どもの生理機能(恒常性 体温、水分出納 排泄機能、体内時計と睡眠、免疫機能)と脳・神経の発達過程と特徴を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章4コマ(P32~34、P54の1、P56~57、P189~191、195)を読む。事後はミニテスト・課題で復習する。
第6回	子どもの発育 運動機能と姿勢 感覚機能(視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚)の発達	(学修内容) 子どもの運動機能(粗大運動と微細運動)の発達と姿勢、感覚機能の発達について幼児視野体験メガネ等での疑似体験や動画を交えながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章4~5コマ(P36~38)を読む。事後は授業資料、ミニテストで復習する。
第7回	子どもの発育 脳・神経の発達 情緒、認知機能、言語の発達、社会性の発達	(学修内容) 子どもの脳・神経の発達、情緒、認知機能、言語(聴覚の発達との関係)、社会性の発達について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第1章4~5コマ(P34~42)を読む。事後はミニテスト・課題で復習する。
第8回	健康状態の把握、 異常の早期発見の重要性	(学修内容) 日々の観察(情報収集と観察・判断)と乳幼児の健康診断の内容と発育の把握、保護者へのかかわり等、動画や母子手帳、GWを交えて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章2コマ(P16~27)、7~8コマ(P52~61)、第2章30コマ(P240)を読む。事後はミニテスト・課題で復習する。
第9回	子どもの病気 子どもの病気の特徴 慢性疾患(心疾患、腎疾患、呼吸器疾患、内分泌疾患)	(学修内容) 子どもの病気の特徴、心疾患、腎疾患、呼吸器疾患、内分泌疾患(糖尿病)、発達障害、感覚器の障害と特徴、生活管理指導表について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章6コマ((P44~51)、12コマ((P88~97)、第2章26~27コマ(P200~211)を読む。事後はミニテストで復習する。
第10回	子どもの病気 感染の理解と子どもに多い感染症(1)	(学修内容) 保育所における感染症対策ガイドラインを参考に、感染の基礎知識を学び、子どもに多い感染症とその特徴について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章11~13コマ(P78~105)を読む。事後はミニテスト・課題で復習する。
第11回	子どもの病気 感染の理解と子どもに多い感染症(2)	(学修内容) 子どもに多い感染症とその特徴、合併症について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章11~13コマ(P78~105)を読む。事後はミニテスト・課題で復習する。
第12回	子どもの病気 てんかん アレルギー性疾患(喘息、アトピー性皮膚炎)とアナフィラキシー 発達障害、感覚器の障害	(学修内容) てんかん、アレルギー性疾患(喘息、アトピー性皮膚炎)とアナフィラキシー、発達障害、感覚器の障害について画像や動画を交えながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章6コマ(P45~51)、第2章26コマ(P201~202)、28コマ(P206~225)を読む。事後はミニテストで復習する。
第13回	子どもの事故とケガ 事故の起りやすい子どもの特徴	(学修内容) 子どもの特徴から子どもの事故の傾向、乳幼児突然死症候群について、資料や動画等、GWを交えて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章16コマ(P124~131)を読む。事後はミニテスト・課題で復習する。
第14回	保育施設での保健活動と、多職種連携	(学修内容) 保育施設での保健活動と、計画・評価、組織活動と職員間の連携、他職種・多職種連携について学ぶ。児童虐待防止、関係法規について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書第1章14コマ(P106~116)、第2章29~30コマ(P206~244)を読む。事後はミニテストで復習する。
第15回	母子保健と母子保健施策 定期試験ガイダンス	(学修内容) 母子を取り巻く環境と保健活動の役割や母子保健対策について学ぶ。定期試験の案内。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 第2章29コマ(P228~235)。授業全体の振り返りをしておく。

授 業 名	社会福祉		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1213
英 文 名	Social Welfare		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	野田 隆生		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>わたしたちが住んでいる地域では、乳幼児・子ども・青年・高齢者・障害者等さまざまな人が生活しています。すべての人が「幸せだ」と実感できる社会であれば何も言うことはないのですが、ある日突然、当たり前前の生活を送ることができない現実と直面することがあります。そうなったら、どうすればいいのでしょうか？ 本講では、わたしたちの生活をおびやかすような「あっ、どうしよう!？」に対して、どのような支援体制が準備されているのかを理解し、そこから保育士を目指す専門職として必要な知識や価値観を見出ししていくことを目的としています。</p>							
学修成果 到達目標	<p>1) 保育士が社会福祉専門職であることを理解できる。 2) 社会福祉の法的基盤や行政の仕組みについて説明することができる。 3) 社会問題を理解し、それに対して必要な社会資源を結びつけることができる。 4) 保育士としての資格を生かすことのできる社会福祉事業を知ることができる。 5) 生存権(生きる権利)について説明することができる。</p>							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 (80%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (	
テキスト	橋本好市・宮田徹 編集『学ぶ・わかる・みえる 保育と社会福祉【第3版】』みらい 2019年4月1日 第3版第1刷発行							
参 考 書	<p>流石智子著『日本の母子福祉 これからの母子家庭の幸せを考えるための本』あいり出版2016年、系井佐知子著『えっ7人の子ども?』女子パウロ会2008年、曾和信一著『障がい者・児共生とは何か 「自立と共生」の福祉・教育・保育』ミネルヴァ書房2007年、宮野誠保著『昔話にみる福祉 ひとつの試み』朝日新聞出版サービス2001年、小倉襄二・浅野仁編『新版老後保障を学ぶ人のために』世界思想社2006年</p>							
課題に対する フィードバック の方法	<p>○出席カードの裏面に授業内容に関する 意見 質問 印象に残ったこと 感想 を書くことになるので、それらを翌回授業時に紹介します。 ○視聴覚教材(ビデオ、DVD等)を使用した場合のリアクションペーパーの内容を踏まえ、次の授業冒頭にてコメントを行います。</p>							
留 意 事 項	<p>1) テキスト履修となるので、毎回の講義時には必ずテキストを持参するように。 2) ノートについては取り外しができるようにルーズリーフが望ましい。 3) 視聴覚教材(ビデオ、DVD等)を使用する場合には、必ず小レポートを課すことになるので指定された様式にて期限までに提出すること。 4) 定期試験(筆記試験)については、予め出題の内容や持込みできる物について説明する。</p>							
オフィス アワー	<p>講義初回時に連絡をします。 基本的に研究室(1R-404)に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内G-mailを利用して下さい。</p>							
実践的教育								



授 業 名	社会福祉	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～なぜ「社会福祉」を学ぶのか?～	(学修内容) 1) 講義の進め方と成績評価の方法について 2) 「社会福祉」を学ぶ意味 (事前事後学修課題の内容) (15分) テキストを必ず購入すること。 ノートはルーズリーフが望ましい。
第2回	保育と社会福祉	(学修内容) 1) 少子・高齢社会について 2) 生活課題と社会福祉 3) 社会福祉の概念 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第1章ならびに第2章 (pp.15-39) を読んでおくこと。
第3回	社会福祉のあゆみ	(学修内容) 1) 欧米の社会福祉 2) 日本の社会福祉 3) 戦後の社会福祉 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第3章 (pp.41-54) を読んでおくこと。
第4回	生活を守る社会保障制度	(学修内容) 1) 社会保障とは 2) 個人の尊厳と生存権 3) 年金と医療と福祉 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第4章 (pp.55-70) ならびに第15章 (pp.205-220) を読んでおくこと。
第5回	社会福祉の法制度と行財政	(学修内容) 1) 福祉三法から福祉六法へ 2) 福祉行政の実施機関 3) 福祉計画と財源 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第5章ならびに第6章 (pp.71-95) を読んでおくこと。
第6回	子どもと児童家庭福祉 ～子どもを取り巻く環境と諸問題～	(学修内容) 1) 子どもの権利保障 2) 子ども・子育てに関する制度の変遷 3) 子どもを取り巻く環境と諸問題 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第8章 (pp.105-119) を読んでおくこと。
第7回	子どもと児童家庭福祉 ～子ども虐待の現状と課題～	(学修内容) 1) 子ども虐待の現状 2) 対応する行政機関 3) 社会的養護と家庭的養護 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習し、テキスト第6章ならびに第8章を再度読んでおくこと。
第8回	障害と社会福祉 ～障害者・児福祉の変遷過程～	(学修内容) 1) 日本人の障害観 2) 障害者の権利とノーマライゼーション 3) 障害に関する制度の変遷過程 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第9章 (pp.121-132) を読んでおくこと。
第9回	障害と社会福祉 ～障害のある子どもへの援助～	(学修内容) 1) 障害児の現状 2) 専門施設での援助 3) 関連する課題 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習し、テキスト第8章ならびに第9章をを読んでおくこと。
第10回	高齢者と社会福祉 ～高齢社会が抱える課題～	(学修内容) 1) 高齢者保健福祉の変遷過程とその課題 2) 介護保険制度の誕生 3) 地域包括ケアシステムの構築 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第10章 (pp.133-144) を読んでおくこと。
第11回	高齢者と社会福祉 ～認知症の特性とその介護～	(学修内容) 1) 高齢者の疾病と障害 2) 認知症の特性と理解 3) 介護の現場では (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習し、テキスト第6章ならびに第7章 (pp.97-103)、 第10章を読んでおくこと。
第12回	社会福祉の専門職と倫理	(学修内容) 1) 社会福祉の専門職 2) 社会福祉に関連する専門職 3) 社会福祉専門職の倫理 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第12章 (pp.157-174) を読んでおくこと。
第13回	地域で生きるということ ～介護と保育の連携～	(学修内容) 1) タテ割り行政からの脱却 2) 介護と保育の融合 3) 地域共生社会の実現に向けて (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト第11章 (pp.145-156) を読んでおくこと。
第14回	地域で生きるということ ～小規模施設と地域社会～	(学修内容) 1) 地域密着型施設の誕生 2) 世代間交流 3) ある施設の挑戦 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の内容を復習し、テキスト第11章を再度読んでおくこと。
第15回	まとめにかえて ～「生きる権利」と「社会福祉」～	(学修内容) 1) 全体のふりかえり 2) なぜ「社会福祉」を学ぶのか 3) 保育士と介護福祉士のこれから (事前事後学修課題の内容) (60分) ノートの整理とテキスト第16章 (pp.221-226) を読んでおくこと。

授 業 名	特別支援教育			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1301
英 文 名	Special Needs Education			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	林 静香			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>・特別支援の必要な子どもの基礎理解・援助・指導方法を学ぶとともに、教育・療育現場での事例をもとに、支援方法および配慮すべき留意点などを学ぶ。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1)インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の特性および仕組みを理解することができる  2)発達障害（疑いを含む）や、知的障害をはじめとする様々な障害や発達の遅れなど、支援を必要とする子どもの特性および心身の発達を理解することができる  3)現状と課題に理解を深め、支援の必要な子どもたちをとりまく環境（家族。きょうだい）への支援や関係機関との深まりについて学び、理解することができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	前田泰弘編著『実践に生かす 障害児保育・特別支援教育』萌文書林 2019年								
参 考 書	玉村久二彦『新版 キーワードブック 特別支援教育 インクルーシブ教育時代の基礎知識』（2019）クリエイツかもがわ								
課題に対する フィードバック の方法	提出した課題を添削して返却する。 なお、全体的に気になった部分や再度確認が必要な部分については講義内で解説する。								
留意事項	授業内で出される課題は、必ず期日までに提出すること（期日後の提出は減点、未提出は欠席）。								
オフィス アワー	木曜日 講義終了後 金曜日 講義終了後 に受け付けます								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：障害児通園施設にて勤務（保育士）								

授 業 名	特別支援教育	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	特別支援教育についての理念、教育的ニーズ	(学修内容) 保育現場で求められている特別支援の理念について学ぶ グループワークを通じて合理的配慮への理解を深める (事前事後学修課題の内容)(20分) 障害のイメージについて発表してもらうので、自身の考える障害者像をまとめておく
第2回	発達の法則(発達段階) 障害の早期発見	(学修内容) 発達の法則(発達段階)について理解する 障害の早期発見のために実施されている乳幼児健診について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部を読んでおく
第3回	支援の必要な子どもへの保育・教育形態 (手帳のしくみ・個別支援計画)	(学修内容) 支援の必要な子どもたちの支援方法(保育・教育形態、個別支援計画) があるかを理解する。手帳(身体・療育・精神)の仕組みについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部を読んでおく
第4回	知的障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 知的障害児の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを 考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第3章を読んでおく
第5回	多様な支援を必要とする子どもたちへの理解、援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 気になる子、情緒障害、発達障害の違いを理解するとともに どのような特性を持っているのかを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第5章を読んでおく
第6回	発達障害について	(学修内容) 発達障害の分類、特徴、支援体制などを理解する (発達障害者支援法) (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第5章を読んでおく
第7回	自閉症スペクトラム障害(ASD)への理解と援助、 配慮すべき留意点	(学修内容) 自閉症スペクトラム障害の特性を理解するとともに、どのような援助が のぞましいかを考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第6章を読んでおく
第8回	限局性学習症(SLD)児、注意欠如・多動症 (ADHD)児への理解と援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 限局性学習症(SLD)児、注意欠如・多動症(ADHD)の特性を理解する とともに、どのような援助がのぞましいかを考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前)テキスト第 部第6章を読んでおく 事後)今までの講義内容を復習しておく
第9回	情緒に課題のある子どもに関する理解と援助、配慮 すべき留意点	(学修内容) 情緒障がいのある子どもに関する理解し、どのような援助がのぞましいかを考 え、学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前)指定された内容にしたがって予習しておく 事後)指定された課題にしたがってふりかえる
第10回	視覚障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 視覚障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを考 え、学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第4章-2.3.4を読んでおく
第11回	聴覚障害児・言語障害児への理解と援助、配慮す べき留意点	(学修内容) 聴覚障害・言語障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞ ましいかを考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第4章-1を読んでおく
第12回	身体に障害のある子ども(肢体不自由児・脳性ま ひ・医療ケア児)への理解と援助、配慮すべき留 意点	(学修内容) 身体に障害をもつ子どもたちの分類および各々の特性を理解し、どのよ うな援助、配慮、外部機関との連携について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第4章-1を読んでおく
第13回	特別に支援の必要な子どもたちをとりまく環境の 理解(家庭との協力、関係機関との連携)	(学修内容) 特別な支援の必要な子どもたちをとりまく環境について理解を深め、個 別の指導計画について学ぶ(外国籍家庭・貧困家庭など) (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第 部第8章を読んでおく
第14回	ユニバーサルデザインについて	(学修内容) ユニバーサルデザインについて、グループワークを通じて支援の必要な 子どもたちを取り巻く問題について理解する (事前事後学修課題の内容)(20分) 身近にあるユニバーサルデザインや障害者マークなどについてICTを活 用し、資料を作成したものを発表しあう
第15回	まとめ(テスト)	(学修内容) 今までの講義内容での要点のまとめと特別支援教育の現状と課題につい て理解を深める (事前事後学修課題の内容)(20分) 今までの受講内容を復習しておく

授 業 名	乳児保育		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1312
英 文 名	Infant Care		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	安藤 正彦		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>保育所における乳児（0～2歳児）の保育に関する基礎的な理念や知識を理解、習得し、実際の保育場面での活用（実践）、探究（応用）できる力を身につける。</p> <p>1）保育所で乳児（0～2歳児）が気持ちよく生活するということはどういうことが、理論と実際（写真や動画）を照らし合わせながらイメージして、保育施設、保育士のあり方を学ぶ。</p> <p>2）保育所での乳児のあそびの重要性を理解し、受講生同士で主体的に意見交流しながら、あそび（手あそび・歌あそびなど）づくりにつなげていく（プレゼンテーション）。</p>							
学修成果 到達目標	<p>1）乳児期（0～2歳児）の理論、知識、技術を理解できる。</p> <p>2）各年齢（0～2歳児）の保育での生活とあそびについて理解できる。</p> <p>3）実際の保育場面で実践できる、乳児とのかかわりに適応したあそびを習得できる。</p>							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 （60%）	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 （40%）	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 （	プレゼンテーション能力 ）（		課題発見・解決能力 ）（	
テキスト	乳児保育研究会編『改定5版 資料でわかる乳児の保育新時代』							
参 考 書	授業中に紹介する。							
課題に対する フィードバック の方法	受講生は「ふり返し用紙」を提出する。担当者が点検し、各自の「学びの履歴」を確認する。担当者は適宜、助言等をする。							
留意事項	シラバスの順番については、受講者への十分な説明の上、受講者の興味関心、理解等により柔軟に対応することがある。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：西七条保育園 保育士として勤務 非常勤講師（京都文教短期大学、キリスト教社会福祉専門学校） 指導者対象の実技講習など</p>							

授 業 名		乳児保育
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 乳児保育の基本 [生活とあそび]	(学修内容) 15回の学修内容を理解する。乳児の生活とあそびの大切さを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第1章の1を読んでくる。
第2回	乳児保育の基本 [乳児の発達の特徴]	(学修内容) 乳児の発達の特徴と大切にしたいことを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第1章の2, 3を読んでくる。(資料4、5、6、7は必ず目を通して おく。)
第3回	乳児保育の内容と方法(1) [目標とねらい、保育園での生活]	(学修内容) 乳児保育の目標とねらい及び保育園における生活環境を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第2章の1、2を読んでくる。
第4回	乳児保育の内容と方法(1) [情緒の安定と環境整備] レポート	(学修内容) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮を理解する。 課題レポートを提出する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第2章の3を読んでくる。
第5回	乳児保育の内容と方法(2) [大人とあそび]	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践(動画)を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章1の を読んでくる。 対大人と遊ぶあそびをいくつか調べておく。
第6回	乳児保育の内容と方法(2) [友だちとあそび]	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践(動画)を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章1の を読んでくる。 友だち同士で遊ぶあそびをいくつか調べておく。
第7回	乳児保育の内容と方法(2) [物とあそび]	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章1の を読んでくる。物を使ったあそびをいくつか調べておく。
第8回	乳児保育の内容と方法(2) [おもちゃ作り]	(学修内容) 乳児のあそびに使用するおもちゃを実際に作る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 乳児の年齢に適したおもちゃをいくつか調べておく。
第9回	乳児保育の内容と方法(2) [全身を使ってあそび]	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践(動画)を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章1の を読んでくる。 身体を使って遊ぶあそびをいくつか調べておく。
第10回	乳児保育の内容と方法(2) [あそびの文化]	(学修内容) あそびにおける保育士の役割とあそび文化(絵本・紙芝居など)を理解 する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第3章の3、4を読んでくる。(資料5は必ず目を通しておく)
第11回	乳児のあそびの実際 [あそびの実践]	(学修内容) 実践的なあそびを学び、乳児の気持ちを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ふれあいあそびや手あそびの大切さを調べておく。
第12回	乳児のあそびの実際 [グループ相談活動] レポート	(学修内容) 年令の発達を踏まえた上で、あそび(ふれあい、歌、手あそびなど)を グループで考える。課題レポートを提出する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のあそびを復習し、自分であそびを考え、グループに反映させる。
第13回	プレゼンテーション [グループ発表]	(学修内容) 各グループで考えたあそびを発表し、意見を交換し合う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもにも(理解)大人にも(説明)伝わるように所定用紙に記入し、 提出できるようにしておく。
第14回	乳児保育における計画の実際	(学修内容) 乳児保育における指導計画、記録と評価について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第4章を読んでくる。(資料1は必ず目を通しておく)
第15回	乳児保育のまとめ [子どもと保育士の関係]	(学修内容) 子どもと保育士、親と保育士、職員集団の中での保育士の関係とあり方 を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第6章を読んでくる。(資料1, 2は必ず目を通しておく)

授 業 名	ピアノ実技			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2422
英 文 名	Piano			開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	坂口 みゆき・北村 陽子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	ブルグミュラーからソナチネ初級レベルの学生を対象に、1回生で修得した読譜力・ピアノ演奏能力を更に向上させる。幼稚園・保育所の就職試験及び卒業後の現場で役立つピアノの演奏力を身につける。								
学修成果 到達目標	1) 『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』等の中の指定する曲を1曲でも多く弾くことができるようになる。 2) 楽譜を正確に読むことができる。 3) 楽譜通りに強弱をつけて弾くことができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (演奏技術)	プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 (表現力)		
テキスト	『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』等、受講生個々の進度に合わせて随時指定する。								
参 考 書	使用しない								
課題に対する フィードバック の方法	毎回、練習してきた曲ついて、個別指導を行う。								
留意事項	1) 履修条件： 学外でレッスンを受けていない 幼稚園・保育所に就職希望している 音楽表現 を修了している 2) 音楽療法士(2種)資格の取得を希望する学生は資格必修のため、上記の の条件に関わらず必ず履修する。 3) 本科目では「子どものうた」の弾き歌いのレッスンは基本的にしない。								
オフィス アワー	坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)北村(担当授業終了後に実施) *北村のレッスンを受ける学生は、坂口のオフィスアワーも利用してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、ピアノ講師等の経歴を持つ教員が 担当								

授 業 名	ピアノ実技	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) レッソンの進め方と注意事項等の説明・レッスン曲の決定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 基本的な音楽理論について復習をしておく(口頭で理解度を確認する)
第2回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第3回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第4回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第5回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第6回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第7回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第8回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第9回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第10回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第11回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第12回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第13回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第14回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第15回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定された試験曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) (140分) 各自教員より指定された試験曲を練習し(1日20分~30分以上), 完成させておく

授 業 名	保育教材の研究			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2423
英 文 名	Study of Child Care Teaching Materials			開講 時期	春学期	必修 選択	必修 選択		
担 当 者	鈴木 えり子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼児教育における保育活動において教材は幼児の興味や関心を引き出す有効な手段であることを理解する。保育現場において必要な保育教材について理解を深め、その方法及び教育目的に適した技術に関する基礎的な考え方について学ぶ。教材の重要性、実際の活用方法を念頭においた保育教材の製作や実演を通して理解を深める。								
学修成果 到達目標	教材の製作や実践を通してその方法や技術に関する基礎知識を身につけることができる。 教材研究を通して様々な素材・用具の特性を理解する。 子どもの発達や興味に応じた活用方法を多角的に考えることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( パネルシアターの製作・上演 )	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	必要に応じて資料等を配布します。								
参 考 書	必要に応じて紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	授業内で適宜コメントを返します。								
留意事項	授業で使用する教材は事前に連絡しますので忘れずに準備して授業に臨んでください。意欲的に取り組むことを期待します。								
オフィス アワー	授業内で伝えます。								
実践的教育									



授業名	保育教材の研究	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 幼児教育の方法・技術の意義と重要性	(学修内容) 教育方法の基礎的理論と教材研究の必要性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教材、教具、用具など子ども(乳児・幼児の年齢対象)に適した材料について考えておく。
第2回	身近な保育教材とは	(学修内容) 身近な保育教材を使っておもちゃ制作の計画をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもにとって身近な保育教材だと思うものを考えて持ってくる。
第3回	身近な保育教材を使ったおもちゃ製作 ー紙コップ人形ー	(学修内容) 身近な保育教材を使って手作りおもちゃを制作する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) おもちゃ制作に必要な材料を考えて準備する。授業での実践を振り返りをレポートにまとめて提出する。
第4回	身近な保育教材を使った活動 ー紙ひこうきー	(学修内容) 身近な保育教材を使って紙飛行機を作る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 紙飛行機に適した教材を考えて用意してくる。紙飛行機の折り方を調べてくる。
第5回	保育教材の研究 ー染め紙ー	(学修内容) 保育教材の研究と実践を話し合いながら行う。 実践例/染め紙 (事前事後学修課題の内容) (30分) 染め紙に適した保育教材を考えて用意してくる。
第6回	保育教材の研究 ーランタンー	(学修内容) 保育教材の研究・実践を行う。 実践例/ランタン (事前事後学修課題の内容) (30分) 染め紙を使ったランタンを制作し振り返りをレポートにまとめて提出する。
第7回	パネルシアター(1) 作り方・演じ方の説明	(学修内容) パネルシアターの作り方、活用法を説明する。 パネルシアターの製作に関する準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育教材の「パネルシアター」について情報機器を使って調べておく。
第8回	パネルシアター(2) 構想	(学修内容) パネルシアターの準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) パネルシアターで制作したい題目を選んでくる。
第9回	パネルシアター(3) 下書き	(学修内容) パネルシアターの下書きをする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 下書きなど授業時間内でできなかった箇所を事後学修で行う。
第10回	パネルシアター(4) 着色	(学修内容) パネルシアターの着色を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 色塗りを完成させる。
第11回	パネルシアター(5) 切り取り・ふちどり	(学修内容) パネルシアターの切り取り、ふちどりをする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内でできなかった部分を完了してくる。
第12回	パネルシアター(6) しかけづくり	(学修内容) パネルシアターの発表準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) パネルシアターの演じ方、セリフなど発表の練習をしておく。
第13回	パネルシアター(7) 仕上げ・発表準備	(学修内容) パネルシアターを仕上げ、発表の準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) パネルボードへの貼り方や演じ手の立ち位置、演じ方、動かし方を確認しておく。
第14回	パネルシアター(8) 実践発表・評価	(学修内容) パネルシアターの発表を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の発表について改善点を考えてレポートにまとめてくる。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業を振り返り、保育方法や技術等、保育教材の研究の意義や役割についてディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 育みたい資質能力に照らし合わせて授業の実践例(教材)を考えてまとめる。

授 業 名	子ども家庭福祉		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1204
英 文 名	Child Welfare		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	山川 宏和		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	現代の子どもを取り巻く問題には、少子化・待機児童・児童虐待など様々なものがある。それらは、多様な家族形態、税や社会保険、ヤングケアラーなど、現代の家庭状況と密接に関連している。そこで、本講義では、わが国と欧米諸国の児童福祉の歴史、子どもの権利、児童福祉法制、家族政策、実践の特徴について内容を解説し、理解することを目的としている。資料や視聴覚資料を使って、見てわかる授業とする。							
学修成果 到達目標	1) 社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2) 保育士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3) 児童福祉の制度が、日本と諸外国ではどのように相違があるか理解できる。 4) 児童福祉の法制度の対象とサービス内容が理解できる。							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解		汎用的技能				
		態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )	グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )	プレゼンテーション			
評価方法	定期試験 ( 70% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (			
テキスト	芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治・山川宏和 『子ども家庭福祉入門』 ミネルヴァ書房 2020年							
参 考 書								
課題に対する フィードバック の方法	各回の振り返りをGoogleクラスルームを使って行う。問題の採点や誤答の訂正によって知識の定着を図る。							
留意事項	授業時間以外での日常生活においても、子どもや子育て家庭に関する時事情報に関心をもって触れることが望ましい。							
オフィス アワー	曜日・時間は研究室入口に掲示。 メールによる問い合わせは常時受け付け。							
実践的教育								

授 業 名	子ども家庭福祉	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	少子高齢化社会について	(学修内容)人口減少社会、丙午、少子化対策  (事前事後学修課題の内容)(30分) 少子化の原因について考えておく ひのえうまや少子化など、学んだ内容をまとめる
第2回	児童問題 児童虐待について	(学修内容)児童虐待の実態について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 虐待の定義4種類を調べる 虐待とネグレクトの違いを振り返る
第3回	児童問題 子どもの権利と児童福祉史	(学修内容)コルチャック、バナード、石井十次などの功績について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第4章を読んでおく 批准や署名など、学んだ内容をまとめる
第4回	児童相談所とは	(学修内容)こども家庭福祉の最前線である児童相談所について学ぶ  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第7章を読んでおく 政令指定都市について振り返る
第5回	児童福祉法の改正 1997年～	(学修内容)児童福祉六法、児童福祉法改正と待機児童について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第5章を読んでおく 待機児童のニュースを検索する
第6回	児童福祉法の改正 2001年～	(学修内容)認可外保育所、28条ケース、障がい児について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第5章を読んでおく 保育士資格の創設の背景を振り返る
第7回	児童福祉法の改正 2016年～	(学修内容)子どもの権利条約、虐待対応について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第5章を読んでおく 社会的養育ビジョンを調べる
第8回	児童虐待防止法 第1条～	(学修内容)児童虐待防止法による通告対応について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第10章を読んでおく 授業で紹介した事例を振り返る
第9回	児童虐待防止法 第8条～	(学修内容)家庭訪問、出頭要求、立入調査、臨検・捜索について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第10章を読んでおく DVDの内容をまとめる
第10回	児童福祉の専門職	(学修内容)児童指導員、保育士、里親について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第2章を読んでおく 専門職一覧を見直す
第11回	少子化対策 スウェーデン	(学修内容)スウェーデンの少子化対策、親保険について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第6章を読んでおく 女性の権利について調べる
第12回	少子化対策 日本	(学修内容)日本の少子化対策、エンゼルプラン～  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第6章を読んでおく 各種プランを見直す
第13回	母子保健とひとり親家庭支援	(学修内容)乳児死亡率、保健センター、就業支援などについて  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第9章を読んでおく 妊産婦死亡率について調べる
第14回	障がい児の福祉サービス	(学修内容)障がい児の定義、療育手帳について  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第10章を読んでおく 自治体ごとの療育手帳を調べる
第15回	障がい児の福祉サービス	(学修内容)児童発達支援、放課後等デイサービスについて  (事前事後学修課題の内容)(60分) 第10章を読んでおく 発達障害について調べる

授 業 名	教育の方法と技術			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2321
英 文 名	Educational Methods and Technique			開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	堀出 雅人			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>教育の方法及び技術では、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、幼児教育の方法、幼児教育の技術、情報機器の活用、遊びを通じた総合的な学びを生み出す環境構成づくりにつながる基礎的な知識・技能を身に付けることをめざします。</p>								
学修成果 到達目標	<p>「教育の方法と技術」は以下の3つの到達目標を掲げます。  (1) 幼稚園教育要領に基づき幼稚園教育を通して育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。  (2) 幼稚園教育の目的に適した保育の基礎的な技術を身に付け、目的と目標に応じた保育を展開できるように指導案を作成することができる。  (3) 子どもたちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 (双方向型授業)		グループワーク I C T 活用 (自主学习支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	文部科学省 『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレール館、2018								
参 考 書	無藤隆・大豆生田啓友 編著 『3・4・5歳児子どもの姿ベースの指導計画』フレール館、2019								
課題に対する フィードバック の方法	平常試験として実施するレポート課題や制作物については、全体に向けて解説や講評するとともに個別に返却を行う。								
留意事項	幼稚園での教育実習は本科目名にある教育の方法と技術の基礎を現場で習得する絶好の機会です。教育実習期間中も教育実践に関する課題を課します。実習先への事前の挨拶や打ち合わせ、事後の実習簿などの提出などの欠席は基本的にそれぞれ欠席1回とカウントします。提出物の未提出、提出期限後の提出はいずれも減点対象とします。								
オフィス アワー	授業期間中の水曜日のお昼休み								
実践的教育									

授業名	教育の方法と技術	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	環境を生かした活動の方法と形態（グループワーク）	（学修内容）なぜ、環境を通しての教育活動なのかを説明できる 園での基本的な活動の形態を説明できる （事前事後学修課題の内容）（60分） 前：保育実習で見てきた園の環境構成や活動の形態について整理する 後：グループワークを通して共通した環境構成や活動の形態を整理する
第2回	園児の遊びを通じた総合的な指導（ICT活用）	（学修内容）遊びを通じた総合的な指導とは何かを説明できる 園児の遊びをより豊かにする保育者の援助のあり方を考える （事前事後学修課題の内容）（60分） 前：幼稚園教育要領を読み幼児教育の方法を調べる 後：遊びを通じた総合的な指導のあり方を整理する
第3回	個に対する指導の技術と集団に対する指導の技術（ICT活用）	（学修内容）幼児教育における個と集団に応じた指導技術があることを理解できる （事前事後学修課題の内容）（60分） 前：クラス内の個人と集団に応じた指導の目的を調べてくる 後：個と集団にスポット当てた指導技術の整理する
第4回	育みたい資質・能力の要素と実際の子どもの様子を照らした指導計画づくり	（学修内容）幼児の終わりまでに育みたい10の姿など幼稚園教育の目的と幼児理解に基づいた指導計画づくりのポイントを理解できる （事前事後学修課題の内容）（60分） 前：10の姿の復習 後：指導計画づくりの過程のイメージを整理する
第5回	幼児理解に基づいた評価の基礎	（学修内容）就学前教育の評価の視点を説明できる （事前事後学修課題の内容）（60分） 前：就学前教育と小学校教育以降の評価のあり方の差異を調べる 後：幼児理解に基づいた評価の基礎を整理する
第6回	3歳児を対象とした指導計画と方法（主に6月度）	（学修内容）3歳児の育ちを捉えた基本的な指導計画と方法を理解できる （事前事後学修課題の内容）（60分） 前：3歳児の子どもの育ちを整理する 後：3歳児の6月の園生活のイメージをつかむ
第7回	4歳児を対象とした指導計画と方法（主に6月度）	（学修内容）4歳児の育ちを捉えた基本的な指導計画と方法を理解できる （事前事後学修課題の内容）（60分） 前：4歳児の子どもの育ちを整理する 後：4歳児の6月の園生活のイメージをつかむ
第8回	5歳児を対象とした指導計画と方法（主に6月度）	（学修内容）5歳児の育ちを捉えた基本的な指導計画と方法を理解できる （事前事後学修課題の内容）（60分） 前：5歳児の子どもの育ちを整理する 後：5歳児の6月の園生活のイメージをつかむ
第9回	6月度の実習の指導案の作成（実習期間予定）	（学修内容）現場実習を通して幼児理解を深める技術を習得する （事前事後学修課題の内容）（60分） 前：担当するクラスの子ども理解を深める 後：幼児理解に基づいた指導案を作成する
第10回	6月度の実習の指導案の実践（実習期間予定）	（学修内容）現場実習を通して幼児理解に基づいた指導案作成の技術を習得する （事前事後学修課題の内容）（60分） 前：指導案を完成させる 後：指導案を実践しその反省を整理する
第11回	園庭の環境を活かした指導計画の実践（情報機器活用を含む）	（学修内容）植物の観察と関連した制作を経験することで「事物による教育」の意味が理解できる、幼児教育での情報機器の活用方法を理解できる （事前事後学修課題の内容）（60分） 前：園庭によく植えられている植物を調べる 後：授業の感想をまとめ提出する
第12回	6月度の実習のふりかえり（主に指導案作成とその実践）	（学修内容）6月度の実習の指導計画をふりかえり、9月実習に向けた改善点を見つけ出すことができる （事前事後学修課題の内容）（60分） 前：6月度実習で作成した指導案とその実践を整理する 後：他の受講生のふりかえりも参考に指導計画のポイントを整理する
第13回	9月度の実習に向けた指導案の作成	（学修内容）6月度実習の成果を生かした指導案作成ができる （事前事後学修課題の内容）（60分） 前：9月度教育実習の指導案に取り上げる内容を考える 後：次回の報告に向けた資料を揃える
第14回	9月度の実習に向けた指導案の経過報告（グループワーク）	（学修内容）同僚（協働）性を磨くために相互に指導案を批判することができる （事前事後学修課題の内容）（60分） 前：指導案の途中経過を説明できる準備をする 後：グループ内で得た意見をもとに指導案を完成させる
第15回	9月度の実習に向けた指導計画の完成（プレゼンテーション）	（学修内容）作成した指導案のポイントをわかりやすく他者へ説明することができる （事前事後学修課題の内容）（60分） 前：完成した指導案を発表する準備を行う 後：他の受講生の発表を聴き、自身の指導案をさらに改善する

授 業 名	乳児保育			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1302
英 文 名	Infant Care			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	林 静香			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>保育所や認定こども園における乳児3歳未満児（0,1,2歳児）の保育に関する基礎的な理念や知識を理解、習得し、実際の保育場面で活用・探究できる実践力を身につける。</p> <p>1)乳児保育の概念と意義、乳児保育の基本や援助方法を理解する。  2)発達段階の特徴を踏まえ、いのちを守る保育者の立場から、乳児を理解する視点を身につける。  生活や遊び心の育ちの援助・方法の実際を学ぶ。  3)保護者との連携により乳児を育てる保育者として、地域における子育て支援の実際を学ぶ。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1. 乳児保育の歴史的返還、意義・目的、役割等について理解する。  2. 乳児保育に於ける大人の役割・保護者との連携について具体的に理解する。  3. 3歳未満の子どもが感じている遊びのおもしろさの理解と保育内容や方法を理解する。  4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画について理解する。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 （60%）	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 （40%）	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 （	プレゼンテーション能力 ）（		課題発見・解決能力 ）		
テキスト	改訂5版 資料でわかる乳児の保育新時代 乳児保育研究会編 ひとなる書房（2019）								
参 考 書	『演習で学ぶ乳児保育』善本真弓編著 小山朝子 亀崎美沙子 わかば社 2019 『見る・考える・創りだす 乳児保育I・II』茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会 萌文書林 2019 『保育所保育指針』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』フレーベル館 授業中、適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	提出された「振り返りの用紙」「レポート」については適宜、添削・助言等を行う。								
留意事項	・身近な0～2歳の子どもの様子や保育についてよく観察し、感想や疑問を記録する。（子ども：子どもの表情・行動・仕草・言葉等）（大人：子どもへの行動・言葉・表情等） ・絵本や玩具などもよく観ておくこと。								
オフィス アワー	事前にアポイントを取ってください。適宜実施します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：公立保育士として勤務								

授業名	乳児保育	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・乳児保育の歴史の変遷と背景	(学修内容) 乳児期の法的制度および乳児保育の歴史、基本について理解する。 「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 (事前事後学修課題の内容)(60分) シラバスを読んで、内容、評価方法を確認しておく。 授業で学んだことを振り返り、要点をノートにまとめる。
第2回	乳児保育の理念・意義と目的	(学修内容) 乳児の概念と乳児保育の理念・意義・目的について理解する。 「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業で学んだことを振り返り、要点をノートにまとめる。疑問に思ったことを書き出しておく。
第3回	乳児保育の考え方の基本	(学修内容) 乳児保育の考え方の基本について理解する。 「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキストp.14~p.27を読んでおく。授業で学んだことを振り返り、要点をノートにまとめる。
第4回	乳児保育における大人との関係の重要性	(学修内容) 身体・言葉の発達に伴う新しい世界やコミュニケーションの広がり、社会性に伴う人やものとのつながりの重要性について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業で学んだことを振り返り、要点をノートにまとめる。
第5回	乳児の生活の基本	(学修内容) 乳児の生活の基本(食事・睡眠と休息・排泄・着脱・清潔について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 乳児期の子ども特有の生理的リズム(デイリープログラム)に目を通して ておく。授業で学んだことを振り返り、要点をノートにまとめる。
第6回	0・1・2歳児の発育発達を踏まえた保育の基本	(学修内容) 乳児の発達の特徴や道筋について理解し、保育の基本について学ぶ。 「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 (事前事後学修課題の内容)(60分) 乳児期の身体、言葉、社会性の発達について気になる箇所を書き出して おく。授業で学んだことを振り返り、要点をノートにまとめる。
第7回	乳児のあそび	(学修内容) 乳児のあそんでいる姿を観察し、子どもの感じているおもしろさにつ いて考察する。(ディスカッション) (事前事後学修課題の内容)(60分) 子どもの頃のあそびを思い出し、書き出しておく。 授業で学んだことを振り返り、要点をノートにまとめる。
第8回	0歳児の発達と保育内容	(学修内容) 0歳児の発達の特徴や道筋について理解し、保育内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 0歳児の3つの視点とねらいについて読み込んでおく。授業で学んだこ とを振り返り、要点をノートにまとめておく。
第9回	1歳児の発達と保育内容	(学修内容) 1歳児の発達の特徴や道筋について理解し、保育内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 5領域とそれぞれのねらいについて読み込んでおく。授業で学んだこと を振り返り、要点をノートにまとめておく。
第10回	2歳児の発達と保育内容	(学修内容) 2歳児の発達の特徴や道筋について理解し、保育内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 5領域とそれぞれのねらいについて読み込んでおく。授業で学んだこと を振り返り、要点をノートにまとめておく。
第11回	乳児保育の環境構成	(学修内容) 0,1,2歳児の保育に必要な環境構成を学ぶ。乳児が安心して過ごせる場 の大切さを理解する。(ディスカッション) (事前事後学修課題の内容)(60分) 0歳児クラス~2歳児クラスの環境構成の特徴についてまとめておく。 授業で学んだことを振り返り、要点をノートにまとめておく。
第12回	乳児のあそびと玩具(Work)	(学修内容) 乳児にとっての生活や遊びについて理解する。安全・安心・快適おもち やを考案する。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(60分) 五感をはぐくむあそび、おもちゃについて構想を練る。 おもちゃ作りの準備物を持参する。
第13回	乳児保育における全体的な計画	(学修内容) 乳児期の保育課程・指導計画の必要性と考え方を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 保育計画を作成する際の基本的なポイントをふまえて指導計画を完成する 。
第14回	乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援	(学修内容) 乳児や家庭を取り巻く環境について理解し、子育て支援の必要性につ いて学ぶ。(ディスカッション) (事前事後学修課題の内容)(60分) ニュースや新聞等を読み、乳児や家庭がおかれている環境について調べ ておく。授業で学んだことを振り返り、要点をノートにまとめる。
第15回	乳児保育の重要性、保育者としての専門性と資質 向上	(学修内容) 乳児保育の重要性を理解し、保育者としての専門性と資質向上につ いて考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでの学修を振り返る。 保育者としての専門性と資質向上について考えをレポートにまとめる。

授 業 名	保育内容・表現（リズム・ダンス）			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2334
英 文 名	Child Care: Rhythm and Dance			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	小川 隆昭・眞崎 雅子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	本授業は、子どもの心と体の発育発達を支えるために、保育者に必要な専門知識・技能の習得を目的とする。保育現場で行われる器楽合奏において幼児に使用される打楽器の奏法を習得する。子どもの年齢に応じたリズム表現あそびや運動あそびを中心とした身体的活動の指導法を身につける。以上の2つの表現領域について、創造的に表現することの楽しさをグループワークやプレゼンテーションを通して学ぶ。								
学修成果 到達目標	1) 子どもの発育・発達に応じた身体表現あそび・音楽表現活動の指導・援助および活動の展開ができる。 2) 保育の現場（家庭や地域を含む）で子どもの心身の成長を促すために、自分にできることを明確にすることができる。 3) 基本的な知識を習得することにより、保育現場で起こり得る様々な問題に対し柔軟な対応力を身に付ける。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	適宜資料を配布する								
参 考 書	『子ども・からだ・表現：豊かな保育内容のための理論と演習』西洋子 市村出版 『豊かな感性を育む身体表現遊び』青木理子・井上勝子 ぎょうせい								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポート・課題に対し、その都度コメント・次へのアドバイスをする。 実技に対し、その都合コメント・次へのアドバイスをする。								
留意事項	1) 保育者を目指す学生として何事にも楽しく積極的に取り組む態度で臨むこと。 2) 課題に対し配布プリントの項目に沿って課題達成に向けて内容を確認しておくこと。 3) 適宜、運動服やシューズを着用し、衛生面・安全性に考慮すること。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：【小川隆昭】おてつぎ子供奉仕団歌唱指導・おてつぎ文化講座歌唱指導、その他【眞崎雅子】幼児から大人を対象としたダンス指導、コミュニティーセンター、幼稚園、小学校、教員研修などでの表現運動指導等。								



授業名	保育内容・表現（リズム・ダンス）	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス： 授業内容説明・幼児教育の基本と領域「表現」のねらい及び内容について	（学修内容）授業の進め方・評価の方法などについて説明する。 幼児教育の基本と領域「表現」のねらい及び内容について説明する （事前事後学修課題の内容）（20分） 保育の5領域の1つ「表現」について説明できるように理解しておく
第2回	保育現場における楽器についての説明と実践	（学修内容）保育現場で使われる幼児向けの楽器の奏法を知る（カスタネット・タンブリン・鈴・トライアングル） （事前事後学修課題の内容）（30分） 楽器の持ち方や演奏方法を覚える
第3回	アンサンブル（1）簡単なリズムと少し複雑なリズム	（学修内容）2人もしくは4人でグループになり、カスタネットアンサンブルを練習、発表する （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前にリズム練習をすること
第4回	アンサンブル（2）簡単なリズムと少し複雑なリズム	（学修内容）2人もしくは4人でグループになり、カスタネットアンサンブルを練習、発表する （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前にリズム練習をすること
第5回	手作り楽器の制作及び演奏	（学修内容）身近なもので楽器になるものを探し演奏する （事前事後学修課題の内容）（30分） 保育の現場で使用できるものや制作する楽器の素材を見つけて練習する
第6回	音と身体表現	（学修内容）制作した楽器やピアノに合わせて即興的に動く （事前事後学修課題の内容）（30分） 楽器の音と身体の動きのつながりについてイメージし実際に動いてみる
第7回	造形と身体表現	（学修内容）造形物や絵画から想起されるイメージに合わせて即興的に動く （事前事後学修課題の内容）（30分） 造形や絵画と身体の動きのつながりについてイメージし実際に動いてみる
第8回	子どもとつながるための身体表現	（学修内容）保育現場の動画を視聴し、子どもとつながる身体表現の実践について理解する （事前事後学修課題の内容）（30分） 子どもの表現や子どもとつながるために必要な表現について考えておく
第9回	リズムダンスと身体表現	（学修内容）リズムに合わせて動く楽しさを体感する （事前事後学修課題の内容）（30分） 多様なリズムパターンを刻めるように練習しておく
第10回	歌と動きのリズム表現	（学修内容）手遊びやわらべ唄に合わせてリズムカルな動きを習得した上で、アレンジしてみる。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 手遊びを覚えて発表できるようにしておく
第11回	言葉と動きのリズム表現	（学修内容）オノマトペから動きへと多様な表現を通して、友達に共感し、表現の広がり共有する （事前事後学修課題の内容）（30分） 多種多様なオノマトペを挙げ、オノマトペによって引き出される動きについて確認し、運動・表現として発展させる方法について考えておく
第12回	ペア・グループの即興表現	（学修内容）ペアやグループの即興表現で体験する同調や共振を確認し、身体を通して交流を深める （事前事後学修課題の内容）（30分） 保育現場では、身体の動きを通じた同調や共振がどのような場面で見受けられるか書き出しておく
第13回	リズム演奏とダンスの創作（1）グループでの取り組み	（学修内容）作品のテーマを決めて創作活動を開始する （事前事後学修課題の内容）（30分） 演奏したいリズムや音楽と、それに合わせたダンスについて考えておく
第14回	リズム演奏とダンスの創作（2）グループでの取り組み	（学修内容）リズム演奏と振付、全体の構成を決めて練習する （事前事後学修課題の内容）（30分） テーマに沿った振付やフォーメーションを考える
第15回	リズム演奏とダンスの創作（3）各グループの発表会	（学修内容）リズム演奏と身体表現（ダンス）を鑑賞し、自他ともに評価をする （事前事後学修課題の内容）（30分） 自己の課題を見つけ自主練習をしておく

授 業 名	保育と音楽遊び		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1402
英 文 名			開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	東田 みすづ		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>子どもたちにとってあそびとは生活(生きること)そのもの。          日常の中にある自由なあそびと設定された中にある遊び、まわりにあふれる音楽やうた。          子どもたちは、これらに囲まれた生活を送りながらさまざまな力を獲得する。          この授業では、いろいろな題材をもとに制作したり表現したりしたもので、どう楽しむか、どうあそぶかを子どもの発達をとらえながら進めていく。</p>							
学修成果 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにとってあそびとは何かを理解する。</li> <li>・手遊びやうたなどの表現方法や制作物のレポーターを増やす。</li> <li>・グループワークでメンバーとのコミュニケーションを図る。</li> </ul>							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能				
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )	
テキスト	「子どものうた」( 京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室発行 ) プリントなどを使用する							
参 考 書	使用しない。							
課題に対する フィードバック の方法	提出された制作物はその都度コメントを返します。							
留意事項	課題に積極的に取り組み、折り紙・手遊びのレポーターを増やせるように努力すること。							
オフィス アワー	授業終了後							
実践的教育	<p>実践的教育          教員の実務経験など：保育士、主任保育士、所長として向日市公立保育所勤務。40年間の経験をもとに歌や手遊び、製作          など子どもの発達を交えながら話をします。</p>							

授業名	保育と音楽遊び	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 歌唱・手遊び 自己紹介	(学修内容) 授業についての説明 自己紹介・この授業で大事にしたいこと。 子どものうた・手あそびを楽しむ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを確認しておくこと。 今日の内容をノートにまとめる。次の授業の準備確認。
第2回	歌唱・手遊び・バクバク人形作り	(学修内容) バクバク人形を作って音楽に合わせて遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 今日の内容をノートにまとめる。次の授業の準備をする。
第3回	歌唱・手遊び・ペープサート作り。	(学修内容) 子どものうたを中心にペープサートを作って演じる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題を仕上げる。 授業内容をノートにまとめる。
第4回	絵本の読み聞かせ。歌唱・手遊び・あやしあそび あやしあそびのおもちゃを作る。	(学修内容) 同じ遊びでも月齢や年齢によってやり方も意味も違ってくことを知る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題を仕上げる。 授業の内容をノートにまとめる。
第5回	歌唱・手遊び 折り紙、紙遊び。	(学修内容) 折り紙を折る。紙を使った簡単な遊びを知る。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 課題を仕上げる。授業内容をノートにまとめる。次の授業の準備をする。
第6回	歌唱・手遊び・わらべ歌あそび 毛糸であやとり作り。	(学修内容) わらべ歌 毛糸で遊ぶ、くさり編み あやとり。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題を仕上げる。
第7回	歌唱・手遊び・パッチンガエル作り。	(学修内容) 子どもの歌を中心にパッチンガエルを作って飛ばして遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 次回の授業の準備をする。必要なものをノートにメモしておく。
第8回	歌唱・手遊び ペープサート作り(クイズであそぶ)	(学修内容) クイズ形式のペープサートづくり。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題を仕上げる。授業内容をノートにまとめる。次の授業の準備をする。
第9回	歌唱・手遊び・歌に合わせて手話をする。 折り紙を折る。	(学修内容) 歌のもつ世界観を手話で表現する。 季節にちなんだものを折る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 手話について理解する。感じたことをノートに記す。 課題を仕上げる。次の授業の準備をする。
第10回	歌唱・手遊び・楽器を手作りし、みんなで合奏する。	(学修内容) 身近なもので音のなるものを作り、曲に合わせて鳴らして遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 課題を仕上げる。授業内容をノートにまとめる。
第11回	歌唱・手遊び・七夕のおはなし、笹飾り作り。	(学修内容) 七夕飾りの意味を知り製作する。笹に飾る。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 課題を仕上げる。昔ながらの伝承行事を理解する。
第12回	歌唱・手遊び グループ決め 今までのものを使って発表のための打ち合わせ。 準備物など必要なものをまとめて提出する。	(学修内容) グループを決める。11回までの授業の題材を使って、グループで企画し 発表するものをまとめておく。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 意見を出し合い、準備物など必要なものをまとめて提出する。
第13回	歌唱・手遊び 話し合ったものを分担して製作する。	(学修内容) 発表のためのものを製作する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループメンバーで協力して課題を仕上げる。
第14回	歌唱・手遊び・発表するものをグループごとに練習する。 どのように発表するかを話し合う。	(学修内容) 製作したものを使って、話し合いながらグループ練習をする。 (事前事後学修課題の内容)(60分) グループメンバーで協力して課題を仕上げる。
第15回	歌唱・手遊び・発表・総括	(学修内容) 練習したものをプレゼンして発表する。他のグループの出し物に対して 感想を言う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 積極的に意見交換をする。 総括をノートにまとめる。

授 業 名	教育心理学			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2221
英 文 名	Educational Psychology			開講 時期	春学期	必修 選択		選択	
担 当 者	渋谷 郁子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>幼児教育における学びとは、生活や遊びを通じた学びである。本講義では、心理学的側面から教育に関わる問題について学ぶことで、生活や遊びを通して、子どもたちの個々の発達を把握する観察力を培い、適切な発達援助を行う実践力を培うことを目的とする。また、保育者間の協働、保護者との連携など、現代の保育課題についても理解を深めていく。テーマによってグループ討議等も行うので実践力を養ってほしい。</p>								
学修成果 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育心理学の基礎的知識を習得し、教育現場で応用できる力を身につける。</li> <li>2. 主に乳幼児期の各時期における精神活動の発達過程と発達特性について理解する。</li> <li>3. 子どもの発達や保育の中での人間関係などを心理学的に理解し、気持ちに沿った援助を考えることができる。</li> <li>4. 学習を支える教師の役割や意義を理解する。</li> </ol>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	教科書は指定しない。適宜資料を配布する。								
参 考 書	藤崎亜由子・羽野ゆつ子・渋谷郁子・網谷綾香(編著)「あなたと生きる発達心理学 子どもの世界を発見する保育のおもしろさを求めて」(2019年)ナカニシヤ出版								
課題に対する フィードバック の方法	受講者のコメントや質問などに回答し、理解を深められるようにする。								
留意事項	積極的にグループ討議を取り入れる。メンバー全員の学びが促進されるよう意識して参加してほしい。								
オフィス アワー	初回授業時に伝える。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：教育・福祉機関でカウンセラーとして勤務、教員や保育者研修の講師								

授 業 名		教育心理学
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	心理学による子ども理解	(学修内容) 保育実践において、心理学的観点から子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) これまでの心理学の学びがどの程度身につけているのか、1回生の授業を振り返って復習する。
第2回	子どもに対する共感的理解	(学修内容) 子どもの気持ちを受容的に受け止め、肯定的配慮を行って自己実現を促す関わりを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 子どもに相対するときに、具体的にどんな点に気を付ければよいかを考える。
第3回	子どもの生活と学び	(学修内容) 子どもの生活を支える重要性を理解する。また、基本的生活習慣が発達に及ぼす影響を知る。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 子どもと大人の間に生じる葛藤を、場面の切り替えに着目して考える。
第4回	子どもの遊びと学び	(学修内容) 子どもたちの遊びの発達について理解する。また、遊びを通した学びの意義と遊びの環境について考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 子どもの遊びを支える保育者のかかわりについて考える。
第5回	子ども集団と仲間の発達	(学修内容) 仲間関係や自己主張と自己抑制の発達について理解する。仲間関係を育む環境調整や保育的関わりについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 仲間とはどんな存在か、これまでの経験を振り返って考える。
第6回	子どもの主体性を引き出す教育のあり方	(学修内容) 子どもの主体的な学びを引き出す関わりについて考える。また、教師が子どもに与える影響を知り、子どもの糧になる関わりを考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) やる気を引き出す方法について具体的に考えて書く。
第7回	パーソナリティの理解	(学修内容) 子どものパーソナリティを理解するため、パーソナリティについての理論やパーソナリティを把握する方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分自身のパーソナリティについて考察を深める。
第8回	ストレスとメンタルヘルス	(学修内容) 子どものストレスの生じ方やストレス反応について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 自分自身の日頃のストレスマネジメントを振り返る。
第9回	観察と記録を通した子ども理解(1) 子どもを観察する視点	(学修内容) 子どもを観察する視点をリストアップし、実際に使ってみる。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 実習で出会ったエピソードを思い出し、記録する。
第10回	観察と記録を通した子ども理解(2) 記録と省察	(学修内容) 観察したことをどのように記録するか、省察を深めることのできる記録のつけ方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 前回記録した内容を見返し、書き直す。
第11回	環境としての保育者	(学修内容) 実習を振り返りながら、環境としての保育者の重要性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 現在の自分を振り返り、今から気をつけていくべきことをまとめる。
第12回	葛藤やつまずきを乗り越える力	(学修内容) 子どものレジリエンスを高める関わりを考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 保育における養護と教育の配分について考察する。
第13回	発達に課題のある子どもの理解	(学修内容) 発達に課題があるとはどういうことか、発達に課題のある子どもをどのように理解するのかを考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 実習での経験を振り返り、発達に課題のある子どもの実際の姿をイメージする。
第14回	子どもの発達課題に応じた教育のあり方	(学修内容) 発達の個人差について理解する。また、個別のニーズに応じた支援を考える。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 実習先で出会った事例などを用い、具体的な支援方法を考える。
第15回	子どもや保護者との信頼関係にもとづいた発達支援	(学修内容) 子どもや保護者との信頼関係構築のあり方と、それにもとづいた発達支援の進め方を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 保護者と関係を構築する方法について考える。

授 業 名	教育課程総論		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1311
英 文 名	Outline of Curriculum		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	柘植 誠子		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園における教育課程や全体的な計画の意義や目的、役割を理解し、年齢や発達 の姿、保育の連続性を踏まえた教育課程や全体的な計画、さらに教育課程からつながる指導計画の作成方法を学びます。実 際に短期の指導計画を作成し、発表、グループワーク等を通してさらに学びを深めます。 また、教育課程や全体的な計画の編成から、保育の質の向上へと繋がるカリキュラム・マネジメントを行う意義や重要性 を理解し、評価の基本を学びます。							
学修成果 到達目標	1) 教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義や、基本原理に即した教育課程・全体的な計画の編成方法を理解 できる。 2) カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、評価の基本的な考えを理解できる。 3) 子ども理解を踏まえた指導計画の作成方法を理解し、自ら作成することができる。 4) 指導計画の理解や作成を通して、自己の課題を省察・評価・改善することができる。							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (	
テキスト	岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正著 『教育課程・保育の計画と評価』 萌文書林 2018年 文部科学省編 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年、厚生労働省編 『保育所保育指針』 フレーベル館 2017年、内 閣府、文部科学省、厚生労働省編 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2017年							
参 考 書	岩崎淳子他2名 『教育課程・保育の計画とその評価』 萌文書林 2018年							
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、次の授業内で適宜コメントします。 発表についてはその場で指導・助言を行います。							
留意事項	要領・指針 ( 3冊 ) は、主要テキストに合わせて使用するため、毎回必ず持参すること。							
オフィス アワー	第 1 回目の授業で告知します。							
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：公立幼稚園教諭、教育委員会主任主事として勤務							

授業名	教育課程総論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 保育の基本	(学修内容) 授業概要の説明について理解する。 保育とは何かを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスや教科書をよく読んでおく。 保育の基本について理解したことをまとめておく。
第2回	教育課程・全体的な計画の考え方	(学修内容) 教育課程・全体的な計画の考え方や意義について理解する。 教育課程・全体的な計画の編成手順を事例から把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教育課程・全体的な計画の事例をインターネット等で探し、さらに理解を深めておく。
第3回	指導計画の基本的な考え方	(学修内容) 指導計画を事例から把握する。教育課程・全体的な計画と指導計画の関係性を理解する。指導計画の様々な計画の種類を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料として配布された指導計画や幼稚園教育要領を読んで幼稚園について理解を深めておく。
第4回	幼稚園の基本	(学修内容) 幼稚園の機能について理解する。幼稚園教育要領から幼稚園教育の特徴を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼稚園教諭の役割についてまとめ発表できるようにしておく。
第5回	幼稚園における計画	(学修内容) 幼稚園における指導計画がどのような考え方のもとに作成されているか理解する。幼稚園における教育課程から指導計画の流れを把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書のワーク(幼稚園)をする。
第6回	保育所の基本	(学修内容) 保育所の役割について理解する。 保育所保育指針から保育所保育の基本を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育における環境はどのようなものなのかを調べ、発表できるようにしておく。
第7回	保育所における計画	(学修内容) 保育所の考え方に基づく指導計画の作成を理解する。保育所における全体的な計画から指導計画の流れを把握する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書のワーク(保育所)をする。
第8回	認定こども園の基本と計画	(学修内容) 認定こども園の特徴を理解する。幼保連携型認定こども園教育・保育要領から教育及び保育の基本を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 認定こども園の様々な計画を調べ、発表できるようにしておく。
第9回	指導計画作成の基本とその方法	(学修内容) 指導計画の作成方法や作成手順を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 絵本の読み聞かせの指導計画に使用したい絵本を選択し、内容を理解しておく。
第10回	指導計画の作成 (子どもの姿、ねらい、内容、準備物等)	(学修内容) 指導計画の記載項目に応じて具体的に理解する。(子どもの姿、ねらい、内容、準備物等) (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料を参考に、子どもの姿、ねらい、内容、準備物等を書写しておく。
第11回	指導計画の作成 (環境構成、予想される幼児の活動、保育者の援助・配慮等)	(学修内容) 指導計画の記載項目に応じて具体的に理解する。(環境構成、予想される幼児の活動、保育者の援助・配慮等) (事前事後学修課題の内容) (60分) 資料を参考に、環境構成、予想される幼児の活動、保育者の援助・配慮等子どもの姿、ねらい、内容、準備物等を書写しておく。
第12回	0歳児の特徴と指導計画	(学修内容) 0歳児の発達の特徴や関わり方を理解する。保育者の援助・配慮を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 0歳児に適した絵本を探し、読んでおく。
第13回	1、2歳児の特徴と指導計画	(学修内容) 1、2歳児の発達の特徴や関わり方を理解する。保育者の援助・配慮を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで考えを出し合いながら、教科書のワーク(小麦粉粘土)をする。
第14回	3、4、5歳児の特徴と指導計画	(学修内容) 3、4、5歳児の発達の特徴や関わり方を理解する。保育者の援助・配慮を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで考えを出し合いながら、教科書のワーク(しっぽ取り遊び、食事後から午睡まで、ドッジボール)をする。
第15回	保幼小連携カリキュラム 指導計画の発表、評価	(学修内容) アプローチカリキュラムについて理解する。グループ内で指導計画を発表したり、他者の発表を聞いたりして、学びを深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表した指導計画について、反省、考察、課題等の評価を行い、その内容をまとめて提出する。

授 業 名	保育内容・健康			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2324
英 文 名	Child Care : Health			開講 時期	春学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	福井 百合子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	子どもにとって健康は健全な成長・発達に必要なものである。心身の健康に関する領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す能力を養うために必要な知識技術を身につける。特に乳幼児期の健康にかかわる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身につける。学びを深めるために、適宜、課題ワーク、グループワークやディスカッションを実施する。								
学修成果 到達目標	1. 幼児教育の基本と、乳幼児の健康の概念と心身の健康に関する領域「健康」のねらいと内容が理解できる。 2. 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解できる、小学校教育へつなぐ、子どもの資質や能力の育みについて考えることができる。 3. 乳幼児の成長・発達に関する基礎的な知識をふまえ、運動遊びや生活習慣獲得支援など子どもの健康を保障するための具体的方法を考えることができる。 4. 子どもの発達にとって遊びが持つ意義と果たす役割について説明できる。 5. 現代の子どもの健康を取り巻く諸問題を知り、保育者の役割が考えることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (課題提出)	プレゼンテーション能力 (学習ノート)		課題発見・解決能力		
テキスト	河邊貴子・吉田伊津美 編『演習 保育内容「健康」 基礎的事項の理解と指導法』建帛社								
参 考 書	井狩芳子『演習 保育内容 健康 大人から子どもへつなぐ健康の視点』萌文書林 清水将之・相楽真樹子 編『実践例から学びを深める保育内容・領域 健康 指導法』わかば社 酒井幸子・松山洋平 編『保育内容健康 あなたならどうしますか?』萌文書林 勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行 編『保育者をめざすあなたへ子どもと健康 第2版』株式会社みらい								
課題に対する フィードバック の方法	課題やミニテストは解答後に答えと解説を表示する(提出課題は提出返却後に全体で内容のシェアを行う)。								
留意事項	・教科書とノートを持参して受講してください。(適時確認すること有) ・授業で使用する大学の備品は大切に丁寧に扱うこと。 ・授業内容や試験方法は状況により調整変更することがある。 ・子どもの健康や育ちに関心をもちましょう。 ・出欠回数や課題提出の未済は自己管理すること。								
オフィス アワー	授業ガイダンス時に知らせる。								
実践的教育									



授業名	保育内容・健康	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 健康の定義と乳幼児に大切な健康で安全な生活について 乳幼児にふさわしい生活 体をよく動かす子どもを育てる	(学修内容) 授業の案内。健康の定義、乳幼児にふさわしい生活についてと、体をよく動かす子どもを育てることについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第1章を読む。事後はミニテストで復習する。
第2回	乳幼児の発達段階と課題 認知、情緒、社会性の発達	(学修内容) 乳幼児の発達段階と課題、認知・情緒・社会性の発達の過程をふまえ、発達を支援する配慮と関わりについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「子どもの保健」の授業内容を復習しておく。事後はミニテストで復習する。
第3回	乳幼児の身体的発達の特徴と配慮 基礎的な知識と情報 具体的な関わりの構想	(学修内容) 乳幼児の身体的発達の特徴と配慮、具体的な関わりの構想について復習し、考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第2章、保育所保育指針を読む。事後はミニテストで復習する。
第4回	乳幼児の生理的機能の発達の特徴と配慮	(学修内容) 乳幼児の生理的機能の発達について復習し、配慮する点について考え、学びを深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第2章を読む。事後はミニテストで復習する。
第5回	乳幼児期の運動(1) 0～3歳未満児の運動発達と環境 3歳以上児の運動発達と環境	(学修内容) 0～3歳未満児の運動発達と3歳以上児の運動発達の理解をふまえ、環境の工夫について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章を読む。事後はミニテストで復習する。
第6回	乳幼児期の運動(2) 運動遊びへの関わり 幼児の運動能力の現状と運動発達に影響を及ぼす要因	(学修内容) 遊びの意義、運動遊びの重要性、仕掛けと動機付けについて学ぶ。子どもの内発的動機付けのためのかかわりや働きかけを考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第3章を読む。事後は授業内のワークの見直しとミニテストで復習する。
第7回	乳幼児期の安全教育とケガの予防 ケガや事故の実態 ケガの予防と安全管理(リスクとハザード、ヒヤリハット、ハザードマップ)	(学修内容) 保育施設での安全管理の実態について知る。子どもの特徴から事故やケガの予防での視点について資料や動画、GWを交えて考え学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書第4章を読む。事後はミニテストで復習する。
第8回	乳幼児期の基本的生活習慣の形成と配慮(1) 生活習慣形成の意義、生活リズム、睡眠・休息	(学修内容) 乳幼児の生活習慣の形成の意義と、生活リズム、睡眠・休息について学び、支援について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章を読む。事後はミニテストで復習する。
第9回	乳幼児期の基本的生活習慣の形成と配慮(2) 食育、食習慣の形成(生活リズムと食育) 食の大切さと保育 アレルギー対応	(学修内容) 乳幼児の食事、食習慣の形成、アレルギーなど特別配慮を要す子どもへの配慮、食育について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書第5章、第7章を読む。保育所におけるアレルギー対応ガイドラインに目を通す。事後はミニテストで復習する。
第10回	乳幼児期の基本的生活習慣の形成と配慮(3) 排泄、清潔、衣類の着脱、 生活動作の自立と支援(3歳以上児)、行きつ戻りつする形成の過程	(学修内容) 排泄、清潔、衣類の着脱、生活動作の自立(3歳以上児)と支援や配慮について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第5章を読む。事後はミニテストで復習する。
第11回	乳幼児期の遊びと運動(1) 豊かな遊びと動きの体験 内発的動機付け、自己決定、応答的環境	(学修内容) 遊びの中の運動経験、動機付けと自己決定を引き出す環境構成(応答的環境)について学び、豊かな遊びと動きを引き出す工夫について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第6章、文部科学省 幼児期運動指針と幼児期運動指針ガイドブックを読む。事後はミニテストで復習する。
第12回	乳幼児期の遊びと運動(2) クラス全体としての運動遊び 日常生活の中の動き、経験の機会を自然に増やす	(学修内容) 乳幼児の発達段階に応じた動きや経験を導く活動の計画について学び、配慮点を理解できる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第6章を読む。事後はミニテストで復習する。
第13回	領域「健康」の理解と指導法(幼児教育の基本と領域の考え方、ねらい及び内容) 総合的な指導の展開	(学修内容) 保育計画の中の保健活動統合保育、総合的な指導について実践事例、ワーク、シェアを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第8章を読む。事後はミニテストで復習する。
第14回	領域「健康」をめぐる現代の問題 家庭との連携、小学校教育への継続、子育て支援 保育者の役割	(学修内容) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の理解と小学校への接続、主体的遊びの重要性と対話・応答的なかかわりの大切さについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書第8章を読む。事後はミニテストで復習する。
第15回	指導計画から保育へ 定期試験ガイダンス	(学修内容) 現代の子ども現状について学ぶ。幼児教育施設の役割について考える。定期試験の案内。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書第10章を読む。定期試験の案内。

授 業 名	保育内容・言葉			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1314
英 文 名	Child Care : Language			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	坂本 渉			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	三法令(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領)に示された領域「言葉」のねらいおよび内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即した具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。併せて、さまざまな児童文化財や教材等の活用について実践的に学ぶ。								
学修成果 到達目標	1)領域「言葉」のねらいや内容、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点、評価の考え方、小学校の教科とのつながりについて理解している。 2)児童文化財が与える乳幼児への影響を考え、年齢・発達に応じた教材研究に取り組むことができる。 3)領域「言葉」に関わる遊びの具体的な指導場面を想定した指導案を作成し、実践(模擬保育)・評価・改善に取り組むことができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 60% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	『幼稚園教育要領解説』平成30年3月 フレーベル館、『保育所保育指針解説』平成30年3月 フレーベル館、 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』平成30年3月 フレーベル館								
参 考 書	授業時に適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	課題のフィードバックは、次の授業内で解説する。また、実践の振り返りについては適宜、助言、個別にコメントをつけ返却する。								
留意事項	学修の振り返りのために授業時はメモを取り、授業を通しての学びをまとめるようにしてください。また、配布プリントや資料も整理しておくこと。								
オフィス アワー	事前にアポイントを取ってください。適宜実施します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：学校法人今川学園木の実幼稚園主任教諭、社会福祉法人すずらん台福祉会すずらんキッズ保育園・西鈴どんぐり園施設長として勤務。								

授業名	保育内容・言葉	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション/幼児期の教育の基本と領域について	(学修内容) 授業のねらいや概要の説明を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 春学期に学修した「幼児と言葉」を想起する。
第2回	領域「言葉」とは	(学修内容) 領域「言葉」のねらいおよび内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領の領域「言葉」の内容を理解しておく。
第3回	領域「言葉」と他領域とのかかわり	(学修内容) 領域「言葉」と他領域とのかかわり、国語科教育とのつながりと相違について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容について振り返り、整理し要点をまとめる。
第4回	言葉を育む環境構成と保育者の援助 子どもの話したい、聞きたいを育む	(学修内容) 子どもの話したい、聞きたいを育むための環境構成と保育者の援助について学ぶ。また、生活に必要な言葉を支える援助について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ディスカッションで得られた内容や授業内容を振り返り、整理し要点をまとめる。
第5回	言葉を育む環境構成と保育者の援助 言葉に課題をかかえる子どもへの支援	(学修内容) 言葉の遅れや吃音、またかみつきなど子どもの言葉に関する課題の原因や、園ではどのような対応を行えばよいのかについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ディスカッションで得られた内容や授業内容を振り返り、対応の仕方を自分なりに考える。
第6回	言葉を豊かにする言語教材 ストーリーテリング	(学修内容) ストーリーテリングの演じ方などの基礎知識を学ぶとともに、子どもにとっての物語体験の意義について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ストーリーテリングに必要な技能について整理し、実践できるよう練習する。
第7回	言葉を豊かにする言語教材 お話づくり	(学修内容) さまざまなお話づくり(絵カード・即興)の演習を通して、子どもにとってのお話づくりの意義について理解する。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前に配布した絵カードを基にお話をつくり、発表の練習をしておく。
第8回	言葉を豊かにする言語教材 文字を使った遊び	(学修内容) 文字を使ったさまざまな遊びや、遊びの中に出てくる書き言葉の役割や機能について学ぶ。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 文字を使った遊びの種類や遊び方について下調べをし、実践できるよう準備しておく。
第9回	言葉を豊かにする言語教材 ごっこ遊び・劇遊びへの展開	(学修内容) 絵本やお話の読み聞かせから遊びへの発展、具体的にはごっこ遊びや劇遊びへの展開方法や留意点について学ぶ。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業内容について振り返り、整理し要点をまとめる。
第10回	言葉を育む保育の実践 教材研究	(学修内容) 児童文化財を活用した保育の構想を練る。(グループワーク・ペアワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育実践、模擬保育に用いる児童文化財の教材研究をする。
第11回	言葉を育む保育の実践 指導案作成	(学修内容) 具体的な保育場面を想定した指導案の作成を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業を振り返り、指導案の書き方への理解を深める。
第12回	言葉を育む保育の実践 指導案の検討と修正	(学修内容) 指導案の検討と修正を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業を振り返り、指導案を完成させる。
第13回	言葉を育む保育の実践 演習	(学修内容) 保育実践、模擬保育を指導案に基づき実施する。(グループワーク・ペアワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導案に基づき、一連の流れや教材の扱いについて練習しておく。
第14回	子どもの言葉を育む保育の実践 省察と改善	(学修内容) 保育実践、模擬保育を振り返り、その評価と改善について学ぶ。(ディスカッション) (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育実践、模擬保育を振り返り、自己評価を行うとともに改善点について整理しておく。
第15回	学修のまとめと「言葉」の現代的課題について	(学修内容) これまでの学修を振り返るとともに、「言葉」をめぐる現代的課題について学ぶ。(ディスカッション) (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの学修内容を振り返り、要点を整理する。また、「言葉」をめぐる現代的課題について下調べをし、疑問点を整理しておく。

授 業 名	保育内容・人間関係			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1303
英 文 名	Child Care : Human Relations			開講 時期	春学期	必修 選択		選択	
担 当 者	狂 巖 茶 茶			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	保育/教育の場における「人間関係」について、発達の視点、子どもの視点、保育者の視点、社会の視点等から多角的に捉え、子どもの「人間関係」の育みを支えるために必要な視座、方法論、資源について学ぶ。また、習得した知識を活用するワークにより、知識を応用へつなげるプロセスの実践学習をおこなう。								
学修成果 到達目標	1)子どもの「人間関係」の構成を多角的、多面的に捉えることができる。 2)子どもの「人間関係」の発達を理解し、説明することができる。 3)「人間関係」の育みを旨とした活動内容の展開を、積極的に考える姿勢を身につける。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	齊藤崇(編) 『資質・能力を育む 保育内容 領域 人間関係 こどもにとっての人間関係とは』 教育情報出版 2023年								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	筆記試験：答案返却とともに模範解答の閲覧期間を設ける。 レポート：コメントを付して返却する。								
留意事項	多様な仲間や考えに対する積極的態度と、他者に伝わりやすい文章構成を心がけ、授業に臨むことが望ましい。								
オフィス アワー	曜日・時間は研究室入口に掲示。 メールによる問い合わせは常時受け付け。								
実践的教育									

授業名	保育内容・人間関係	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業内容の概略、および授業計画の説明  (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認する。
第2回	子どもを取り巻く人間関係と社会的背景(1) 基本的生活習慣	(学修内容) 現代社会における基本的生活習慣の問題と子どもの人間関係  (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第3回	子どもを取り巻く人間関係と社会的背景(2) 自己肯定感	(学修内容) 現代社会における自己肯定感の問題と子どもの人間関係  (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第4回	子どもを取り巻く人間関係と社会的背景(3) 体験活動	(学修内容) 現代社会における体験活動の問題と子どもの人間関係  (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第5回	乳幼児の育ちと人間関係	(学修内容) 乳児期の発達と人間関係の育ち  (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第6回	乳児保育における領域「人間関係」	(学修内容) 乳児保育の視点  (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第7回	幼児前期の保育における領域「人間関係」(1) 幼児前期の発達	(学修内容) 幼児前期の発達の様相  (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第8回	幼児前期の保育における領域「人間関係」(2) 「ねらい」と「内容」	(学修内容) 幼児前期の保育における領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」  (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第9回	幼児前期を対象とした指導計画	(学修内容) 幼児前期を対象とした指導計画の「ねらい」と「内容」の立案  (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第10回	幼児中後期の保育における領域「人間関係」(1)	(学修内容) 幼児中後期の発達の様相  (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第11回	幼児中後期の保育における領域「人間関係」(2)	(学修内容) 幼児中後期の保育における領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」  (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第12回	幼児中後期を対象とした指導計画	(学修内容) 幼児中後期を対象とした指導計画の「ねらい」と「内容」の立案  (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第13回	多文化保育と人間関係(1) 多文化社会の現状	(学修内容) 我が国における多文化社会の現状と異文化理解の意義  (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第14回	多文化保育と人間関係(2) 多文化保育の定義と内容	(学修内容) 多文化保育の視点と事例研究  (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第15回	まとめ、振り返り	(学修内容) 14回の学習内容の総括、振り返り  (事前事後学修課題の内容) (180分) 全回の学修内容の流れを振り返ってノート整理をおこない、解決していない疑問・質問等をまとめる。

授 業 名	保育内容・環境			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1313
英 文 名	Child Care : Environment			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>保育内容「環境」について、乳幼児期の環境とのかかわりの実際と発達の特徴を踏まえ、保育における環境とのかかわりを育むための保育内容の指導法を実践的に理解する。具体的な保育活動の実践を通して、必要な知識および技術を習得し、活動上の留意点などを理解できることを目的としている。子どもの成長発達には自然、もの、事象、文字や記号、地域、文化などの環境はとても重要であり大きな影響を与える。このような環境に対して、好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力（遊びや生活を広げ深めていく力）を養う指導者として豊かな感性を養う必要性を概説する。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明できる。  2) (1)を踏まえ、子どもを取り巻く身近な環境とのかかわりについて調べ、それらのまとめを発表することができる。  3) 保育実践を通して保育内容「環境」の指導のありかたを理解し指導計画が作成できる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( 課題レポート )	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	高内正子監修「保育実践に生かす保育内容環境」教育情報出版								
参 考 書	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）  厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）  文部科学省・厚生労働省・内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）</p>								
課題に対する フィードバック の方法	個別に提出された小レポートについては内容について授業の中で解説を行い、フィードバックをする。								
留意事項	『環境』に関する理論面は、講義を通し理解を深め、指導の実際面に関しては、学生自身による課題を発表形式で進める。保育における環境領域の活動を取りあげ、教材研究や実践をまとめ発表する。								
オフィス アワー	第1回目の授業にて告知。								
実践的教育									

授業名	保育内容・環境	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の目的や概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく。自分自身の乳幼児期の環境について思い出しまとめておく。
第2回	季節による保育活動	(学修内容) 季節を取り入れた保育や秋植え野菜の栽培の目的について理解する。グループでディスカッションし栽培計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p.142～143を参考に興味をもった秋野菜について調べておく。栽培計画をレポートにまとめて提出する。
第3回	秋植え野菜の栽培について	(学修内容) グループで秋植え野菜を栽培する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 秋植え野菜に必要な道具や材料をグループで連携し調達し準備する。
第4回	子どもを取り巻く環境	(学修内容) 子どもや自分自身を取り巻く環境について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p.34～37を読み、環境にかかわる力の必要性についてまとめクラスルームからレポートを提出する。
第5回	領域「環境」のねらい、内容、内容の取扱い	(学修内容) 領域「環境」のねらい、内容、内容の取扱いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 幼稚園教育要領の領域「環境」の該当部分を読み、特徴をまとめておく。
第6回	行事のとらえ方	(学修内容) 年間行事のねらい、保育者の留意点を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 情報機器を用いて幼稚園や保育所の年間行事について調べ提出する。
第7回	身近な環境に親しむ(周囲の環境)	(学修内容) 保育内容・環境のねらいを実践を通して学ぶ。華頂フィールドワークをグループで活動実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 華頂フィールドワークを通しての実践を振り返り、レポートにまとめて提出する。
第8回	身近なモノとのかかわり	(学修内容) 身近なモノとのかかわりを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 身近なモノを考えてくる。教科書68pを読んでおく。
第9回	身近なモノを使った実践を行う	(学修内容) 好奇心・探求心を引き出すモノを手掛かりに実践を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書p70を参照し、子どもにとって扱いやすい身近な素材や用具、道具について調べてくる。
第10回	数量・図形とのかかわりと保育活動	(学修内容) グループで子どもの遊びや生活と数量・図形とのかかわりについてまとめる文字環境としての絵本の役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの身の回りにある数量・図形とのかかわりについて関連する素材を探してくる。
第11回	簡単な標識や文字と保育活動	(学修内容) 子どもにとって標識や文字の扱い方について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 関連する文字教材を探してくる。
第12回	季節による自然の変化に気づく	(学修内容) 季節が変化していることに気づき自然物を使った実践をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 落ち葉やどんぐり、松ぼっくりなどを探してもってくる。自然物を使ったリースづくりに必要なものを考えて準備してくる。
第13回	秋植え野菜の発表準備	(学修内容) 秋植え野菜についてグループで話し合いをする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 秋植え野菜の発表準備の方法をグループで話し合っておく。話し合いのまとめをクラスルームに提出する。
第14回	秋植え野菜の実践発表	(学修内容) 秋植え野菜について実践発表をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 栽培活動の保育活動を想定して指導計画を考える。秋植え野菜の実践発表後の振り返りをまとめて提出する。
第15回	まとめ	(学修内容) 安全な環境づくりと保育の関係性について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業全体を振り返っておく。教科書第8章を読んでおく。

授 業 名	子どもの食と栄養			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2333
英 文 名	Children's Food and Nutrition			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択		
担 当 者	森 久美子・田中 愛佳			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体の成長や生活リズムの形成、健全な心を育み、さらに将来の健康の基礎を築くうえで大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、現代の子どもたちが抱える食に関する問題点について学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する等の目標を達成するために、グループワークや実習等を行う。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解する。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を習得する。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる力を習得する。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	子どもの食と栄養第2版 保育現場で活かせる食の基本 太田百合子, 堤ちはる / 編								
参 考 書	資料を配布する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留意事項	実際の保育における食の問題点を見つけ、現状分析ができるように、新聞等からの情報を調査、収集しておく。授業内で子どもと食に関しての問題点や解決策などについて発表する時間を設ける。								
オフィス アワー	授業初回にアナウンスします。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：私立病院における栄養管理業務を経験。また、地域の健康栄養センターに所属し離乳食教室や親子料理教室、食物アレルギーに関するセミナーなどを実施し、地域住民への実践的管理栄養士業務の経験を有する。</p>								



授業名	子どもの食と栄養	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもの健康と食生活の意義	(学修内容) 子どもの食生活の現状と課題について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第1章1、2を読んでおく 事後: 子どもの食生活における問題点を考えてみよう
第2回	小児の成長と発達	(学修内容) 小児の成長と発達について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第1章3を読んでおく 事後: 成長曲線の書き方を復習する
第3回	栄養素(炭水化物、たんぱく質、脂質)の働き	(学修内容) 三大栄養素の消化と吸収、役割について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第2章1~3を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第4回	栄養素(ビタミン)の働き	(学修内容) ビタミンの役割、欠乏症、過剰症について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第2章3を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第5回	栄養素(ミネラル)の働き	(学修内容) ミネラルの役割、欠乏症、過剰症について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第2章3を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第6回	小児の食事摂取基準、食事バランスガイド	(学修内容) 小児の食事摂取基準、食事バランスガイドについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第3章を読んでおく 事後: 3日分の食事記録を食事バランスガイドを用いて行う
第7回	妊娠期と授乳期の栄養の意義と食生活	(学修内容) 妊娠期と授乳期の栄養について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第4章を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第8回	乳児期の栄養の意義と食生活	(学修内容) 乳汁栄養の方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第5章1を読んでおく 事後: 調乳操作の方法をまとめておく
第9回	離乳期の栄養の意義と食生活	(学修内容) 離乳食の意義と進め方について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第5章2を読んでおく 事後: 離乳食の進め方についてまとめておく
第10回	幼児期の意義と食生活	(学修内容) 幼児食の意義と注意すべき点について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第6章を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第11回	学童期と思春期の食生活	(学修内容) 学童期と思春期の食生活について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第7章を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第12回	小児期の疾病と食生活	(学修内容) 疾病を持つ児の食生活について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第11、12章を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第13回	児童福祉施設の食生活	(学修内容) 児童福祉施設での栄養と食生活 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第10章を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第14回	小児期の食育の必要性	(学修内容) 食育の重要性と方法 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第9章 事後: 自分が受けたことがある食育を振り返る
第15回	まとめ	(学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでの学習内容を復習しておく

授 業 名	教職実践演習（幼稚園）			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2444
英 文 名	Teaching Practice (Kindergarten)			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子・柘植 誠子・柴田 精一・東野 洋子・ 中道 昌宏・坂本 渉			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	教職課程の各授業が実践と結びついていることを確認できる機会をもち、学生が自己の課題を自覚する。幼稚園教育の基本をしっかりと身に付け、「遊びを通しての総合的な指導」を行うための保育実践力を高め、専門性や資質の向上を図る。								
学修成果 到達目標	1) 幼稚園教員として必要な資質について説明することができる。 2) 履修カルテを参照し、自らの課題が認識できる。 3) 領域を基盤とした生活発表会(劇あそび)の行事をグループで企画、実践発表することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク			ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)			グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 (劇遊びの振り返りレポート)			課題発見・解決能力 (補填課題レポート)				
テキスト	なし								
参 考 書	文部科学省編『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートについては授業内でコメントをします。 グループ発表についてはその都度コメントを返します。								
留意事項	教職課程を履修し確実に身につけることができたか確認すること。特にグループ発表は現場での「協働」を意識して積極的に参加、発言すること。								
オフィス アワー	研究室前に掲示して知らせます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：元幼稚園園長：柘植誠子 元幼稚園園長：東野洋子 元小学校教諭、元幼稚園園長：中道昌宏								

授 業 名		教職実践演習（幼稚園）
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	教育実習の振り返り 教職実践演習の授業について	（学修内容）教育実習について振り返り、学びの成果と課題について省察する。教職実践演習の意義と内容について説明する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 9月実習振り返りシートを記入してくる。履修カルテを書き、各自の課題を明確にしておく。
第2回	劇遊び（生活発表会）の意義	（学修内容）劇遊び（生活発表会）の取り組みの意義について理解する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 幼児期に体験した生活発表会を振り返っておく。グループ内で劇に適した題材を話し合っておく。
第3回	劇遊びの取り組み方について	（学修内容）劇発表の題材を決定する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 劇遊びに適した絵本をグループで話し合い選定してくる
第4回	グループ活動1-教材の選択-	（学修内容）グループで話し合い、保育活動（劇遊び）の教材を共有する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 劇発表にとりあげる教材（絵本）を選んでもってくる。劇発表の題材について考えてくる。具体的に必要なものを提出できるように用意する。
第5回	グループ活動2-活動計画の作成-	（学修内容）グループで話し合い、保育活動（劇遊び）の教材を共有し、計画書を作成する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 具体的に必要なものについて書きだし、グループ内での役割を決めておく。
第6回	グループ活動3-配役等の決定-	（学修内容）発表に必要な役割分担、あらすじ、全体構成など準備を行う。各グループで準備を進める。 （事前事後学修課題の内容）（30分） グループ内で決まった各自の分担役割を確認しながら準備を進める。
第7回	グループ活動4-全体の流れの調整-	（学修内容）各グループで話し合い準備をすすめる。（衣装・大道具・小道具を作成）配役、セリフ、音楽など発表の流れを確認する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 発表に向けてグループで準備を行う。配役、セリフ、立ち位置など最終チェックをおこなう。
第8回	グループ発表のリハーサル 1	（学修内容）劇遊びの発表、最終調整を行う。リハーサルを行う。配役、セリフ、音楽など発表の流れを確認する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 各グループで流れをチェックしリハーサルに向けた準備をしておく。アドバイスを受け最終調整を行う。
第9回	グループ発表のリハーサル 2	（学修内容）劇遊びの発表、最終調整を行う。リハーサルを行う。配役、セリフ、音楽など発表の流れを確認する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 各グループで流れをチェックしリハーサルに向けた準備をしておく。アドバイスを受け最終調整を行う。
第10回	劇遊び発表1	（学修内容）遊びの発表をしたり、他の発表を見て、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として劇遊び発表に向けて練習・準備を完了する 復習としてグループの発表評価とコメントをまとめて提出する。
第11回	劇遊び発表2	（学修内容）遊びの発表をしたり、他の発表を見て、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として劇遊び発表に向けて練習・準備を完了する。復習として各グループの発表評価とコメントをまとめて提出する。
第12回	劇遊び発表3	（学修内容）劇遊びの発表をしたり、他の発表を見て、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として劇遊び発表に向けて練習・準備を完了する 復習としてグループの発表評価とコメントをまとめて提出する。
第13回	劇遊び発表4	（学修内容）劇遊びの発表をしたり、他の発表を見て、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 予習として劇遊び発表に向けて練習・準備を完了する 復習としてグループの発表評価とコメントをまとめて提出する。
第14回	幼小連携について - 小学校への滑らかな接続を考える -	（学修内容）幼児教育と小学校教育の接続について学び、子どもが安心して小学校生活をおくるための保育者の役割について考察する。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 幼小連携と幼児期の終わりまでに育って欲しい姿との関連についてレポートを提出する。
第15回	劇遊び発表の総評 履修カルテをもとに自己課題を明確にする	（学修内容）幼児理解を大切にされた日常の保育から生活発表会（劇発表）へつなぐ保育の実際について学ぶ。履修カルテを提出する。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 履修カルテの作成を通して自己課題についてレポートを作成する。

授 業 名	保育者論		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1211
英 文 名	Theory of Child Care Worker		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	保育者の役割と倫理について理解する。保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）の役割・制度的な位置づけを学び、保育職への意欲を高め、子どもとともに生活することを職業として選択する保育職の在り方を自覚し形成することを目的とする。具体的事例を通して実践的に学び、キャリア形成について考える機会とする。							
学修成果 到達目標	1) 保育者の役割と倫理について理解できる。 2) 保育者の職務の全体像を理解できる。 3) 保育者の専門性について理解できる。							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解		汎用的技能				
		態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）	グループワーク ICT活用（自主学習支援）	プレゼンテーション			
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( 振り返りレポート )	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )	
テキスト	大沢裕、高橋弥生編著『幼児教育方法論』（2022）一藝社							
参 考 書	文部科学省編『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針』フレーベル館 文部科学省・厚生労働省、内閣府編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館							
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートや課題については授業内でコメントをします。							
留意事項	子どもに関する時事問題や保育に関する動きなど新聞や保育雑誌などから常に理解しておく。							
オフィス アワー	担当授業終了後に対応する（変更の場合は、研究室に日時を貼付する。）							
実践的教育								

授業名	保育者論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の概要及び到達目標を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 春学期の履修内容を振り返っておく。「保育者とは」について説明できるようにまとめる。
第2回	「保育」の仕事とは	(学修内容) 「保育者」の言葉や役割の概念について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 幼稚園教諭、保育士、保育教諭の違いについてまとめる
第3回	保育者に求められる姿勢や態度(言語表現)	(学修内容) 保育者に求められる姿勢や態度についてディスカッションする。話しことばと書き言葉の違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 憧れの保育者像について考えてくる
第4回	保育者の役割	(学修内容) 保育者の仕事について理解する。幼稚園や保育所における保育者の役割(職務・要件・職務内容)を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「保育者らしい立ち居振る舞い」という意味についてレポートにまとめ提出する
第5回	保育者に求められる倫理	(学修内容) 保育者の倫理について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 「全国保育士会倫理綱領」についてインターネットで調べてくる。
第6回	保育者に求められる人間性	(学修内容) 保育者に必要とされる資質について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育者に求められる人間性について考えてくる。「バナナくん体操」を練習しておく。
第7回	保育者の制度的位置づけ	(学修内容) 保育士資格、幼稚園教諭免許、保育教諭の法的な根拠について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) グループで話し合っ「バナナくん体操」の体系を考え練習しておく
第8回	保育者の専門性(1) 専門性とは何か	(学修内容) 専門性を理解し自分自身の強みを考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 保育所保育指針に示された資質・能力に関する部分を書き出してくる。
第9回	保育者の専門性(2) PDCA	(学修内容) PDCAについて保育実践を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表後の振り返りをレポートにまとめて提出する。
第10回	保育者の専門性(3) 幼児教育で育みたい資質・能力	(学修内容) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と5領域との関連について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の関連部分を読んでくる。
第11回	小テスト DVD視聴	(学修内容) 保育に関する基本事項の小テストをする。DVD視聴を通して保育者の役割の理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 小テストに向けて準備をする。
第12回	保育者の連携・協働	(学修内容) 職員間の連携について、グループ活動を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) グループで行事活動を考え計画し発表準備をする。
第13回	グループ発表1	(学修内容) グループで行事活動を考え計画し発表する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) グループ発表について振り返りレポートを作成し提出する。
第14回	グループ発表2	(学修内容) グループで行事活動を考え計画し発表する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) グループ発表について振り返りレポートを作成し提出する。
第15回	まとめ 保育者としての自分について考える	(学修内容) 授業の振り返り、自分自身の保育観、キャリア形成について考える (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの授業で学んだことを振り返っておく

授 業 名	保育の心理学			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1201
英 文 名	Child Care Psychology			開講 時期	春学期	必修 選択	必修 選択		
担 当 者	渋谷 郁子			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>幼児期を中心とした子どもの諸領域における発達および学習の様相を知り、人との相互的にかかわりの重要性を理解して、保育・教育実践に応用する力を身につけることを目的とする。授業の中では、人間の生涯にわたる発達のメカニズムと変化のプロセスについて学ぶ。また、その基盤となる乳幼児期の重要性を理解する。身体、知覚、感情、思考、社会性などの諸領域の発達とその連関について学び、子どもたちの発達を支える保育・教育実践について考察を行う。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 幼児期を中心とした子どもの発達および学習の過程について説明することができる。 2) 人との相互的関わりの重要性を理解し、保育・教育の実践に応用することができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	テキストは使用しない。授業内で資料を配布する。								
参 考 書	適宜、授業内で紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	受講者のコメントや質問などを取り上げ、回答する。								
留意事項	都度、復習を行い、基本的な心理用語や理論を覚えること。毎回、確認テストを実施します。								
オフィス アワー	初回授業時に伝える。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：教育、福祉機関でカウンセラーとして勤務								

授業名	保育の心理学	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：人間とはどのような存在か	(学修内容)人間とはどのような存在か改めて考える。子ども理解における発達心理学の重要性や、生涯発達の観点や発達の原理について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 自分自身の幼少期の保育経験や子どもとかわった経験について思い出す。
第2回	発達は何によって決まるか	(学修内容)遺伝と環境が発達に及ぼす影響を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 自分の成長・発達過程を振り返り、特徴的なエピソードなどを家族から聞き取る。
第3回	身体的機能と運動機能の発達	(学修内容)新生児期～幼児期における発達のメカニズム(法則性・順序性)や、身体の成長、粗大・微細運動の発達過程を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 自分の成長・発達過程を振り返り、特徴的なエピソードなどを家族から聞き取る。
第4回	知覚・認知の発達	(学修内容)乳幼児期の感覚・知覚機能の発達および感覚・知覚機能と認知過程の関連を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 人間の思考の原点となる感覚・知覚機能について考えを整理する。
第5回	思考の発達	(学修内容)ピアジェの発達理論について学び、発達とともに思考が深まる過程を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 同化と調節について、具体例を考える。
第6回	言葉の発達	(学修内容)人間の言葉の機能や特徴を理解し、言葉の発達過程を概観する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 自分の言葉の発達はどうだったか、家族から聞き取る。
第7回	社会情動的な発達	(学修内容)社会情動的発達を理解し、情動を制御する力について感情の発達と合わせて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 自分の情動を制御する力はいつ頃から育ってきたか、自分の成長を振り返る。
第8回	仲間関係の発達	(学修内容)仲間関係の変化を、遊びの形態の変化と共に理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 仲間関係を支える保育者の役割について考える。
第9回	他者理解と自己理解	(学修内容)仲間関係の中で他者理解や自己理解が深まっていく過程を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 自分の友達との付き合い方を振り返る。
第10回	道徳性の発達	(学修内容)善悪の理解や道徳的判断の発達を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 思いやりのある子どもを育てるにはどうすればよいか、保育者の関わり方を考える。
第11回	社会性の発達	(学修内容)生涯にわたる人間の心理・社会的発達を概観する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 自分の家族について年表を作成する。
第12回	学習と発達	(学修内容)条件づけや観察学習など、「学び」の基本的な原理を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) さまざまな学習の具体例を考える。
第13回	動機づけと子どもの学び	(学修内容)学びの原動力になる「やる気」について、動機づけのメカニズムを理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) やる気の出るとき、出ないときについて、自分自身の行動を振り返る。
第14回	子どもの主体性と学び	(学修内容)子どもの主体的な学びを引き出す関わりについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 保育における足場作りの具体例を考える。
第15回	子ども理解に基づいた保育のあり方	(学修内容)保育における子ども理解のための方法(観察、記録など)について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 15回の授業を振り返り、自分の学びを評価する。

授 業 名	社会的養護			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1214
英 文 名	Principles of Corporate Parenting			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	芹澤 出			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>子どもは家庭で養育されることが望ましいが、事情により家庭だけで子育てを行うことが出来ない場合があり、家庭を離れて施設等で生活をしたりすることがある。本科目では、社会的養育や社会的養護について理解した上で、社会的養護を担う里親や施設の目的と機能を理解し、児童の正常な成長・発達を保证するために必要な環境や支援について学ぶ。</p>								
学修成果 到達目標	<p>児童の権利保障について理解する  社会的養護の里親や施設について理解する  社会的養護における児童の正常な成長・発達を保证するための知識、技術について理解する  社会的養護施設の運営・管理、児童養護における今後の課題について理解する。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (80%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	<p>テキスト 新 保育士養成講座 第5巻 社会的養護と障害児 新 保育士養成講座編纂委員会 / 編 全国社会福祉協議会  プリントを配布して授業を行う</p>								
参 考 書	<p>社会的養護の課題と将来像の実現に向けて  <a href="http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/syakaiteki_yougo/dl/yougo_genjou_02.pdf">http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/syakaiteki_yougo/dl/yougo_genjou_02.pdf</a>  新しい社会的養育ビジョン  <a href="http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000173206.pdf">http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000173206.pdf</a>  児童福祉法、児童虐待防止法</p>								
課題に対する フィードバック の方法	授業内で実施する視覚教材について質問時間を設け解説を行う								
留意事項	授業で話す事例や視聴する映像教材の内容も試験の範囲となる								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：社会的養護施設である母子生活支援施設に30年以上勤務する現役施設長</p>								



授業名	社会的養護	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業概要の理解	(学修内容) 授業概要とシラバスの理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にシラバスを読んでおくこと
第2回	第1章 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷	(学修内容) 社会の変化と社会的養護の関係の理解 社会的養護の基本原則の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子ども関連のニュースなどを関心をもって見る 教科書P9～P20
第3回	第2章 社会的養護の基本	(学修内容) 子どもの権利と社会的養護の基本原則の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの権利条約を確認しておく 教科書P23～P37
第4回	第3章 社会的養護の基本原則 1.社会的養護の制度と法体系	(学修内容) 児童福祉法と児童虐待防止法の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童福祉法と児童虐待防止法を確認しておく 教科書P41～P44
第5回	第3章 社会的養護の基本原則 2.社会的養護の仕組みと実施体系 児童相談所や福祉事務所等の理解	(学修内容) 講義後視覚教材を見て、質問、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童相談所や福祉事務所機能について確認しておく 教科書P46～P50
第6回	第3章 社会的養護の基本原則 3.社会的養護の対象 4.家庭養護と施設養護	(学修内容) 児童虐待やDVが発生する背景と子どもへの影響の理解 家庭養護と施設養護(家庭的養護)の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童虐待やDVと家庭養護と家庭的養護について調べておく 教科書P54～P64
第7回	第3章 社会的養護の基本原則 4.家庭養護と施設養護 (里親制度)	(学修内容) 講義後視覚教材を見て、質問、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 里親制度について調べておく 教科書P54～P64
第8回	第3章 社会的養護の基本原則 4.家庭養護と施設養護 (乳児院)	(学修内容) 講義後視覚教材を見て、質問、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 乳児院についてしらべておく 教科書P54～P64
第9回	第3章 社会的養護の基本原則 4.家庭養護と施設養護 (母子生活支援施設)	(学修内容) 講義後視覚教材を見て、質問、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 母子生活支援施設について調べておく 教科書P54～P64
第10回	第3章 社会的養護の基本原則 4.家庭養護と施設養護 (児童養護施設・地域小規模児童養護施設)	(学修内容) 講義後視覚教材を見て、質問、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童養護施設と地域小規模児童養護施設について調べておく 教科書P54～P64
第11回	第3章 社会的養護の基本原則 4.家庭養護と施設養護 (児童心理治療施設)	(学修内容) 講義後視覚教材を見て、質問、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童心理治療施設について調べておく 教科書P54～P64
第12回	第3章 社会的養護の基本原則 4.家庭養護と施設養護 (児童自立支援施設、自立援助ホーム)	(学修内容) 講義後視覚教材を見て、質問、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童自立支援施設と自立援助ホームについて調べておく 教科書P54～P64
第13回	第4章 社会的養護の内容 社会的養護における子どもの理解	(学修内容) 様々な課題を抱えた子どもと支援の理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 日常生活支援、治療的支援、自立支援について調べておく 教科書P67～P82
第14回	第5章 社会的養護の実際 社会的養護の子どもの理解 第6章 社会的養護の現状と課題 障害児保育の基本的内容	(学修内容) アセスメントと自立支援計画についての理解 (事前事後学修課題の内容) (30分) 支援記録、アセスメント、支援計画について調べておく 教科書P89～P116
第15回	授業の振り返り	(学修内容) 授業の振り返りとテスト範囲の説明 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまで授業内容を復習しておく

授 業 名	保育の計画と評価			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2322
英 文 名	Child Care Planning and Assessment			開講 時期	春学期	必修 選択		選択	
担 当 者	柘植 誠子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>1)保育所・幼稚園・認定こども園における全体的な計画や教育課程について理解する。  2)各々の指針、要領に基づいて保育の計画を作成する上での留意点を踏まえ、子どもの発達過程に即した指導計画や保育者の根拠のある言葉かけを意識した指導計画を主体的に作成する。  3)幼児教育現場で求められる保育の質の向上に必要なスキル（PDCAサイクルを用いた指導計画）を学び、保育の実践力の基礎を学ぶ。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1)保育所・幼稚園・認定こども園における保育の目的と目標、計画と評価の意義を理解することができる。  2)カリキュラムマネジメントについて学び、子どもたちの発達、成長に即した指導計画の立て方を理解することができる。  3)乳児、3歳未満児、3歳以上児の長期的・短期的指導計画について学び、見直しをもって指導案を作成することができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	<p>松本峰雄監修 『よくわかる保育士エクササイズ6 保育の計画と評価演習ブック』 ミネルヴァ書房 2021年2版  柘植誠子他4名著 『子どもの心に届く言葉かけ - 保育の内容とその方法 - 』 ミネルヴァ書房 2017年</p>								
参 考 書	<p>『保育所保育指針』（最新版）  『幼稚園教育要領』（最新版）  『認定こども園 保育教育要領』（最新版）</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>定期的に指導計画を作成します。  助言が必要な場合はその都度、講義内で説明します。</p>								
留意事項	<p>・課題については期日を厳守すること。  ・毎回、講義終了時に振り返りを実施するので必ず毎回の学びを振り返ることができるよう主体的に受講すること。</p>								
オフィス アワー	初回の授業でアナウンスします。								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：公立幼稚園教諭、教育委員会主任主事として勤務</p>								

授 業 名	保育の計画と評価	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	保育の目標と計画の考え方	(学修内容)「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」・「認定こども園 保育教育要領」の概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) のテキスト第1章1コマ目を読んでおく。 のテキスト第1章「朝の出会い」を読んでおく。
第2回	保育におけるカリキュラムについて	(学修内容)保育におけるカリキュラムの考え方を理解し、全体的な計画と指導計画について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) のテキスト第1章2コマ目を読んでおく。 のテキスト第2章「朝の準備」を読んでおく。
第3回	保育の計画	(学修内容)保育所の指導計画と幼稚園の教育課程の共通性と違いを学び、全体的な計画と指導計画について理解を深める。さまざまな計画内容を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) のテキスト第2章4コマ目を読んでおく。 のテキスト第3章「好きな遊び」を読んでおく。
第4回	長期的な指導計画の作成(3歳以上児)	(学修内容)3,4,5歳児の長期的な指導計画について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) のテキスト第2章6コマ目を読んでおく。 のテキスト第4章「片付け」を読んでおく。
第5回	短期的な指導計画の作成(3歳以上児)	(学修内容)3,4,5歳児の短期的な指導計画について学ぶ。 (週案、日案、部分指導計画などに) (事前事後学修課題の内容)(20分) のテキスト第2章8コマ目を読んでおく。 のテキスト第5章「排泄」を読んでおく。
第6回	指導計画作成上の留意事項(3歳以上児)	(学修内容)3,4,5歳児の指導計画の作成の留意点や年齢にふさわしい言葉かけをおさえながら計画を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) のテキスト第2章10コマ目を読んでおく。 のテキスト第6章「手洗い」を読んでおく。
第7回	指導作成上の留意事項(異年齢)	(学修内容)異年齢保育(縦割り保育)について理解を深め、指導計画の作成の留意点を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) のテキスト第2章11コマ目を読んでおく。 のテキスト第7章「クラスでの活動」を読んでおく。
第8回	子ども理解に基づくPDCAサイクルについて	(学修内容)保育の計画の際に必要なPDCAサイクルについて理解を深め、個別の支援計画にどのように活用していくのかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) のテキスト第1章3コマ目を読んでおく。 のテキスト第8章「昼食」を読んでおく。
第9回	長期的な指導計画の作成(0.1.2歳児)	(学修内容)0,1,2歳児の長期的な指導計画について学ぶ 乳児保育に必要な指導計画(保健・食育など)について理解する (事前事後学修課題の内容)(20分) のテキスト第2章5コマ目を読んでおく。 のテキスト第9章「午睡」を読んでおく。
第10回	短期的な指導計画の作成(0.1.2歳児)	(学修内容)0,1,2歳児の短期的な指導計画について学ぶ。 (個別の指導計画・週案・日案・部分指導計画など) (事前事後学修課題の内容)(20分) のテキスト第2章7コマ目を読んでおく。 のテキスト第10章「おやつ」を読んでおく。
第11回	指導作成上の留意事項(0.1.2歳児)	(学修内容)個人差を理解し、3歳未満児の指導計画の作成の留意点や年齢にふさわしい言葉かけをおさえながら計画を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) のテキスト第2章9コマ目を読んでおく。 のテキスト第11章「降園の準備」を読んでおく。
第12回	指導計画に基づく保育の柔軟な展開の必要性	(学修内容)指導計画作成時に保育を柔軟に展開できるように見通しをもつ必要性などを視聴覚教材から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) のテキスト第2章12コマ目を読んでおく。 のテキスト第12章「降園」を読んでおく。
第13回	保育の記録と省察	(学修内容)保育におけるさまざまな記録について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) のテキスト第3章13コマ目を読んでおく。
第14回	保育所児童保育要録	(学修内容)小学校との円滑な引継ぎに必要な保育所児童保育要録について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) のテキスト第3章15コマ目を読んでおく。
第15回	保育の評価と改善	(学修内容)保育内容に加えて、保育所など施設全体における評価について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) テキスト第3章14コマ目を読んでおく。

授 業 名	社会的養護			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2323
英 文 名	Social Corporate Parenting			開講 時期	春学期	必修 選択		選択	
担 当 者	箱田 成司			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	社会的養護 では、児童の環境についてを中心に勉強を行い、児童虐待の親の心理、また、児童養護施設の入所児童の4割が何かしらの障がいがあると言われていた時代に突入している。そういった、障がいについての理解も含めながら、社会的養護の理解を深めていきたい。また、授業は、毎回レポート方式として行う予定である。								
学修成果 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童を取り巻く、環境や保護者の理解をする。</li> <li>・社会的用語が必要な児童や障がいのある子児童の理解をする。</li> <li>・里親や自立援助ホームなど社会的養護の今の現状を理解をする。</li> </ul>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (80%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	『社会的養護演習』安藤和彦 石田慎二 山川宏和 編 建帛社								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	講義の時にその都度、対応する。								
留意事項	視聴する映像素材などもすべて試験の範囲となる。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	社会的養護	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 社会的養護の課題	(学修内容) 社会的養護の課題と施設実習を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設実習を振り返っておく。
第2回	社会的養護を必要とする子どもの理解	(学修内容) 社会的養護が必要な子どもが存在する理由について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 施設実習を振り返ったり、また、児童養護施設や乳児院に行っていない方は、入った人に聞く。
第3回	児童養護施設の入所理由について1	(学修内容) 虐待が起こる原因を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 虐待について学んでおく。
第4回	社会的養護の入所理由について2	(学修内容) 親の精神疾患について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 精神疾患について学んでおく。
第5回	家庭支援のソーシャルワーク	(学修内容) 親子関係のプログラムについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書の第12章を読んでおく。
第6回	障がいがある児童の社会的養護	(学修内容) 障がい児福祉サービスについて。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 障がい児の福祉サービスについて学んでおく。
第7回	障がいがある児童の特徴と対応について1	(学修内容) 知的障がいについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 知的障がいについて調べておく。
第8回	障がいがある児童の特徴と対応について2	(学修内容) 発達障がいについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発達障がいについて調べておく。
第9回	障がいがある児童の特徴と対応について3	(学修内容) 身体障がいについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 身体障がいについて理解する。
第10回	障がい児の個別支援計画について	(学修内容) 個別支援計画の作成について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書5章を読んでおく。
第11回	児童の生活に支援について	(学修内容) 入所児童のライフサイクルについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の生活について考えておく。
第12回	児童の自立支援について	(学修内容) 自立に向けた支援について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 高校生の時のライフサイクルを考える。
第13回	児童養護施設以外の社会的養護について	(学修内容) 里親や自立援助ホームについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 里親制度について理解しておく。
第14回	児童相談所について	(学修内容) 児童相談所の業務の理解をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 児童相談所について学んでおく。
第15回	これからの社会と児童について	(学修内容) 子どもに関わる社会問題について理解をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 関心を持っているニュースを見る。

授 業 名	健康と生涯スポーツ			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1404
英 文 名	Health and Lifelong Sports I			開講 時期	春学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	吉永 有佳			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	受講者全員に体力測定を実施する。講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深める。実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により、生涯にわたり日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。								
学修成果 到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を習得し、生涯スポーツにつなげる事できる 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理することができる 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育み、積極的に参加できる								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	使用しない								
参 考 書	『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修 (杏林書院)								
課題に対する フィードバック の方法	授業後に質問を受け付け、次回の授業で解説を行う。また、必要に応じて個別に対応をする。実技テスト及び授業後に小レポートを行う。								
留意事項	必要に応じてプリントを配布する。体操服と体育館シューズを必ず持参すること。								
オフィス アワー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実践的教育									

授業名	健康と生涯スポーツ	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容)本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと
第2回	アイスブレイキング	(学修内容)コミュニケーションを目的としたレクリエーション (事前事後学修課題の内容)(60分) アイスブレイキングについて具体的に調べ、レポートにまとめて提出する。
第3回	ソフトバレーボール1 「ボールに慣れる」	(学修内容)基本技術の習得・ルールの理解 (事前事後学修課題の内容)(60分) ソフトバレーボールのルールを調べ、レポートにまとめて提出する。
第4回	ソフトバレーボール2 「サーブ練習後に試合を行う」	(学修内容)基本技術の習得・ソフトバレーボールの試合 チームで課題を見つけるグループワーク (事前事後学修課題の内容)(30分) ソフトバレーボールの特徴を調べ、レポートにまとめて提出する。
第5回	ソフトバレーボール3 「パス練習後に試合を行う」	(学修内容)基本技術の習得・ソフトバレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容)(30分) ソフトバレーボールの戦術について具体的に調べ、レポートにまとめて提出する。
第6回	ソフトバレーボール4 「試合」	(学修内容)ソフトバレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回の試合を思いだし、自分達に必要な戦術を具体的にレポートにまとめて提出する。
第7回	講義 健康と体力について	(学修内容)健康と体力について (事前事後学修課題の内容)(60分) 健康について調べ、レポートにまとめて提出する。
第8回	体力測定1	(学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(60分) 体力テストについて具体的に調べてまとめ提出
第9回	体力測定2	(学修内容)文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容)(30分) 体力テストについて具体的に調べてまとめ提出
第10回	講義 体力評価と運動時の注意点	(学修内容)体力評価を行う。運動時の注意事項 (事前事後学修課題の内容)(60分) 体力測定について振り返りをし、評価の仕方について調べて、レポートに提出する
第11回	バドミントン1 サーブ等練習を行う	(学修内容)基本技術の習得・バドミントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンのルールを具体的に調べて、レポートにまとめて提出する。
第12回	バドミントン2 試合を行う	(学修内容)バドミントンの試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) バドミントンの戦術について具体的に調べて、レポートにまとめて提出する。
第13回	卓球1 サーブ等、練習を行う	(学修内容)基本技術の習得・卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(60分) 卓球のルールを具体的に調べてする。、レポートにまとめて提出する。
第14回	卓球2 試合を行う	(学修内容)卓球の試合 (事前事後学修課題の内容)(30分) 卓球の戦術について具体的に調べて、レポートにまとめて提出する。
第15回	まとめ	(学修内容)レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容)(80分) 講義内容を振り返り、レポートにまとめて提出する。

授 業 名	健康と生涯スポーツ			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1414
英 文 名	Health and Lifelong Sports			開講 時期	秋学期	必修 選択		選択	
担 当 者	吉永 有佳			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	本講では、運動が身体にどのような影響を及ぼすかを学習し、学生個人の健康についての理解を各種スポーツの実践を通して深める。								
学修成果 到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を高めることができる 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養・性的見識を高め自己管理することができる 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップを育み、積極的に参加できる								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	使用しない								
参 考 書	『健康・スポーツ科学講義』出村慎一監修 ( 杏林書院 )								
課題に対する フィードバック の方法	授業後に質問を受け、次回の授業で解説を行う。また、必要に応じて個別対応を行う。								
留意事項	必要に応じてプリントを配布する。体操服と体育館シューズを必ず持参すること。								
オフィス アワー	授業終了後体育準備室で実施する。								
実践的教育									



授業名	健康と生涯スポーツ	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容) 本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認しておく
第2回	講義 「性について(妊娠)」	(学修内容) 性(妊娠)について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 性(妊娠)について学び、考えをレポートにまとめて提出する。
第3回	講義 「性について(出産・不妊治療)」	(学修内容) 性(出産・不妊治療)について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 性について学び、考えをレポートにまとめて提出する。
第4回	バレーボール 基礎練習「ボール慣れとサーブ」	(学修内容) 基本技術の習得・ルールの理解・バレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容) (60分) バレーボールのルールを具体的に調べ、レポートにまとめて提出する。
第5回	バレーボール 基礎練習「アンダーハンドパスとオーバーハンドパス」	(学修内容) 基本技術の習得・バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) バレーボールのルールの復習を行い、楽しむ工夫を考え、レポートにまとめて提出する。
第6回	バレーボール 基礎練習「ネットをはさんでパス練習」	(学修内容) バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容) (30分) バレーボールの戦術について調べ、レポートにまとめて提出する。
第7回	バレーボール 試合	(学修内容) バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容) (30分) バレーボールの戦術について、自分たちに必要な戦術をしらべ、具体的にレポートにまとめて提出する。
第8回	バドミントン 基礎練習「サーブ」	(学修内容) 基本技術の習得・バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容) (60分) バドミンントンのルールを具体的に調べて、レポートにまとめて提出する。
第9回	バドミントン 基礎練習「クリア」	(学修内容) バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容) (30分) バドミンントンの戦術について具体的に調べて、レポートにまとめる提出する。
第10回	バドミントン 試合	(学修内容) バドミンントンの試合 (事前事後学修課題の内容) (30分) バドミンントンの戦術について具体的に調べて、レポートにまとめて提出する。
第11回	バスケットボール 基礎練習「ボール慣れ」	(学修内容) 基本技術の習得・ルールの理解・バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容) (60分) バスケットボールのルールを具体的に調べて、レポートにまとめて提出する。
第12回	バスケットボール 基礎練習「パス」	(学修内容) 基本技術の習得・バスケットボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容) (30分) バスケットボールのルールの復習し、楽しむためのルール変更を考え、レポートまとめて提出する。
第13回	バスケットボール 基礎練習「シュート」	(学修内容) バスケットボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容) (30分) バスケットボールの戦術について調べて、レポートにまとめて提出する。
第14回	バスケットボール 試合	(学修内容) バスケットボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容) (30分) バスケットボールの戦術について、自分たちに必要な戦術を具体的に調べてレポートにまとめて提出する。
第15回	まとめ	(学修内容) レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容) (80分) 授業内容を振り返り、レポートにまとめて提出する。

授 業 名	保育英語コミュニケーション			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2425
英 文 名	Child Care English I			開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	早瀬 和栄			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	演習形式の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力の基礎をバランスよく習得します。予習をしていることを前提にテキストを進めます。また、専門領域に関連する教材や、異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れます。保育英語に特化した授業を行います。毎回の授業で、グループワークを取り入れます。								
学修成果 到達目標	1) 英語基本5文型を中心とした基本的知識を身につけることができる。 2) 自身のことについて伝えることができる。 3) 平易な英語絵本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )		プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )			
テキスト	『保育英語』 赤松直子 (成美堂)								
参 考 書	保育英語検定受験予定の者は各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し、学習に取り組むことが望ましい。 『保育英語検定3級テキスト(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2000円 『保育英語検定2級テキスト(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2000円 『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著、1400円 『保育英語ワークブック(保育英語検定2級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著、1400円								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートについては、コメントを付けて返却します。								
留意事項	本授業では定期試験を実施する。 5回以上の欠席は認めないが、正当な理由がある場合は考慮しますので、必ず報告すること。 授業には辞書を必ず持参すること。 授業の進み具合によって授業計画は前後することがあります。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名		保育英語コミュニケーション
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介 (事前事後学修課題の内容) (15分) 本授業のシラバスを読む
第2回	英語でエッセイを読む	(学修内容) 多読のすすめ 英語でエッセイを読む (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 6-8の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第3回	Chapter 1 こどもの園保育園	(学修内容) 保育で使う英語表現、リスニング問題 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 9-11の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第4回	Chapter 1 来月、実習が始まります	(学修内容) 登園時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 12-14の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第5回	Chapter 2 実習初日	(学修内容) 教室内で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 15-17の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第6回	Chapter 2 実習生の加藤えみです。	(学修内容) 挨拶で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 18-20の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第7回	Chapter 3 さあ、出かけましょう!	(学修内容) 園庭で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 21-23の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第8回	Chapter 3 いいお天気ね	(学修内容) 言葉遊び・アナグラム (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 24-26の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第9回	Chapter 4 バシャバシャ水しぶき	(学修内容) 水泳の時間に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 27-29の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第10回	Chapter 4 オリンピック選手みたい	(学修内容) 着替えの時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 30-32の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第11回	Chapter 5 ホットケーキの日	(学修内容) 料理のときに使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 33-35の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第12回	Chapter 5 おいしい、おいしい、おいしいよ	(学修内容) 食事の時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 36-38の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第13回	Chapter 6 本を読んで、お話を聞かせて	(学修内容) 読み聞かせのときに使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 39-41の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第14回	Chapter 6 今日は何のお話?	(学修内容) こども絵本について (事前事後学修課題の内容) (60分) pp. 42-44の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第15回	テキストの総復習	(学修内容) 日常表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストの見直し

授 業 名	保育英語コミュニケーション			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2443
英 文 名	Child Care English			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	早瀬 和栄			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	保育英語コミュニケーション に続き、演習形式の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力の基礎をバランスよく習得します。予習をしていることを前提にテキストを進めます。また、専門領域に関連する教材や、異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れます。グループワークやプレゼンテーションを実践します。								
学修成果 到達目標	1) 会話や多読に必要な文法の基礎を身につけることができる。 2) 身近なトピックについて、簡単な単語を用いて意見を伝えることができる。 3) 平易な英語本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )		プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )			
テキスト	『保育英語』 赤松直子(成美堂)								
参 考 書	保育英語検定受験予定の者は、各自の英語力に応じたテキスト・問題集を購入し、学習に取り組むことが望ましい。 『保育英語検定テキスト3級(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2000円 『保育英語検定テキスト2級(改訂版)』社団法人保育英語検定協会著(本の泉社)、2000円 『保育英語ワークブック(保育英語検定3級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著 1400円 『保育英語ワークブック(保育英語検定2級問題集)』社団法人 国際子育て支援機構著 1400円								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートについては、コメントを付けて返却します。								
留意事項	本授業では定期試験を実施する。 6回以上の欠席は認めないが、正当な理由がある場合は考慮しますので、必ず報告すること。 授業には辞書を必ず持参すること。 授業の進み具合によっては、授業計画は前後することがあります。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名		保育英語コミュニケーション
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 保育英語について考える。 (事前事後学修課題の内容) (15分) シラバスを読む。 pp.42-44の予習、英作文の練習問題をしておく。
第2回	Chapter 7 すいかで遊ぼう	(学修内容) 行事で使う英語表現。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.45-47の予習、英作文の練習問題をしておく。
第3回	Chapter 7 おなかですいかが大きくなるよ	(学修内容) グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.48-50の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第4回	Chapter 8 お誕生日おめでとう	(学修内容) お誕生日会で使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.51-53の予習、英作文の練習問題をしておく。
第5回	Chapter 8 スターが生まれました	(学修内容) 招待状を作成するときに使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.54-56の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第6回	Chapter 9 子どもと遊び	(学修内容) 子どもと遊ぶ時に使う英語表現、プレゼンテーションの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.57-59の予習、英作文の練習問題をしておく。
第7回	Chapter 9 マーク君、やった!	(学修内容) 感情をあらわす英語表現、ペアワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.60-62の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第8回	Chapter 10 赤ちゃんニュース	(学修内容) 赤ちゃんを保育するときに使う英語表現、グループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.63-65の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第9回	Chapter 10 おむつ交換をしてもよろしいですか?	(学修内容) 赤ちゃんへの語りかけに使う英語表現とグループワークの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.66-68の予習、英作文の練習問題をしておく。
第10回	Chapter 11 歯の妖精	(学修内容) 歯磨きを指導するときに使う英語表現とプレゼンテーションの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.69-71の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第11回	Chapter 11 妖精の物語	(学修内容) 乳児室で使う英語表現。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.72-74の予習、英作文の練習問題をしておく。
第12回	Chapter 12 緑の目の魔女	(学修内容) 演劇会での英語表現、プレゼンテーションの実践。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.75-77の予習、わからない単語は辞書で調べておく。
第13回	Chapter 12 どの魔女がどの時計を見たの?	(学修内容) お楽しみ会での英語表現。 (事前事後学修課題の内容) (60分) pp.78-80の文法説明を読んでおく。
第14回	テキスト総復習 (1)	(学修内容) テキストの文法問題の復習。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト文法問題の見直し。
第15回	テキスト総復習 (2)	(学修内容) 日常で使える英語表現。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト英作文の見直し。

授 業 名	幼児と言葉		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1202
英 文 名	Infants and Language		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	坂本 渉		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	領域「言葉」の指導の基盤となる、子どもが豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。具体的には、「言葉」の意義と機能について理解した上で、子どもの言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。							
学修成果 到達目標	1) 人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、説明できる。 2) 乳幼児の言葉の発達過程について理解し、実際の場面を想定して説明できる。 3) 幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、児童文化財について、基礎的な知識、実践力を身につける。							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学习支援)		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (	
テキスト	テキスト無 適宜、プリントを配布する。							
参 考 書	『幼稚園教育要領解説』平成30年3月 フレーベル館 『保育所保育指針解説』平成30年3月 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』平成30年3月 フレーベル館							
課題に対する フィードバック の方法	課題のフィードバックは、次の授業内で解説する。また、実践の振り返りについては適宜、助言、個別にコメントをつけ返却する。							
留意事項	学修の振り返りのために授業時はメモを取り、授業を通しての学びをまとめるようにしてください。また、配布プリントや資料も整理しておくこと。							
オフィス アワー	事前にアポイントを取ってください。適宜実施します。							
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：学校法人今川学園木の実幼稚園主任教諭、すずらん台福祉会すずらんキッズ保育園・西鈴どんぐり園施設長として勤務。							

授業名	幼児と言葉	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション/「言葉」に関するエピソード	(学修内容) 授業のねらいや概要の説明を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認し、講義の概要について理解する。
第2回	人間にとっての「言葉」とは - 言葉の機能を考える -	(学修内容) 「言葉」の意義と役割について理解する。(ディスカッション) (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の言葉の体験について振り返り、言葉の役割についてまとめる。
第3回	言葉の育つみちすじと保育者のかかわり 言葉の前の言葉(0歳児)	(学修内容) 言葉を話す前(0歳児)の言葉の育つみちすじや特徴、保育者のかかわりについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 乳児が泣いている時、笑った時、指差しをした時等保育者としてどのようなかわればよいかを考え、まとめる。
第4回	言葉の育つみちすじと保育者のかかわり 言葉を話せるようになってから(1・2歳児)	(学修内容) 言葉が話せるようになってから(1・2歳児)の言葉の育つみちすじや特徴、保育者のかかわりについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 1・2歳児の子どもが話す言葉、幼児語の特徴をまとめる。
第5回	言葉の育つ道筋と保育者のかかわり 3・4歳児の言葉	(学修内容) 3・4歳児の言葉の育つみちすじや特徴、保育者のかかわりについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 3・4歳児の成長発達過程を調べ、まとめる。
第6回	言葉の育つ道筋と保育者のかかわり 5歳児・1年生の言葉	(学修内容) 5歳児の言葉の育つ道筋や特徴、保育者のかかわりについて学び、小学校接続期へ発展することを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 5歳児の成長発達過程を調べ、まとめる。小学校学習指導要領「国語科」のつながりについてまとめる。(60分)
第7回	言葉の感覚を豊かにする保育実践 言葉の楽しさ・面白さに触れる	(学修内容) 言葉遊びの種類や意義、言葉遊びを通して乳幼児の言葉への関わりについて学ぶ。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の言葉遊び体験を振り返るとともに、言葉遊びに関して調べ、基礎知識及び疑問点を整理しておく。
第8回	言葉の感覚を豊かにする保育実践 言葉の美しさ・豊かさに触れる	(学修内容) 保育現場で活用されているわらべうたを題材に、わらべうたの種類や特徴などの基礎知識を学ぶ。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 言葉を育む「わらべ歌」を調べ、歌ったり手遊びができるようにする。
第9回	言葉と児童文化財 - 児童文化財とは何か、さまざまな児童文化財 -	(学修内容) 子どもにとっての児童文化財の意義、歴史、実際(種類、保育への取り入れ方など)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 保育現場で活用されるさまざまな児童文化財について調べ、基礎知識及び疑問点を整理しておく。
第10回	子どもの言葉を育む児童文化財(1)絵本 絵本とは	(学修内容) 絵本の種類や読み聞かせの方法など基礎知識について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 絵本に関して下調べし、知識及び疑問点を整理しておく。
第11回	子どもの言葉を育む児童文化財(1)絵本 幼児の発達段階と絵本選び	(学修内容) 絵本のジャンルや、発達過程に応じた選書のありかたなどについて学び、読み聞かせの意義について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 絵本の選び方の知識、読み聞かせに必要な技能について整理し、絵本選びをする。
第12回	子どもの言葉を育む児童文化財(1)絵本 読み聞かせ演習	(学修内容) 絵本読み聞かせの実演演習と振り返り(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 自身の読み聞かせ動画と「読み聞かせ評価表」を照らし合わせ、自己評価を行うとともに自己課題を整理する。
第13回	子どもの言葉を育む児童文化財(2)紙芝居	(学修内容) 紙芝居の歴史と演じ方など基礎知識について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 紙芝居に関して下調べし、知識及び疑問点を整理しておく。
第14回	子どもの言葉を育む児童文化財(3)人形劇	(学修内容) 人形劇の歴史と種類、保育への取り入れ方ならびに演じ方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 人形劇に関して下調べし、知識及び疑問点を整理しておく。
第15回	子どもの言葉を育む児童文化財(4)ペープサート・パネルシアター	(学修内容) シアター系文化財の歴史と種類、保育への取り入れ方ならびに演じ方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) シアター系文化財(ペープサート・パネルシアター)に関して下調べし、知識及び疑問点を整理しておく。

授 業 名	幼児と人間関係			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2232
英 文 名	Infants and Human Relations			開講 時期	秋学期	必修 選択		選択	
担 当 者	狂 巖 茶 茶			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	子どもが自分を取り巻く「人間関係」と出会い、受容、理解、展開へと進んでいくプロセスを発達の観点で捉え、各段階における発達課題との関連性を学ぶ。また、「人間関係」領域の力の育みをねらいとする保育活動を考える上で留意すべき問題を、個人、集団、社会の視点から考える。								
学修成果 到達目標	1)子どもの「人間関係」の変化の様相を発達の観点から理解した上で、発達課題との関連性を説明することができる。 2)子どもの「人間関係」の発達を「環境との相互作用」の観点から理解することができる。 3)「人間関係」の育みを支え、促す保育活動を積極的に考えることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (		
テキスト	適宜、プリントを配布する。								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	筆記試験：答案返却とともに模範解答の閲覧期間を設ける。 レポート：コメントを付して返却する。								
留意事項	乳幼児と関わる機会がある際は、自分たち大人とは異なる、子どもに特徴的なヒトやモノとの関わり方を注意深く観察することを勧める。								
オフィス アワー	曜日・時間は研究室入口に掲示。 メールによる問い合わせは常時受け付け。								
実践的教育									



授 業 名		幼児と人間関係
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業内容の概略、および授業計画の説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認する。
第2回	「人間関係」の中の「幼児」(1) 新生児が出会う「人間関係」	(学修内容) 新生児の能力 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第3回	「人間関係」の中の「幼児」(1) 新生児が出会う「人間関係」	(学修内容) あらゆる「はじめまして」 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第4回	「人間関係」の中の「幼児」(2) 乳児が受容していく「人間関係」	(学修内容) 「はじめまして」から「興味津々」へ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第5回	「人間関係」の中の「幼児」(2) 乳児が受容していく「人間関係」	(学修内容) 乳児のコミュニケーションの特徴 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第6回	「人間関係」の中の「幼児」(3) 幼児が理解していく「人間関係」	(学修内容) 幼児前期: 「興味津々」から「自分でしたい」「自分でできる」へ 幼児中期: 「自分」から「みんなとともにいる自分」へ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第7回	「人間関係」の中の「幼児」(3) 幼児が理解していく「人間関係」	(学修内容) 幼児後期: 「みんなとともにいる自分」から「仲間」へ 幼児のコミュニケーションの特徴 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第8回	「幼児」の「人間関係」(1) 乳児の「人間関係」の展開	(学修内容) 乳児の「人間関係」の形成・発達プロセスと特徴 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第9回	「幼児」の「人間関係」(2) 幼児前期の「人間関係」の展開	(学修内容) 幼児前期の「人間関係」の形成・発達プロセスと特徴 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第10回	「幼児」の「人間関係」(3) 幼児中・後期の「人間関係」の展開	(学修内容) 幼児中・後期の「人間関係」の形成・発達プロセスと特徴 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第11回	「幼児」の「人間関係」(3) 幼児中・後期の「人間関係」の展開	(学修内容) 遊びの発生と、遊びから生まれる「人間関係」 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第12回	「幼児」の「人間関係」の社会的課題	(学修内容) 個人、集団、社会の視点から考える「人間関係」の力 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第13回	事例学習(1) 乳児	(学修内容) 乳児の「人間関係」の育みをねらいとする保育活動(構成実践ワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第14回	事例学習(2) 幼児	(学修内容) 幼児の「人間関係」の育みをねらいとする保育活動(構成実践ワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回の授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第15回	まとめ、振り返り	(学修内容) 14回の学習内容の総括、振り返り (事前事後学修課題の内容) (180分) 全回の学修内容の流れを振り返ってノート整理をおこない、解決していない疑問・質問等をまとめる。

授 業 名	幼児と健康		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2233
英 文 名	Infants and health		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	福井 百合子		対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	領域「健康」の内容をふまえつつ、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的知識をもとに具体的な保育、援助が考えられる力を身につけることをめざす。							
学修成果 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の健康課題と乳幼児にとっての健康の意義を理解し、心とからだの健康のための支援が考えることができる。</li> <li>2. 乳幼児の心と身体の発育の過程と特徴を理解し発達過程に応じたかかわりを考えられる。</li> <li>3. 幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を理解し、健康を維持するための生活習慣について考えることができる。</li> <li>4. 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解できる。</li> <li>5. 幼児期の運動発達の特徴と運動遊びの意義を理解できる。</li> <li>6. 乳幼児の身体活動（多様な動きの経験）とそれを引き出す配慮について考えることができる。</li> </ol>							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解		汎用的技能				
		態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）	グループワーク ICT活用（自主学習支援）	プレゼンテーション			
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (課題提出)	プレゼンテーション能力 (学習ノート)	課題発見・解決能力			
テキスト	安部孝・尾崎隼朗ほか『子どもの健康と遊びの科学 からだと心を育む術』講談社							
参 考 書	井狩芳子『演習 保育内容 健康 大人から子どもへつなぐ健康の視点』萌文書林 河邊貴子・吉田伊津美 編『演習 保育内容「健康」 基礎的事項の理解と指導法』建帛社 清水将之・相楽真樹子 編『実践例から学びを深める保育内容・領域 健康 指導法』わかば社 酒井幸子・松山洋平 編『保育内容健康 あなたならどうしますか?』萌文書林 勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行 編『保育者をめざすあなたへ子どもと健康 第2版』株式会社みらい							
課題に対する フィードバック の方法	ミニテストや課題などは解答後に答えと解説を表示する(提出課題は全体で一部内容のシェアを行う)。							
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書とノートを持参して受講してください。(適時確認すること有)</li> <li>・授業で使用する大学の備品は大切に丁寧に扱うこと。</li> <li>・授業内容や試験方法は状況により調整変更することがある。</li> <li>・子どもの健康増進と健やかな育ちを支援するための保育・幼児教育の中で求められる観点を意識しよう。</li> <li>・欠回数や課題提出の未済は自己管理すること。</li> </ul>							
オフィス アワー	授業ガイダンス時に知らせる。							
実践的教育								

授 業 名		幼児と健康
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 健康の捉え方と幼児にとっての健康と健康づくり 領域「健康」	(学修内容) 授業の案内。子どもの健康と健康の取組み、領域「健康」のねらい及び内容、保育者の健康について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第1章を読む。事後はミニテストで復習する。
第2回	乳幼児期からだと心の発育 こころからだを育む	(学修内容) 乳幼児期からだと心の発育について子どもの保健」「保育内容 健康」で得た知識を基に実習時の体験を振り返り学びを深める。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 「子どもの保健」「保育内容 健康」で学んだ発育の過程を復習しておく。教科書第2章を読む。
第3回	子どもの健康を維持増進するための子どもにふさわしい生活(1) 基本的生活習慣	(学修内容) 子どもの健康を維持増進するための生活習慣(食事・睡眠・排泄・清潔・衣類の着脱)の形成と配慮について学び皆で考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書3章を読む。事後はミニテストで復習する。
第4回	子どもの健康を維持増進するための子どもにふさわしい生活(2) 子どもの遊びと身体活動	(学修内容) 身体活動としての子どもの遊び、体力づくりや生活習慣病予防、身体活動が子どもの発育に与える影響について知る。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書4章を読む。事後はミニテストで復習する。
第5回	子どもの健康を維持増進するための子どもにふさわしい生活(3) 子どもの生活スタイルと肥満、やせ	(学修内容) 子どもの肥満、やせの現状を学び、生活行動の自立と生活習慣の形成に向けた支援について考える。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書5章を読む。事後はミニテストで復習する。
第6回	子どもの遊びとメンタルヘルス	(学修内容) 子どものメンタルヘルスが及ぼす影響と生活習慣の関係、脳の発達について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書6章を読む。事後はミニテストで復習する。
第7回	子どもの健康な体づくり(子どもの骨を強くする)	(学修内容) 子どもの骨の成長と遊び(活動)について学び、運動遊び・活動内容のポイントを知る。骨を丈夫にする遊びを考え、シェアする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書7章を読む。事後はミニテストで復習する。
第8回	子どもの身体活動の重要性と、運動遊びの基準と評価	(学修内容) 子どもの身体活動の重要性と、運動遊びの基準と評価について、幼児期運動指針、幼児期運動指針ガイドブックを参照しながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書8章、文部科学省の幼児期運動指針、幼児期運動指針ガイドブックに目を通しておく。事後ミニテスト。
第9回	現代の子どもの体力と握力、基本的動作の発達と支援	(学修内容) 現代の子どもの体力や握力の現状を知り、それらが健康や発育に及ぼす影響と基本的動作の発達に沿った活動内容の構想について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書9～10章、文部科学省HPの幼児期運動指針、幼児期運動指針ガイドブックを読む。事後はミニテストで復習する。
第10回	子どもの遊びと環境(1) 子どもの教育・保育における環境 人的環境、物的環境、場の環境の工夫、自然環境	(学修内容) 子どもの教育・保育における環境(ヒト・モノ・バ)について学び、具体的な工夫について考えられる。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第10章を読む。事後はミニテストで復習する。
第11回	子どもの遊びと安全 危険回避能力の育成	(学修内容) 子どもの事故やケガの現状と安全の考え方、遊びと安全管理・安全教育について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第12章を読む。事後はミニテストで復習する。
第12回	子どもへの安全教育の構想(1) 指導案の構想	(学修内容) 子どもへの安全教育についてグループに分かれてテーマを決め、ねらい・活動内容・具体的な準備・方法・手順を考え、整理して書く。 (事前事後学修課題の内容)(30分) グループ毎に話し合った内容をまとめ、整理して書く。
第13回	子どもへの安全教育の構想(2) 指導案、アイデアの共有	(学修内容) (前回からの続き)各グループのテーマ、ねらい・活動内容・具体的な準備・方法・手順を5分以上6分未満で発表し全体でシェアする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) グループ毎に活動内容、活動テーマ、配慮や工夫をした点を5～6分で発表できるよう準備する(事後、資料提出)。
第14回	子どもの運動遊びの実践	(学修内容) 子どもの運動遊びの工夫や配慮、方法について、運動遊び年間計画の例を見ながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書第13章と付録を読む。
第15回	授業の振り返り 定期試験ガイダンス	(学修内容) 各自の学びを振り返る。定期試験の案内。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業全体の復習。

授 業 名	音楽表現			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1401
英 文 名	Musical Expression			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき・今井 順子・加藤 雅子・小川 隆昭・内藤 規子・千田 浩美・ 小鍛治 弘美・北村 陽子・榎田 志帆子			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	子どもの姿を想像しながら、保育者に必要な音楽の基礎技術を身に付ける。また、子どもの音楽表現を促すことができるように学生自身の感性や表現力を培う。								
学修成果 到達目標	1) 領域「表現」のねらいや内容を説明することができる。また、子どもの表現活動における音楽表現の意義を考え、述べる ことができる。 2) 音楽表現に必要な、音楽の基礎知識と基礎技術を身に付け、『バイエルピアノ教則本』96番以上の曲を表情豊かに弾く ことができる。 3) 子どもの歌の歌唱や弾き歌いを通して、歌の世界をイメージする想像力を養い、表現することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 (演奏技術		プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (			
テキスト	『バイエルピアノ教則本』(音楽之友社)他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。 『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室発行) 『聖歌紗』(入学式で配布)								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	毎回練習してきた曲について個別指導を行い、口頭で助言・指導を行う。								
留意事項	『バイエルピアノ教則本』と『子どものうた』の弾き歌いは、レッスンのステップ表(1回目の授業で配布)に従ってレ ッスンを進める。授業期間内にステップ8(全14ステップ)まで終了しなければ、定期試験を受けることができない。授 業に出席するだけでなく、毎日のピアノの練習が必須である。 音楽療法士(2種)資格の取得を目指す学生は、1回生終了時に音楽表現 を必ず修了する必要がありますので留意して ください。								
オフィス アワー	坂口(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示)小川(週1回 曜日と時間は研究室前に掲示) 坂口・小川以外の教員(担当授業終了後に実施) *坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など: おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法 士、音楽教室、ピアノ講師、小学校・中学校・高等学校音楽科非常勤講師、ピアニストとして国内 ・海外のコンサートに出演等の経歴を持つ教員が担当								

授業名	音楽表現	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 幼児の表現活動における音楽表現の意義を考える。楽譜の読み方の基本を知る。各自のピアノレッスン曲を決定する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 小中高等学校の音楽の授業で学んだ基本的な音楽理論を復習しておく。
第2回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]生活のうた, 仏教聖歌 [理論]楽譜の読み方の基本	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]生活のうた「おはよう」など, 仏教聖歌/[理論]楽譜の基本的な読み方 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する。(1日20分~30分以上)
第3回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]生活のうた, 仏教聖歌 [理論]音の高さ	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]生活のうた「おかえりのうた」など, 仏教聖歌/[理論]音の高さ (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する。(1日20分~30分以上) 宿題: 音楽理論のプリント 音の高さ
第4回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]生活のうた [理論]大譜表	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]生活のうた「おべんとう」など/[理論]大譜表 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する。(1日20分~30分以上) 宿題: 音楽理論のプリント 大譜表
第5回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた [理論]音名と変化記号	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「こいのぼり」など/[理論]音名と変化記号 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する。(1日20分~30分以上) 宿題: 音楽理論のプリント 音名と変化記号
第6回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]手遊びうた	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]手遊びうた「パンダ・うさぎ・コアラ」など (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する。(1日20分~30分以上)
第7回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた [理論]変化記号	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「あめふりくまのこ」など/[理論]変化記号 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する。(1日20分~30分以上) 宿題: 音楽理論のプリント 変化記号
第8回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた [理論]音符と休符	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「くじらのとけい」など/[理論]音符と休符 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する。(1日20分~30分以上) 宿題: 音楽理論のプリント 音符と休符
第9回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた, 仏教聖歌 [理論]音符	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「おばけなんてないさ」など, 仏教聖歌/[理論]音符 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する。(1日20分~30分以上) 宿題: 音楽理論のプリント 音符
第10回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた, 仏教聖歌	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「水あそび」など, 仏教聖歌 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する。(1日20分~30分以上)
第11回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]子どものうた, 仏教聖歌	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]子どものうた「どんな色がすき」など, 仏教聖歌 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する。(1日20分~30分以上)
第12回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]子どものうた, 仏教聖歌	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]子どものうた, 仏教聖歌 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する。(1日20分~30分以上)
第13回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]子どものうた, 仏教聖歌	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]子どものうた, 仏教聖歌 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する。(1日20分~30分以上)
第14回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]子どものうた, 仏教聖歌	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]子どものうた, 仏教聖歌 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける試験曲を練習する。(1日20分~30分以上)
第15回	弾き歌い小試験 定期試験の準備	(学修内容) 弾き歌いの小試験, 定期試験(ピアノ実技試験)の準備 (事前事後学修課題の内容)(140分) 弾き歌いの試験曲を練習する。(1日20分~30分以上) ピアノの試験曲を練習する。(1日20分~30分以上)

授 業 名	音楽表現			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1411
英 文 名	Musical Expression			開講 時期	秋学期	必修 選択		選択	
担 当 者	坂口 みゆき・永峯 翠子・今井 順子・小川 隆昭・北村 陽子・加藤 雅子・ 小鍛治 弘美・権田 志帆子・内藤 規子・千田 浩美			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	音楽表現 での学びを基盤として、子どもの姿をより具体的に想像しながら、保育者に必要な音楽の基礎技術や表現力を身に着ける。子どもの音楽表現を促すことができるように学生自身の感性や表現力をさらに培う。								
学修成果 到達目標	1) 子どもの表現活動における音楽表現の意義について、1年間の学びを通して考えたことを自分の言葉で説明できる。 2) 音楽表現に必要な、音楽の基礎知識と基礎技術を身に着け、『ブルグミュラー25の練習曲』1番以上の曲を表情豊かに弾くことができる。 3) 子どもの歌の歌唱や弾き歌いを通して、季節や自然に対する感性を高め、歌の世界をイメージする想像力を養い、感じたことやイメージを工夫して表現することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 (双方向型授業)		グループワーク I C T 活用 (自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 (演奏技術		プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ) ( )			
テキスト	『バイエルピアノ教則本』バイエル著 (音楽之友社) 他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。 『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学発行) 『聖歌紗』(入学式で配布)								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	毎回練習してきた曲について個別指導を行う。								
留意事項	『バイエルピアノ教則本』と『子どものうた』は、レッスンのステップ表 (音楽表現 で配布) に従ってレッスンを進める。授業期間内にステップをすべて (全14ステップ) 終了しなければ、定期試験を受けることができない。授業に出席するだけでなく、毎日のピアノの練習が必須である。 音楽療法士 (2種) 資格の取得を希望する学生は、必ず1回生のうちに音楽表現 を修了しなくてはならないので留意してください。								
オフィス アワー	坂口 (週1回 曜日と時間は研究室前に掲示) 小川 (週1回 曜日と時間は研究室前に掲示) 坂口・小川以外の教員 (担当授業終了後に実施) *坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など: おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、音楽教室、ピアノ講師、小学校・中学校・高等学校音楽科非常勤講師、ピアニストとして国内・海外のコンサートに出演等の経歴を持つ教員が担当								

授業名	音楽表現	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]仏教聖歌 [理論]音楽理論小テスト	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]仏教聖歌/[理論]音楽理論小試験 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分~30分以上) 小試験に向けて春学期に学習した音楽理論を復習しておく
第2回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]仏教聖歌 [理論]音楽理論小テストの返却と復習	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]仏教聖歌/[理論]音楽理論小試験の返却と復習 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分~30分以上)
第3回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]生活のうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]生活のうた「さよならのうた」など (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分~30分以上)
第4回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた [理論]拍子	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「どんぐりころころ」など/[理論]拍子 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分~30分以上) 宿題:音楽理論のプリント 拍子
第5回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた [理論]シンコペーション・アウフタクト	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「まつぼっくり」など/[理論]シンコペーション・アウフタクト (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分~30分以上) 宿題:音楽理論のプリント シンコペーション・アウフタクト
第6回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた [理論]奏法	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「きのこ」など/[理論]奏法 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分~30分以上) 宿題:音楽理論のプリント 奏法
第7回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた [理論]繰り返し記号	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「山の音楽家」など/[理論]繰り返し記号 (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分~30分以上) 宿題:音楽理論のプリント 繰り返し記号
第8回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「コンコンシャンのうた」など (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分~30分以上)
第9回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「たきび」など (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分~30分以上)
第10回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「ゆきのペンキやさん」など (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分~30分以上)
第11回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「あわてんぼうのサンタクロース」など (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分~30分以上)
第12回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「鬼のパンツ」など (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分~30分以上)
第13回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]子どものうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]子どものうた「うたえパンパン」など (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分~30分以上)
第14回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]子どものうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]子どものうた (事前事後学修課題の内容)(140分) 各自レッスンを受ける試験曲を練習する(1日20分~30分以上)
第15回	弾き歌い小試験 定期試験の準備	(学修内容)弾き歌いの小試験 定期試験(ピアノ実技試験)の準備 (事前事後学修課題の内容)(140分) 弾き歌いの試験曲を練習する(1日20分~30分以上) ピアノの試験曲を練習する(1日20分~30分以上)

授 業 名	音楽表現			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2421
英 文 名	Musical Expression			開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	小川 隆昭・水谷 佳代子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼稚園・保育所の実習・就職試験、更には将来保育現場で役立つ実践的な能力を身に付けると同時に「子どものうた」を通して豊かな感性や表現力、及び音楽の楽しさ・喜びを身に付け、それらを伝える方法を学ぶ。人前での弾き歌いが緊張せずに行えるように弾く機会を増やし、最後まで止まらずに弾くことを習得する。また、身体を使った音楽遊びではリズム・音の強弱等音楽の諸要素に合わせた身体表現を行う。								
学修成果 到達目標	1) 「子どものうた」のレパートリーを広げることが出来る。 2) 初見・伴奏付けの力をつけることができる。 3) 人前で弾き歌うことに慣れることで、実習や幼・保就職試験、更には就職後の保育現場で即役立つ技術を身につけることができる。 4) 音楽に合わせた身体表現を身につけることができる。 5) 音を聞き取る力をつけることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	「子どものうた」京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室 編								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	練習してきた曲は授業の中でレッスンします。( 幼児の曲に限る )								
留意事項	事前にアナウンスをするが、音楽遊びの場合動きにくい服装は避けること。								
オフィス アワー	小川以外は担当授業後に実施。小川は後日研究室前に掲示。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、音楽・ピアノ講師等の経歴を持つ教員が担当。								



授業名	音楽表現	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス、初見・歌唱1	(学修内容) 春学期授業計画・注意事項・初見・歌唱 (事前事後学修課題の内容)(20分) 「子どものうた」を数曲練習する
第2回	教育実習(幼稚園実習)準備1、初見・歌唱2 コードネーム・伴奏付け 聴音	(学修内容) 多くの幼稚園で歌われている「子どものうた」の伴奏 初見・歌唱、コードネーム説明 伴奏付け基本練習。音を聴き取る練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 「子どものうた」を練習し、指示した曲、上手く弾けなかった箇所を弾けるようにする
第3回	教育実習(幼稚園実習)準備2、初見・歌唱3 コードネーム・伴奏付け・手遊び 聴音	(学修内容)(幼稚園実習準備)継続、初見・歌唱、伴奏付け基本練習 手遊びの確認・習得を目指す。音を聴き取る練習 (事前事後学修課題の内容)(90分) 「子どものうた」を練習し、指示した曲、上手く弾けなかった箇所を弾けるようにする。手遊びの練習をする
第4回	教育実習(幼稚園実習)準備3、初見・歌唱4 コードネーム・伴奏付け・手遊び 聴音	(学修内容)(幼稚園実習準備)継続、初見・歌唱、伴奏付け基本練習 手遊びの確認・習得を目指す。音を聴き取る練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 「子どものうた」を練習し、指示した曲、上手く弾けなかった箇所を弾けるようにする。手遊びの練習をする
第5回	春学期前半まとめ、初見・歌唱5 聴音	(学修内容) 初見・歌唱、個人チェック曲練習 音を聴き取る練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 「子どものうた」の練習
第6回	第1回個人チェック 歌唱指導1	(学修内容) 課題曲を一人ずつチェック。 事前に作成した指導案に基づいて歌唱指導を行う (事前事後学修課題の内容)(120分) 「子どものうた」の練習 ペーパースート等準備、作成した指導案を確認する
第7回	歌唱指導2	(学修内容) 事前に作成した指導案に基づいて歌唱指導を行う (事前事後学修課題の内容)(120分) 「子どものうた」の練習 ペーパースート等準備、作成した指導案を確認する
第8回	歌唱指導3	(学修内容) 事前に作成した指導案に基づいて歌唱指導を行う (事前事後学修課題の内容)(120分) 「子どものうた」の練習 ペーパースート等準備、作成した指導案を確認する
第9回	初見・伴奏付け補充練習1	(学修内容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「子どものうた」の練習
第10回	初見・伴奏付け補充練習2	(学修内容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「子どものうた」の練習
第11回	初見・伴奏付け補充練習3 身体を使った音楽遊び1	(学修内容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 体育館での音楽遊び (事前事後学修課題の内容)(60分) 「子どものうた」の練習
第12回	身体を使った音楽遊び2	(学修内容) 体育館での音楽遊び (事前事後学修課題の内容)(60分) 「子どものうた」の練習
第13回	身体を使った音楽遊び3	(学修内容) 体育館での音楽遊び (事前事後学修課題の内容)(60分) 「子どものうた」の練習
第14回	初見・伴奏付けテスト	(学修内容) 幼・保の就職試験で弾かれる曲を中心に初見伴奏付けテストを行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 伴奏付けの練習をする。個人チェックの課題曲を練習する
第15回	第2回個人チェック	(学修内容) 課題曲を一人ずつ弾く (事前事後学修課題の内容)(120分) 個人チェックの課題曲を練習する

授 業 名	音楽表現			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2441
英 文 名	Musical Expression			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択		
担 当 者	小川 隆昭・水谷 佳代子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼稚園・保育所の実習及び就職試験に即対応する能力、また、就職した場合は現場で役立つ実践的な能力を養う。 「子どものうた」や合奏を通して豊かな感性や表現力及び音楽の楽しさ・喜びを身につける。								
学修成果 到達目標	1) 幼・保就職試験に対応できるピアノの技術力を身に付け、演奏することができる。 2) 保育の現場で役立つピアノの実践的な能力を身に付けることができる。 3) ピアノ弾き歌いで表現力豊かに演奏できる。 4) 初見で簡単な楽譜に編曲でき、演奏することができる。 5) 「子どものうた」のレパートリーを増やすことができる。 6) 「子どものうた」の簡単な合奏譜を編曲することができる。 7) 音を聴き取ることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	「子どものうた」京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編								
参 考 書	使用しない								
課題に対する フィードバック の方法	練習してきた曲は授業の中でレッスンします								
留意事項	幼・保の就職試験に対応するため、時間外でもレッスンします								
オフィス アワー	担当授業後に実施								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：おてつぎ子供奉仕団指導員指導、音楽・ピアノ講師等の経歴を持つ教員が担当								

授業名	音楽表現	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業内容説明。歌唱、初見練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 「子どものうた」を数曲練習しておく。
第2回	初見・伴奏付けテスト 聴音	(学修内容) 就職試験対策 音の聴き取り練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 初見、伴奏の練習をしておく
第3回	初見・伴奏付け補充練習1 聴音	(学修内容) 歌唱、伴奏付け練習 音の聴き取り練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 初見、伴奏の練習をしておく 課題曲の練習
第4回	初見・伴奏付け補充練習2 聴音	(学修内容) 歌唱、伴奏付け練習 音の聴き取り練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 初見、伴奏の練習をしておく 課題曲の練習
第5回	第1回個人チェック ピアノ練習曲	(学修内容) 前半課題曲のテスト 就職試験で弾きたいピアノ曲を練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 課題曲の練習 就職試験で弾く曲の練習
第6回	リズム変奏1 ピアノ練習曲	(学修内容) マーチ・スキップ・駆け足・ワルツに変奏 就職試験で弾きたいピアノ曲を練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) ピアノ曲の練習
第7回	リズム変奏2 ピアノ練習曲	(学修内容) マーチ・スキップ・駆け足・ワルツに変奏 就職試験で弾きたいピアノ曲を練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) ピアノ曲の練習
第8回	初見・伴奏付け補充練習3 ピアノ練習曲	(学修内容) 歌唱、初見伴奏付け練習 就職試験で弾きたいピアノ曲を練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 初見、伴奏の練習 就職試験で弾く曲の練習
第9回	初見・伴奏付け補充練習4 ピアノ練習曲	(学修内容) 歌唱、初見伴奏付け練習 就職試験で弾きたいピアノ曲を練習 (事前事後学修課題の内容)(120分) 初見、伴奏の練習 就職試験で弾く曲の練習
第10回	保育者としての音楽練習1(生活の歌1) 器楽合奏	(学修内容) 保育での音楽教育全般の練習(生活の歌を中心に模擬授業をする) グループを作り、合奏できる曲を選ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 生活の歌を中心に練習
第11回	保育者としての音楽練習2(生活の歌2) 器楽合奏	(学修内容) 保育での音楽教育全般の練習(生活の歌を中心に模擬授業をする) グループで、選んだ曲の編曲を考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 生活の歌を中心に練習
第12回	保育者としての音楽練習3(季節の歌1) 器楽合奏	(学修内容) 保育での音楽教育全般の練習(季節の歌を中心に模擬授業をする) グループで、選んだ曲の合奏練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 季節の歌を中心に練習
第13回	保育者としての音楽練習4(季節の歌2) 器楽合奏	(学修内容) 保育での音楽教育全般の練習(季節の歌を中心に模擬授業をする) グループで、選んだ曲の合奏練習及び発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) 季節の歌を中心に練習
第14回	保育者としての音楽練習5(合唱) 器楽合奏	(学修内容) 保育での音楽教育全般の練習 合唱曲を中心にグループで練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 自分のパート(声楽)をする
第15回	第2回個人チェック	(学修内容) 後半の課題曲テスト (事前事後学修課題の内容)(120分) 課題曲の練習

授 業 名	造形表現		開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1403
英 文 名	Formative Art		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	柴田 精一・英 ゆう・藤本 裕紀		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>子どもの発達にとって大切な絵を描いたり、物をつくったりする子どもの造形表現を指導・支援するための基礎的な技能や知識について学ぶとともに、製作を楽しみ、自分の中にある柔軟な発想や感性、造形力を育てるための創作活動を実施する。また、その製作、製作物について記録できる力を養う。</p>							
学修成果 到達目標	<p>1) 描いたり作ったりする体験を通して、様々な表現の方法を習得する。  2) 表現方法や材料を工夫して自分らしい作品をつくることができる。  3) 製作した作品やその表現技法に考察を加え、美しく分かりやすくまとめることができる。  4) 秋学期の「新装開店 子どもデパート」について計画し、見通しを持つ。</p>							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 (双方向型授業)		グループワーク I C T 活用 (自主学習支援)		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (	
テキスト	「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形材料」樋口一成編 萌文書林							
参 考 書	保育所保育指針、幼稚園教育要領の改訂についてなど、参考資料のプリントを授業時に配布する。							
課題に対する フィードバック の方法	各課題の提出時、また、製作物をまとめたワークブックについて指導を行う。							
留意事項	製作活動に適した服装・持ち物等に留意すること。授業には筆記用具を持参すること。 必携の画材、スケッチブックを購入すること。							
オフィス アワー	登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。							
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：幼児の絵画教室などでの指導、造形ワークショップ、自らの造形活動での経験をもとに、子どもの造形について話をします。							

授業名		造形表現
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 鉛筆の表現、なぐりがき	(学修内容) 授業の概要説明、受講のための諸注意 鉛筆で描く (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスに目を通してまとめておく 必携教材を持参すること
第2回	水彩絵の具による表現 にじみ絵など	(学修内容) 水彩絵の具の使い方や技法にじみ絵などの技法遊び (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の関連箇所114,120,121頁を読んでまとめておく
第3回	水彩絵の具による表現 ドリッピングほか	(学修内容) 水彩絵の具の技法 ドリッピング、デカルコマニーなどの技法遊び (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の関連箇所50,51,122,123頁などを読んでまとめておく
第4回	水彩絵の具による表現・作品のまとめ	(学修内容) 製作した作品をスケッチブックにまとめる (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習した技法について調べてまとめておく
第5回	水彩絵の具による表現 スパッタリングなど	(学修内容) 水彩絵の具の技法 スパッタリング、スタンピングなどの技法遊び (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の関連箇所23頁などを読んでまとめておく
第6回	水彩絵の具とパスによる表現	(学修内容) 水彩絵の具・パスによる技法 パチック、など (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の関連箇所54,55,56,57頁などを読んでまとめておく
第7回	水彩絵の具とパスによる表現・作品のまとめ	(学修内容) 製作した作品をスケッチブックにまとめる (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の関連箇所目を通してまとめておく
第8回	パスによる表現	(学修内容) パスによる技法 フロッタージュ、スクラッチなど (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の関連箇所124,125,128,129頁などを読んでまとめておく
第9回	パスによる表現・作品のまとめ	(学修内容) 製作した作品をスケッチブックにまとめる (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習した技法について調べてまとめておく
第10回	フロッタージュ(表面の凹凸を写す) コラージュ(フロッタージュからの展開)	(学修内容) コラージュの技法による個人の表現 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書130,131頁を読んでまとめておく
第11回	いろいろな版画表現	(学修内容) 表現方法・活用・展開などについてまとめる (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の関連箇所150,151頁などを読んでまとめておく
第12回	「新装開店 子どもデパート」の導入	(学修内容) 課題についての説明とグループ作り (事前事後学修課題の内容)(30分) 子どもの造形活動について考えながら、教科書を読んでまとめておく 前回までの作品をまとめてスケッチブックを提出する
第13回	「新装開店 子どもデパート」のアイデアづくり	(学修内容) 課題についてのグループ、ディスカッション (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分の作品のアイデアを考えてまとめておく
第14回	「新装開店 子どもデパート」の製作計画	(学修内容) 「新装開店 子どもデパート」に必要な材料や技法について調べる (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書の関連箇所を読んでまとめておく
第15回	まとめ・レポート	(学修内容) 授業全体の振り返り、造形表現の意味と大切さについて学ぶ 作品、および、ワークブックの返却 (事前事後学修課題の内容)(30分) 授業で学んだ事を振り返ってまとめておく

授 業 名	造形表現			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1412
英 文 名	Formative Art			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	柴田 精一・英 ゆう・藤本 裕紀			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	さまざまな材料による造形体験を持ち幼児期の造形活動の意味について理解を深める。また、子どもの生活環境や発達に応じた活動内容の選択、用具の扱い方や環境の整備についての理解を深める。 「子どもデパート」の取り組みでは、グループワーク、ディスカッションにより発表の方法を工夫することを通して、子どもの主体的活動を支える方法を体験的に学ぶ。また、後半の授業では保育の場でよく使われる造形材料などについて学ぶ。								
学修成果 到達目標	1) 子どもの表現に関心を持ちながら、造形表現についての知識と技術を学習する。 2) 子どもが造形表現によって伝えたい内容や気持ちを理解できる柔軟な感性を養う。 3) 子どもの発達と造形表現について理解して活動の方法や題材を計画する力を身につける。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形材料」樋口一成編 萌文書林(1回生春学期購入のものを使用)								
参 考 書	プリント等で配布する								
課題に対する フィードバック の方法	「子どもデパート」についてのまとめレポート、自己評価チェック票による学修内容の到達度を知る								
留意事項	第1回から7回の授業は、チームによるグループワーク、創作活動になります。 子どもとの関わりや造形活動にふさわしい服装や態度、言葉遣いを心がけること。 「子どもデパート」の発表において子どもとの関わりを持ちます。								
オフィス アワー	登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：幼児の絵画教室などでの指導、造形ワークショップ、自らの造形活動での経験をもとに、子どもの造形について話をします。								

授 業 名		造形表現
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもデパート	(学修内容) 子どもデパートのための課題の説明 春学期のディスカッションの内容を振り返り、グループで計画する (事前事後学修課題の内容)(30分) 春学期のさまざまな技法の学習を復習してまとめておく 教科書24～29頁を読んでまとめておく
第2回	子どもデパート	(学修内容) 課題についてグループで相談する 具体的な製作物やプランについて話し、工夫する (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを読んでまとめておく 教科書30～41頁を読んでまとめておく
第3回	子どもデパート	(学修内容) 材料について理解し、製作の分担や行程について把握する (事前事後学修課題の内容)(30分) さまざまな素材を探してまとめておく 教科書42～47頁を読んでまとめておく
第4回	子どもデパート	(学修内容) 子どもの姿を想定して展示の環境構成について工夫する (事前事後学修課題の内容)(30分) 子どもの動きと活動について考えてまとめておく
第5回	子どもデパート	(学修内容) 華頂祭での作品の準備と展示の素材を完成させる (事前事後学修課題の内容)(30分) 展示作業などの予定を立てまとめておく
第6回	子どもデパートの発表	(学修内容) グループでの製作をもとに子どもと関わり、子どもを理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 子どもの発達について調べまとめておく 教科書106～107頁を読んでまとめておく
第7回	子どもデパートのまとめと考察	(学修内容) 課題が達成できたか、レポートと考察をおこなう (事前事後学修課題の内容)(30分) 自らの取り組みについて考えてまとめておく
第8回	指絵の具をつくる	(学修内容) 指絵の具について学び、指絵の具をつかって表現する (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト112,151頁を読んでまとめておく
第9回	小麦粉粘土をつくる	(学修内容) 小麦粉粘土の製作と遊び 子どもと粘土の出会いについて考えて話し合う (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト158～163頁を読んでまとめておく
第10回	張り子の製作 1	(学修内容) かたちをつくり、和紙を貼り込む (事前事後学修課題の内容)(30分) つくりたい作品のアイデアを考えてまとめておく
第11回	張り子の製作 2	(学修内容) 彩色とニス塗り 張り子を完成させる (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の内容を完成させておく
第12回	マーブリング紙の製作	(学修内容) マーブリング紙をつくる 色彩の美しさや偶然にできるかたちの面白さに気づく (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト126,127頁を読んでまとめておく
第13回	マーブリング紙の活用	(学修内容) 製作したマーブリング紙を活用して表現する 作品を記録して提出する (事前事後学修課題の内容)(30分) アイデアを考えてまとめておく
第14回	スライムをつくる	(学修内容) スライムの製作と遊びへの展開 スライムと子どもの活動について考える (事前事後学修課題の内容)(30分) スライムについて調べその技法をまとめておく
第15回	まとめ	(学修内容) 秋学期の授業を振り返り、レポートと講評において、自ら到達した内容 について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 自らの活動について考えてまとめておく 教科書207～213頁を読んでまとめておく

授 業 名	保育と身体表現			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1413
英 文 名				開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	眞崎 雅子・佐東 恒子			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>幼児期は生涯にわたる健康の基礎をつくる時期であり、子どもの発達に適した運動の経験が求められる。本授業では、身体表現や運動遊びの実践を通して体を動かす楽しさを体験し、遊びの特性について理解を深める。特に、子どもの発育・発達を視野に入れた指導や援助、やる気を引き出す言葉掛け等について学習し等運動遊びの重要性を理解する。適宜グループワークを実施する。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 様々な運動遊びを経験し、子どもの発育・発達に応じた遊びを工夫できる 2) 遊びの展開・発展に必要な着眼点や基本的な配慮点ができる 3) 楽しく多様な動きを取り入れ、年齢に応じた子どもの体操を創作・指導できる</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力 課題発見・解決能力 ( )				
テキスト	<p>【 ISBN 】 9784893472748 【 タイトル 】 保育と幼児期の運動あそび 第2版 【 編著者 】 岩崎洋子/吉田伊津美/朴淳香/鈴木康弘 【 出版社 】 明文書林</p>								
参 考 書	<p>「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 「保育内容『表現』からだで感じる・表す・伝える」株式会社杏林書院</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>提出されたレポートは、コメントをつけて返却し必要に応じて解説する。 実技については、その都度コメントする。</p>								
留意事項	<p>自身の健康維持、安全管理に留意し、室内シューズ、運動着を着用すること。 保育者として現場に立つ時のことを考えて、積極的に運動遊びに取組んでほしい。 毎回の学習内容をノートにまとめておく。課題で提示される内容について調べておく。</p>								
オフィス アワー	<p>担当授業終了後に実施する。</p>								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：【佐東恒子】復活幼稚園・向陽幼稚園・ひかり幼稚園・篠村幼稚園《運動遊び・リズム指導の講師》、京都文教短期大学《幼児体育の非常勤講師》、佛光大学・大谷大学 《保育内容健康・表現指導の非常勤講師》【眞崎雅子】コミュニティーセンター及び幼稚園での保護者対象のダンス指導、小学校での「リズム遊び・からだの遊び」講師、教育委員会主催体育研究会講師、親子体操の講師</p>								



授業名	保育と身体表現	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の目的や、授業の進め方について説明する。 幼児期の運動遊びの必要性について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容をノートにまとめて提出する。
第2回	基本の運動	(学修内容) 歩く・走るのの違いについて知る。歩く・走る・跳ぶの動きからいろいろな遊びに発展させることを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 基本の運動にはどのような動きがあるのか調べ、ノートにまとめて提出する。
第3回	リズム運動	(学修内容) 多様なリズムに反応して動いてみる。(反応遊び: 2拍子~4拍子のリズム遊びの体験) (事前事後学修課題の内容) (30分) いろいろなリズムパタンについて考え、ノートにまとめて提出する。
第4回	リズムダンス	(学修内容) 楽しくリズムに合わせて体を動かし、表現力を身に付ける。子どもが楽しめるリズムダンスを体験する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 幼児の好きな曲を選曲し、簡単な動きを考えノートにまとめて提出する。
第5回	ボール遊び	(学修内容) ボールの特性を知る。つく・蹴る・転がす・投げる・受けるなどの遊びを行う。ボール遊びを安全に行うための指導法を習得する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 少人数で行うボール遊びを考えノートにまとめて提出する。
第6回	ボールでゲーム遊び	(学修内容) フープの特性を知り、まわす・転がす・くぐる・投げる・跳ぶ等の様々な遊びを通して、個から集団へと遊びの展開方法について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どものころに遊んだゲーム遊びを思い出しノートにまとめて提出する。
第7回	フープ遊び	(学修内容) フープの特性を知り、まわす・転がす・くぐる・投げる・跳ぶなどの遊びを行う。フープ遊びを安全に行うための指導法を習得する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) いろいろなフープ遊びを考え、ノートにまとめて提出する。
第8回	フープでゲーム遊び	(学修内容) グループでのフープ遊びや、競争ゲームを行い、チームで協力する楽しさを体験する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) いろいろなゲーム遊びを考え、ノートにまとめて提出する。
第9回	マット遊び	(学修内容) 体育館のフロアを利用しているような動き(床と仲良し這い這いで進む動物遊び)を行う。マット運動の基本的技能を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) いろいろな動物の動きを考え、ノートにまとめて提出する。
第10回	マット遊びの補助	(学修内容) マット遊びの注意点について理解し、前転・後転の補助の仕方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 補助で大事なことは何かをノートにまとめて提出する。
第11回	ふれあい遊び	(学修内容) スキンシップを図りながら信頼関係や仲間意識を培う遊びを実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) スキンシップが図れる遊びをノートにまとめて提出する。
第12回	縄遊び(短縄・長縄)	(学修内容) 縄を使っているような遊びが出来ることを知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) いろいろな跳び方を考え、ノートにまとめて提出する。
第13回	創作ダンス	(学修内容) 子どもの好きな乗り物を表現する。グループで創作し発表する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 表現する乗り物の動きをまとめて提出する。
第14回	パラバルーン遊び	(学修内容) パラバルーンの扱い方を知る。皆と協力して行う遊びである事を知り、協力遊びに必要な敏捷性・判断力・協調性等について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) パラバルーンの遊びを調べノートにまとめて提出する。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業全体の振り返りを行い、学びや課題について話し合う。 運動遊びの指導を行う時の保育者の役割について話し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 運動遊びの重要性を、レポートにまとめて提出する。

授 業 名	教育実習事前・事後指導 a			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1415
英 文 名	Pre and Post Guidance on Student Teaching ( Kindergarten )			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子・渋谷 郁子・柘植 誠子・東野 洋子・ 伊原 安見子・柴田 精一・坂本 渉			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	幼稚園教諭に求められる知識、技術、態度、職業倫理を学ぶ。また、実習前の事前準備として、教育実習の意義・目的や、保育の計画や内容について学習する。								
学修成果 到達目標	1) 幼稚園教諭に求められる知識、技術、態度、職業倫理を理解できる。 2) 幼稚園における教育実習の意義・目的を理解し、実習に対する高い意識と責任をもつ。 3) 幼稚園教諭として必要な資質や態度を身につけ、幼稚園現場で適切な保育を行うための総合的な力を身につける。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( 報告・連絡・相談の徹底 )			課題発見・解決能力 ( 提出期限の厳守 )				
テキスト	文部科学省編『幼稚園教育要領』・『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 『実習ガイドブック』( 授業内で配布する )								
参 考 書	授業内で紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業中に提出されたレポートに対して、コメントをつけて返却し授業内で解説を行う。								
留意事項	教育実習に関する内容であるので無断欠席および無断遅刻は認めない。やむを得ず欠席・遅刻をする際には修学支援課への連絡を行う必要がある。免許取得にかかわる関係科目の履修状況、本授業の出席状況、および受講態度や理解度によっては実習が開始できないこともある。 附属幼稚園の見学が授業時間外に設定される場合があるので、必ず日時を確認すること。夏季休暇中に保育現場を体験しておくことが望ましい。								
オフィス アワー	各教員が授業内に伝えます。								
実践的教育									

授 業 名		教育実習事前・事後指導 a
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	幼稚園の現在：「教育実習事前・事後指導」を受講するにあたって	(学修内容) 授業の進め方や受講上の心構え、附属幼稚園見学についての留意点を理解する。幼稚園の置かれている状況や幼稚園の役割などを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスおよび幼稚園教育要領を読んでおく。
第2回	幼稚園教諭の現在：免許の位置づけ	(学修内容) 幼稚園教諭免許の位置づけ、保育士や保育教諭との同異点などを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 幼稚園教諭免許の取得に必要な科目をシラバスで確認する。
第3回	幼稚園教諭の職務・役割：幼児教育のあり方	(学修内容) 幼稚園教諭の職務や社会的な役割を理解する。幼児教育における「遊びを通じた学び」について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自宅の近くにある幼稚園のHP等を見て、その幼稚園が地域の中で果たしている役割を調べる。
第4回	目指す「幼稚園教諭」像の明確化：理想の幼稚園教諭、自己理解	(学修内容) グループワークを通して、目指す「幼稚園教諭」像を明確化する。自分の得意・不得意な分野を知り、自己課題を発見する。 (事前事後学修課題の内容) (50分) 自己課題をもとに具体的な目標を立て、練習を重ねる。
第5回	教育実習の意義・目的 教育実習の概要	(学修内容) 教育実習の意義・目的を理解する。 教育実習の概要や種類を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 次年度の実習の流れをイメージし、それまでに学ぶべきことを考える。
第6回	教育実習の実際：2回生の体験から学ぶ	(学修内容) 2回生の実習体験を聞いて、次年度の実習に見通しをもつ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 2回生に聞きたいことをまとめておく。第4回目の授業で言語化した自己課題を振り返り、追加・修正を行う。
第7回	幼稚園の一日：教師の配慮	(学修内容) DVD等を視聴し、幼稚園教育の1日の流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教師の配慮のあり方について考察する。
第8回	幼稚園の一年：子どもの発達に応じた保育計画	(学修内容) 一年を通じた子どもの発達や、季節ごとの子どもの生活や遊びのありようについて学ぶ。また、附属幼稚園見学についての留意点を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各季節の子どもの歌をまとめる。
第9回	附属幼稚園見学	(学修内容) 幼稚園での遊びや生活の実際、子どもと教師との関わりについて見て学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (50分) 見学してきたことを記録する。
第10回	教材研究の方法(1)：幼稚園教育要領と保育の目標	(学修内容) 幼稚園教育要領に沿って保育の目標を立て、具体的な活動を構想する流れを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) どのような活動を構想するか、グループに分かれて検討する。
第11回	教材研究の方法(2)：幼児の実際の姿と保育の計画	(学修内容) 幼児の実際の姿に照らし、どのように保育の計画を立てるかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 活動を進めていく上でどのような配慮が必要か、グループに分かれて検討する。
第12回	教材研究の方法(3)：保育の目的に応じた教材の選択	(学修内容) 具体的に教材を選択し、使用方法について試行錯誤するプロセスを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループごとに、教材となる素材や道具の準備を行う。
第13回	教材研究の方法(4)：教材研究結果の作成	(学修内容) 教材研究の結果を文章化する作業を通して、活動を記録することの意義を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教材研究結果を作成する。
第14回	教材研究の方法(5)：教材研究結果の発表	(学修内容) 自分たちのグループの行った教材研究について発表する。 他のグループの行った教材研究の結果を聞き、学びを深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 他のグループの発表から学んだことをまとめる。自分たちのグループの行った教材研究や発表について、反省点や改善点を考える。
第15回	設定保育の進め方	(学修内容) 設定保育の実際を見学し、教師の配慮や子どもと教師との関わりについて理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 設定保育の見学から学んだことをまとめる。

授 業 名	教育実習事前・事後指導 b			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1415
英 文 名	Pre and Post Guidance on Student Teaching ( Kindergarten )			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子・渋谷 郁子・柘植 誠子・東野 洋子・ 伊原 安見子・柴田 精一・坂本 渉			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼稚園教諭に求められる保育技術を学び、教育実習に向けた準備を進める。 保育の記録・計画について実践的に学び、現場の教育の全体が理解できるようにする。								
学修成果 到達目標	1) 実習の意義、目的を理解できる。 2) 実習に臨むための心構えや教員の倫理観が理解できる。 3) 日常の態度や言動を振り返り、幼児のモデルとなるよう見直すことができる。 4) 実習を通して、自らの幼児とのかかわり方、指導計画・実習記録の作成スキルなどを振り返り、向上させていくことができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )	グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )	プレゼンテーション				
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( 報告・連絡・相談の徹底 )	プレゼンテーション能力 ( 提出期限の厳守 )	課題発見・解決能力				
テキスト	文部科学省編『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 『実習ガイドブック』( 授業内で配布する )								
参 考 書	授業内で紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業中に提出したレポートに対して授業内で解説を行う。								
留意事項	教育実習に関する内容であるので無断欠席および無断遅刻は認めない。やむを得ず欠席・遅刻をする際には修学支援課への連絡を行う必要がある。 免許取得にかかわる関係科目の履修状況、本授業の出席状況、および受講態度や理解度によっては実習が開始できないこともある。 授業時間外で評価面談を行う。								
オフィス アワー	各教員が授業内で伝えます。								
実践的教育									

授業名	教育実習事前・事後指導b	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 春期休暇課題の確認 指導計画の見直し	(学修内容) 実習関係調査表を記入する。授業の進め方や内容、目的を理解する。各自が作成した指導計画を相互に添削する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 1回生の授業ファイルを見直しておく。春期休暇課題を見直し、提出できるように準備する。
第2回	目指す「幼稚園教諭」像の明確化・自己課題の設定 6月実習に向けての準備(1): 実習生カードの記入、実習目標の立案	(学修内容) 目指す「幼稚園教諭」像を明確化し、自己課題を設定する。実習生カードを記入する。6月実習の目標を構想する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 実習生カードに記入した内容や書類等に不備がないか、点検する。6月の実習目標を作成し提出する。
第3回	6月実習に向けての準備(2): 実習記録の確認、オリエンテーションの説明	(学修内容) 実習記録を配布し、内容を確認する。実習園でのオリエンテーションに向けて、6月・9月実習の内容を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 6月実習記録の実習園の概要や実習予定表などを記入しておく。実習施設にオリエンテーションの予約を取る電話をする。
第4回	6月実習に向けての準備(3): 実習園への提出書類の作成・確認、個人情報保護の確認、お礼状の書き方	(学修内容) 実習の心構えについて理解する。個人情報保護の重要性と社会人としての責任を理解する。お礼状の書き方を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) オリエンテーションに持参する書類を準備し、整える。
第5回	実習記録作成の実際(1): 記録作成の要点	(学修内容) 教育実習記録の必要性を理解し、記録の記入方法を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自の実習目標の添削箇所を見直し実習記録に記入しておく。
第6回	実習記録作成の実際(2): 適切な記録の書き方	(学修内容) 実際の実習記録を読み、事例から適切な書き方・不適切な書き方を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の記録やメモのとり方を見直し、自己課題を見つける。
第7回	教材研究(1): 指導計画の立案	(学修内容) 指導計画の目的と書き方を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 具体的な活動について、指導計画を作成する。
第8回	教材研究(2): 指導計画の見直し 実習訪問担当教員との顔合わせ	(学修内容) 作成提出した指導案を見直し、指導計画作成について理解を深める。実習訪問担当教員と面談し、実習の各事項について確認を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習前までに実習記録に記入しておくべき事項を点検し、未記入のものがないか確認する。
第9回	教育実習期間	(学修内容) 実習に取り組む。 (事前事後学修課題の内容) (180分) 実習で求められる内容に応じて、保育の計画や準備、ピアノ練習などを行う。
第10回	教育実習期間	(学修内容) 実習に取り組む。 (事前事後学修課題の内容) (180分) 実習で求められる内容に応じて、保育の計画や準備、ピアノ練習などを行う。
第11回	6月実習の振り返り: 自己課題の理解 9月実習目標の構想	(学修内容) 6月実習を振り返り、自己課題について再度考察する。自己課題を踏まえ、9月実習の目標を構想する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 振り返りシートに記入する。9月実習の目標を作成する。
第12回	教材研究(1): 9月指導計画の構想	(学修内容) 9月の幼児の遊び・生活を予想し、保育の計画を構想する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自で教材研究を行う。
第13回	教材研究(2): 9月指導計画の立案	(学修内容) 9月の幼児の遊び・生活を予想して保育の計画を立案し、指導計画を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 指導計画を作成する。
第14回	教材研究(3): 9月指導計画の見直し	(学修内容) 作成した指導案を学生相互に交換し、添削し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 指導計画の考え方、記入方法を見直しておく。
第15回	9月実習および教育実習全体の振り返り	(学修内容) 9月実習記録を確認する。9月実習に向けて心構えや準備の再確認をする。履修カルテの記入。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 9月実習を振り返り、自己課題を再度考察する。教育実習全体を総括し、自身の成長を振り返る。

実習名	教育実習 (CE2426)	対象学生	幼児教育2回生
担当者	鈴木 えり子・柴田 精一・坂本 渉・武田 康晴・野田 隆生・高岡 理恵・坂口 みゆき・小川 隆昭・福井 百合子・渋谷 郁子・眞崎 雅子・柘植 誠子・荘厳 茶茶・林 静香・東野 洋子・伊原 安見子		
実習の概要	<p>幼稚園教諭二種免許状取得に必要な幼稚園教育実習を行う。</p> <p>実習では、幼稚園の保育の中で幼児や教師とかかわり、一人一人の幼児を理解することが重要であり、教師の姿から保育に対する考え方や指導方法を学んでいく。さらに、幼児とのかかわりを通して子ども観、教育観を形成していくための幼児理解を積み重ねていくことが重要である。</p> <p>机上の勉強だけでは習得できない様々な体験を重ね、幼稚園の教育現場で教員として実際に保育していく上に必要なことを学び、学校で学んだ理論や学習内容を確認する。</p> <p>実習は教師として人間として成長する重要な学びの場であり、教師として幼児を育てる意義について深く考え自覚する貴重な機会である。</p> <p>華頂短期大学附属幼稚園や各都道府県市町村の公立・私立の幼稚園および認定こども園で、2年次に4週間、教育実習を行う。6月に2週間、9月に2週間の合計4週間の実習を行う。原則、同一園で実習を行うものとする。</p>		
備考	<p>「教育実習事前事後指導」(1回生秋学期、2回生春学期)を必ず履修すること。</p> <p>「教育実習事前事後指導」の出席状況や受講態度、授業内レポートの未提出が多く面談指導後においても改善が見られないと判断した場合は教育実習を次年度に延期する。また、実習に伴う各書類の提出や期日を守らない等が生じた場合は実習開始できないこともあるので気をつけること。さらに、1回生時の修得しなければならない履修科目において未履修科目が学科内規定の上限を超えている場合は不十分であると判断し、実習を当該年度に開始できないことがある。</p>		

実習名	保育実習 a (CE1416)	対象学生	幼児教育1回生
担当者	林 静香・柴田 精一・鈴木 えり子・武田 康晴・野田 隆生・高岡 理恵・坂口 みゆき・小川 隆昭・福井 百合子・渋谷 郁子・眞崎 雅子・柘植 誠子・荘厳 茶茶・坂本 渉・安藤 正彦・東田 みすづ		
実習の概要	<p>「保育実習」は「保育所実習」と「施設実習」があり、どちらの実習も実施しなければならない。</p> <p>1. 実習目標・目的 実習では、授業で習得した基礎知識や技能を実際の職務に応用しながらその経験を通して乳幼児(利用者)に対する理解を深めること、保育士の職務内容を理解し保育・養護技術を習得すること、保育士としての自覚を高めることを目標にします。</p> <p>2. 実習内容及び実習形態 保育所実習 公立・私立の認可保育所(幼保連携型認定こども園を含む)で行う。 実習時期は1回生の2~3月、実習日数は原則1日8時間以上、80時間以上(10日間以上) 通勤による実習 実習先は近畿2府4県と福井県内とし、その選定方法は「保育実習指導」において説明します。 施設実習</p>		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目の単位認定されるには、「保育実習指導」を履修する必要があります。「保育実習」と「保育実習指導」は個別に単位認定されますがそれぞれが有機的に連動している科目のため単独で単位認定されることはありません。</li> <li>・保育実習指導(1回生春学期・秋学期)を必ず履修していること。</li> <li>・出席状況および各レポート等が未提出の場合は実習できないこともあるので気をつけること。</li> <li>・実習記録は毎日提出すること。</li> </ul>		

実 習 名	保育実習 a (CE2428)	対象学生	幼児教育2回生
担 当 者	鈴木 えり子・武田 康晴・野田 隆生・高岡 理恵・坂口 みゆき・小川 隆昭・福井 百合子・渋谷 郁子・眞崎 雅子・柘植 誠子・荘厳 茶茶・坂本 渉・柴田 精一・林 静香・安藤 正彦・東田 みずづ		
実習の概要	<p>1. 目標・目的 「保育実習 (保育所・施設)」の保育所実習で学んだ内容を発展的に深化させ、実践力や応用力をさらに高めることを目的とする。</p> <p>2. 保育実習 (保育所)の内容 乳幼児の成長・発達を理解し、個々に応じた保育者の援助について学ぶ。 健康管理、安全対策、子どもの心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ。 保育実習 の内容(観察・参加・部分実習)に加えて、指導計画を立案し研究実習(部分、半日、全日のいずれか)を行う。 保育士の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。</p> <p>3. 実習生に対する指導方法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、保育所の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。</p>		
備 考	<p>【留意事項】 体調管理について 平素より自身の健康・体調管理を徹底し、現場での実習に臨むことができるように取り組みましょう。</p> <p>1. 実習受講の条件 = ○「保育実習」の実習を終了していること。○「保育実習」の単位を取得するには、「保育実習指導」の単位を取得することを条件とする。○「保育実習」と「保育実習指導」は形式上個別に単位認定されますが、連動しているので個別に単位認定されることはありません。</p> <p>2. 実習態度、参加意欲 = ○プライバシー保護に基づいて、実習中に知り得た情報を第三者等に漏らしてはならない。○子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理を徹底して行う。</p>		

授 業 名	保育実習指導 a			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1405
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	高岡 理恵・眞崎 雅子・林 静香・安藤 正彦・東田 みすづ・武田 康晴・野田 隆生			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>本授業は、春学期「保育実習指導」の引き続きの授業です。          保育現場で、保育を担う豊かな感性、人間性を有することのできるよう、保育所実習・施設実習におけるそれぞれの目的意識を高め、学生自身が実習目標を明確にもって自立的に取り組めるように準備を行います。          実習を円滑にすすめるための記録の方法、指導計画の考え方と立案等、保育施設実習がイメージできるようにグループワークや演習を通して授業を進めます。          実習へ行く準備が進んでいきますので、その時々に必要なものの準備について期限を守って提出していただけるよう自身の管理をおこなってください。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 自分自身の実習先の施設の概要、機能について理解ができる          2) 保育所実習と施設実習の違いが理解でき、実習課題に取り組むことができる          3) 実習生としての心構えが体得できる。          4) 実習の事前準備を行うことができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 (双方向型授業)		グループワーク I C T 活用 (自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 課題発見・解決能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( )							
テキスト	新・基本保育シリーズ20 保育実習 近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編 中央法規								
参 考 書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説書』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 必要です								
課題に対する フィードバック の方法	ワークを行った後に課せられるレポートや課題物については、確認後返却を行う。 授業後の振り返りシートも同様								
留意事項	保育実習 の事前・事後にあたる通年の学内実習指導であるため、春学期からの通年で必ず履修すること。実習に関する重要事項を学ぶ場であるので、無断欠席は認めない。また、学科の保育関係科目の修得状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。(要注意)								
オフィス アワー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。								
実践的教育									



授業名	保育実習指導 a	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	秋学期授業ガイダンス 健康管理について	(学修内容) 秋学期に向けての心構え、予定、実習期間の確定、夏期課題の点検を行う。実習に向けて自身の健康管理についての視点や方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 シラバスを読み理解しておく 事後 テキスト P 158～168を読みわからない語句の整理をする
第2回	実習に必要な基礎的な知識と技術 1 実習記録の意義と方法	(学修内容) 実習記録を書く意味と記録する視点、方法を学ぶ。記録をするときに必要な観察や主観と客観について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 テキスト P 158～168を読みわからない語句の整理をする 事後 観察した内容を記録用紙に書き込む
第3回	実習に必要な基礎的な知識と技術 2 実習記録の書き方	(学修内容) 事後学修した記録をグループワークを行いながら、主観と客観を分類し、観察ポイントを確認しあう。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 観察した内容を記録用紙に書き込む 事後 記録用紙を清書する
第4回	実習に必要な基礎的な知識と技術 3 指導実習(部分・責任実習)の理解	(学修内容) 保育実習で行う保育計画と指導案について理解し、指導計画を立案方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 記録用紙を清書する(提出) 事後 模擬部分実習を視聴して指導案を作成する
第5回	実習に必要な基礎的な知識と技術 4 指導実習案の作成	(学修内容) 事後学修した指導案をもとにグループワークを行いながら、指導案の書き方の留意点について確認しあう。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 模擬部分実習を視聴して指導案を作成する 事後 自身が行く実習施設の概要を調べてくる
第6回	実習施設を理解する 1 実習目標の設定(施設)	(学修内容) 実習施設種別を把握し、春学期に学んだ施設を復習し、施設の役割や対象者について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 自身が行く実習施設の概要を調べてくる 事後 施設の実習目標を設定する
第7回	実習目標指導 1 実習目標のたてかた	(学修内容) 春学期に行った実習目標のたてかたを復習し、施設実習目標を設定する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 施設の実習目標を設定する 事後 施設の実習目標をチェック項目に沿って見直す
第8回	実習目標指導 2 実習目標の清書	(学修内容) 事後学修の実習目標を題材にグループで披露し評価しあい、実習目標を仕上げる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 施設の実習目標をチェック項目に沿って見直す 事後 施設の実習目標を清書する
第9回	実習事前準備 1 実習手続き	(学修内容) 実習へいくための実習手続きを行う(健康診断・検便等)。学生カードの清書を行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 施設の実習目標を清書する 事後 指導された箇所を直し再提出する
第10回	実習事前準備 2 実習記録の確認と書き方	(学修内容) 保育所・施設実習記録をみながら記録に書かれている内容を理解し書き方のポイントについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 指導された箇所を直し再提出する 事後 保育士倫理綱領について調べてくる
第11回	実習事前準備 3 保育士倫理綱領と誓約書の理解	(学修内容) 実習へ行くための誓約書を読み誓約書の意味を理解し、保育士倫理綱領との関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 保育士倫理綱領について調べてくる 事後 在学生へ聞きたいことや質問を考えまとめておく
第12回	実習事前準備 4 実習をイメージする	(学修内容) 在学生から実習について話を聞く、質問をする機会をもち、実習へのイメージを膨らませ不安を取り除く。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 在宅生へ聞きたいことや質問を考えまとめておく 事後 テキスト p 133～142を読み整理してくる
第13回	実習事前準備 5 事前オリエンテーション	(学修内容) 実習の心得、実習中の注意事項、実習園とのオリエンテーションへの臨み方、手続きの説明と書類提出を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキスト p 133～142を読み整理してくる 事後 秋学期の内容を見直し疑問点を明確にしておく
第14回	実習直前指導 お礼状の書き方	(学修内容) 実習課題の個別添削を返却し指導及び実習記録への記載をし、実習準備を行う。お礼状の書き方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 秋学期の内容を見直し疑問点を明確にしておく 事後 秋学期の到達目標を確認する
第15回	学内オリエンテーション及び訪問担当者との個別面談	(学修内容) 実習評における評価の意義や方法について学び、評価視点を養う。実習訪問担当者との個別面談を実施し、相互連絡の確認と質疑応答を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 秋学期の到達目標を確認する 事後 実習園とのオリエンテーション報告書を作成しておく

授 業 名	保育実習指導 a			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1405
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開講 時期	春学期	必修 選択		選択	
担 当 者	武田 康晴・安藤 正彦・東田 みずづ・野田 隆生・ 高岡 理恵・眞崎 雅子・林 静香			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	この授業は、保育を担う豊かな感性をもつ保育士資格を取得するための必修科目であるため、保育士に必要な知識、技術、態度、職業倫理を学ぶ。 具体的には、実習事前準備として、実習目標や記録の意義の理解、保育実習の意義・目的の理解、実習施設の概要、実習施設における子どもの人権とプライバシーへの配慮、援助職に求められるコミュニケーション等について学ぶ。 実習施設の生活の流れや保育士の職務について理解や、援助職に求められるコミュニケーションが必要とされることから、講義だけでなく視覚教材の使用、グループワークやディスカッションも取り入れる内容とする。								
学修成果 到達目標	1) 保育実習の意義・目的・内容を理解できる。 2) 実習生としての心構えが身についている。 3) 学生間、教員とのコミュニケーションがとれる。 4) 約束事を守ることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	新・基本保育シリーズ20 保育実習 近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編 中央法規								
参 考 書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説書』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 必要です								
課題に対する フィードバック の方法	ワークを行ったあとに課されるレポートについては、確認後返却を行う。 授業後の振り返りシートも同様。								
留意事項	保育実習に関わる内容であるので、無断欠席及び遅刻は認めない。やむを得ず欠席せざるを得ないときには、修学支援課及び教員に連絡を行う必要がある。 学科の保育関係科目の状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。(要注意)								
オフィス アワー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：林；公立保育士として勤務 安藤；西七条保育園で保育士として勤務(現在に至る) 東田；公立保育士として勤務								

授業名	保育実習指導 a	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 保育実習指導を学ぶにあたっての諸注意	(学修内容) 授業内容や受講に關しての諸注意を行う。シラバスを用いて、本授業における流れと留意事項の確認。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 テキストp3~4、わからない語句について調べる
第2回	保育士資格取得の位置付け 福祉職としての保育士	(学修内容) 福祉職としての保育士が理解しておくべき職務内容や法的根拠のもとに保育士の専門性について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストp3~4、わからない語句について調べる 事後 テキストp5~8、わからない語句について調べる
第3回	保育実習の意義・目的 保育実習の概要	(学修内容) 保育士になるための学びや保育実習で学ぶ意義・目的・内容を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストp5~8、わからない語句について調べる 事後 テキストp9~23、わからない語句について調べる
第4回	保育士の職務理解と 目指すべき保育士の明確化1 保育士の役割について	(学修内容) グループワークを通して、社会で求められる保育士、自分自身が目指すべき保育士像について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 保育士の法的根拠を調べておく 事後 目指すべき保育士像を言葉で言語化できるようにする
第5回	保育士の職務理解と 目指すべき保育士の明確化2 目指すべき保育士像	(学修内容) グループワークを参考にし、福祉職としての保育士の理解を行い、自身のめざすべき保育士像を明確にする。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 目指すべき保育士像を言葉で言語化できるようにする 事後 目指すべき保育士像を言葉にする。レポート800字
第6回	実習に必要な基礎的な知識と技術1 レポートの書きかた	(学修内容) レポートの書き方を理解し、宿題のレポートの書き方について自身で添削し、レポートの書き方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 目指すべき保育士像を言葉にする。レポート800字 事後 テキスト「保育所」p17~を読み、わからない語句を調べる。
第7回	実習に必要な基礎的な知識と技術1 目標と目的の理解	(学修内容) 保育実習に必要な目標と目的について、グループワークを通して何を学びたいのか出し合い、自身の目標を明確にする。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 テキスト「保育所」を読み、わからない語句を調べる。 事後 保育実習目標についてノートに書いてくる
第8回	実習に必要な基礎的な知識と技術2 目標と目的の明確化	(学修内容) 視覚教材で保育所で行う実習を理解し、そこで何を学びたいのか実習目標を明確にし実習目標を書く。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 保育実習目標についてノートに書いてくる 事後 保育実習目標を清書する
第9回	実習施設を理解する1 障害児(者)施設を理解	(学修内容) 実習施設の一つである「障がい児(者)施設」を理解し、そこで働く保育士の役割を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 保育実習目標を清書する 事後 障害児(者)施設の保育士の仕事(レポート800字)
第10回	実習施設を理解する2 児童養護施設・乳児院の理解	(学修内容) 実習施設の一つである「児童養護施設・乳児院」を理解し、そこで働く保育士の役割を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 障害児(者)施設の保育士の仕事(レポート800字) 事後 児童養護施設・乳児院の保育士の仕事(レポート800字)
第11回	実習施設を理解する3 母子生活支援施設、児童心理治療施設の理解	(学修内容) 実習施設の一つである「母子生活支援施設等」を理解し、そこで働く保育士の役割を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 児童養護施設・乳児院の保育士の仕事(レポート800字) 事後 母子生活支援施設等の保育士の仕事(レポート800字)
第12回	保育実習の心構えと準備1 保育所実習自己開拓に関する手続き	(学修内容) 実習方法、保育所選択についての説明を受け、自分の実習園を選定する。実習生カードの下書きをする。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 母子生活支援施設等の保育士の仕事(レポート800字) 事後 実習したい保育所の情報を調べておく
第13回	保育実習の心構えと準備2 保育所への依頼について	(学修内容) 実習生としての心得と留意事項について理解し、保育所へ依頼する際のアポイントの取り方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 実習したい保育所の情報を調べておく 事後 実習生カードに必要な情報を調べておく
第14回	保育実習の心構えと準備3 保育所で使える保育技術	(学修内容) 保育所で使える保育技術を行い、実践できるように人前でを行う。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 実習生カードに必要な情報を調べておく 事後 春学期授業到達目標を確認しておく
第15回	春学期のまとめ(学びの振り返り) 秋学期に向けての課題	(学修内容) 春学期の到達目標を知見直し、学びの振り返りを行うとともに、夏期休暇中の課題の説明を聞く。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 春学期授業到達目標を確認しておく 事後 資料をファイルをまとめる

授 業 名	保育実習指導 a			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2427
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開講 時期	春学期	必修 選択		選択	
担 当 者	野田 隆生・高岡 理恵・眞崎 雅子・林 静香・安藤 正彦・東田 みすづ			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	「保育実習（保育所）」の事前・事後に行う学内指導となる。「保育実習（保育所・施設）」の保育所実習の経験を踏まえて、ふりかえり、学んだことを深化、発展させ、「保育実習（保育所）」に向けての実習課題を明確にする。「保育実習」の実習の意義や目的を認識するとともに、現代社会における子どもや保護者を取り巻く保育環境や問題点を理解し、保育士として必要とされる資質や能力を養うことを目的とす。								
学修成果 到達目標	1) 保育実習 の意義や目的を理解できる。 2) 保育士の職業倫理・守秘義務を理解できる。 3) 指導計画を理解し立案できる。 4) 実習課題を明確にできる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	随時資料を配布します。								
参 考 書	下記の冊子は毎時携行することが望ましい。（出版社はフレーベル館） 1) 『保育所保育指針』厚生労働省 2) 『保育所保育指針解説』厚生労働省 3) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 4) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省								
課題に対する フィードバック の方法	個別面談を通じて、各課題に対するコメントを行います。								
留意事項	「保育実習」の実施に向けて、実習の重要な事項を学ぶ授業となるため無断欠席は認めない。 学科の保育関係科目の履修状況及び出席状況によっては、実習を開始できないので注意すること。								
オフィス アワー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。（事前に予約を入れることが望ましい。）								
実践的教育									

授 業 名	保育実習指導 a	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 保育実習 についての実習概要・講義の進め方等について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 (保育所・施設)に関する実習ノート等を準備し、記載事項の不備がないことを確認しておく。
第2回	保育実習 の目的・意義	(学修内容) 保育実習 との相違点や段階性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 (保育所)の内容について整理し、良くできたこととこれからの課題についてまとめておく。
第3回	保育実習 のふりかえりレポートの作成	(学修内容) 保育実習 (保育所・施設)の内容について整理する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 (施設)の内容について整理し、良くできたこととこれからの課題についてまとめておく。
第4回	保育実習 のふりかえり	(学修内容) 保育実習 (保育所実習)のふりかえりをプレゼンテーションすることで、保育実習 の目的意識を高める。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習記録ならびに指導案を読み返し、ワークシートに記入しておく。
第5回	保育実習 の評価面談	(学修内容) 保育実習 (保育所実習)の個別評価面談を通して、保育実習 の目的意識を高める。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 評価面談終了後、これからの課題についてまとめておくこと。
第6回	保育実習 のふりかえりと評価面談	(学修内容) 保育実習 (保育所実習)ふりかえりや個別評価面談を通して、保育実習 に向けた課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 前回までのふりかえりと個別評価面談の内容についてまとめておくこと。
第7回	実習生カードの作成・提出	(学修内容) 実習生カードの作成 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習生カード作成に必要なものを用意し、保育実習 に向けた動機を整理しておくこと。
第8回	保育士の倫理綱領について理解する	(学修内容) 保育士の倫理綱領を解説しながら、保育士として、実習生としての倫理観について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育専門職としての倫理について、ワークシートにまとめておくこと。
第9回	保育実習 実習目標・課題の作成	(学修内容) 保育実習 の新たな目標・課題を設定する (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習目標を3つ考え、それぞれに課題を設定し、説明ができるようにしておくこと。
第10回	実習目標・課題の添削・指導	(学修内容) 実習課題の添削指導を個別相談にて行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 実習目標と課題を清書用シートに記入しておくこと。
第11回	実習記録ノートの配布と書き方の説明	(学修内容) 保育実習 の実習記録ノートの配布、記録の書き方について説明 (事前事後学修課題の内容) (45分) 保育実習 の記録ノートを読み返し、書きにくかったことをまとめておくこと。
第12回	8月の保育内容 ～水遊びの指導・注意事項・指導計画の立案～	(学修内容) 保育実践を学ぶとともに、指導案作成の留意点の理解、指導計画を立案し実践に向けての準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 夏の保育活動をイメージし、指導案の内容について考えておくこと。
第13回	実習事前指導 ～実習の心得などの説明ならびに個別面談～	(学修内容) 実習の心得、実習園とのオリエンテーション、質疑応答 (事前事後学修課題の内容) (45分) 配布プリントをよく読み、実習園の特徴や保育内容に関する情報を収集しておくこと。
第14回	実習事前指導 ～必要書類の説明ならびに個別面談～	(学修内容) 実習に伴う書類等準備についての説明 検便等 (事前事後学修課題の内容) (45分) 配布プリントをよく読み、目標と課題について理解した上で、個別面談に臨めるようにしておくこと。
第15回	実習訪問担当者との面談	(学修内容) 実習訪問担当者との面談にて個別指導 (事前事後学修課題の内容) (45分) 報告書等に必要事項を記入し、面談時に提出すること。

授 業 名	保育実習指導 a			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2429
英 文 名	Guidance of Child Care Training			開講 時期	春学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	武田 康晴			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>「保育実習（施設）」の事前・事後に行う学内指導となる。「保育実習（保育所・施設）」の施設実習の経験を踏まえて、振り返り、学んだことを深化、発展させ、「保育実習（施設）」に向けての実習課題を明確にする。「保育実習」の実習の意義や目的を認識するとともに、現代社会における子どもや保護者を取り巻く保育環境や問題点を理解し、保育士として必要とされる資質や能力を養うことを目的とす。実践力を身につけることを目的に学生同士の意見交換、グループ作業を取り入れて授業を進める。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 保育実習 の意義や目的を理解できる。  2) 保育士の職業倫理・守秘義務を理解できる。  3) 保育士としての社会的責任を説明することができる。  4) 実習課題を明確にし、実習目標を達成する。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (	)	
テキスト	保育実習指導 で使用したテキストを引き続き使用する。								
参 考 書	必要に応じて紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	個別面談を通じて口頭で行うほか、必要に応じて提出物にコメントを記入して返却する。								
留意事項	「保育実習」の実施に向けて、実習の重要な事項を学ぶ授業となるため無断欠席は認めない。学科の保育関係科目の履修状況及び出席状況によっては、準備ができていないという理由で実習開始できないので注意すること。								
オフィス アワー	研究室に掲示し、口頭でも伝える。								
実践的教育									

授業名	保育実習指導 a	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 保育実習指導、保育実習について、実習概要、授業の進め方について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスに目を通しておく。保育実習指導のノートを点検し、不備がないものを準備する。
第2回	保育実習の目的・意義	(学修内容) 保育実習との関連また相違点や段階的学習について理解する。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 保育実習の実習ノートの該当箇所を復習し、課題を抽出しておく。
第3回	保育実習の振り返りレポートの作成	(学修内容) 保育実習の内容について振り返りを行い、個別面談を経て保育実習へ向かう課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 実習に関するファイル情報を作成し提出する。
第4回	保育実習の振り返りと評価面談	(学修内容) 保育実習の振り返りと個別面談を通じて保育実習の目的、意義を理解する。個別面談以外の学生は課題を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に提示した課題に取り組み提出する。
第5回	保育実習の振り返りと評価面談	(学修内容) 保育実習の振り返りと個別面談を通じて保育実習の目的、意義を理解する。個別面談以外の学生は課題を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に提示した課題に取り組み提出する。
第6回	保育実習の振り返りと評価面談	(学修内容) 保育実習の振り返りと個別面談を通じて保育実習の目的、意義を理解する。個別面談以外の学生は課題を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に提示した課題に取り組み提出する。
第7回	実習生カードの作成と提出	(学修内容) 実習生カードその他、保育実習に必要な書類について準備する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 写真等実習生カードその他の作成に必要なものを準備してくる。
第8回	保育士として持つべき価値観・倫理観	(学修内容) 全国保育士会の倫理綱領等を活用し、保育士として、また実習生としての倫理、義務、責任について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 倫理綱領に目を通しておく。また事後には、保育士の倫理についてレポートを作成する。
第9回	実習目標と課題の作成	(学修内容) 保育実習の積み残し課題を踏まえ、保育実習としての目標と課題を検討、所定の用紙を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 目標と課題の用紙を作成し、提出する。
第10回	実習目標と課題の添削指導	(学修内容) 前回の授業を通じて作成、提出した実習課題と目標の用紙を使い、グループ作業も取り入れながら相互添削、教員による添削を受ける。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業の内容を踏まえ、目標と課題の用紙を清書して提出する。
第11回	実習記録ノートの配布と書き方の解説	(学修内容) 実習記録の書き方を学ぶ。また、保育実習(施設)の実習ノートを持参し、自己添削するワークショップも用いて記録について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実習ノートを使って1日の記録を記入して提出する。
第12回	保育実習に関するグループ指導	(学修内容) 保育実習(施設)という枠内でテーマを設定し、ディスカッションを通じて課題と対応策について探求する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業内容に関するレポートを作成する。
第13回	保育実習に関するグループ指導	(学修内容) 保育実習(施設)という枠内でテーマを設定し、ディスカッションを通じて課題と対応策について探求する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業内容に関するレポートを作成する。
第14回	書類の作成指導	(学修内容) 保育実習に必要な書類について、活用方法、必要性を十分に理解しながら作成する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 書類作成に必要なものを準備する。
第15回	保育実習に向けた最終確認・指導と訪問教員との顔合わせ	(学修内容) 保育実習に向けた最終的な諸注意事項を理解する。また、訪問担当教員と面談し、実習中の指導方法について確認する。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 実習に向けて総括的なレポートを作成する。

授 業 名	日本国憲法			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1205
英 文 名	The Constitution of Japan			開講 時期	春・秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	水野 彰子			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>日常生活の中で、憲法や法律について考える機会は少ないかもしれませんが。しかし、憲法は、私たちの基本的な権利や国の根幹について定める、とても大事なものです。この授業では、実は身近な「人権」の例や、社会生活の中で目にしうる法律問題を取り上げながら、憲法の基本的な考え方を学んで行きたいと思います。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 日本国憲法を、くらしに関連する法律と共に、理解する。 2) 人生の各段階で直面する様々な問題を、法的側面から理解することができる。 3) 主権者として必要な知識を習得することができる</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	プリントを毎回配布します。								
参 考 書	『おとめ六法』（上谷さくら・岸本学、KADOKAWA、2020年）、『マンガでわかる日本国憲法』（木山泰嗣監修、池田書店、2014年）、『こども六法』（山崎聡一郎、弘文堂、2019年）、『もしも世界に法律がなかったら』（木山泰嗣、日本実業出版社、2019年）、授業中に適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	理解度確認のための小テスト等を行い、授業時に解説・コメントを行います。								
留意事項	関連するニュースを取り上げ、発言・コメントを求めます。								
オフィス アワー	質問・相談等は、担当授業終了後に受け付けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：弁護士として執務								



授業名	日本国憲法	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（憲法、法律、日常生活）	（学修内容）講義概要を紹介し、憲法・法律と日常生活の関係についての概要を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 本授業計画（シラバス）に目を通すとともに、日本国憲法を一読しておくこと。
第2回	幸福追求権と公共の福祉	（学修内容）日本国憲法で規定する「幸福追求権」と「公共の福祉」の関係、「自己情報コントロール権」など新たな自己決定権を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第3回	法の下での平等	（学修内容）平等の概念が、法律にどのように反映されているか、判例や男女雇用機会均等法などと共に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第4回	表現の自由	（学修内容）SNSの普及によりネットでの中傷が社会問題化している。憲法に定めのある表現の自由と公共の福祉の関係などについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第5回	経済的自由と労働権	（学修内容）いわゆるフリマアプリにより若年層にも身近になった経済活動について、「職業選択の自由」などの憲法規定、労働法規とともに考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第6回	婚姻	（学修内容）婚姻は両性の合意のみによって成立する。恋愛関係と婚姻の違い、事実婚について学習する。また離婚の問題について扱う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第7回	家族	（学修内容）家族には、相続や介護といった複雑な問題が付随してくる。家族関係で生じる権利や義務について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第8回	子ども	（学修内容）子ども（未成年）の権利と制約について、また親と社会の義務について、少年法や児童の権利条約について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第9回	生存権と社会保障	（学修内容）憲法が定める「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」に関連する社会福祉、社会保障、公衆衛生について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第10回	教育と学問	（学修内容）教育を受ける権利を中心に、義務教育と大学の教育の相違、学問の自由について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第11回	犯罪と刑罰	（学修内容）憲法は、犯罪と処罰について多くの条文を劃いている。被疑者の権利や私人逮捕など、犯罪に巻き込まれた場合に必要となる知識を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第12回	財政と税金	（学修内容）納税の義務、納税の仕組み（確定申告と源泉徴収など）、納税に準じる年金などの制度、国家予算の仕組みについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第13回	行政と地方自治	（学修内容）現代の国家において、行政権は国民生活の広範に及んでいる。行政国家現象と称される実情、ならびに地方自治体が担う行政について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第14回	参政権、国会、憲法改正	（学修内容）選挙権年齢の18歳への引き下げ、多様な政治参加の進展、憲法改正問題など、現代の参政権とその課題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの授業で取り上げた、重要な論点を振り返る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。

授 業 名	消費者教育			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CS2431
英 文 名	Consumer Education			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	三室 久枝			対象 学生	幼児教育2回生、総合文化2回生				
授業の概要	デジタル化、グローバル化等、現代社会の大きな動きの中で、消費生活の状況も刻々と変化しています。2022年4月に成年年齢が引下げられたことで、若い世代への消費者教育が一層注目されています。消費者を取り巻く現状や課題を理解し、消費生活トラブルの未然防止や早期解決のための基礎知識を身につけることが重要です。本授業では、消費生活に関する知識の習得とともに、消費者の権利や役割を認識して、自立した消費者として行動できる力の育成をめざします。また、理解を深めるためにグループワークやICT活用（双方向型授業）を取り入れます。								
学修成果 到達目標	1.消費生活トラブルの現状や課題を理解し、消費者教育の必要性を説明できる。 2.契約の考え方や消費生活トラブルに巻き込まれたときの対処法を説明できる。 3.広告のルール、食品や電化製品等の表示の活用について説明できる。 4.持続可能な社会を見据えた消費行動について理解し、実践できる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	授業内でプリントを配布します。								
参 考 書	適宜、消費者庁、国民生活センター等のweb教材を紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	課題はコメントを付して返却するとともに、次回授業で講評します。また、毎回、前回の授業内容について知識確認チェックを実施し、解説します。								
留意事項	消費生活に関する問題は社会の変化と密接に関連しているので、ニュースなど社会の動きに関心を持ってください。予習のほか、毎回授業の初めに前回授業の知識確認チェックを実施するので復習しておいてください。								
オフィス アワー	担当授業の前後に実施します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：高校の家庭科非常勤講師、消費生活センターの消費生活相談員（消費者教育含む）として勤務。								

授 業 名		消費者教育
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	消費者教育とライフサイクル、受講の留意点	(学修内容)消費者教育の必要性、ライフサイクルと消費(グループワーク)、授業の進め方 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に、シラバスを読んでおく。授業後、消費者教育の必要性、特に関心のある授業回についてまとめて提出。
第2回	消費者の権利と責任、消費者行政と消費者教育	(学修内容)消費者の権利と責任、消費生活センターの役割、消費生活相談の現状 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に、指定されたweb教材を読み、考えをまとめておく。授業後、消費生活センターの役割と相談する時の準備についてまとめて提出。
第3回	契約の基本とキャッシュレス社会	(学修内容)契約の基礎知識、クレジットカード、電子マネー(ICT活用双方向型授業) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に、指定されたweb教材を読み、考えをまとめておく。授業後、クレジットカード利用の留意点をまとめて提出。
第4回	若い世代の消費トラブルと社会背景	(学修内容)若い世代の消費トラブル事例と社会背景、心理、対処法(グループワーク) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に、指定されたweb教材を読み、考えをまとめておく。授業後、指定された事例について問題点と対処法をまとめて提出。
第5回	消費者を守る法律(消費者契約法・特定商取引法等)	(学修内容)契約の取消しや解除、クーリング・オフ制度 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に、指定されたweb教材を読み、考えをまとめておく。授業後、知識確認レポートをまとめて提出。
第6回	ネットトラブル(情報を見る目、SNS利用の留意点)	(学修内容)SNSの特徴と情報のチェック点、トラブル事例と対処法(ICT活用双方向型授業) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に、提示された質問に答えられるよう準備しておく。授業後、SNS初心者に助言する場合の留意点をまとめて提出
第7回	ネットトラブル(ネット広告、ネット通販等)	(学修内容)景品表示法、ネット通販のルールとトラブル事例・対処法 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に、提示された質問に答えられるよう準備しておく。授業後、指定された事例について問題点と対処法をまとめて提出。
第8回	賃貸住宅の契約と不動産広告のルール	(学修内容)不動産広告のルール、賃貸住宅契約時の留意点、原状回復をめぐるガイドライン (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に、指定されたweb教材を読み、考えをまとめておく。授業後、知識確認レポートをまとめて提出。
第9回	身近にひそむ危険(製品事故、子ども・高齢者の事故)	(学修内容)製品事故、取扱説明書の活用、家の中の子どもや高齢者の事故・危険、次回のワーク向け準備 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に、指定されたweb教材を読み、考えをまとめておく。授業後、製品事故情報の周知についてまとめて提出。
第10回	消費者への注意喚起・啓発の工夫	(学修内容)製品利用についての注意喚起ポップの作成(グループワーク)と発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に、担当する製品の特徴やトラブルを調べておく。授業後、作成するに当たって考えたポイント、感想をまとめて提出。
第11回	食品の表示と流通、デジタルマーケティング	(学修内容)生鮮食品、加工食品の表示と活用(グループワーク)、デジタルマーケティングと消費者 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に、日頃利用する加工食品のパッケージの表示を確認して持参する。授業後、指定された加工食品の表示を見て、特徴をまとめて提出。
第12回	金融商品の特徴と活用	(学修内容)社会保障のしくみ、保険・貯蓄・投資の特徴と生活設計への活かし方 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に、自分の進路、将来について、考えておく。授業後、金融商品の利用について考えをまとめて提出。
第13回	災害への備えと災害時の消費生活トラブル	(学修内容)ハザードマップの活用、家庭での備え、災害時に多い消費生活トラブルと注意点(ICT活用双方向型授業) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に、記憶に残る自然災害時の気持ちや状況を確認しておく。授業後、周囲の人に伝えたいことをまとめて提出。
第14回	エシカル(倫理的)消費とSDGs、消費者志向経営	(学修内容)エシカル消費の意味とSDGsの関連、消費者・行政・企業の取組み、消費者志向経営 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に、エシカル関連のマークのついた商品を探しておく。授業後、エシカル消費周知のための消費者教育について考えをまとめて提出。
第15回	消費者市民社会と消費者教育	(学修内容)消費者市民社会の考え方と消費者教育の重要性、授業全体のまとめ (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に、授業全体の配付資料を見直し、質問等があれば準備しておく。授業後、今後の消費生活で実践していきたいことをまとめて提出。

授 業 名	情報ビジネス演習 a			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1402
英 文 名	Information Business Practice a			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	高村 伸吾			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>現在、パーソナルコンピュータを介した記録や情報検索などが日常におこなわれ必要不可欠となっている。コンピュータを用いた基本的な情報活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用して実施する。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる。  2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる。  3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる。  4) インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる。  5) 課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office 2021対応版』オーム社、2022。								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出された制作物やプレゼンテーションについてはコメントを付けて返却します。								
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードが分かる状態で授業に参加してください。</li> <li>・2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。</li> <li>・毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。</li> </ul>								
オフィス アワー	授業前後に対応します。								
実践的教育									

授業名	情報ビジネス演習 a	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 メールの基本操作 情報セキュリティ、モラル	(学修内容) 授業概要の説明、情報処理室の使用法、Gメールの送受信。 アカウントの追加、情報に関するリスク・対策・モラルについて。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: シラバス、教科書第1章(1-3を除く)、第2章、入学時に配布された情報マニュアルを読み持参。 事後: メールを送信。
第2回	Word 1 (基本操作)	(学修内容) USBメモリ使用上の注意、Wordの開始、保存、終了。 コピー&貼り付け、ページ設定、書式設定、文字カウント。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: USBメモリを購入し持参、教科書第1章1-3、第3章3-1-2を読む。 事後: 第2回課題 (Word・書式設定をした文書) をClassroomから提出。
第3回	Word 2 (文書作成と整形)	(学修内容) 検索と置換、ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入、 インデントとTabキー、箇条書きなど。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第3章3-3、3-4を読む。事後: 第3回課題 (Word・Tabキーを使用した文書) をClassroomから提出。
第4回	Word 3 (図入りの文書の作成)	(学修内容) 図形、画像の作成、挿入、テキストの配置。 Snipping Tool の使い方など。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第3章3-5を読む。事後: 第4回課題 (Word・図形や画像を使用した文書) をClassroomから提出。
第5回	Word 4 (表作成) 文献検索	(学修内容) 単純な表、複雑な表の作成。 文献検索について。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第3章3-5を読む。事後: 第5回課題 (Word・表) を印刷し提出。文献検索より書籍を1冊選んで読み、次回持参。
第6回	Word 5 (総復習)	(学修内容) 課題の作成 (レジメの作成)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第3章を復習。 事後: 第6回課題 (Word・レジメ) をClassroomから提出。
第7回	PowerPoint 1 (基本操作)	(学修内容) スライドサイズの変更、スライドマスターの編集、箇条書き。 インデント、Tabキーの使い方、画像の加工、アニメーションの設定。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第5章5-1、5-2、5-3を読む。 事後: 第7回課題 (PowerPoint・画像加工) をClassroomから提出。
第8回	PowerPoint 2 (Word、Excelとの連携)	(学修内容) グラフ、表の作成、ノートの記入、印刷設定。 罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第5章5-7を読む。 事後: 第8回課題 (PowerPoint・グラフ) を印刷し提出。
第9回	PowerPoint 3 (総復習)	(学修内容) プレゼンテーション技法。 次回プレゼンテーション用のスライドを作成。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第5章5-4、5-5、5-6を読み、発表テーマを考えてくる。 事後: 発表用スライドを完成させ、Classroomから提出。
第10回	PowerPoint 4 (プレゼンテーション)	(学修内容) PowerPointを使ったプレゼンテーションの実際。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 発表用原稿を作成する。 事後: プレゼンテーションの振り返りを行う。
第11回	Excel 1 (基本操作、関数)	(学修内容) セル、シート等、各画面の説明、データ入力。 簡単な計算式など。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第4章4-1、4-2-1を読む。事後: 第11回課題 (Excel・セル番地を使用した計算) をClassroomから提出。
第12回	Excel 2 (関数)	(学修内容) 各種関数 (合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第4章4-2を読む。事後: 第8回課題 (Excel・関数を使用した計算) をClassroomから提出。
第13回	Excel 3 (表、グラフの作成)	(学修内容) 棒、折線、円、複合などのグラフ、印刷設定。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第4章4-3、4-4、4-8を読む。 事後: 第13回課題 (Excel、Word・グラフ) を印刷し提出。
第14回	Excel 4 (既存データベースの利用)	(学修内容) e-Stat のデータを利用し、情報を分析評価し整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第4章を復習し、レポート案を作成してくる。 事後: 選んだ統計データの分析を行う。
第15回	Excel 5 (総復習)	(学修内容) 前回の情報分析結果をレポートにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 選んだ統計データの分析とレポート案の作成。事後: 第14、15回課題 (e-Statデータを利用したレポート) をClassroomから提出。

授 業 名	パーソナル・ファイナンス			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1414
英 文 名	Personal Finance			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	上田 有里奈			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>パーソナル・ファイナンスとは、その人の生き方と照らし合わせた「お金の管理」のことを言います。今や「人生100年時代」、ライフスタイルや価値観が多様化するなかで変化する働き方・暮らし方に役立つお金の知識や活用方法について学びます。いくつかの授業のなかで、ディスカッションをする機会があります。</p>								
学修成果 到達目標	<p>(1)学校生活や将来の生活のために必要なお金の知識や活用方法を身に付けることができる。  (2)私たちの生活を支える様々なシステムや制度について理解することができる。  (3)授業で得た知識を基に、様々な視点から自分自身の人生設計を考えることができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	随時、関連するテキストや資料を授業の中で提示します。								
参 考 書	随時、関連するテキストや資料を授業の中で提示します。								
課題に対する フィードバック の方法	授業の中で適時コメントやアドバイスします。								
留意事項	授業の進捗状況等によって、授業計画を変更する場合があります。								
オフィス アワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください。								
実践的教育									

授業名	パーソナル・ファイナンス	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 学生生活に必要なお金	(学修内容) 今後の授業の流れについて説明します。学生生活で必要なお金について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 今後のスケジュールについて、しっかりと確認しておくこと。 授業の復習を行う。
第2回	進学にかかるお金と奨学金	(学修内容) 進学にかかるお金と奨学金について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の復習を行う。
第3回	お金との付き合い方	(学修内容) お金との付き合い方を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の復習を行う。
第4回	働く、税金、社会保険、民間保険	(学修内容) 様々な働き方と、暮らしを支える税金や保険を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の復習を行う。
第5回	働く、税金、社会保険、民間保険	(学修内容) 様々な働き方と、暮らしを支える税金や保険を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の復習を行う。
第6回	労働環境の現状と最低賃金制度	(学修内容) 労働環境の現状と最低賃金制度について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の復習を行う。
第7回	将来設計を考える	(学修内容) 自分自身の将来設計を考える。 ディスカッションの予定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の復習を行う。
第8回	将来設計を考える	(学修内容) 自分自身の将来設計を考える。 ディスカッションの予定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の復習を行う。
第9回	お金を貯める、増やす	(学修内容) お金の運用方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の復習を行う。
第10回	お金を借りる時の注意点	(学修内容) お金を借りる時の注意点について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の復習を行う。
第11回	契約・トラブル	(学修内容) 契約について理解を深める。 ディスカッションの予定 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の復習を行う。
第12回	消費者信用と多重債務	(学修内容) 消費者信用と多重債務について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の復習を行う。
第13回	ライフプランとお金	(学修内容) 自分のキャッシュフロー表を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の復習を行う。
第14回	持続可能なライフスタイルを創造するための生活主体者としての取り組みについて	(学修内容) 持続可能なライフスタイルを創造するための生活主体者としての取り組みについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の復習を行う。
第15回	まとめ	(学修内容) これまでのまとめとレポート課題の説明 (事前事後学修課題の内容) (30分) これまでの資料について整理する。

授 業 名	キャリア形成基礎			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	
英 文 名	Basic Career Development			開講 時期	春学期	必修 選択		選択	
担 当 者	富川 拓			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	この授業では、目前に迫った進路決定の実現に向けて、計画的、綿密な実践を行うことを目的とする。授業では、就職活動本番に向けたグループディスカッションや面接、発表、討議などを行う。また、企業や自治体との連携によるPBLも取り入れ、企業や地域が実際に抱える課題の解決策を検討することを通して、社会人としての基礎的な力を身につける。この講義を就職活動や進路活動と結びつけ、学生間で情報共有も図りたい。								
学修成果 到達目標	1) 自己の進路実現と連携する 2) 就職活動について、明確な意識を持つ 3) 就職活動情報を共有する								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( 社会人基礎力 )	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	使用しない。プリントを配布								
参 考 書	授業中に適宜指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	グループワークや発表、レポートなどに関して、全体的な講評を行う。								
留意事項	キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									



授業名	キャリア形成基礎	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容、学修成果・到達目標、評価方法などについて (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおくこと
第2回	就職活動に向けて	(学修内容) 就職活動への諸注意、社会人基礎力について (事前事後学修課題の内容) (60分) 就職活動スケジュールの確認
第3回	コミュニケーション力を身につける	(学修内容) グループワークの実践 (事前事後学修課題の内容) (60分) ワークシートをまとめておく
第4回	面接練習	(学修内容) 個人、グループ面接 (事前事後学修課題の内容) (60分) ワークシートをまとめておく
第5回	グループディスカッション その1	(学修内容) 就職活動を想定したグループディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) ワークシートをまとめておく
第6回	グループディスカッション その2	(学修内容) 就職活動を想定したグループディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) ワークシートをまとめておく
第7回	実践活動(発展編) その1	(学修内容) 企業や自治体が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 関連情報を収集しておく
第8回	実践活動(発展編) その2	(学修内容) 企業や自治体が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 関連情報を収集し、中間報告用資料を作成する
第9回	実践活動(発展編) その3	(学修内容) 企業や自治体が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する。検討した案を発表し(中間報告)、意見交換を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講師に対する質問をまとめておく。
第10回	実践活動(発展編) その4	(学修内容) 中間報告、意見交換の結果をもとに、解決策を再検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 関連情報を収集し、最終報告用資料を作成する。
第11回	実践活動(発展編) その5	(学修内容) 企業の方に向けて検討した案を発表し(最終報告)、意見交換を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 最終報告用資料を修正し、提出する。実践活動の振り返りレポートを作成する。
第12回	企業関連施設訪問(フィールドワーク)その1	(学修内容) 施設訪問 (事前事後学修課題の内容) (60分) 施設先での質問を考えておく
第13回	企業関連施設訪問(フィールドワーク)その2	(学修内容) 施設訪問 (事前事後学修課題の内容) (60分) 施設先での質問を考えておく
第14回	企業関連施設訪問(フィールドワーク)その3	(学修内容) 施設訪問 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークの振り返りレポートを作成
第15回	まとめ、振り返り、今後の活動について	(学修内容) 授業内容を振り返り、今後の活動について検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 今後の活動に関するレポートの作成

授 業 名	キャリアデザインb・c			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1401
英 文 名	Career Design			開講 時期	春学期	必修 選択	必修		
担 当 者	堀出 雅人			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>キャリアとは、その語源をたどれば「人生」という意味をもつ。1回生のみなさんにとっては入学後間もない段階で次の進路を考えることに違和感を感じるかもしれない。しかし、この2年間の学びをより充実したものにするためには、これからの自分がどうありたいのか、目標や方向性を定めることが重要である。この授業を通して、人生100年時代と言われる今日受講生自身が人生の設計図を描き、その実現に向け行動する力を伸ばすことを目標としている。具体的には就職活動に向けた基礎的な知識やスキルを習得するとともに、人生の設計図を実現するためのライフイベント表（人生の出来事）とキャッシュフロー表（お金の流れ）の作成などである。授業の進捗度などによって、下記のシラバスの授業回の内容が前後する場合もある。授業中では、より学びを深めるために、プレゼンテーションやグループワークなど活動的な学習も行う予定もある。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 自らの将来を切り拓くため、働く意味、キャリアやキャリア・デザインの重要性を説明することができる。  2) 進路実現のためインターンシップや実習や就職活動に取り組み意義と心構えを表現することができる。  3) 人生の設計図としてライフイベント表とキャッシュフロー表を作成することができる。  4) 仲間と積極的にコミュニケーションを取り協力して授業の課題に取り組むことができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	<p>授業の初回に日本FP協会 (<a href="https://www.jafp.or.jp/">https://www.jafp.or.jp/</a>) 提供の無償のテキストを配付します。各自テキストには名前を書くこと。毎回の授業時に持ってくること。</p>								
参 考 書	<p>授業中に適宜指示します。</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>提出された課題については授業中での講評、あるいは、適宜コメントを付けて返却することで学修成果へのフィードバックを行います。プレゼンテーションの際は事前に評価指標を公表します。その指標に沿って、発表後に全体やグループへコメントを返します。</p>								
留意事項	<p>傾聴は職場や生活なかで人と人との信頼関係を生む大切な行為です。授業担当者の説明をよく聴く、受講生同士の話し合いや発表の時にもまず相手の話をよく聴きましょう。講義は授業担当者が一方的に「話す」ではなく、受講生へ「問い」を投げかけながら進めます。挙手や発言を求められた場合は積極的に応じましょう。学びが深まります。毎回、授業をふりかえる課題を出します。授業になんらかの理由で欠席する際は事前にku096horide@kyotokacho-u.ac.jpまでメールを送ることを心がけましょう。</p>								
オフィス アワー	<p>授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み</p>								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：特定非営利活動法人学習開発研究所において、e-learningによる大学生、中小企業などのエンジニアの学習環境の開発と運用に携わった</p>								

授業名		キャリアデザインb・c
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)ガイダンスを聞き、なぜ人生設計が必要なのかを説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:シラバスを読んでくる 事後:授業の感想をまとめ提出
第2回	ライフキャリアの虹	(学修内容)ライフキャリアの虹を説明でき自らの予想図を描くことができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:キャリアの意味を調べてくる 事後:授業の感想をまとめ提出
第3回	自己分析	(学修内容)過去から現在までの自分を振り返ることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:これまでの人生で印象的だったことを思い出してくる 事後:授業の感想をまとめ提出
第4回	社会人基礎力	(学修内容)社会人基礎力を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:社会で求められる力を調べてくる 事後:授業の感想をまとめ提出
第5回	幼稚園、保育所、こども園について(基礎)	(学修内容)保育者として勤務できる代表的な教育・保育施設について説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:幼稚園や保育所、こども園の機能について調べてくる 事後:授業の感想をまとめ提出
第6回	それぞれの園の特色(就職先選びの基礎)	(学修内容)ウェブページなどからいくつか園を調べ整理することができる 次回の発表に向けてプレゼンの計画を立てることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:興味のある園を調べてくる 事後:プレゼン資料の作成
第7回	【プレゼンテーション】 学修成果の報告	(学修内容)プレゼンテーションを通して発信力を高めることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:プレゼン資料の作成 事後:授業の感想をまとめ提出
第8回	ライフステージ(成長・探索段階)	(学修内容)人生の成長・探索段階のイベントや課題を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:テキストの指定する頁を読んでくる 事後:授業の感想をまとめ提出
第9回	ライフステージ(確立・維持段階)	(学修内容)人生の確立・維持段階のイベントや課題を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:テキストの指定する頁を読んでくる 事後:授業の感想をまとめ提出
第10回	ライフステージ(下降段階)	(学修内容)人生の下降段階のイベントや課題を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:テキストの指定する頁を読んでくる 事後:授業の感想をまとめ提出
第11回	ライフイベント表の作成	(学修内容)ライフイベント表を作成できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:テキストの指定する頁を読んでくる 事後:授業の感想をまとめ提出
第12回	キャッシュフロー表の作成	(学修内容)キャッシュフロー表を作成できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:テキストの指定する頁を読んでくる 事後:授業の感想をまとめ提出
第13回	【グループワーク】 ライフイベント表とキャッシュフロー表の成果共有	(学修内容)作成したライフイベント表とキャッシュフロー表の要点を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:作成した2つの表の説明する要点をまとめてくる 事後:他者からの意見をもとに2つの表を修正する
第14回	働く環境とダイバーシティ	(学修内容)ダイバーシティを進める企業や事業所の取り組みについて説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:ダイバーシティについて調べてくる 事後:授業の感想をまとめ提出
第15回	インターンシップとアルバイト	(学修内容)キャリア開発に向けて学生時代に取り組みインターンシップとアルバイトの重要性について説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:アルバイトの経験やインターンシップの希望を書き出す 事後:授業の感想をまとめ提出

授 業 名	情報ビジネス演習c～f			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1402
英 文 名	Information Business Practice			開講 時期	春・秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	積 高之・盧 珠妍			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	現在、パーソナルコンピュータを介した記録や情報検索などが日常におこなわれ必要不可欠となっている。コンピュータを用いた基本的な情報活用能力を習得するため、本科目では文章編集ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどの使い方や活用方法、インターネットを用いた情報検索などについての実習をおこなう。またインターネットや情報機器を使用するにあたっての注意事項についても併せて学習する。演習データの提供や提出はICTを活用して実施する。								
学修成果 到達目標	1) Microsoft Wordによる文書入力・整形、図表の作成・挿入などの操作ができる。 2) Microsoft Excelによるデータ入力、関数を用いた計算、グラフや表の作成・整形などができる。 3) Microsoft PowerPointによるスライド作成、図表の挿入・整形などができる。 4) インターネットリテラシーを習得し、インターネットやSNSを適切に利用できる。 5) 課題解決のために必要な情報を探索し、分析・評価・整理、アウトプットができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office 2021対応版』オーム社、2022。								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出された制作物やプレゼンテーションについてはコメントを付けて返却します。								
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理室のパソコンで各自作業を行いますので、入学時に配布されたユーザーIDとパスワードが分かる状態で授業に参加してください。</li> <li>・2回目以降はUSBメモリにデータを保存しますので、毎回USBメモリを持参してください。容量やメーカーは問いませんので各自で準備してください。</li> <li>・毎回の授業の内容は前回の授業内容をふまえたものであるため、欠席をしないように心がけること。</li> </ul>								
オフィス アワー	授業初回にアナウンスします。 【積・盧】研究室前にも掲示します。								
実践的教育									

授業名	情報ビジネス演習c~f	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション Windowsの基本操作 メールの基本操作 情報セキュリティ、モラル	(学修内容) 授業概要の説明、情報処理室の使用法、Gメールの送受信、アカウントの追加、情報に関するリスク・対策・モラルについて。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: シラバス、教科書第1章(1-3を除く)、第2章、入学時に配布された情報マニュアルを読み持参。 事後: メール送信。
第2回	Word 1 (基本操作)	(学修内容) USBメモリ使用上の注意、Wordの開始、保存、終了。 コピー&貼り付け、ページ設定、書式設定、文字カウント。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: USBメモリを購入し持参。教科書第1章1-3、第3章3-1-2を読む。 事後: 第2回課題 (Word・書式設定をした文書) をClassroomから提出。
第3回	Word 2 (文書作成と整形)	(学修内容) 検索と置換、ヘッダーとフッター、ページ番号の挿入。 インデントとTabキー、箇条書きなど。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第3章3-3、3-4を読む。 事後: 第3回課題 (Word・Tabキーを使用した文書) をClassroomから提出。
第4回	Word 3 (図入りの文書の作成)	(学修内容) 図形、画像の作成、挿入、テキストの配置。 Snipping Tool の使い方など。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第3章3-5を読む。 事後: 第4回課題 (Word・図形や画像を使用した文書) をClassroomから提出。
第5回	Word 4 (表作成) 文献検索	(学修内容) 単純な表、複雑な表の作成。 文献検索について。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第3章3-5を読む。 事後: 第5回課題 (Word・表) を印刷し提出。文献検索より書籍を1冊選んで読み、次回持参。
第6回	Word 5 (総復習)	(学修内容) 課題の作成 (レジメの作成)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第3章と第2~5回目までの授業を復習する。 事後: 第6回課題 (Word・レジメ) をClassroomから提出。
第7回	PowerPoint 1 (基本操作)	(学修内容) スライドサイズの変更、スライドマスターの編集、箇条書き。 インデント、Tabキーの使い方、画像の加工、アニメーションの設定。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第5章5-1、5-2、5-3を読む。 事後: 第12回課題 (PowerPoint・画像加工) をClassroomから提出。
第8回	PowerPoint 2 (Word、Excelとの連携)	(学修内容) グラフ、表の作成、ノートの記入、印刷設定。 罫線、文字の配置、セルの挿入・削除・結合。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第5章5-7を読む。 事後: 第8回課題 (PowerPoint・グラフ) を印刷し提出。
第9回	PowerPoint 3 (総復習)	(学修内容) プレゼンテーション技法。 次回プレゼンテーション用のスライドを作成。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第5章5-4、5-5、5-6を読み、発表テーマを考えてくる。 事後: 発表用スライドを完成させClassroomから提出。
第10回	PowerPoint 4 (プレゼンテーション)	(学修内容) PowerPointを使ったプレゼンテーションの実際。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 発表用原稿を作成する。 事後: プレゼンテーションの振り返りを行う。
第11回	Excel 1 (基本操作、関数)	(学修内容) セル、シート等、各画面の説明、データ入力。 簡単な計算式など。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第4章4-1、4-2-1を読む。 事後: 第11回課題 (Excel・セル番地を使用した計算) をClassroomから提出。
第12回	Excel 2 (関数)	(学修内容) 各種関数 (合計、平均、最大値・最小値、四捨五入、IF関数など)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第4章4-2を読む。 事後: 第12回課題 (Excel・関数を使用した計算) をClassroomから提出。
第13回	Excel 3 (表、グラフの作成)	(学修内容) 棒、折線、円、複合などのグラフ、印刷設定。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第4章4-3、4-4、4-8を読む。 事後: 第13回課題 (Excel、Word・グラフ) を印刷し提出。
第14回	Excel 4 (既存データベースの利用)	(学修内容) e-Stat のデータを利用し、情報を分析評価し整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書第4章を復習し、レポート案を作成してくる。 事後: 選んだ統計データの分析を行う。
第15回	Excel 5 (総復習)	(学修内容) 前回の情報分析結果をレポートにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 選んだ統計データの分析とレポート案の作成。 事後: 第14、15回課題 (e-Statデータを利用したレポート) をClassroomから提出。

授 業 名	ビジネスマナー			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1417
英 文 名	Business Etiquette			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	市川 順子			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	<p>ビジネスマナーは、社会の常識やルールを学ぶことによって、相手の立場を考えて行動することを基本とします。本講義では働く場での人間関係や環境を知り、より良い人間関係を築くことに欠かすことのできないコミュニケーション能力の向上を目指します。また働く場にふさわしい社会人としての立ち居振る舞いについてはロールプレイを通して演習し実践力を身に付け、接客対応ができるまでの応用力を身に付けることを目標とします。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 社会人としてふさわしい立ち居振る舞いができる。 2) 人間関係を円滑にするコミュニケーションができる。 3) 働く場のルールや環境を知り、「働く」ことに対する意識と心構えができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	株式会社ウイネット ビジネスマナー研究会 編著 『実践 ビジネスマナー』 ウイネット								
参 考 書	伊藤京子 著 『仕事の基礎・基本』 樹村房 社会人マナーで使用するテキスト								
課題に対する フィードバック の方法	授業内小テストを回収後、解答解説を行います。提出された課題については、確認後、返却します。実技(ロールプレイング)についてはその都度コメントします。								
留意事項	受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。 学んだことは、できる限り実践して身に付けるよう心がけてください。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：一般企業において10年間、受付対応、電話対応、秘書業務、総務・経理事務の実務経験がある。また、一般企業での新人研修や、大学・高等学校での就職対策授業、インターンシップ事前マナー研修、大学・専門学校での検定対策授業等を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準1級面接審査員の経験を有する。</p>								

授業名	ビジネスマナー	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション/働くことへの心構え	(学修内容) 授業計画について 学生と社会人の違いを知り働くことへの心構えについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業までにシラバスをよく読んで確認し、授業をイメージしておく
第2回	社会人としての立ち居振る舞いと基本のあいさつ	(学修内容) 社会人としての立ち居振る舞いを学ぶ 第一印象について考え、よい印象を与える自己紹介を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、感じのよいあいさつの仕方を身に付けるための練習を行う 自分から進んであいさつすることを実践する
第3回	社会人としての言葉遣い1 敬語を知る	(学修内容) 敬語の種類と基本を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、基本的な敬語を覚えて可能な限り日常で使う
第4回	社会人としての言葉遣い2 接遇用語をつかう	(学修内容) 敬語と接遇用語を使い、人間関係を円滑にするコミュニケーション力を 身につける (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、基本的な接遇用語を覚えて可能な限り日常で使う
第5回	電話対応の基本と受け方	(学修内容) 電話対応の基本を学び、感じのよい電話の受け方ができるようにロール プレイで練習する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、学んだ電話の受け方を友人や家族とロールプレイで練習し 、可能な限り実践する
第6回	電話伝言メモ作成とかけ方	(学修内容) 伝言メモ作成のポイントを学ぶ 感じのよい電話のかけ方ができるようにロールプレイで練習する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、感じのよい電話のかけ方を友人や家族とロールプレイで練 習し、可能な限り実践する
第7回	さまざまなパターンの電話対応	(学修内容) さまざまなパターンの電話対応ができるようにロールプレイで練習する 伝言メモの作成を行う (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、実習先やインターンシップ先に電話ができるように練習し ておく
第8回	訪問のマナー	(学修内容) 他社を訪問する際の基本を学び、実習先などの訪問の準備を行う練習を する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、訪問先で、感じのよい笑顔、あいさつ、立ち居振る舞いが できるようにする
第9回	来客の対応の基本	(学修内容) 来客対応の基本を学び、受付・案内・名刺交換をペアワークで練習する (事前事後学修課題の内容) (60分) 受付・案内・見送りの流れを復習し、ポイントを確認しておく 友人や家族と名刺交換の復習をしておく
第10回	冠婚葬祭と慶事	(学修内容) 社会人として必要な交際業務(慶事)について知り、対処ができるように 学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 祝儀袋(水引の結び方・のし)について復習しておく
第11回	冠婚葬祭と弔事	(学修内容) 社会人として必要な交際業務(弔事)を知り、対処ができるように学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、弔事のマナーについての知識を確認しておく
第12回	贈答(中元・歳暮)と見舞いのマナー	(学修内容) 社会人として必要な贈答の知識と見舞いのマナーの基本を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 贈答の知識と見舞いのマナーについて復習しておく
第13回	ビジネス文書(社内文書)	(学修内容) 社会人として必要とされるビジネス文書の形式を知り作成できるように 学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 社内文書のレイアウト、作成について復習しておく
第14回	ビジネス文書(社外文書)	(学修内容) 社会人として必要とされる社外文書の形式と返信ハガキの記入について 学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、例を参考にしながら簡単な社外文書が書けるようにしてお く
第15回	文書の取り扱いと郵便の知識 まとめ	(学修内容) 文書の取り扱いと郵便の知識について学ぶ まとめ(総復習) (事前事後学修課題の内容) (60分) 文書の取り扱い注意点と郵便の知識について復習しておく 復習として、これまで学習したことを自分自身で振り返る

授 業 名	キャリア実践演習			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CS2120
英 文 名	Career Practical Seminar I			開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	富川 拓			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	この授業では、目前に迫った進路決定の実現に向けて、計画的、綿密な実践を行うことを目的とする。授業では、就職活動本番に向けたグループディスカッションや面接、発表、討議などを行う。また、企業や自治体との連携によるPBLも取り入れ、企業や地域が実際に抱える課題の解決策を検討することを通して、社会人としての基礎的な力を身につける。この講義を就職活動や進路活動と結びつけ、学生間で情報共有も図りたい。								
学修成果 到達目標	1) 自己の進路実現と連携する 2) 就職活動について、明確な意識を持つ 3) 就職活動情報を共有する								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( 社会人基礎力 )	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	使用しない。プリントを配布								
参 考 書	授業中に適宜指示する								
課題に対する フィードバック の方法	グループワークや発表、レポートなどに関して、全体的な講評を行う。								
留意事項	キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									



授 業 名		キャリア実践演習
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容、学修成果・到達目標、評価方法などについて (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおくこと
第2回	就職活動に向けて	(学修内容) 就職活動への諸注意、社会人基礎力について (事前事後学修課題の内容) (60分) 就職活動スケジュールの確認
第3回	コミュニケーション力を身につける	(学修内容) グループワークの実践 (事前事後学修課題の内容) (60分) ワークシートをまとめておく
第4回	面接練習	(学修内容) 個人、グループ面接 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「面接に対する心構え」を読んでおく
第5回	グループディスカッション その1	(学修内容) 就職活動を想定したグループディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) ワークシートをまとめておく
第6回	グループディスカッション その2	(学修内容) 就職活動を想定したグループディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) ワークシートをまとめておく
第7回	実践活動(発展編) その1	(学修内容) 企業や自治体が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 関連情報を収集しておく
第8回	実践活動(発展編) その2	(学修内容) 企業や自治体が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 関連情報を収集し、中間報告用資料を作成する
第9回	実践活動(発展編) その3	(学修内容) 企業や自治体が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する。検討した案を発表し(中間報告)、意見交換を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講師に対する質問をまとめておく
第10回	実践活動(発展編) その4	(学修内容) 中間報告、意見交換の結果をもとに、解決策を再検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 関連情報を収集し、最終報告用資料を作成する
第11回	実践活動(発展編) その5	(学修内容) 企業の方に向けて検討した案を発表し(最終報告)、意見交換を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 最終報告用資料を修正し、提出する。実践活動の振り返りレポートを作成する。
第12回	企業関連施設訪問(フィールドワーク) その1	(学修内容) 施設訪問 (事前事後学修課題の内容) (60分) 施設先での質問を考えておく
第13回	企業関連施設訪問(フィールドワーク) その2	(学修内容) 施設訪問 (事前事後学修課題の内容) (60分) 施設先での質問を考えておく
第14回	企業関連施設訪問(フィールドワーク) その3	(学修内容) 施設訪問 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークの振り返りレポートを作成
第15回	まとめ、振り返り、今後の活動について	(学修内容) 授業内容を振り返り、今後の活動について検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 今後の活動に関するレポートの作成

授 業 名	キャリア実践演習			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2445
英 文 名	Career Practical Seminar			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	富川 拓			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	この授業では、実践を通して、社会人になるための心構えや知識を涵養することを目的とする。特に、「職場や地域社会で多様な人々と仕事、生活をしていくために必要な基礎的な力」である社会人基礎力を身につける。本授業ではICT活用する。(双方向型授業)								
学修成果 到達目標	1) 社会人基礎力を完成する 2) 現代社会を把握する 3) 自己の将来設計を明確にする								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( 社会人基礎力 ) ( )			課題発見・解決能力				
テキスト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	講義中に適宜指示する								
課題に対する フィードバック の方法	グループワークや発表、レポートなどに関して、全体的な講評を行う。								
留意事項	キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授業名	キャリア実践演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容、学修成果・到達目標、評価方法などについて (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおくこと
第2回	社会人基礎力 その1	(学修内容) 社会人基礎力について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第3回	社会人基礎力 その2	(学修内容) 引き続き、社会人基礎力について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第4回	新聞の読み方	(学修内容) 新聞の読み方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第5回	新聞を読む その1	(学修内容) 新聞記事をもとに発表、グループディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表資料を作成する
第6回	新聞を読む その2	(学修内容) 新聞記事を元に発表、グループディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表資料を作成する
第7回	実践活動(入門編) その1	(学修内容) 企業や自治体が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 関連情報を収集しておく
第8回	実践活動(入門編) その2	(学修内容) 企業や自治体が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 関連情報を収集し、中間報告用資料を作成する
第9回	実践活動(入門編) その3	(学修内容) 企業や自治体が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する。検討した案を発表し(中間報告)、意見交換を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講師に対する質問をまとめておく
第10回	実践活動(入門編) その4	(学修内容) 中間報告、意見交換の結果をもとに、解決策を再検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 関連情報を収集し、最終報告用資料を作成する
第11回	実践活動(入門編) その5	(学修内容) 企業の方に向けて検討した案を報告し、意見交換を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 最終報告用資料を修正し、提出する。実践活動の振り返りレポートを作成する。
第12回	企業関連施設訪問(フィールドワーク) その1	(学修内容) 施設訪問に向けた事前学習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 施設先での質問を考えておく
第13回	企業関連施設訪問(フィールドワーク) その2	(学修内容) 施設訪問 (事前事後学修課題の内容) (60分) 施設先での質問を考えておく
第14回	企業関連施設訪問(フィールドワーク) その3	(学修内容) 施設訪問 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークの振り返りレポートを作成
第15回	まとめ、振り返り、今後の活動について	(学修内容) 授業内容を振り返り、今後の活動について検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 今後の活動に関するレポートの作成

授 業 名	ビジネス文書表現			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1412
英 文 名	Business Writing			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	畔柳 理			対象 学生	幼児教育1回生、総合文化1回生				
授業の概要	ビジネス文書は、相手に伝わる・誤解を与えない表現をすることが重要である。この授業では、ビジネス文書の特性を理解し、その書き方のルールを学ぶとともに、なぜそのルールが望ましいのかについても考えることで、実際の場面を想定した日本語表現を身に付けることを目指す。								
学修成果 到達目標	1.ビジネスで用いられる各種の書式を目的に応じて使い分けしている。 2.書簡文の基本を理解し、書簡文を書いている。 3.敬語について理解し、それを適切に使っている。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 (双方向型授業)		グループワーク I C T 活用 (自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	永山嘉昭『できる！ビジネス文書の作り方が身につく本』高橋書店、2013 必要に応じ別途プリントを配布する。								
参 考 書	幼児教育学科：田上貞一郎『保育者になるための国語表現 改訂版』萌文書林、2018 総合文化学科：田上貞一郎『就職に役立つ日本語表現 新訂二版』萌文書林、2018 同学科：藤吉豊・小川真理子『社会人になったらすぐに読む文章術の本』KADOKAWA、2023								
課題に対する フィードバック の方法	毎回受講生同士で相互添削を行い、修正したものを添削して返却する。								
留意事項	毎回語彙・漢字テストを行う。また、文章についても毎回課題を出し、翌週相互添削を行うため予習・復習が不可欠である。								
オフィス アワー	初回授業で説明します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：公立中学校教員、民間企業営業職、在外公館専門調査員の経験を有しており、これらの経験に基づき講義を行う。								

授業名	ビジネス文書表現	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション (授業の目的、授業の進め方)	(学修内容) 授業の目的と内容、進め方を確認する (事前事後学修課題の内容) (120分) シラバスを確認しておく
第2回	会話表現の基礎	(学修内容) 会話でのマナーと敬語について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (120分) 配布資料を読み直しテストに備える
第3回	表記の基礎	(学修内容) 字形・当て字・慣用句の使い方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (120分) 配布資料を読み直しテストに備える
第4回	文書表現の基礎	(学修内容) 文末表現や段落、句読点に気をつけて書く (事前事後学修課題の内容) (120分) 配布資料を読み直しテストに備える
第5回	実用文 メールとお礼状	(学修内容) メールと書簡のちがいを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (120分) 配布資料を読み直しテストに備える
第6回	実用文 はがき	(学修内容) はがきの形式を書き方を身につける (事前事後学修課題の内容) (120分) 配布資料を読み直しテストに備える
第7回	実用文 履歴書	(学修内容) 履歴書の形式とポイントを理解する (事前事後学修課題の内容) (120分) 配布資料を読み直しテストに備える
第8回	ビジネス文書 社内文書	(学修内容) 社内文書について実例をもとに理解する (事前事後学修課題の内容) (120分) 配布資料を読み直しテストに備える
第9回	ビジネス文書 社外文書	(学修内容) 社内外文書について実例をもとに理解する (事前事後学修課題の内容) (120分) 配布資料を読み直しテストに備える
第10回	ビジネス文書 チャットアプリとメール	(学修内容) チャットアプリやメールで用いられる表現について実例をもとに理解する (事前事後学修課題の内容) (120分) 配布資料を読み直しテストに備える
第11回	小論文 原稿用紙・出題形式	(学修内容) 原稿用紙の使い方を理解し、出題形式に応じたポイントを身に付ける (事前事後学修課題の内容) (120分) 配布資料を読み直しテストに備える
第12回	小論文 構成	(学修内容) 社説をまねることで構成を身に付ける (事前事後学修課題の内容) (120分) 配布資料を読み直しテストに備える
第13回	小論文 就職試験	(学修内容) 就職試験で出される小論文を想定して書く (事前事後学修課題の内容) (120分) 配布資料を読み直しテストに備える
第14回	小論文 講評	(学修内容) 小論文を相互添削し自己の課題をみつける (事前事後学修課題の内容) (120分) 配布資料を読み直しテストに備える
第15回	まとめ	(学修内容) 学修を振り返る (事前事後学修課題の内容) (120分) 配布資料・ミニテストを整理し、疑問点をまとめる

授 業 名	情報文化と倫理			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2431
英 文 名	Information Culture and Ethics			開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	湯川 宗紀			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	<p>PC、ネット、スマホ等々が日常に欠かせなくなり、意識さえしなくなった世界、それはどのような世界で我々にどんな恩恵をもたらし、どのような不幸をもたらすのか。</p> <p>現代に至るまでのメディアの歴史、それによる社会変容、理論的研究を紹介し、現代における情報文化の問題点と倫理について資料・映像を使い、事例を交えながら考えていきます。 アクティブ・ラーニング対象授業</p>								
学修成果 到達目標	<p>1.メディアの変化を歴史的に学ぶことにより現状の情報文化を把握することができる。 2.これまでのメディア研究から情報に対する倫理を理解することができる。 3.現在のネット環境と自身との関わり方を考えることができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (100%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( % )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 課題発見・解決能力 授業態度・参加意欲 ( 講義内容をきちんと理解できている ) ( 自分の考えを論理的に構成できるか )							
テキスト	必要に応じて資料を配付する								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートにコメントを付けて返却								
留意事項									
オフィス アワー	講義前後に対応します								
実践的教育									

授業名	情報文化と倫理	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 講義計画 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておく
第2回	聞くことから観ること	(学修内容) 語りから文字への変化について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第3回	書物	(学修内容) グーテンベルクの活版印について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第4回	書物が誕生する社会的背景	(学修内容) 社会状況と印刷技術について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第5回	書物がもたらした社会変容	(学修内容) 技術による社会変容について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第6回	出版メディアの誕生	(学修内容) マス・メディア、新聞の誕生について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第7回	電子メディア・ラジオの誕生	(学修内容) ラジオと聴衆についての理論紹介 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第8回	電子メディア・テレビの誕生	(学修内容) テレビと視聴者についての理論紹介 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第9回	コンピューターの歴史	(学修内容) コンピューターの発展とその背景について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第10回	インターネットの歴史	(学修内容) インターネットの歴史、特に日本国内での歴史について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第11回	「検索」が世界を創る	(学修内容) 検索システムによる社会変容について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第12回	新しい『1984』 SNSで楽しみ進める監視・管理社会	(学修内容) SNSの問題点、倫理点について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第13回	IoTとビッグデータ	(学修内容) 現状のIT技術の紹介と問題点について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第14回	意識すら出来ないIT化社会での倫理	(学修内容) 現代社会でのITリテラシーについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまでのまとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめをしておく

授 業 名	情報サービス			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Information Service			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	渡邊 雄一			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	図書館における情報ニーズとサービス、レファレンスツール及びレファレンスプロセスについて学習する。情報サービスとは何か、また情報やサービスを提供する際に注意すべきことは何か、図書館と図書館員の役割を把握することが目的である。図書館における情報サービスの実際を理解するために、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学修成果 到達目標	1) 図書館における情報サービスの種類とその内容について説明することができる。 2) レファレンス事例とレファレンス資料に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。 3) 情報検索システムにおける論理演算の役割について説明することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )	グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )	プレゼンテーション					
評価方法	定期試験 ( 60% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	適宜、プリントを配布する。								
参 考 書	『情報サービス論』（現代図書館情報学シリーズ5）、山崎久道・原田智子、樹村房、2019年								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	・図書館の情報サービスについて理解を深めるために、公共図書館などに出向き、興味関心のあるテーマについて図書館員に質問し、レファレンスサービスを体験していただくことが望ましい。 ・本講義において学習するレファレンスサービス理論及び情報検索理論は、「情報サービス演習」において発展的にレファレンス演習課題として取り組む際に必要となる理論である。本講義中に基礎的な理論はしっかりと理解し、「情報サービス演習」の学習に繋げてもらいたい。								
オフィス アワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館で勤務。実務経験をもとに情報サービスについて話をします。								



授業名	情報サービス	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んでおくこと。
第2回	情報社会と図書館	(学修内容) 図書館の役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 情報社会の特質についてまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第3回	情報サービスの実際 直接的サービス	(学修内容) 情報サービスのうち直接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 第1回授業で解説したレファレンスサービスの概要について復習し、まとめておくこと。
第4回	情報サービスの実際 間接的サービス	(学修内容) 情報サービスのうち間接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 情報サービスの種類と内容をまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第5回	レファレンスサービスの理論と実際	(学修内容) レファレンスサービスの理論を学習する。サービスの実施に関わる具体的問題についてグループディスカッションを行うことで理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (20分) レファレンスサービスの理論に関わる配付プリントをよく読んでおくこと。
第6回	レファレンスプロセス	(学修内容) レファレンスプロセスの概念について学習し、情報探索行動に対応したレファレンスプロセスの在り方について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (20分) レファレンスプロセスに関するプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第7回	情報検索と情報検索システム 種類と内容	(学修内容) 情報検索の種類・内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 情報検索システムに関する配付資料をよく読んでおくこと。
第8回	情報検索と情報検索システム 検索過程	(学修内容) 論理演算の概念を中心に情報検索システムにおける検索過程を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 図書館に行き、OPACを用いて特定のテーマに関する情報検索を行い、結果をまとめておくこと。
第9回	情報サービスにおける各種情報源の利用法	(学修内容) 個々の情報源の特性を理解し、多様な情報源を駆使した情報サービスを提供する技能を習得する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 図書館に行き、授業中に紹介した各種情報源を手に取り、利用すること。
第10回	情報サービスと知的財産権	(学修内容) 著作権法について概説し、図書館における複写サービスなどについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 図書館に行き、複写サービスの内容と範囲を確認しておくこと。
第11回	オンラインデータベース	(学修内容) オンラインデータベースの作成から利用までの流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 図書館に行き、いくつかのオンラインデータベースを用いて情報検索を行い、それぞれのオンラインデータベースの特徴をまとめておくこと。
第12回	電子ジャーナル	(学修内容) 電子ジャーナルの種類について概説する。オープンアクセス雑誌と機関リポジトリについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 図書館に行き、電子ジャーナルを利用しておくこと。
第13回	レファレンス事例について(プレゼンテーション)	(学修内容) レファレンス質問とその回答についてまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表レジュメを作成する。
第14回	レファレンス資料の概要について(プレゼンテーション)	(学修内容) 前回のレファレンス事例中にある参考資料について、レファレンス資料としての特徴をまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表レジュメを作成する。
第15回	まとめ	(学修内容) 今後の情報サービスのあり方について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの配付プリントを読んでおくこと。

授 業 名	プログラミング演習			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	IC2436
英 文 名	Programming Practice			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	北本 悠伍			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>この講義では、プログラミングにまったく触れたことのない方に向けて、パソコンの画面上にカラフルな色や動きのある図形を表示させる等、視覚的で直観的な表現をとしたプログラミング演習を実施します。</p> <p>いまや情報のやり取りの多くは、スマホやパソコンを通して行われることがすっかり当たり前のこととなっています。その大もとともなる「プログラミング」に触れた経験があるというのは色々な場面で助けとなることがあります。</p> <p>たとえば、今後プログラミング教育を受けるであろう子どもたちや、将来の同僚たちとのやり取りにおいて、コミュニケーションを円滑にすることに役立つかもしれません。自身のプログラミング体験をととして、社会とどのように関わっていくかについて考えることも、この講義における大切なポイントの一つです。</p> <p>「よくわからないけど難しそう」といった従来のプログラミングに対するイメージをときほくしながら、まずはプログラミングに入門してみるところから始めていきましょう。</p>								
学修成果 到達目標	<p>(1) 視覚的かつ双方向的な表現を通してプログラミングに触れ、それらを自分自身の手で制作できるようになる。</p> <p>(2) プログラミングによる制作のための手法や知識・理解、あるいは制作中に判明した不明点を自分自身の手で調べて解決できるようになる。</p> <p>(3) プログラミングによる制作のための具体的な企画を立て、制作物として仕上げるができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	講義中に適宜共有します ( 主にデジタルによる資料となります ) 。								
参 考 書	<p>講義中に適宜紹介します。</p> <p>たとえば、インターネットで以下のようなワードで画像検索してみましょう。楽しい視覚表現を閲覧できます。 「GenerativeArt」「p5.js」「CreativeCoding」などなど。</p>								
課題に対する フィードバック の方法	講義中に取り組んだ制作課題は提出後に受講者間で共有し、一緒にレビューできるようにする予定です。								
留意事項	<p>・「授業の概要」にもある通り、画面上をカラフルな色で埋め尽くしたり、図形を動かしたりといった、プログラミングまったくの初学者の方でも直観的に楽しめる内容を用意していますので、ぜひ受講してみてください。</p> <p>・たとえば「プログラミング」について、子どもたちと共有できるようになることを目指してみるのも良いかもしれません。</p>								
オフィス アワー	質問事項等については、講義中にお知らせするメールアドレスまで気軽にご連絡ください。								
実践的教育									

授業名	プログラミング演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	クリエイティブ・コーディング入門	(学修内容) オリエンテーションを通して、本講義における「プログラミング」について共有する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 講義時に紹介する資料等に目をとおり、本講義で取り扱う「プログラミング」についてのイメージをつかむ。
第2回	色彩の世界: 基本	(学修内容) 視覚的な表現を通じたプログラミングに触れるための第一歩として、まずは画面上の「色」を操作することから始める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 講義時に用いたプログラムを組み換えてみる。
第3回	色彩の世界: 応用	(学修内容) 様々な「色」の指定方法について学び、そこから得られる印象や効果を受けて、直観的に「色」を操作できるよう深めていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 講義時に用いたプログラムを組み換えてみる。
第4回	図形アート: 基礎から学ぶ	(学修内容) いろいろな「図形」の描画方法について学び、その位置や大きさを書き換えながら「数値で表現すること」の感覚を身につけていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 講義時に用いたプログラムを組み換えてみる。
第5回	色と形のコラボレーション	(学修内容) 「色」や「図形」の描画方法を踏まえ、色彩豊かな表現を探求する。「数値」による指定とそれによる「イメージ」とを結びつけてゆく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 講義時に用いたプログラムを組み換えてみる。
第6回	アニメーションの基本	(学修内容) 基礎的な描画に「動き」を与え、よりダイナミックな表現を目指すとともに、プログラムにおける「時間の流れ」についても考察していく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 講義時に用いたプログラムを組み換えてみる。あるいは、それを参考に自身で一からプログラムを作ってみる。
第7回	インタラクティブ・アート: 動きと反応	(学修内容) バラバラ漫画や動画、映像が「動く」仕組みについて触れながら、プログラミングによる「動き」の仕組みについての理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 講義時に用いたプログラムを組み換えてみる。あるいは、それを参考に自身で一からプログラムを作ってみる。
第8回	コントロールの鍵: 「変数」の使い方	(学修内容) 「動き」のある描画に対して「制御」をかけることにより、動きっぱなしではない、一定のリズムや流れのあるプログラムを制作する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 講義時に用いたプログラムを組み換えてみる。あるいは、それを参考に自身で一からプログラムを作ってみる。
第9回	条件と反応: プログラミングの基本	(学修内容) マウス操作やキーボード操作等によって描画に変化の現われる「インタラクティブな(応答のある)」表現手法とその効果について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 講義時に用いたプログラムを組み換えてみる。あるいは、それを参考に自身で一からプログラムを作ってみる。
第10回	繰り返しのデザイン: 「forループ」の活用	(学修内容) プログラムが発揮する計算力を活かした、パワフルかつシンプルで鮮やかなパターン(模様)を模索しつつ、その仕組みについても学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 講義時に用いたプログラムを組み換えてみる。あるいは、それを参考に自身で一からプログラムを作ってみる。
第11回	パターンと構造をいかした表現: 「配列」を使って	(学修内容) プログラムが発揮する計算力を活かした、パワフルかつシンプルで鮮やかなパターン(模様)を拡張し、よりダイナミックな表現を行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 講義時に用いたプログラムを組み換えてみる。あるいは、それを参考に自身で一からプログラムを作ってみる。
第12回	まとめ	(学修内容) プログラミングに関する基本事項について振り返りつつ、実践的な制作に備える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 講義内容を振り返りつつ、自分の興味のある表現手法について調べる。
第13回	プロジェクトチャレンジ: スタートダッシュ	(学修内容) 具体的な制作事例に触れながら、それがどのようなアイデアから成り、どのようなプロセスを経て制作されたのかを追体験する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 講義内容を振り返りつつ、自分の興味のある表現手法について調べる。
第14回	プロジェクトの進行: アイデアを形に	(学修内容) これまでの基礎的な描画手法を踏まえ、具体的な制作事例を自分好みにアレンジする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 講義内容を振り返りつつ、自分の興味のある表現手法について調べる。
第15回	プロジェクトの完成: 仕上げ+まとめ	(学修内容) 本講義を振り返りながら、プログラミングあるいはその周辺に紐づく様々な情報の役割について総合的に考察する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事後: 講義内容を振り返りつつ、自分の興味のある表現手法について調べる。

授 業 名	生涯学習			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	IC2435
英 文 名	Lifelong Learning			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	渡邊 雄一			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような生涯学習社会の実現のため、学習者の特性の把握、生涯学習・社会教育の内容・方法・形態、生涯学習関連機関相互の連携のあり方、学習情報の提供と相談などの効果的なあり方を学び、生涯学習の新しい可能性を切り拓く力を育成する。ビデオを見たり、グループディスカッションやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 生涯学習社会の望ましい学習機会や環境について説明することができる。  2) 生涯学習支援者の支援のあり方について説明することができる。  3) 生涯学習振興策の内容と地域の生涯学習推進の実際についてプレゼンテーションを10分間行うことができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 60% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	授業中に指示する。								
参 考 書	適宜、授業中に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留意事項	授業中に出示された課題に対して主体的に取り組むこと。地域の生涯学習施設を訪問し、学習活動に参加することが望ましい。								
オフィス アワー	毎週1回(休業期間を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務								

授 業 名	生涯学習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 予習として、シラバスを読んで内容、評価方法などを確認しておく。
第2回	生涯学習とは何か	(学修内容)生涯学習の理念について基本的考えを理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 予習として身近なところで生涯学習に関わることがどのように行われているかについてまとめておく。
第3回	人間形成と生涯学習	(学修内容)自らが考えるライフコースの中で「学ぶこと」の意味について考えることができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として自ら生涯にわたって学習することの意味について箇条書きにまとめる。
第4回	生涯発達と発達課題	(学修内容)人間の生涯にわたる発達段階とそれぞれの発達課題の内容について具体的に考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 自らの今後の人生を見通し、学ぶことの意味・必要性について考えてくる。
第5回	生涯学習論の発端と経緯について	(学修内容)生涯学習論の発生の背景とその後の経緯について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントの要点を箇条書きにする。
第6回	ラングランの生涯教育論	(学修内容)ラングランの提唱した生涯教育の理念について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んでラングランの考え方の要点をまとめる。
第7回	日本における生涯教育の理念	(学修内容)日本における生涯教育、生涯学習についての基本的考えを理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、日本の生涯教育・生涯学習の歴史的経緯について要点を箇条書きにまとめる。
第8回	諸外国の生涯学習論にみる学習観	(学修内容)諸外国の生涯学習論にみる歴史的経緯と学習観、人間観について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んで要点をまとめる。
第9回	生涯学習施設の類型	(学修内容)人々の多様な学習活動を支援するために設置されている生涯学習施設の種類とその役割について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習としてプリントを読んで要点をまとめる。
第10回	日本における生涯教育論の展開	(学修内容)日本における生涯教育論から生涯学習論への歴史的変遷について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、生涯学習社会の制度的変遷の要点を箇条書きにまとめる。
第11回	日本における生涯学習の必要性と各種審議会答申について	(学修内容)社会教育審議会、中央教育審議会などにみられる生涯教育の理念と具体案について理解できる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、プリントを読んで、生涯学習の考え方の歴史的変遷の要点をまとめる。
第12回	生涯学習振興策の立案と推進について	(学修内容)地方自治体が立案する生涯学習振興策の内容を調べ、生涯学習の推進の実際と関連させた上で、整理した内容のプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自分が住む地方自治体のHPなどから生涯学習振興策を調べてまとめる。
第13回	生涯学習の実施状況 生涯学習世論調査	(学修内容)生涯学習世論調査から生涯学習の実施状況を確認し、グループ討議を通して望ましい生涯学習の在り方について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自分が住む地方自治体のHPなどから生涯学習実施状況を調べてまとめる。
第14回	生涯学習社会における社会教育について	(学修内容)生涯学習の中核を担う社会教育の役割について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、社会教育の具体的内容について要点をまとめる。
第15回	生涯学習の事例発表	(学修内容)自分が住む地方自治体の生涯学習の取り組みについて、調べた内容のプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 予習として、自分が住む地方自治体の生涯学習振興策及び実施状況を調べて、発表用資料にまとめる。

授 業 名	社会人マナー		開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	IC1404
英 文 名	Social Manners		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	市川 順子		対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>社会人としての心構え、知っておくべき常識とマナーについて学修します。社会常識を日常生活・仕事に関連させて考え、自らの行動・実践に応用することができることを目標としています。具体的には社会人としての立ち居振る舞いや言葉遣いの演習を通して、より良い人間関係の構築に欠かせないコミュニケーション能力の向上を目指します。また自己表現の重要性を認識することで、就職活動等の面接や実社会で必要となる「自分で考えること」や「伝えること」も含めて社会人としての基礎的マナーをグループワークやロールプレイを行いながら学んでいきます。</p>							
学修成果 到達目標	<p>1) 社会人としての常識を知り、自らの言動において実践し応用できる。 2) マナーや言葉遣いの演習を通して適切な言葉遣いで自己表現ができる。 3) 人間関係を円滑にするコミュニケーションができる。</p>							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 (双方向型授業)		グループワーク I C T 活用 (自主学習支援)		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (	
テキスト	伊藤京子 著 『仕事の基礎・基本』 樹村房							
参 考 書	講義中に指示します							
課題に対する フィードバック の方法	授業内小テストを回収後、解答解説を行います。提出された課題については、確認後、返却します。実技(ロールプレイング)についてはその都度コメントします。							
留意事項	受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。学んだことは、できる限り実践して身に付けるよう心がけてください。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施します。							
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：一般企業において10年間、受付対応、電話対応、秘書業務、総務・経理事務の実務経験がある。また、一般企業での新人研修や、大学・高等学校での就職対策授業、インターンシップ事前マナー研修、大学・専門学校での検定対策授業等を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準1級面接審査員の経験を有する。</p>							

授業名	社会人マナー	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 社会人とは	(学修内容) 授業計画について 「社会人とは」を考える (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前にシラバスの内容をよく読んで確認しておくこと
第2回	社会人基礎力	(学修内容) 社会人基礎力を身に付けるためにどのようにすればよいか考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 第1回目の復習をし、社会人基礎力を身に付けるためにどのようにすればよいか自分自身で考えておく
第3回	第一印象の大切さと社会人に必要な立ち居振る舞い	(学修内容) 第一印象の重要性と構成要素を知りそれぞれのポイントを学ぶ 社会人として必要な立ち居振る舞いを学び、ロールプレイを行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 第一印象をよくするためにはどうすればいいのか確認しておく 学んだ立ち居振る舞いが身につくまで練習しておく
第4回	社会人として必要な言葉遣い 1 敬語の基本	(学修内容) 敬語の種類と基本を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、基本的な敬語を覚える 日常生活で敬語を使うよう努力する
第5回	社会人として必要な言葉遣い 2 クッション言葉と改まった表現	(学修内容) クッション言葉と改まった表現を学び、それらを使ってグループで練習する (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、学んだ敬語の使い分けを友人や家族とロールプレイで練習し可能な限り実践する
第6回	社会人として必要な言葉遣い 3 いろいろな場面での言葉遣い	(学修内容) 社会でのいろいろな場面での言葉遣いを考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、学んだことを学校など色々な場面で可能な限り実践する
第7回	コミュニケーション 1 話し方・聴き方	(学修内容) 人間関係を円滑にするための話し方と聴き方を学び、ペアワークで練習する (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、学んだことを学校など色々な場面で可能な限り実践する
第8回	コミュニケーション 2 指示の受け方と報告・連絡・相談	(学修内容) ホウレンソウの重要性を理解し、指示の受け方、報告の仕方のポイントを知り、ロールプレイングで練習する (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、学んだことをアルバイトなどの場面で可能な限り実践する 理解度チェックワークで復習する
第9回	電話対応 1 電話の特徴と電話対応の基本	(学修内容) 電話対応の基本を学び、電話をかける練習をペアワークで行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 理解度チェックワークで復習し、基本的なかけ方を友人や家族とロールプレイで練習し、可能な限り実践する
第10回	電話対応 2 電話の受け方と伝言メモ作成	(学修内容) 電話を受ける際の注意点と基本的な電話用語を学び、ペアワークを行う 伝言メモ作成のポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、電話対応を友人や家族とロールプレイで練習し、可能な限り実践する
第11回	来客対応の基本	(学修内容) 来客対応(受付・案内・見送り等)について学び、ペアワークやグループワークを行う (事前事後学修課題の内容)(90分) 復習として、学んだことを実践できるようにしておく 理解度チェックワークで復習する
第12回	基本的な訪問のマナー	(学修内容) 基本的な訪問時のマナーや上座・下座、名刺の受け渡しについて学び、ペアワークやグループワークを行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 復習として、学んだことを実践できるようにしておく 理解度チェックワークで復習する
第13回	文書作成 1 ビジネス文書の基本	(学修内容) ビジネス文書の種類と書き方について学ぶ 社内文書を作成できるようにレイアウトやポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(90分) 社内文書を作成できるように学んだことを復習しておく 理解度チェックワークで復習する
第14回	文書作成 2 メールの基本、封筒の書き方	(学修内容) メールの基本ポイントと封筒の書き方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(90分) 復習として、実習先や企業などに送るメールを考えてみる
第15回	まとめ	(学修内容) これまで学習したことを整理し、確認する (事前事後学修課題の内容)(90分) 復習として、これまで学習したことを自分自身で振り返る(総復習)

授 業 名	インターンシップ			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CS1403
英 文 名	Internship			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	新矢 昌昭			対象 学生	幼児教育1回生、総合文化1回生				
授業の概要	夏季休暇中に行うインターンシップを通して社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。主としてインターンシップに向けての準備や企業研究をグループごとに行い発表する。講義内では、意見や質疑応答を積極的に行うことが重視される								
学修成果 到達目標	1) プレゼンテーション能力、探究心を養うことができる 2) 企業研究、自己分析をすることができる 3) インターンシップを通して、社会への理解、職業意識を高めることができる								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	講義中に適宜指示する								
課題に対する フィードバック の方法	グループワーク、発表へのコメントを加える								
留意事項	インターンシップは、受け入れ先の時間を割き実施してもらうため、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。キャリアセンターが実施する企画に参加してもらう場合がある。なお、会社見学や外部講師の講義日については、先方の都合により変更の場合や増減がある								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する								
実践的教育									



授 業 名	インターンシップ	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	グループワークの実践	(学修内容) 課題に対するグループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、自身の考えをまとめておく
第3回	グループワークの実践と復習	(学修内容) 課題に対するグループワークとグループワークの振り返り (事前事後学修課題の内容) (60分) 先週で学んだ自身の考え、反省点をまとめておく
第4回	会社見学の準備	(学修内容) 会社見学の企業研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先を理解するため、資料、情報収集を行っておく
第5回	会社見学の実施	(学修内容) 会社見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先での意見や質問を考えておく
第6回	会社見学のまとめ	(学修内容) 会社見学の振り返り発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 会社見学先で、自身が学んだことについてのレジュメ作成
第7回	外部講師による講義1回目	(学修内容) 働くこととは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 自身にとって働くこととは何かを考えておく
第8回	外部講師による講義2回目	(学修内容) 近年の就職活動についての動向 (事前事後学修課題の内容) (60分) 就職活動に対する疑問を考えておく
第9回	外部講師による講義3回目	(学修内容) インターンは何故するのか (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンをなぜするのかを考えておく
第10回	インターンシップの準備	(学修内容) インターンシップ先の職種希望確認 (事前事後学修課題の内容) (60分) 当該事業所について、調べておく
第11回	事業所訪問1回目	(学修内容) インターンシップ先への挨拶 (事前事後学修課題の内容) (60分) 当該事業所について、調べておく
第12回	事業所訪問2回目	(学修内容) インターンシップ先への挨拶 (事前事後学修課題の内容) (60分) 当該事業所について、調べておく
第13回	事業所訪問3回目	(学修内容) インターンシップ先への挨拶 (事前事後学修課題の内容) (60分) 当該事業所について、調べておく
第14回	インターンシップ事前発表会	(学修内容) インターンシップ先についての研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先についてレジュメ作成
第15回	インターンシップに向けて	(学修内容) インターンシップ先企業の最終確認と諸注意と抱負発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップに向けての自身の抱負を考えておく

授 業 名	インターンシップ			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CS1413
英 文 名	Internship			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	伊藤 茂樹			対象 学生	幼児教育1回生、総合文化1回生				
授業の概要	春季休暇中に行うインターンシップを通して、さらなる社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。インターンシップや講義を通して自分がどんな仕事や職種に向いているかという職業適性を把握する。特に、外部講師や企業見学先では、自身の意見や質問を積極的に行って欲しい。また、就職活動に向けて個人ごとに就職希望先企業の研究を行い発表する。								
学修成果 到達目標	1) 自身の職業適性を把握することができる 2) 自身の職業、職種選択を決定し、自身の将来を見据えることができる 3) 社会人を養うことができる								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	講義中に適宜指示する								
課題に対する フィードバック の方法	グループワークや発表に関して、コメントを加える								
留意事項	春学期と同じく、高い意欲や自覚、積極性が求められる。そのため安易な気持ちでは受講できないことを理解して欲しい。キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する								
実践的教育									

授 業 名		インターンシップ
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) 春学期インターンシップの報告書を提出
第2回	インターンシップ報告会1	(学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ
第3回	インターンシップ報告会2	(学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ
第4回	インターンシップ報告会3	(学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップで学んだことのレジュメ
第5回	企業交流会1	(学修内容) 複数の企業にお越しいただき、企業理念、インターンシップの内容を説明していただきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 該当企業の情報、資料収集
第6回	事後学習	(学修内容) 該当企業の研究成果を発表し意見交換します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 該当企業の研究成果のレジュメ作成
第7回	企業交流会2	(学修内容) 複数の企業にお越しいただき、企業理念、インターンシップの内容を説明していただきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 該当企業の資料、情報収集を行っておく
第8回	事後学習	(学修内容) 該当企業の研究成果を発表し意見交換します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 該当企業の研究成果のレジュメ作成
第9回	個別面談	(学修内容) インターンシップ訪問先について相談します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップについての自分の考えを明確にしておく。
第10回	福祉について	(学修内容) 福祉関係の方に講演を行ってもらいます。仕事への取り組み方、やりがい等を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講演先企業の研究。意見や質問を考えておく
第11回	京都以外の地方での就活について	(学修内容) 地方就職についての現状を学びます。L O活の方にお越しいただき、現状や活動方法を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 意見や質問を考えておく
第12回	学外授業	(学修内容) 大阪企業家ミュージアム見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 大阪企業家ミュージアムについて調べておく。意見や質問を考えておく
第13回	インターンシップ先の確認	(学修内容) インターンシップ先企業の確認と諸注意、個別の面談を行います。 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先の企業を決める
第14回	インターンシップ事前学習	(学修内容) インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成
第15回	インターンシップ事前説明会	(学修内容) 職業体験の心構えと準備。京都若者就職支援センターの方にお越しいただき、身だしなみ、心構えについて教えていただきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 『インターンシップの手引き』を読んでおく

授 業 名	プレゼンテーション演習			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	IC1415
英 文 名	Presentation Practice			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	堀出 雅人			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>複雑化する社会の中で、職場や地域社会の場において、さまざまな価値観をもった他者と協働するにあたり、自らの意見やアイデアを相手にわかりやすく伝えるための力（「プレゼンテーション力」）が今後より一層求められるでしょう。国際的な競争に生き残るための技術革新や新商品の開発、我が国が抱える少子高齢、人口減少をはじめさまざまな社会的課題など、私たち一人ひとりから生み出されるアイデアや解決方法がいま必要とされています。その解決法を他者と共有し、共感を生み出したり、アイデアとアイデアをつなげ創造するためのツールとして、プレゼンテーションの場が会社や地域社会で設けられています。そこで、この授業では、プレゼンテーションの作成を助けるMicrosoft社のPowerPointの基本的な操作方法の習得とともに、オリジナルのスライド資料作りおよびプレゼンを通して、相手にわかりやすく伝え共感を生み出すための力を伸ばすことを目的としています。そのため、授業中に、教室のPCを活用した作品作り、プレゼンテーションとその相互評価など自己と相互の学修を実践します。</p>								
学修成果 到達目標	<p>(1)職場や地域を想定し、社会人として自らの考えを相手にわかりやすく伝えることができる  (2)PowerPointの基本的な操作方法を習得できる  (3)課題に対して自ら工夫して作品づくりに取り掛かることができる  (4)他者の意見やアイデアを参考に、自らの作品のより善く修正することができる</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	noa出版 『ドリルマスター PowerPoint & プレゼンテーション』 noa出版								
参 考 書	授業時に適宜指示します								
課題に対する フィードバック の方法	授業終了時にコメントカードを配布し、次回の授業時冒頭に提出をもとめる場合は、その授業時間中での講評や後日各自にコメントをつけたカードを返却します。15回の中に各自2回程度のプレゼンを課します。その計画、途中経過、プレゼンといった区切りで資料などをチェックし、より内容が充実するように適宜助言をします。								
留 意 事 項	パソコンを操作する時間が増えます。人前での発表を課題とします。特別な配慮の必要がある場合は事前に相談してください。基本的にテキストに沿って学修を行うため、必ずテキストを購入することをお願いします。								
オフィス アワー	授業実施期間中の水曜日のお昼休み								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：特定非営利活動法人学習開発研究所 所員として、E-Learninシステムの設計および運用に携わる。								

授業名	プレゼンテーション演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 本授業のねらいと流れを説明することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 授業の感想をコメントカードにまとめ次回提出
第2回	プレゼンテーションの基本を学ぶ	(学修内容) 自らのプレゼンテーション能力を磨く必要性を説明できる(テキストの範囲:STEP1) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストSTEP1を読んでくる 事後 プレゼンテーション力に関する記事を調べる
第3回	プレゼンテーションの達人たち/PowerPointの立ち上げ	(学修内容)【ICT活用】内容 人を惹きつけるプレゼンの達人のプレゼンの特徴を説明できる, PowerPointの立ち上げ方法を理解し, 操作できる. (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストSTEP2を読んでくる 事後 授業の感想を配布するコメントカードにまとめ次回提出
第4回	PowerPointを活用した資料作成	(学修内容) 資料の作成過程とアウトラインの作成方法を理解し操作できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストSTEP3を読んでくる 事後 「良い」プレゼン資料のポイントをまとめ次回提出
第5回	プレゼンテーションの作成	(学修内容) 状況に応じたスライドテーマの選択しスライド作成の準備ができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストSTEP4を読んでくる 事後 取り上げる地域の特産品について調べる
第6回	プレゼンテーションを編集	(学修内容) スライド資料の編集やヘッダーとフッターを操作できる 地域の特産品についてインターネット等で情報を獲得できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストSTEP5を読んでくる 事後 地域の特産品の紹介スライドの作成を進める
第7回	特殊な文字やイラストを挿入 プレゼン発表(1回目)	(学修内容) ワードアートと画像の挿入方法を理解し操作できる 【プレゼンテーション】地域の特産品についてプレゼンができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストSTEP6を読んでくる, 地域の特産品のスライド完成 事後 発表のふりかえりを行い次回提出する
第8回	表やグラフを挿入	(学修内容) 説得力を高めるプレゼン作りのため, データをExcelでグラフ化したものを貼り付けられる. 情報を引用する際の注意事項を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストSTEP7を読んでくる 事後 最終課題に向けて興味のある統計データを検索する
第9回	図形の挿入	(学修内容) PowerPointの機能としてSmartArtや図形・表をスライドに挿入することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストSTEP8を読んでくる 事後 調べた統計データをグラフ化する
第10回	アニメーション効果	(学修内容) プレゼンの効果をより高めるアニメーション機能を理解し操作できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストSTEP9を読んでくる 事後 発表スライド資料を作成しはじめる
第11回	発表準備	(学修内容) プレゼンを行う際に必要な準備物を理解し用意することができる(パソコンとプロジェクターの接続方法や手元資料の印刷方法等) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 STEP10を読む 事後 発表スライドの途中経過を報告できるように準備する
第12回	プレゼンする時の注意事項	(学修内容) プレゼンを行う際の服装や話し方, 質疑応答の仕方など基本事項を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 STEP13を読む 事後 発表スライドの完成・提出にむけて準備を進める
第13回	プレゼン発表(2回目)	(学修内容)【プレゼンテーション】自らが取り上げたテーマに沿ってプレゼンテーションを行い質疑応答ができる(一人5分程度) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 発表用プレゼンを完成させ当日までに担当教員にデータを提出 事後 プレゼンを終えた反省点をコメントカードにまとめ次回に提出
第14回	プレゼンの反省とスライド資料の改善	(学修内容)【ICT活用】発表会の結果を受けて, 他者の意見を参考にスライド資料を修正することができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストSTEP11,STEP12を読む 事後 修正したスライド資料を期日までに教員にデータで提出
第15回	学修成果のふりかえり	(学修内容) プレゼンの達人といまの自分のプレゼン力と比較し, 今後, どういった力をつける必要があるか分析し, 授業後の学びにつなげることができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 これまでの授業をふりかえった感想をコメントカードにまとめ提出 事後 最終レポートに向けて教員と他の受講生のコメントをまとめる

授 業 名	ビジネス英語		開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	IC2425
英 文 名	Business English		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	松尾 章子		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>ビジネスシーンで英語が使える人材の必要性は高い。ここでは、基本的なビジネスの場における英語表現を学修し、実際のビジネスシーンで活用できるようにする。また、ビジネス上重要な英語表現を反復し、ロールプレイを行うことで、英語で会話することへの抵抗感をなくし、楽しみながら生きた英語表現の修得を目指す。</p>							
学修成果 到達目標	<p>1) 英語で簡単な英語応対ができる。 2) プロトコルの基本的な考え方を理解している。 3) テキストに沿って、ビジネスEメールやビジネスレター、自身の英文履歴書を書くことができる。</p>							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能				
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )	
テキスト	芳野聡子他著『はじめてのビジネス・イングリッシュ』三修社 1,800円+税							
参 考 書	必要に応じて授業内で紹介します。							
課題に対する フィードバック の方法	小テスト、課題等はコメントを付して返却します。							
留 意 事 項	演習授業のため、積極的に参加してください。 30分までの遅刻は0.5回分の欠席、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。							
オフィ ス ア ワ ー	研究室前に日時を掲示しますので確認してください。							
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：英会話スクール講師							

授業名	ビジネス英語	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の内容・進め方等説明、自己紹介 (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前: シラバスを読む 事後: 授業内容について振り返り
第2回	Unit 1 Receiving Visitors Part 1 来客対応の基本	(学修内容) Unit 1 内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前学修: pp.8-10を声に出して読む 事後学修: p.11Exercise提出、会話テスト練習
第3回	Unit 2 Receiving Visitors Part 2 約束のない客、見送り	(学修内容) Unit 2 内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前学修: pp.12-14を声に出して読む 事後学修: p.15Exercise提出、会話テスト練習
第4回	Unit 3 Telephoning Part 1 電話対応の基本	(学修内容) Unit 3 内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前学修: pp.16-18を声に出して読む 事後学修: p.19Exercise提出、会話テスト練習
第5回	Unit 4 Telephoning Part 2 問い合わせ、伝言	(学修内容) Unit 4 内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前学修: pp.20-22を声に出して読む 事後学修: p.23Exercise提出、会話テスト練習
第6回	Unit 5 Business Etiquette & Protocol Part 1 プロトコルの原則、出迎え、送迎	(学修内容) Unit 5 内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前学修: pp.24-26を声に出して読む 事後学修: p.27Exercise提出、会話テスト練習
第7回	Unit 6 Business Etiquette & Protocol Part 2 車中での会話、工場訪問	(学修内容) Unit 6 内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前学修: pp.28-30を声に出して読む 事後学修: p.31Exercise提出、会話テスト練習
第8回	Unit 7 Business Etiquette & Protocol Part 3 観光案内、見送り	(学修内容) Unit 7 内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前学修: pp.32-34を声に出して読む 事後学修: p.35Exercise提出、会話テスト練習
第9回	Unit 8 Presentations Part 1 プレゼンテーションの基本	(学修内容) Unit 8 内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前学修: pp.36-38を声に出して読む 事後学修: p.39Exercise提出、会話テスト練習
第10回	Unit 9 Presentation Part 2 自己紹介	(学修内容) Unit 9 内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前学修: pp.40, 42を声に出して読む 事後学修: p.43Exercise提出、会話テスト練習
第11回	Unit 11 Business Email Writing Part 1 Eメールの構成	(学修内容) Unit 11内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前学修: pp.48-50を声に出して読む 事後学修: p.51Exercise提出、会話テスト練習
第12回	Unit 12 Business Email Writing Part 2 サンプルEメール	(学修内容) Unit 12内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前学修: pp.52-54を声に出して読む 事後学修: p.55Exercise提出、会話テスト練習
第13回	Unit 13 Business Letters ビジネス・レター	(学修内容) Unit 13内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前学修: pp.56-58を声に出して読む 事後学修: p.59Exercise提出、会話テスト練習
第14回	Unit 14 Job Hunting Part 1 英語による面接	(学修内容) Unit 14内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前学修: pp.60-62を声に出して読む 事後学修: p.63Exercise提出、会話テスト練習
第15回	Unit 15 Job Hunting Part 2 英文履歴書の書き方	(学修内容) Unit 15内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) (80分) 事前学修: pp.64-66を声に出して読む 事後学修: p.67Exercise提出

授 業 名	キャリア実践演習			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	IC1416
英 文 名	Career Practical Seminar			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	富川 拓			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	この授業では、実践を通して、社会人になるための心構えや知識を涵養することを目的とする。特に、「職場や地域社会で多様な人々と仕事、生活をしていくために必要な基礎的な力」である社会人基礎力を身につける。								
学修成果 到達目標	1) 社会人基礎力を完成する 2) 現代社会を把握する 3) 自己の将来設計を明確にする								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 ( 社会人基礎力 )	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	講義中に適宜指示する								
課題に対する フィードバック の方法	グループワークや発表、レポートなどに関して、全体的な講評を行う。								
留意事項	キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									



授業名	キャリア実践演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容、学修成果・到達目標、評価方法などについて (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおくこと
第2回	社会人基礎力 その1	(学修内容) 社会人基礎力について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第3回	社会人基礎力 その2	(学修内容) 引き続き、社会人基礎力について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第4回	新聞の読み方	(学修内容) 新聞の読み方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第5回	新聞を読む その1	(学修内容) 新聞記事をもとに発表、グループディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表資料を作成する
第6回	新聞を読む その2	(学修内容) 新聞記事を元に発表、グループディスカッション (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表資料を作成する
第7回	実践活動(入門編) その1	(学修内容) 企業や自治体が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 関連情報を収集しておく
第8回	実践活動(入門編) その2	(学修内容) 企業や自治体が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 関連情報を収集し、中間報告用資料を作成する
第9回	実践活動(入門編) その3	(学修内容) 企業や自治体が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する。検討した案を発表し(中間報告)、意見交換を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講師に対する質問をまとめておく
第10回	実践活動(入門編) その4	(学修内容) 中間報告、意見交換の結果をもとに、解決策を再検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 関連情報を収集し、最終報告用資料を作成する
第11回	実践活動(入門編) その5	(学修内容) 企業の方に向けて検討した案を発表し(最終報告)、意見交換を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 最終報告用資料を修正し、提出する。実践活動の振り返りレポートを作成する。
第12回	企業関連施設訪問(フィールドワーク) その1	(学修内容) 施設訪問に向けた事前学習 (事前事後学修課題の内容) (60分) 施設先での質問を考えておく
第13回	企業関連施設訪問(フィールドワーク) その2	(学修内容) 施設訪問 (事前事後学修課題の内容) (60分) 施設先での質問を考えておく
第14回	企業関連施設訪問(フィールドワーク) その3	(学修内容) 施設訪問 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークの振り返りレポートを作成
第15回	まとめ、振り返り、今後の活動について	(学修内容) 授業内容を振り返り、今後の活動について検討する (事前事後学修課題の内容) (60分) 今後の活動に関するレポートの作成

授 業 名	キャリアデザイン a			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1401
英 文 名	Career Design			開講 時期	春学期	必修 選択	必修		
担 当 者	堀出 雅人			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>キャリアとは、その語源をたどれば「人生」という意味をもつ。1回生のみなさんにとっては入学後間もない段階で次の進路を考えることに違和感を感じるかもしれない。しかし、この2年間の学びをより充実したものにするためには、これからの自分がどうありたいのか、目標や方向性を定めることが重要である。この授業を通して、人生100年時代と言われる今日受講生自身が人生の設計図を描き、その実現に向け行動する力を伸ばすことを目標としている。具体的には就職活動に向けた基礎的な知識やスキルを習得するとともに、人生の設計図を実現するためのライフイベント表（人生の出来事）とキャッシュフロー表（お金の流れ）の作成などである。授業の進捗度などによって、下記のシラバスの授業回の内容が前後する場合もある。授業中では、より学びを深めるために、プレゼンテーションやグループワークなど活動的な学習も行う予定もある。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 自らの将来を切り拓くため、働く意味、キャリアやキャリア・デザインの重要性を説明することができる。  2) 進路実現のためインターンシップや実習や就職活動に取り組み意義と心構えを表現することができる。  3) 人生の設計図としてライフイベント表とキャッシュフロー表を作成することができる。  4) 仲間と積極的にコミュニケーションを取り協力して授業の課題に取り組むことができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用（双方向型授業）		グループワーク ICT活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	<p>授業の初回に日本FP協会（<a href="https://www.jafp.or.jp/">https://www.jafp.or.jp/</a>）提供の無償のテキストを配付します。各自テキストには名前を書くこと。毎回の授業時に持ってくること。</p>								
参 考 書	<p>授業中に適宜指示します。</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>提出された課題については授業中での講評、あるいは、適宜コメントを付けて返却することで学修成果へのフィードバックを行います。プレゼンテーションの際は事前に評価指標を公表します。その指標に沿って、発表後に全体やグループへコメントを返します。</p>								
留意事項	<p>傾聴は職場や生活なかで人と人との信頼関係を生む大切な行為です。授業担当者の説明をよく聴く、受講生同士の話し合いや発表の時にもまず相手の話をよく聴きましょう。講義は授業担当者が一方的に「話す」ではなく、受講生へ「問い」を投げかけながら進めます。挙手や発言を求められた場合は積極的に応じましょう。学びが深まります。毎回、授業をふりかえる課題を出します。授業になんらかの理由で欠席する際は事前にku096horide@kyotokacho-u.ac.jpまでメールを送ることを心がけましょう。</p>								
オフィス アワー	<p>授業実施期間中の水曜日のお昼休み</p>								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：特定非営利活動法人学習開発研究所において、e-learningによる大学生、中小企業などのエンジニアの学習環境の開発と運用に携わった</p>								

授業名		キャリアデザイン a
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) ガイダンスを聞き、なぜ人生設計が必要なのかを説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: シラバスを読んでくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第2回	ライフキャリアの虹	(学修内容) ライフキャリアの虹を説明でき自らの予想図を描くことができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: キャリアの意味を調べてくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第3回	自己分析	(学修内容) 過去から現在までの自分を振り返ることができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: これまでの人生で印象的だったことを思い出してくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第4回	社会人基礎力	(学修内容) 社会人基礎力を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 社会で求められる力を調べてくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第5回	業界・職種研究の基礎	(学修内容) 業界・職種研究とは何かを説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 興味のある職業分野を調べてくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第6回	企業研究の基礎	(学修内容) 企業研究とは何かを説明できる 次回の発表に向けてプレゼンの計画を立てることができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 興味のある企業を調べてくる 事後: プレゼン資料の作成
第7回	【プレゼンテーション】企業研究の成果報告	(学修内容) プレゼンテーションを通して発信力を高めることができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: プレゼン資料の作成 事後: 授業の感想をまとめ提出
第8回	ライフステージ(成長・探索段階)	(学修内容) 人生の成長・探索段階のイベントや課題を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの指定する頁を読んでくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第9回	ライフステージ(確立・維持段階)	(学修内容) 人生の確立・維持段階のイベントや課題を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの指定する頁を読んでくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第10回	ライフステージ(下降段階)	(学修内容) 人生の下降段階のイベントや課題を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの指定する頁を読んでくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第11回	ライフイベント表の作成	(学修内容) ライフイベント表を作成できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの指定する頁を読んでくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第12回	キャッシュフロー表の作成	(学修内容) キャッシュフロー表を作成できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの指定する頁を読んでくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第13回	【グループワーク】 ライフイベント表とキャッシュフロー表の成果共有	(学修内容) 作成したライフイベント表とキャッシュフロー表の要点を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 作成した2つの表の説明する要点をまとめてくる 事後: 他者からの意見をもとに2つの表を修正する
第14回	働く環境とダイバーシティ	(学修内容) ダイバーシティを進める企業や事業所の取り組みについて説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: ダイバーシティについて調べてくる 事後: 授業の感想をまとめ提出
第15回	インターンシップとアルバイト	(学修内容) キャリア開発に向けて学生時代に取り組みインターンシップとアルバイトの重要性について説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: アルバイトの経験やインターンシップの希望を書き出す 事後: 授業の感想をまとめ提出

授 業 名	情報サービス演習			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名				開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	渡邊 雄一			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	情報サービス、レファレンスサービス業務に必要な各種情報源(冊子体、電子データ)の基礎知識や検索理論・検索技法を講義と演習を通して学習する。また、図書館での蔵書検索、冊子体の文献情報の読み方、データベースの利用法等をテキストに記載されている演習課題を通じて実践的に身につけていく。発信型情報サービスの理解を深めるために、グループワーク、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学修成果 到達目標	1) 図書館利用者の情報要求に対し、適切な情報源(電子情報、冊子情報)を用いて情報探索することができる。 2) 情報検索理論を理解し、適切な情報検索技術を用いて検索することができる。 3) パスファインダーの調査成果についてプレゼンテーションすることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	原田智子『情報サービス演習』(現代図書館情報学シリーズ7)、樹村房、2021年								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	・レファレンスサービス及び情報検索に関する基礎的な理論を活用し、テキスト記載の演習課題に取り組む中で図書館における情報サービスを実践的に理解していくため、「情報サービス論」で学習した基本的な理論はしっかりと復習しておくこと。(「情報サービス論」あるいは「情報サービス」を履修済みであることが望ましい。) ・講義で紹介されたデータベースについては、授業後に再度利用し、そのデータベースの特性、内容、利用法をしっかりと復習すること。								
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに情報サービス、レファレンスサービスについて解説を行います。								

授 業 名		情報サービス演習
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の概要を理解し、授業計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	情報サービスの設計と評価	(学修内容)情報サービス、レファレンスサービスの概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト1章、2章を読んで予習しておくこと。
第3回	情報探索の基礎	(学修内容)情報検索理論について、検索方式、検索語、トランケーションを中心に学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト2章を読んで予習しておくこと。
第4回	情報資源の探し方	(学修内容)さまざまな情報資源の種類、使い方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回講義の検索基礎理論を理解しておくこと。テキスト3章を読んで予習すること。
第5回	Webページ、Webサイトの探し方	(学修内容)Webページ、Webサイト、検索エンジン、インターネット上の情報の探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト4章を読み予習すること。
第6回	図書情報の探し方	(学修内容)図書情報の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト5章を読み予習すること。
第7回	雑誌および雑誌記事の探し方	(学修内容)雑誌、雑誌記事の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト6章を読み予習すること。
第8回	新聞および新聞記事の探し方	(学修内容)新聞の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト7章を読み予習すること。
第9回	言葉、事柄、統計の探し方	(学修内容)言葉、事柄、統計資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト8章を読み予習すること。
第10回	歴史、日時、地理、地名、地図の探し方	(学修内容)歴史、日時、地理、地名、地図資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9章、10章を読み予習すること。
第11回	法律、判例、特許の探し方	(学修内容)法令、判例、特許資料の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト12章を読み予習すること。
第12回	発信型情報サービス	(学修内容)発信型情報サービス(パスファインダー)の構築する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト15章を読み予習すること。
第13回	人物、企業、団体の探し方	(学修内容)人物、企業、団体資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト9、10章を読み予習すること。
第14回	レファレンスコレクションの整備	(学修内容)レファレンスコレクションの整備・評価の在り方について学習する。Web上に公開されているデータベースの調査、評価を行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト14章を読み予習すること。
第15回	パスファインダーの調査成果発表まとめ	(学修内容)パスファインダー調査成果を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自調査結果の発表準備を行う。

授 業 名	秘書学概論			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2714
英 文 名	Introduction to Office Administration			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択		
担 当 者	東野 國子			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>「秘書」という職務について、企業組織の中での秘書に着目し、秘書の役割、秘書の業務内容、秘書に求められるもの、秘書として最適な行動をとるための思考などを理論的に学ぶ。さらに、変化する社会環境・経済情勢の中で、上司を補佐する秘書として何が求められるかを考察し、自分自身のこれからのキャリアについても考える。</p>								
学修成果 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の中で上司を補佐する秘書として、臨機応変にその場に応じた対応がとれるよう、必要な知識・考え方を身につけることができる。</li> <li>・秘書としてだけでなく、ビジネスパーソンとして変容するビジネス社会に対応できる柔軟な思考力を養うことができる。</li> </ul>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学习支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	『秘書学概論』古武真美 東野國子著 近畿大学通信教育部発行								
参 考 書	秘書概論 高橋真知子、北垣日出子 樹村房								
課題に対する フィードバック の方法	毎回の記入用紙の気づきや質問には、コメントを付けて返却する。毎回の理解度テストについては、その都度解説・コメントする。								
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上司のサポートをする仕事のため、出席・時間・提出期限・言葉遣いなどマナーを守ることが求められますので、それを理解した上で受講してください。</li> <li>・ 日常からニュースなど社会の動きに興味を持つように心掛けて下さい。</li> </ul>								
オフィス アワー	担当授業前後に実施する								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：国際博覧会において政府館のコンパニオンとして勤務後、花と緑の博覧会ではコンパニオンの研修管理を務める。それらの経験を活かし、専門学校、短大、大学、などで秘書検定、ビジネスマナー、インターンシップ教育の指導を行う。元秘書検定準1級、サービス接遇検定準1級面接審査員。</p>								

授 業 名		秘書学概論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、「秘書とは」	(学修内容) 授業内容の確認、「秘書学概論」では何を学ぶのか (事前事後学修課題の内容)(20分) (事前) シラバスの確認 (事後) 配布シラバスから学ぶ内容・目標の理解
第2回	第2章 秘書の歴史的考察	(学修内容) 秘書の歴史について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 秘書のイメージを自分なりに考えておく (事後) 理解度テスト問題の復習をする
第3回	第3章 秘書の職能	(学修内容) 秘書の職能と上司の職能について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 職能について調べておく (事後) 理解度テスト問題の復習をする
第4回	第4章 秘書の業務	(学修内容) 秘書の具体的な業務を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) テキストを読み業務内容について理解を進めておく (事後) 理解度テスト問題の復習をする
第5回	第5章 組織と秘書	(学修内容) 組織についての理解を深める (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) どのような組織があるのか確認しておく (事後) 理解度テスト問題の復習をする
第6回	第6章 秘書の形態	(学修内容) 秘書の形態について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) テキストで秘書の形態を確認しておく (事後) 理解度テスト問題の復習をする
第7回	第7章 秘書の国際比較	(学修内容) 日米の秘書について色々な角度から共通点と異なる点を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) テキストで国際比較をしておく (事後) 理解度テスト問題の復習をする
第8回	第8章 会社の組織形態	(学修内容) 会社の組織形態について深く学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 会社の組織形態を確認しておく (事後) 理解度テスト問題の復習をする
第9回	第9章 秘書の資質と能力	(学修内容) 秘書として求められる資質と能力について確認する (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) テキストから自分自身の資質と能力について確認しておく (事後) 理解度テスト問題の復習をする
第10回	第10章 秘書と人間関係	(学修内容) 秘書を取り巻く人間関係について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 会社における秘書の立場について確認しておく (事後) 理解度テスト問題の復習をする
第11回	第11章 秘書とコミュニケーション	(学修内容) 秘書にとってコミュニケーションの大切さを理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) テキストにより秘書に求められる能力について考えておく (事後) 理解度テスト問題の復習をする
第12回	第12章 秘書の専門分化	(学修内容) 企業以外の色々な秘書について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 身近なところでの秘書について調べておく (事後) 理解度テスト問題の復習をする
第13回	第13章 秘書と心身の健康	(学修内容) 秘書にとって心身の健康が重要であることを理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 仕事上でのストレスについて考えておく (事後) 理解度テスト問題の復習をする
第14回	第14章 秘書と情報	(学修内容) 秘書が扱う情報について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 秘書の業務を理解した上で情報管理について考えておく (事後) 理解度テスト問題の復習をする
第15回	第15章 秘書とキャリア	(学修内容) 今後求められる秘書像と自分のキャリアデザインを考える (事前事後学修課題の内容)(60分) (事前) 授業振返りとキャリアデザインを考えておく (事後) 理解度テストをまとめる

授 業 名	ビジネス実務実践演習			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2722
英 文 名	Practical Business Affairs			開講 時期	秋学期	必修 選択		選択	
担 当 者	市川 順子			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	社会に出たときに必要とされる知識とスキルを学び、即、実践できることを目標に、演習を行います。								
学修成果 到達目標	1) 職業人として必要な基本的知識を身に付け実践する力をつけることができる。 2) 仕事を進める上での課題を見つけ、問題解決に向けて論理的思考ができる。 3) さまざまな場面・状況を想定し、臨機応変に対応することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	『新・ビジネスとオフィスワーク』 宮田篤/水原道子/上田知美 著 樹村房								
参 考 書	講義中に指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対しては確認をして返却し、解説については授業内で行います。 実技(ロールプレイング)については、その都度コメントします。								
留意事項	受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。 学んだことは、できる限り実践して身に付けるよう心がけてください。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：一般企業において10年間、受付対応、電話対応、秘書業務、総務・経理事務の実務経験がある。 また、一般企業での新人研修や、大学・高等学校での就職対策授業、インターンシップ事前マナー 研修、大学・専門学校での検定対策授業等を担当。秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇 実務検定準1級面接審査員の経験を有する。								



授業名	ビジネス実務実践演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にシラバスを読み、学習内容を確認しておく
第2回	言葉遣い1 敬語・クッション言葉・改まった表現	(学修内容) 敬語を復習し、お客さまとの会話、社内での会話を演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 敬語・クッション言葉・接遇用語について確認しておく
第3回	言葉遣い2 さまざまな場面での言葉遣い	(学修内容) 遅刻しそうなとき、休暇をとるときなど、さまざまな場面での言葉遣いを演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する
第4回	報・連・相	(学修内容) 社内における報告・連絡・相談のポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する
第5回	電話応対1(基本演習)	(学修内容) 電話応対の基本を確認し、演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する
第6回	電話応対2(応用演習)	(学修内容) 電話応対の応用を確認し、演習によって学ぶ わかりやすい伝言メモを書くコツを学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する
第7回	来客応対(演習)	(学修内容) 来客応対の基本(受付・案内・見送り)を確認し、演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する 名刺交換については、友人や家族と練習しておく
第8回	文書作成1 社内文書(案内文)	(学修内容) 文書作成の基本的ルールを学び、簡単な社内文書を作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 文書作成のポイント・レイアウトを確認しておく
第9回	文書作成2 社内文書(報告書)	(学修内容) 報告書のフォーム(レイアウト)を学び、報告書を作成する (事前事後学修課題の内容) (60分) 報告書に必要な項目は何か確認しておく
第10回	文書作成3 社外文書と内定のお礼状	(学修内容) 社外文書のポイントを学び、簡単な取引文書を作成する 内定のお礼状の書き方を学び、作成する (事前事後学修課題の内容) (90分) 頭語と結語、時候のあいさつについて確認しておく 例にならって、お礼状を作成する
第11回	慶弔業務	(学修内容) 慶弔業務のそれぞれの対応について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 上書き等、学んだことを確認しておく
第12回	郵便の知識・ファイリング	(学修内容) 郵便の知識とファイリングの方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分自身の資料・プリントをファイリングしてみる
第13回	接客応対	(学修内容) お客さまを意識した接客応対を学ぶ 相手の立場になっての声かけを考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 日常で目にする接客について考えてみる
第14回	クレーム対応	(学修内容) 誠実なクレーム対応について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) クレームの理由や対応について確認しておく
第15回	まとめ	(学修内容) これまで学習したことを整理し、確認する (事前事後学修課題の内容) (90分) これまでの学習したことを実践できるよう確認しておく

授 業 名	応用ビジネス実務論			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2721
英 文 名	Theory of Business Practice			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択		
担 当 者	湯浅 俊郎			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>変化の激しい現代社会の中にあつて、社会人として必要な資質や役割を理解し、ビジネス実務に存在する意義とは何か、ビジネス行動の最適化を図るにはどのように考えて行動すべきなのかなど理論的に考察していく。「ビジネス実務総論」で学んだことをベースに、データ分析の仕方を実践的に学習する。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 創造的なビジネス実務を行うための知識・技能について理解を深めることができる。  2) 対話の能力、課題発見・課題解決能力を培うことができる。  3) 論理的に学ぶことによって、ビジネス実務能力を発揮できるような考え方を学修することができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	授業時に資料を配布します。								
参 考 書	適宜授業内に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	課題に対して必要なアドバイスを行います。								
留意事項									
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する								
実践的教育									

授 業 名		応用ビジネス実務論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画・内容・注意事項等。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを一読しておく。
第2回	マーケティングに使える家計調査について	(学修内容) 家計調査の内容について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の復習
第3回	データの加工について	(学修内容) データの加工の手順について実践します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の復習
第4回	図の示し方について	(学修内容) 相手に伝わるように、データを図で示す方法について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業の復習
第5回	地域で異なる消費支出について ---肉類	(学修内容) 実際にデータを用いて、地域による肉類の消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞などを読み、地域により牛肉、豚肉、鶏肉の消費支出額は、どのように異なるのか、考えてみる。
第6回	地域で異なる消費支出について ---野菜	(学修内容) 実際にデータを用いて、地域による野菜類の消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞などを読み、地域により消費支出額が異なると想定される野菜をいくつか考えてみる。
第7回	地域で異なる消費支出について ---魚類	(学修内容) 実際にデータを用いて、地域による魚類の消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞などを読み、地域により消費支出額が異なると想定される魚類をいくつか考えてみる。
第8回	地域で異なる消費支出について ---果物	(学修内容) 実際にデータを用いて、地域による果物の消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞などを読み、地域により消費支出額が異なると想定される果物をいくつか考えてみる。
第9回	年齢で異なる消費支出について ---食品	(学修内容) 実際にデータを用いて、年齢による食品の消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞などを読み、家計調査にあげられている全食品のなかで、年齢により消費支出額が異なると想定されるものをいくつか考えてみる。
第10回	年齢で異なる消費支出について ---教養娯楽サービス	(学修内容) 実際にデータを用いて、年齢による教養娯楽サービスの消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞などを読み、家計調査の教養娯楽サービスの品目のなかで年齢により消費支出額が異なると想定されるものをいくつか考えてみる。
第11回	収入で異なる消費支出について ---食品	(学修内容) 実際にデータを用いて、収入による食品の消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞などを読み、家計調査にあげられている全食品のなかで、収入により消費支出額が異なると想定されるものをいくつか考えてみる。
第12回	収入で異なる消費支出について ---教養娯楽サービス	(学修内容) 実際にデータを用いて、収入による教養娯楽サービスの消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 新聞などを読み、家計調査の教養娯楽サービスの品目のなかで、収入により消費支出額が異なると想定されるものをいくつか考えてみる。
第13回	仮説の設定について	(学修内容) 仮説の設定について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまで作成したものを振り返って、どのような傾向がみられたのか、整理してみる。
第14回	検証について	(学修内容) 検証について説明します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) これまで作成したものを振り返って、違った視点で検証できるか、整理してみる。
第15回	まとめ	(学修内容) データ作成について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) レポートに向けた質問事項を整理する。

授 業 名	図書館概論			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CL1705
英 文 名	Introduction to Library			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	渡邊 雄一			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、関係機関との関係、今後の課題と展望等の基本を学んでいく。図書館をめぐる今日的課題についての理解を深めるために、実際の事例にもとづいたグループディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学修成果 到達目標	1) 図書館の機能・役割を理解し、基本的な専門用語については意味を説明することができる。 2) 図書館と知的自由に関する今日的課題を解決するために、「図書館の自由に関する宣言」について理解し、自己の見解をプレゼンテーションすることができる。 3) 公立図書館の管理運営形態の一つである指定管理者制度について理解し、その長所と短所を整理して自己の見解をプレゼンテーションすることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	『図書館概論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ 1)、塩見昇、日本図書館協会、2018年								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	授業で学んだことを自分で経験して確かめるために、居住地の公共図書館を積極的に利用すること。								
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館について話をします。								

授業名	図書館概論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館とは何か	(学修内容) 図書館の定義、種類について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.13～P.20をよく読んでまとめておくこと。
第3回	図書館の理念：図書館の自由など	(学修内容) 「図書館の自由に関する宣言」について解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.57～P.64をよく読んでまとめておくこと。
第4回	図書館の自由について考える	(学修内容) 図書館の自由に関してグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 「図書館の自由に関する宣言」(テキストP.65～P.67)を読んでおくこと。
第5回	図書館法規と行政	(学修内容) 公共図書館の根拠となる法的基盤について考察する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 「教育基本法」、「社会教育法」の条文を読んでおくこと。
第6回	図書館の歴史的展開(欧米)	(学修内容) 欧米における公立図書館の制度化の歴史について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.225～P.228をよく読んでまとめておくこと。
第7回	図書館の歴史的展開(日本)	(学修内容) 日本の図書館の歴史的展開を概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.229～P.232をよく読んでまとめておくこと。
第8回	公共図書館の制度と機能	(学修内容) 「図書館法」の構成と性格を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 「図書館法」の条文を読んでおくこと。
第9回	公共図書館のサービス	(学修内容) 公共図書館が提供するサービスについて概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.146～P.150をよく読んでまとめておくこと。
第10回	公立図書館の管理運営上の課題(指定管理者制度)について考える	(学修内容) 公立図書館の管理運営上の課題の一つである指定管理者制度に関してグループディスカッションを行い、プレゼンテーションも行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 指定管理者制度に関する配付プリントをよく読んでおくこと。
第11回	学校図書館の制度と機能	(学修内容) 学校図書館の役割と機能について概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.161～P.168をよく読んでまとめておくこと。
第12回	大学図書館の制度と機能	(学修内容) 大学図書館の法的根拠、機能などについて考察する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.177～P.183をよく読んでまとめておくこと。
第13回	専門図書館の制度と機能	(学修内容) 専門図書館の特性、類別、機能などについて概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.190～P.193をよく読んでまとめておくこと。
第14回	国立図書館の制度と機能	(学修内容) 国立図書館の法的基盤、図書館奉仕などについて概説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.203～211をよく読んでまとめておくこと。
第15回	出版文化と図書館	(学修内容) 出版文化と図書館の貸出サービスとの関係についてグループディスカッションを行い、意見交換の後にプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.45～P.48をよく読んでまとめておくこと。

授 業 名	図書館サービス概論			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2711
英 文 名	Introduction to Library Services			開講 時期	春学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	四方 未来			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>図書館には様々なサービスがあります。図書館サービスの理念や構造などを知り、図書館でどんなことが出来るのかを学びます。</p> <p>資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種のサービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を解説します。また、館種別のサービスや実際の現場でのサービスの形についても学ぶ。理解を深めるために、ビデオや写真を見たり、グループワークを行いながら授業を進めます。毎回授業内に小レポートまたは小テストをします。</p> <p>受講生の関心ある内容や理解度、進路など受講生に合わせシラバスを変更する場合があります。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 図書館サービスの理念や様々なサービスを理解し、説明することができる。</p> <p>2) 図書館サービスの構造を知り、利用者に合わせてサービスを提供することができる。</p> <p>3) 館種ごとのサービスの特徴や違いを知り、説明することができる。</p> <p>4) 図書館サービスの課題を見つけ、維持・発展のために何が必要かを考え、新しいサービス等を提案できる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	使用しない								
参 考 書	授業にて指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントを付けて返却します。								
留意事項	公共図書館や大学図書館など様々な図書館を実際に訪れ、どのようなサービスが行われているか確認しましょう。 出席日数が3分の2に満たない者は、原則単位を与えません。 受講生の関心ある内容や理解度、進路など受講生に合わせシラバスを変更する場合があります。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：中高等学校 教員として勤務。 公共図書館、大学図書館 図書館員として勤務。 医療系専門学校 正規図書司書として勤務。 現在、公立小中学校 学校司書として勤務。</p>								

授業名	図書館サービス概論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション(授業の概要説明)、図書館のサービスについて	(学修内容)授業の概要と説明、図書館サービスについて。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:シラバスを確認してください。図書館サービスについて、イメージしておいてください。事後:確認テストの回答又は小レポート。
第2回	図書館サービスの意義・理念・概要	(学修内容)図書館サービスの意義や理念、内容、構造について。図書館サービスの交換や図書館法についてもふれる。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後:確認テストまたは小レポートの提出。
第3回	図書館サービスと資料提供サービス(直接的サービス)	(学修内容)貸出、リクエストなど資料提供サービスについて解説。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後:確認テストまたは小レポートの提出。
第4回	図書館サービスと情報提供サービス(直接的サービス)	(学修内容)レファレンスや情報発信など情報提供サービスについて解説。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後:確認テストまたは小レポートの提出。
第5回	図書館サービスと利用空間の整備	(学修内容)図書館内の整備について解説。またどのような空間が利用しやすいか考える。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後:確認テストまたは小レポートの提出。
第6回	図書館サービスと全域サービス	(学修内容)Mapなどを活用し、全域奉仕について考える。郷土資料のデジタル化やなどDXでどのように図書館サービスが変化するか考える。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後:確認テストまたは小レポートの提出。
第7回	図書館サービスと課題解決サービス支援	(学修内容)ビジネス支援や医療健康情報などを知り、社会の変化との関連を含め考える。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後:確認テストまたは小レポートの提出。
第8回	図書館サービスと利用対象に応じたサービス1(児童・ヤングアダルトサービスほか)	(学修内容)児童やヤングアダルトなどのサービスについて解説。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後:確認テストまたは小レポートの提出。
第9回	図書館サービスと利用対象に応じたサービス2(障がい者、高齢者、多文化サービスほか)	(学修内容)障がい者や高齢者、多文化などのサービスについて解説。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後:確認テストまたは小レポートの提出。
第10回	図書館サービスと利用対象に応じたサービス3(障がい者、高齢者、多文化サービスほか)	(学修内容)障がい者や高齢者、多文化などのサービスについて解説。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後:確認テストまたは小レポートの提出。
第11回	館種別サービス1	(学修内容)公共図書館、国立国会図書館、学校図書館、大学図書館、専門学校図書館など様々な館種別のサービスの特徴や違いについて。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後:確認テストまたは小レポートの提出。
第12回	館種別サービス2	(学修内容)公共図書館、国立国会図書館、学校図書館、大学図書館、専門学校図書館など様々な館種別のサービスの特徴や違いについて。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後:確認テストまたは小レポートの提出。
第13回	図書館サービスとボランティア、広報について	(学修内容)図書館でのボランティア活動や広報について。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後:確認テストまたは小レポートの提出。
第14回	図書館サービスと著作権	(学修内容)図書館の複写など著作権について。館種別によくある事例も含め解説。「図書館だより」など配布物についても解説。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後:確認テストまたは小レポートの提出。
第15回	各種図書館とのネットワーク、利用者とのコミュニケーション、これまでの補足とまとめ	(学修内容)各種図書館とのネットワークや利用者とのコミュニケーションの重要性について。これまでの補足とまとめ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前:前回の授業を受け、公共図書館や大学図書館等のサービスを実際に見て確認しましょう。事後:確認テストまたは小レポートの提出。

授 業 名	児童サービス論			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2712
英 文 名	Theory of Child Services			開講 時期	春学期	必修 選択	必修 選択		
担 当 者	杉岡 和弘			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>公共図書館にとって児童サービスは重要な担当業務である。子どもは、生涯続く図書館利用者だからです。知識を得るだけでなく、業務の実際を体験しながら、自発的に考え行動する児童図書館員の育成をめざします。子どもの図書館にとって、1. 子どもを知ること、2. 子どもの本を知ること、3. 子どもと本を結びつけること、が重要です。この3点を基軸に、子どもの読書、子どもの図書館、子どもの本を学習し、子どもの本を紹介する技術の習得を、ワークショップ形式で学んでいきます。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 公共図書館における児童サービスの役割を生涯学習者形成の観点から理解できること。 2) 児童図書館員の役割を主眼に、講義中の各テーマについて自分の視点に沿って意見を論述できること。 3) グループ討論を通して、根拠に根ざした意見を他者に伝えるスキルを身につけること。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲		プレゼンテーション能力 ( レポートの完成度 )	課題発見・解決能力 ( グループ討議の積極性 )				
テキスト	使用しない ( GoogleClassroomで授業スライドなどpdf配布 ) 。								
参 考 書	<p>堀川照代編著、『児童サービス論』,日本図書館協会,2014,ISBN9784820413158 日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会編、『児童図書館サービス1・2』,日本図書館協会,2011,ISBN9784820411062,ISBN9784820411079 杉岡和弘著、『子ども図書館をつくる』( 図書館の現場 ; 4 ) , 2005,勁草書房,ISBN9784326098309</p>								
課題に対する フィードバック の方法	<p>提出物については、ポータルにて講評及びコメントする。 コメントシートの記載内容については、授業内で適宜フィードバックする。</p>								
留意事項	<p>授業は、学んだことをグループ討論を通して学習していく。また、グループ学習の報告・課題のレポート提出・小テストが学習システムで求められる。積極的に授業参加し、課題解決できるように受講してほしい。課題・小テストは、随時与えられるので、心構えてほしい。</p>								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：香寺町立図書館における館長、姫路市立図書館における司書の実務経験をもとに、具体的な事例を紹介しながら解説します。</p>								



授 業 名		児童サービス論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業オリエンテーション	(学修内容) 授業の概要や課題、学習方法を説明する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスを読んで授業内容や到達目標と評価方法を確認しておく。 自分の幼い時の読書体験、図書館利用を討議する。
第2回	子どもを知る	(学修内容) 子どもの成長に応じた、読書の変化、子どもの情報行動について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 子どもの成長と読書の関係を、自分の経験をもとに考えておくこと。また、グループ討議します。
第3回	子どもの図書館を知る	(学修内容) 子どもの図書館が歩んできた過程を通して、児童サービスの重要性を学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分の図書館経験をグループ討議します。また、課題「図書館見学レポート」が出題されます。
第4回	子どもの本を知る(1)	(学修内容) 就学前の子どもの本(わらべうた、なぞなぞ、昔話、絵本)を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 書評(レビュー)スリップの作成課題が出題されます。課題の図書からどの図書を選ぶか留意して授業に臨んでください。
第5回	子どもの本を知る(2)	(学修内容) 学童期の子どもの本(少年詩、児童文学、科学読み物、ノンフィクション)を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 書評(レビュー)スリップの作成課題が出題されます。課題の図書からどの図書を選ぶか留意して授業に臨んでください。
第6回	本を選ぶ(1)	(学修内容) 児童図書出版状況、選書の実際とその重要性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 児童サービスにとって選書の大切さを整理しておくこと。次週、また課題の「書評(レビュー)スリップ」を利用して選書会議をします。
第7回	本を選ぶ(2)	(学修内容) 書評(レビュー)スリップを利用して、グループ討議を通して選書を選ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 選書会議で、得られた他メンバーの意見の相違点や類似点を書評(レビュー)スリップにまとめておくこと。
第8回	書評を書く	(学修内容) 書評を書くことを通して、子どもの本を正しく捉え、評価することを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 書評(レビュー)スリップをもとに、「書評を書く」課題について、締め切り、字数に留意して作成してください。
第9回	ブックリストを作る	(学修内容) 子ども向けの文章の違いを学び、子どものためのブックガイドの書き方、ブックリストを作成について考えます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループ討議「テーマ探し」を参考に、課題「ブックリストを作る」について書評(レビュー)スリップをもとに取り組んでください。
第10回	子どもの本を紹介する	(学修内容) 公共図書館で行われている読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトークなど、子どもと本を結ぶ技術を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 子どもに直接本を紹介する技術にはどのようなものがあるか、またどのような違いがあるか整理してください。
第11回	子どもの図書館を考える	(学修内容) 図書館計画において子どものために留意する点について学びます。レポート「図書館見学」をもとにグループ討議します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題「図書館見学レポート」をもとに、グループ討議をします。子どもに対する配慮や利用しやすい図書館を考えます。
第12回	児童室のレイアウトを考える	(学修内容) 図書館の中の児童室の書架レイアウトを考えます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 課題「児童室のレイアウトをつくる」が出題されます。グループ討議の意見を参考にし、課題に取り組んでください。
第13回	子どもの図書館の運営	(学修内容) ヤングアダルト、特別なニーズを持つ子どもたちに対する図書館サービス、他機関の連携を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ヤングアダルト文学の特徴、それぞれの特別なニーズに対してどのような資料があるか整理してください。
第14回	子ども読書活動推進計画を考える	(学修内容) 児童サービスを、政策として捉え、子どもの読書を推進していくための具体的な方法を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) グループ討議「子ども読書活動推進計画を考える」を、次回授業時にプレゼンテーションで発表できるように準備をしてください。
第15回	おはなし会の実際とグループ発表「子ども読書活動推進計画」	(学修内容) おはなし会の実際について学ぶ。「子ども読書活動推進計画」をグループ発表します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 他のグループの「子ども読書活動推進計画」との相違や類似について整理してください。

授 業 名	図書館制度・経営論			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CL1706
英 文 名	Theory of Library System and Management			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	渡邊 雄一			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について学習するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態について学習する。図書館経営やサービス計画に関して理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを実施する。								
学修成果 到達目標	1) 図書館設置を規定する法律の内容を理解し、説明することができる。 2) 図書館組織、管理、運営、施設等の、図書館経営に関する基本的な内容を理解し、説明することができる。 3) 図書館サービス計画に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (55%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (45%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	適宜、プリントを配布する。								
参 考 書	授業中に指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	地域の公共図書館に足を運び、その活動状況を観察しておくこと。								
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館制度や経営について話をします。								

授業名	図書館制度・経営論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館の法制度	(学修内容)憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法、地方自治法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(地方教育行政法)の内容を解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 法制度に関する事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第3回	図書館法	(学修内容)図書館法の条文を解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館法の条文を読んでおくこと。
第4回	他館種の図書館に関する法律	(学修内容)学校図書館法、国立国会図書館法などについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 学校図書館法、国立国会図書館法の条文を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスと法律	(学修内容)著作権法、個人情報保護法などについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 著作権法の条文を読んでおくこと。
第6回	図書館経営の概要	(学修内容)図書館経営の意義と基本的な考え方について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 図書館と営利企業の違いについてまとめておく。
第7回	図書館の管理運営の外部化 指定管理者制度	(学修内容)指定管理者制度について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 指定管理者制度について調べておくこと。
第8回	図書館の管理運営の外部化 PFI	(学修内容)PFIについて解説する。管理運営の外部化に関して問題点をグループ討議する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) PFIについて調べておくこと。
第9回	図書館のサービス計画	(学修内容)図書館サービスの計画について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第10回	図書館のマーケティング	(学修内容)図書館におけるマーケティングの内容・方法について概説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第11回	図書館の建築計画	(学修内容)図書館建設手順の流れについて解説する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前配付プリントをよく読んでおくこと。
第12回	レイアウト図をつくる ゾーニング計画	(学修内容)ゾーニング計画をつくる。適切なレイアウトについてグループで討議を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館のゾーニングを調べておくこと。
第13回	レイアウト図をつくる 書架	(学修内容)図書館のレイアウト図をつくる。書架を並べる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 地域の公共図書館の書架配置について調べておくこと。
第14回	レイアウト図を発表する ゾーニング計画	(学修内容)作成したゾーニング計画を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レイアウト図を完成させる。
第15回	レイアウト図を発表する コンセプト・レイアウト図	(学修内容)コンセプトをふまえて作成したレイアウト図を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) レイアウト図を完成させる。

授 業 名	図書館情報技術論			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2718
英 文 名	Theory of Library Information Technology			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択		
担 当 者	岡 紀子			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	今日の図書館司書の業務は、コンピュータを中心とする情報機器に関する基礎知識と的確な情報処理を遂行するための実務の習得が不可欠である。本科目では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、コンピュータシステム、データベース、検索エンジン、図書館システム、電子資料等について学習する。授業では、ほぼ毎回授業内容に関する課題を行う。数回はグループディスカッションを行う。実践学習として、音声翻訳システムを体験する。								
学修成果 到達目標	1) 図書館の現場で必要となる基礎的な情報技術の知識を習得する。 2) 知識を活用して図書館が直面する今日的な課題に対応することができる。 3) インターネット上の情報源や電子出版の動向などを理解し、それらと連携した図書館サービスを企画・立案できる。 4) 情報サービス演習 ・ 、情報サービス論とあわせて履修することにより、「検索技術者検定3級」に合格できる実力を身に付ける。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 課題発見・解決能力 授業態度・参加意欲 ( 毎回の課題は2/3以上提出すること ) ( 実習課題は実施し提出を必須とする )							
テキスト	三訂 図書館と情報技術 ( 樹村房 ) 2023 3月発行								
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書館情報技術論 田中均 青弓社 2019年</li> <li>・ 新しい産業創造へ (デジタルアーカイブ・ベーシック5) 2021年5月 2750円 ( 税込 ) 時実 象一 勉誠出版</li> <li>・ 自然史・理工系研究データの活用 (デジタルアーカイブ・ベーシック3) 2020年4月2750円井上 透 勉誠出版</li> <li>・ 検索スキルをみがく第二版検索技術者検定3級公式テキスト 2020年5月刊行 吉田孝明 森美由紀 ( 樹村房 )</li> </ul>								
課題に対する フィードバック の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提出されたレポートは、発表の際に都度コメントします。</li> <li>・ 制作物などについては、その実習中に個別に対応します。</li> </ul>								
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で学ぶことは基本的なことだけです。この分野についてより広く深く知りたい場合は、活用場所を図書館に限定せず各専門書を参照してください。現代の社会の情報技術の進歩は目覚ましいので、常に最新の情報を入手するよう心がけましょう。新しい技術を図書館でどのように活用できるかを考えるのが、これからの司書の重要な使命だと思いますので、既存概念にとらわれない自由な発想ができるように期待しています。</li> <li>・ 自ら図書館に足を運び、図書館における業務を把握し、情報技術がどのように活用・応用されているか確かめておく。</li> </ul>								
オフィス アワー	担当授業後に質問を受け付ける								
実践的教育									

授業名	図書館情報技術論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	図書館情報技術論の概要とねらい	(学修内容) IT技術が重要な基盤となっている現代の図書館情報技術の重要性、および学習の概要とねらいについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第2回	コンピュータの基礎	(学修内容) コンピュータの基本、仕組みについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第3回	ネットワークの基礎	(学修内容) ネットワーク、インターネット、WWWについて基礎を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第4回	情報技術と社会・法律	(学修内容) 情報化社会の特徴をふまえて情報技術との深い関わりを理解する。情報技術の法的保護の観点から、知的財産権、特に著作権について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第5回	データベースの仕組み	(学修内容) データベースの定義、種類、データベースシステムなど。データ・情報・知識について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第6回	サーチエンジン(検索エンジン)の仕組み	(学修内容) ウェブ検索の歴史と検索エンジン、種類。ロボット型検索エンジンの特徴。新しい情報アクセス技術(RDF)について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第7回	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	(学修内容) コンピュータシステムが安全確実に運用されるためのセキュリティシステムとその技術について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第8回	図書館の業務とICT その1	(学修内容) 図書館の管理システムにつて、技術面から学習する。図書館システム、ICタグをはじめ図書館で利用されるシステムや機器について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第9回	図書館の業務とICT その2	(学修内容) デジタルレファレンスサービス、レファレンス協同データベース、および学術機関リポジトリ。図書管理システムの導入と運用について (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第10回	図書館と電子資料	(学修内容) 図書館で扱う電子資料と、その管理技術を学習する。電子ジャーナル、電子ブック、文献デリバリーおよび資料のデジタル化について。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第11回	1) デジタルアーカイブ 2) 最終レポート課題設定: 提出期限は13回目 3) 図書館における障がい者支援のとりくみ M-DAISY作成の概要、アカウントとPWを配布	(学修内容) 1) デジタルアーカイブの定義、歴史、さらにその動向と意義、応用分野と特長、作成技術などについて。ウェブサイト例を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) (10分) 該当箇所の予習
第12回	マルチメディアDAISY作成の演習(1)	(学修内容) 障がい者支援機能の一つである、マルチメディアDAISYについて学ぶ。音声支援システムソフトを用いてmDAISY形式資料の編集を実践をする (事前事後学修課題の内容) (10分) アカウント・PWでアクセスの確認
第13回	最終レポート提出 発表(1) マルチメディアDAISY作成の演習(2)	(学修内容) レポート提出期限 受講者が少ない場合、最終レポート発表(1) マルチメディアDAISY作成の演習(2) (事前事後学修課題の内容) (60分) mDAISY編集作業を継続
第14回	最終レポートのプレゼンテーション(2) プレゼンの状況に応じて、 マルチメディアDAISY作成の演習(3) 継続	(学修内容) 課題レポートの発表(2) マルチメディアDAISY作成の演習(3) 継続 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業を継続
第15回	最終レポートのプレゼンテーション(3) マルチメディアDAISY完成・提出(4)	(学修内容) 課題レポートの発表(3) mDAISY編集完成版の提出 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自mDAISY編集作業完成

授 業 名	図書館情報資源概論			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CL1702
英 文 名	Introduction to Library Information Resource			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	渡邊 雄一			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	近年多様化している図書館情報資源について、その類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存など、図書館業務に必要な情報資源に関する知識を習得することを目的とする。また、図書館の将来を見通した資料収集のあり方や、利用者に対する情報サービスの方法や心得に関する基本的知識の習得も目指す。図書館情報資源をめぐる今日的課題に関してグループディスカッションを行いながら授業を進める。								
学修成果 到達目標	1) 図書館が扱う資料(印刷資料、非印刷資料、電子資料)の種類と特性について理解し、説明できる。 2) 図書館で受け入れる資料の処理方法や取り扱い方の注意点、修復方法を理解し、説明できる。 3) ネットワーク情報資源や電子情報資源について理解し、説明できる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	藤田岳久編『図書館情報資源概論』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望8)学文社, 2016年								
参 考 書	吉井潤『事例で学ぶ図書館情報資源概論』青弓社, 2023年								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。								
留意事項	図書館を積極的に利用し、図書館資料の種類・特色について調べておくこと。 積極的な授業参加が求められる。特に、グループディスカッションでは積極的に発言し、意見交換すること。								
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など: レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館資料について解説します。								

授業名	図書館情報資源概論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業展開の解説、図書館が取り扱う知識と情報の性質について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	図書館情報資源の経緯	(学修内容) 図書館資料全般の特質、歴史について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト2章p.12-17を読んでまとめておくこと。
第3回	印刷資料の類型と特質	(学修内容) 資料の類型を整理し、図書、逐次刊行物、小冊子の定義、種類、特徴などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト3章p.18-22を読んでまとめておくこと
第4回	非印刷資料の類型と特質	(学修内容) 視聴覚資料、マイクロ資料、障害者向け資料の定義、種類、特徴などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト3章p.22-25を読んでまとめておくこと
第5回	電子資料、ネットワーク情報資源の類型と特質	(学修内容) 電子資料、ネットワーク情報資源の定義と特徴、ネットワーク型情報資源、パッケージ型電子資料の種類と特質について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト4章p.26-31を読んでまとめておくこと。
第6回	地域資料、行政資料、灰色文献	(学修内容) 地域資料の意義、地域資料、行政資料、灰色文献の定義について理解し、地域資料の収集、情報発信のあり方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト5章p.32-37を読んでまとめておくこと。
第7回	情報資源の生産(出版)と流通	(学修内容) 出版の流通、図書の制作の過程について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト6章p.38-43を読んでまとめておくこと。
第8回	図書館業務と情報資源に知識関する知識 図書館と著作権	(学修内容) 図書館情報資源利用と著作権法の関わりについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 「図書館と著作権法」に関する情報をインターネットで調べ、わからない言葉を書き出しておくこと。
第9回	コレクション形成の理論と方法	(学修内容) 蔵書構築と蔵書構成、選択、収集、形成、維持について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト9章p.58-63を読んでまとめておくこと。
第10回	人文・社会科学分野の情報資源とその特性	(学修内容) 人文・社会科学、科学技術分野、各分野の学問的諸領域、情報資源へのアクセスについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト10章p.64-71を読んでまとめておくこと。
第11回	科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性	(学修内容) 科学技術分野、生活分野の意味、科学技術情報、科学技術コミュニケーション、生活分野の学術文献の特色について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト11章p.72-77を読んでまとめておくこと。
第12回	資料の受入・除籍・保存・管理の実際	(学修内容) 資料の受入、除籍、保存、資料管理のあり方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト12章p.78-85を読んでまとめておくこと。
第13回	情報生産の新たな仕組みと図書館情報資源	(学修内容) クラウドソーシング、クラウドコンピューティング、オープンソース・オープンアクセスなどについて学習する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト13章p.86-91を読んでまとめておくこと
第14回	電子書籍、電子ジャーナル 図書館情報資源としての意義と課題	(学修内容) 電子書籍の現状と意義について学習する。電子ジャーナルに関してグループディスカッションを行い、現状と課題について考察する (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト14章p.92-97を読んでまとめておくこと
第15回	まとめ	(学修内容) 総復習 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキスト15章p.98-117を読んでまとめておくこと

授 業 名	情報資源組織論			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CL1707
英 文 名	Theory of Informational Resource Organization			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	松田 泰代			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>・情報資源を客観的に記述する目録法と、内容（主題）により資料を体系的に配列する分類法・件名法の歴史や意義、目録作成や分類・索引法の基本について概説します</p> <p>・図書館が扱う情報資源はWeb情報源も含め多様化しており、利用者の情報への世界規模でのアクセスを保障するための書誌情報の標準化やその意義について解説します。</p> <p>・情報資源組織は図書館の資料の収集・保存・提供に不可欠な専門的な技術です。専門的な用語を含め情報資源組織の基本的な知識や現状について理解を深めます。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 図書館の情報資源の組織化の基本的な概念、用語を理解し使用できる。</p> <p>2) 利用者が図書館の多様な情報資源に容易にアクセスできるように必要な目録、分類法の意義を説明することができる。</p> <p>3) 情報社会において「知る自由」を保障するための情報資源へのアクセスについてFRBR等の書誌記述の構造を理解し、利用者の情報アクセスを支援する仕組みを考えることができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (20%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (80%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	田窪直規 『三訂 情報資源組織論』 樹村房 2020年発行 ISBN:978-4-88367-339-1								
参 考 書	日本図書館研究会編『情報資源組織法』(日本図書館研究会,2020),『日本十進分類法(NDC)10版』,『日本目録規則2018年版』(いずれも日本図書館協会出版)など								
課題に対する フィードバック の方法	小テスト6回(10点×6)は、授業内で解説し、答案を返却する。 第15回のグループごとのプレゼンテーション(口述20点)は、授業内に講評をする。 第15回の授業冒頭で提出するレポート(期末レポート20点)は、授業内に全体としての解説をする。								
留意事項	Google Classroomを使用します。ネットへの接続環境を確保しておいてください。 専門的な用語が多いのでテキストをよく読み、適宜図書館情報学用語辞典やIT用語辞典なども活用してください。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：教員の実務経験など:大学図書館の勤務経験を有する教員が、実際に行っていた書誌コントロールについて解説する。								



授業名	情報資源組織論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・情報資源組織化の意義と理論	(学修内容) 科目の説明、図書館サービスにおける情報資源とその組織化 (事前事後学修課題の内容)(180分) 予習:教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.1-16 復習:小テスト1に向け学習したことを復習する。
第2回	目録法の意義と基本的な考え方/小テスト1	(学修内容) 目録と目録法の基本、OPACの特性、典拠コントロール (事前事後学修課題の内容)(180分) 予習:教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.17-28 復習:小テスト2に向け学習したことを復習する。
第3回	FRBR(書誌レコードの機能要件)	(学修内容) FRBRモデルによる目録の考え方とその構成要素 (事前事後学修課題の内容)(180分) 予習:教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.28-35 復習:小テスト2に向け学習したことを復習する。
第4回	実体の属性の記録、実体に対する統制形アクセス・ポイント、実体間の関連の記録/小テスト2	(学修内容) 資料の属性と統制形アクセス・ポイント (事前事後学修課題の内容)(180分) 予習:教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.36-54 復習:小テスト3に向け学習したことを復習する。
第5回	目録法の歴史的展開	(学修内容) 西洋及び日本における目録法の歴史とその変遷と現在 (事前事後学修課題の内容)(180分) 予習:教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.55-62 復習:小テスト3に向け学習したことを復習する
第6回	情報通信技術を活用した書誌情報の提供	(学修内容) インターネットとウェブ、ウェブにおける情報検索とメタデータ (事前事後学修課題の内容)(180分) 予習:教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.63-71 復習:小テスト3に向け学習したことを復習する。
第7回	図書館におけるコンピュータ・ネットワークと情報検索システム/小テスト3	(学修内容) 図書館におけるコンピュータ・ネットワークを用いた目録作業、図書館における情報検索システム (事前事後学修課題の内容)(180分) 予習:教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.71-84 復習:小テスト4に向け学習したことを復習する。
第8回	メタデータの活用と展開	(学修内容) メタデータの相互運用性:XML,メタデータ標準,セマンティック・ウェブ (事前事後学修課題の内容)(180分) 予習:教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.84-100 復習:小テスト4に向け学習したことを復習する。
第9回	主題組織法	(学修内容) 主題組織法の意義,分類法と件名法,事前結合索引法・事後結合索引法 (事前事後学修課題の内容)(180分) 予習:教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.101-111 復習:小テスト4に向け学習したことを復習する
第10回	分類法/小テスト4	(学修内容) 分類の基本原理解,分類記号の種類,分類法の変遷 (事前事後学修課題の内容)(180分) 予習:教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.112-121 復習:小テスト5に向け学習したことを復習する。
第11回	日本十進分類法	(学修内容) NDCの構成,細目表の構成要素,補助表、分類規程 (事前事後学修課題の内容)(180分) 予習:教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.121-147 復習:小テスト5に向け学習したことを復習する。
第12回	語による主題組織法、シソーラスと件名標目表/小テスト5	(学修内容) 自然語検索と統制語検索の特徴、自然語による主題組織法と統制語による主題組織法 (事前事後学修課題の内容)(180分) 予習:教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.148-163 復習:小テスト6に向け学習したことを復習する。
第13回	基本件名標目表	(学修内容) 基本件名標目表第4版、件名標目と参照語、細目、件名規程 (事前事後学修課題の内容)(180分) 予習:教科書を読んで、要約ノートを作成する。教科書予習範囲: pp.163-172 復習:小テスト6に向け学習したことを復習する。
第14回	グループワーク 課題「分類記号を読み解く」/小テスト6	(学修内容) 日本十進分類法の構造と補助表の理解を深める。 (事前事後学修課題の内容)(180分) 予習:割り当てられた課題3問を解いてくる。復習:グループでの発表用資料の準備と個人で提出するレポートを作成する。
第15回	グループ発表と講評まとめ	(学修内容) 他者の発表を聞き、プレゼンテーション方法について考える。日本十進分類法の構造と補助表の使い方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(180分) 予習:プレゼンテーションの準備・練習をしてくる。 復習:この授業全般をおさらいし、次の情報資源組織演習に備える。

授 業 名	情報資源組織演習		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2719
英 文 名	Bibliographic Organization Practice		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	谷嶋 正彦		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	図書館で扱う情報資源の組織化（目録作業・分類作業・件名作業）を演習形式で学び、図書館で目録作成・分類作成ができる実務能力の育成を図る。 総合演習においてプレゼンテーションやグループワーク等を実施する。							
学修成果 到達目標	1) 書誌データ作成についての基礎技術を身につける。 2) 情報資源の主題をさまざまな観点から分析できる。 3) 『日本十進分類法』をツールとして使えるようになり分類の付与ができる。							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解		汎用的技能				
		態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）	グループワーク I C T 活用（自主学習支援）	プレゼンテーション				
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テキスト	・日本図書館研究会編『情報資源組織法』日本図書館研究会, 2021, ISBN 9784930992284 ・適宜、プリント等を配布する							
参 考 書	【購入不要】 ・小西和信・田窪直規編『情報資源組織演習 三訂』樹村房, 2021, ISBN 9784883673506 ・もりきよし原編『日本十進分類法 新訂10版簡易版』日本図書館協会, 2018 (授業時貸出) ・日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表 第4版』日本図書館協会, 1999, (授業時貸出)							
課題に対する フィードバック の方法	演習課題について授業中に口頭による全般的な解説・講評を行う。							
留意事項	演習科目なので3分の2以上の出席と授業への積極的な参加を求める。 理解不足の内容が残らないよう予習・復習をして、知識の定着を図ること。 授業目的以外のパソコン使用は減点の対象となるので注意。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：短期大学・学校図書館において図書館システム導入、データ移行、MARC等を利用した書誌データ作成業務の経験をもとに授業を進める。							

授業名	情報資源組織演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス、情報資源組織化業務について	(学修内容) 情報資源組織化の意義と目的、日本目録規則 (NCR) の概要と総説、書誌レコードの検索演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「情報資源組織論」で学習した内容を復習しておくこと。
第2回	体现形の属性 (1)	(学修内容) タイトル、責任表示、版表示、出版表示、シリーズ表示の記録演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のPP・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第3回	体现形の属性 (2)	(学修内容) 刊行方式、機器種別、キャリア種別、数量、大きさ、体现形の識別子、入手条件、体现形に関する注記の記録演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のPP・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第4回	その他の属性	(学修内容) 個別資料・著作・表現形、個人・団体の属性とアクセスポイントの記録演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のPP・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第5回	関連の記録	(学修内容) 関連の記録演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のPP・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第6回	総合演習、図書以外の資料の記録 (1)	(学修内容) 総合演習、図書以外の資料 (動画資料) の記録演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回までのPP・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第7回	図書以外の資料の記録 (2)、目録作業まとめと総合演習	(学修内容) 図書以外の資料 (逐次刊行物)、目録作業まとめと総合演習、ミニテスト (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回までのPP・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第8回	主題組織法	(学修内容) 主題目録法、日本十進分類法 (NDC) の構造、分類規程 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のPP・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第9回	補助表、主題分析と分類作業の実際 (1)	(学修内容) 補助表の理解と適用、総記・哲学の分類演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のPP・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第10回	主題分析と分類作業の実際 (2)	(学修内容) 歴史・地理・社会科学の分類演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のPP・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第11回	主題分析と分類作業の実際 (3)	(学修内容) 自然科学・技術の分類演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のPP・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第12回	主題分析と分類作業の実際 (4)	(学修内容) 産業・芸術の分類演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のPP・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第13回	主題分析と分類作業の実際 (5)	(学修内容) 言語・文学の分類演習、分類作業総合演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回までのPP・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第14回	基本件名標目表	(学修内容) 基本件名標目表 (BSH) の構成、件名規程 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のPP・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。
第15回	分類・件名作業まとめと総合演習	(学修内容) 分類・件名作業まとめと総合演習 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回までのPP・配布したプリントを見て、復習をしておくこと。

授 業 名	図書館基礎特論			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CL1703
英 文 名	Special Lecture on Library			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	渡邊 雄一			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	図書館司書課程の授業でこれまで学習した内容を発展的に深める。図書館におけるサービス内容を整理し、図書館サービスに関わるテーマを各自で設定し、関連する文献資料を収集、整理し、自己の見解をまとめ、伝達できるようにする。また、図書館の今日的動向を表すサービスの一つである課題解決支援サービスの在り方について、グループワーク、プレゼンテーションを通して考察を深める。								
学修成果 到達目標	1) 図書館サービスに関してテーマを各自で設定し、印刷媒体・電子媒体の資料を用いて適切な情報を収集し、整理し、レポートの形に仕上げる。 2) 図書館の課題解決支援サービスが求められる背景と今日的意義について説明することができる。 3) 公共図書館で行われている課題解決支援サービスを紹介する資料を作成し、プレゼンテーションを10分間行うことができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	適宜、プリントを配布する。								
参 考 書	授業中に指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小レポートを回収後に解説を行います。								
留意事項	受講者自身が図書館やデータベースを利用しながら必要な情報を収集し、整理し、資料を作成し、発表する授業形式であるため、積極的に授業に出席することが求められる。								
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館の今日的課題について話をします。								

授 業 名		図書館基礎特論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容)本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容)(20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	公共図書館とは	(学修内容)図書館の定義、公共図書館の意義について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(20分) 図書館の定義について調べておくこと。
第3回	公共図書館の今日的課題について	(学修内容)公共図書館の管理運営やサービス内容からみる今日的な課題について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に配付する資料を読んでおくこと。
第4回	公共図書館運営の新たな動向について	(学修内容)指定管理者制度等の公共図書館をめぐる新たな動向について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に配付する資料を読んでおくこと。
第5回	図書館サービスを考える	(学修内容)地域住民に奉仕する公共図書館のサービスの在り方について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に出向き、図書館サービスの内容を確認すること。
第6回	レファレンスサービスについて	(学修内容)図書館の情報サービスの柱であるレファレンスサービスについて説明する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に出向き、レファレンスサービスを体験しておくこと。
第7回	課題解決支援サービスについて	(学修内容)ビジネス支援サービス等の課題解決支援サービスの意義と課題について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館に出向き、課題解決支援サービスの内容を調べておくこと。
第8回	レファレンス協同データベースについて	(学修内容)レファレンス協同データベースの意義について考察する。データベースを用いてレファレンスサービスの具体的事例を検索する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 検索したいテーマを考えておくこと。
第9回	サードプレイスについて	(学修内容)公共図書館に求められる役割として注目されるサードプレイスの概念について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に配付する資料を読んでおくこと。
第10回	ラーニングコモンズについて	(学修内容)ラーニングコモンズが求められる背景とその内容について学習する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前に配付する資料を読んでおくこと。
第11回	図書館建築の動向(吹き抜け等)	(学修内容)図書館建築に見られる吹き抜け等について、その意義と課題について考察する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配付する資料を読んでおくこと。
第12回	図書館資料の探索と活用	(学修内容)図書館資料を効率的に探索し、それを整理する方法について解説する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 図書館での情報検索の方法について考えておくこと。
第13回	発表資料作成	(学修内容)図書館サービスを紹介する資料を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 図書館で関連する資料を収集する。
第14回	発表	(学修内容)各自で調べた図書館サービスの内容を発表する。 (事前事後学修課題の内容)(120分) 発表資料を完成させておく。
第15回	まとめ	(学修内容)授業を振り返り、レポートを作成する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) これまでに発表した内容をまとめ、新たに必要な資料があれば入手しておくこと。

授 業 名	図書・図書館史			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CL2713
英 文 名	History of Books and Libraries			開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	渡邊 雄一			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>図書の形態、印刷、普及、流通に関して歴史的に概説し、あわせて図書館の歴史的な展開についても解説する。古代知識の集積と図書館のはじまり、中世社会の思想と図書館との関係、近世図書館思想の広まりから公共図書館の誕生までの歴史を、西欧、中国、日本の視点から考えていく。図書館の歴史に対する理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 図書を中心とするメディアの歴史や、西洋・東洋の図書館の歴史を説明することができる。  2) 図書館の歴史的意義、文化的意義を説明することができる。  3) 日本の図書館の歴史に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 (双方向型授業)		グループワーク I C T 活用 (自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	『図書・図書館史』(現代図書館情報学シリーズ11) 佃一可、樹村房、2012年								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。								
留意事項	普段から図書館に向かうよう心掛け、図書館の様子を観察してもらいたい。グループワークやプレゼンテーションでは主体的な学びが求められる。積極的に授業に参加してもらいたい。								
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務。実務経験をもとに図書館の歴史について解説します。								

授 業 名		図書・図書館史
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	古代の図書館(西洋)	(学修内容) 文字の発生と記録、古代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 古代の文字の種類とその記録媒体について考えておくこと。
第3回	中世の図書館(西洋)	(学修内容) 修道院図書館や大学図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.62~P.77をよく読んでおくこと。
第4回	近世の図書館(西洋)	(学修内容) ガブリエル・ノーデやライプニッツの図書館思想などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.94~P.111をよく読んでおくこと。
第5回	近現代の図書館(西洋)	(学修内容) 大英博物館図書館やボストン公共図書館の成立などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.134~P.146をよく読んでおくこと。
第6回	中国の図書の歴史(古代・中世)	(学修内容) 紙の発明、四部分類について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.27~P.40をよく読んでおくこと。
第7回	中国の図書の歴史(近世・近代)	(学修内容) 印刷時代の図書について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.123~P.131をよく読んでおくこと。
第8回	古代の図書館(日本)	(学修内容) 奈良時代・平安時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.50~P.60をよく読んでおくこと。
第9回	中世の図書館(日本)	(学修内容) 鎌倉時代・室町時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.86~P.91をよく読んでおくこと。
第10回	近世の図書館(日本)	(学修内容) 江戸時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.112~P.122をよく読んでおくこと。
第11回	近代の図書館(日本)	(学修内容) 明治・大正・昭和前期の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.147~P.166をよく読んでおくこと。
第12回	現代の図書館(日本)	(学修内容) 第二次世界大戦以降の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストP.183~P.204をよく読んでおくこと。
第13回	日本の図書館の歴史について(グループワーク) 図書館の概要	(学修内容) これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の概要をワークシートに従って調査する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 取り上げる図書館について、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
第14回	日本の図書館の歴史について(グループワーク) 関わった人物	(学修内容) これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の創立に関わった人物について調査する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 図書館に行き、取り上げる図書館について記載されている資料を閲覧しておくこと。
第15回	日本の図書館の歴史について(プレゼンテーション)	(学修内容) 前回までの調査で明らかになった事項をパワーポイントを用いて発表する。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 前回までの調査で明らかになった事柄を整理し、パワーポイント資料を作成する。

授 業 名	秘書実務			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2720
英 文 名	Practical Business in Office Administration			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	市川 順子			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>「秘書の仕事内容の理解と求められる基礎能力の習得」 秘書学概論で学んだことを具現化する。秘書業務を系統立てて具体的に学びながら、秘書だけでなくあらゆる業種や職種において必要とされるビジネス実務のマナー、ルールにまで理解を広げる。グループワークも取り入れながら、学んだ知識を実践で活用できる能力を修得する。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1. 秘書活動の基盤となる知識・技能を身につけることができる。 2. ロールプレイング(役割演習)などを通して秘書業務を演習し、秘書業務が「できる」人材になる。 3. グループワークを通して、Googleの各アプリを実務で活用できるようになる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	「秘書・オフィス実務」テキストワークブック 改訂版 武田秀子・岡田小夜子 著、早稲田教育出版								
参 考 書	講義中に指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対しては確認をして返却し、解説については授業内で行います。 実技(ロールプレイング)については、その都度コメントします。								
留意事項	受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。 上司をサポートする秘書には、時間(期限)・言葉遣いなどマナーを守ることが求められます。学生の甘えを捨て、もうすぐ社会人になるという自覚を持って受講してください。 学んだことはアルバイトや日常生活で、できる限り実践して身につけるよう心がけてください。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：一般企業において10年間、受付対応、電話対応、秘書業務、総務・経理事務の実務経験がある。 また、一般企業での新人研修や、大学・高等学校での就職対策授業、インターンシップ事前マナー研修、大学・専門学校での検定対策授業等を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準1級面接審査員の経験を有する。</p>								



授 業 名		秘書実務
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 「秘書実務」では何を学ぶのか	(学修内容) 授業計画について 秘書の仕事とは (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前にシラバスを読み、学習内容を確認しておく
第2回	第1章 言葉遣い	(学修内容) 場面に応じた適切な敬語、接遇用語を使うことができるよう演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト(第1章)を読み、各Exercise問題を考えておく 授業内で実施した各Exercise問題を復習する
第3回	第2章 ビジネスマナー	(学修内容) 来客対応(おじぎ・受付・名刺交換・案内・席次)の流れを理解し、演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト(第2章)を読み、各Exercise問題を考えておく 授業内で実施した各Exercise問題を復習する
第4回	第3章 電話対応1	(学修内容) 電話の特性を学び、基本的な受け方・かけ方を演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト(第3章)を読み、各Exercise問題を考えておく 学んだことを日常生活など色々な場面で可能な限り実践する
第5回	第3章 電話対応2	(学修内容) 電話のさまざまなパターンの受け方を演習によってまなぶ 簡潔でわかりやすい伝言メモの書き方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 学んだことを日常生活など色々な場面で可能な限り実践する
第6回	第4章 指示の受け方と報告の仕方	(学修内容) 指示の受け方のポイントを学ぶ 報告の仕方のポイントと報告書の書き方を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 報告書の書き方を復習しておく
第7回	第5章 スケジュール管理	(学修内容) スケジュール表作成のポイントを学ぶ アポイントメントの申し込みと受ける際のポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト(第5章)を読み、各Exercise問題を考えておく 授業内で実施した各Exercise問題を復習する
第8回	第6章 出張業務	(学修内容) 切符の予約・手配の仕方を学ぶ 旅程表を作成する (事前事後学修課題の内容)(30分) 出張前、出張中、出張後の仕事について考えておく
第9回	第7章 ファイリング	(学修内容) 書類・名刺の整理方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト(第7章)を読んでおく
第10回	第8章 会議・会合	(学修内容) 会議・会合の準備・会議中の仕事・会議後の仕事について学ぶ 議事録作成について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト(第8章)を読んでおく 授業内で実施した各Exercise問題を復習する
第11回	第9章 ビジネス文書1 社内文書と返信ハガキの書き方	(学修内容) 社内文書のレイアウトを学び、作成する 返信ハガキの書き方のポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業内で実施した各Exercise問題を復習する
第12回	第9章 ビジネス文書2 社外文書と封筒の書き方	(学修内容) 社外文書の特徴を学び、社外文書の作成について学ぶ 封筒の書き方とメール作成のポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業内で実施した各Exercise問題を復習する
第13回	第10章 受信と発信	(学修内容) 文書の取り扱いについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト(第10章)を読み、各Exercise問題を考えておく
第14回	第11章 慶弔	(学修内容) 慶事、弔事のマナーと心得を学ぶ さまざまな上書きを学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト(第11章)を読んでおく 授業で学んだことを復習する
第15回	まとめ	(学修内容) これまでのまとめ(インバスケットによって秘書業務の復習) (事前事後学修課題の内容)(90分) これまで学習したことを実践できるように確認しておく

授 業 名	ビジネス実務総論			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2715
英 文 名	Outline of Practical Business Affairs			開講 時期	春学期	必修 選択	必修 選択		
担 当 者	市川 順子			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>私たちの日々の生活は、衣食住の提供はもちろん、家庭を維持する礎である収入や保険まで、企業とのかかわりをなくしては考えられません。職業人として社会に出るまでの準備としてビジネス社会の仕組みや活動について学修します。また、テキストの第3部を予習・復習に使い理解を深め、社会人としての基礎能力を身につけていきます。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) ビジネス社会を理解できる。 2) 職業人として求められる基本的な知識を理解できる。 3) ビジネス実務全体に必要な情報業務や対人業務に関する知識・スキル・態度およびそれらを活用するための力を身につけることができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	水原道子・大島武 編著 『新版 ビジネス実務総論』 樹村房								
参 考 書	講義中に指示します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対しては確認をして返却をします。 解説については、授業内で行います。								
留意事項	社会人になるまでに社会(世の中のできごと)に対して興味・関心を持ち、新聞や企業のHPなどで自分が目指す業界の情報 を積極的に収集してください。 受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：一般企業において10年間、受付対応、電話対応、秘書業務、総務・経理事務の実務経験がある。 また、一般企業での新人研修や、大学・高等学校での就職対策授業、インターンシップ事前マナー 研修、大学・専門学校での検定対策授業等を担当。 秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接客実務検定準1級面接審査員の経験を有する。</p>								

授業名	ビジネス実務総論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション/ビジネス社会とは	(学修内容) 授業計画について (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にシラバスの内容をよく読んで確認しておくこと
第2回	企業の種類	(学修内容) 企業の種類・組織について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストを読み、ふりかえりシートを使って予習しておく
第3回	社会と企業	(学修内容) 社会における企業の役割を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自が興味のある企業のCSRを調べておく
第4回	企業のCSR	(学修内容) 企業の方を招聘して、企業のCSRについて詳しく学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分自身が調べた企業のCSRと招聘した方の企業のCSRを比較して振り返る
第5回	企業の会計	(学修内容) 企業会計について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自が興味のある企業の決算について調べておく
第6回	日本経済の流れと身の回りの経済	(学修内容) 戦後から現代までの経済の流れについて学び、日常生活と経済についての関係について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 身の回りのものの値段について調べてみる ふりかえりシートを使って復習する
第7回	税と社会保障	(学修内容) 税金の種類と社会保障について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 税金の種類、社会保障について調べておく ふりかえりシートを使って復習する
第8回	労働と法律	(学修内容) 労働者を守る法律について学ぶ 正規雇用と非正規雇用の違いを考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 労働三法について調べておく ふりかえりシートを使って復習する
第9回	人生とお金	(学修内容) 企業の方を招聘して、人生にかかわるお金について学び、自分自身のライフプランを考えてみる (事前事後学修課題の内容) (60分) 生活にかかるお金(費用)を調べておく
第10回	企業研究1	(学修内容) グループで興味のある企業を選び、その企業について調べる (事前事後学修課題の内容) (60分) グループで選んだ企業について、各人でも調べて資料を作成しておく
第11回	企業研究2	(学修内容) グループで調べた企業について、PPT等の資料を作成し、発表の準備をする (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表のための準備(資料作成・発表の練習)をする
第12回	企業研究3	(学修内容) 各グループが調べた企業について発表する (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表後、振り返りをする
第13回	ボランティア	(学修内容) ボランティアについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分自身ができるボランティア活動を考えてみる
第14回	さまざまな働き方	(学修内容) 働く意義や働き方の変化について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) 回りの人たち(両親等)がどのような働き方をしているのか調べておく 自分がどのような働き方をしたいのか考える
第15回	まとめ	(学修内容) これまで学習したことを整理し、確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分自身のキャリアプランを考える

授 業 名	観光実務		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2723
英 文 名	Practical Business in Tourism		開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	湯川 宗紀		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	旅行業務取扱管理者試験の科目である「国内旅行実務」の中の「観光地理」を取り上げ、北海道から沖縄までの自然景観、世界遺産、温泉、祭、社寺など様々な視点から観光資源について広範囲にわたる知識の取得をめざす。							
学修成果 到達目標	1.日本の各地域の観光資源の特徴を把握できる 2.日本の各地域の観光資源の位置関係を把握できる 3.日本の各地域の観光資源の特徴、位置関係を把握することにより観光ルートの習得ができる							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 ( レポート	プレゼンテーション能力 文章構成力	課題発見・解決能力 ( 実習	情報整理とまとめる力		)
テキスト	随時必要な資料を配付する							
参 考 書								
課題に対する フィードバック の方法	テストの回答を解説する							
留意事項								
オフィス アワー	講義の前後に対応する							
実践的教育								

授 業 名		観光実務
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 講義概要 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバス内容を確認する
第2回	「観光」についての歴史と概要について	(学修内容) 「観光」についての歴史と概要についてを説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第3回	「観光立国」とその背景について	(学修内容) 「観光立国」とその背景についてを説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第4回	世界遺産について	(学修内容) 世界遺産についてを説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第5回	地域と観光について	(学修内容) 地域と観光についてを説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第6回	地域行政と観光施策について	(学修内容) 地域行政と観光施策についてを説明する (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第7回	地域文化の観光資源化について	(学修内容) 地域文化の観光資源化についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 京都の観光資源と場所についての紹介と発表
第8回	京都の観光資源について 1	(学修内容) 京都の観光資源と場所についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第9回	京都の観光資源について 2	(学修内容) 京都の観光資源と場所についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第10回	受講者の出身地域の観光資源について 1	(学修内容) 受講者の出身地域の観光資源と場所についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第11回	受講者の出身地域の観光資源について 2	(学修内容) 受講者の出身地域の観光資源と場所についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第12回	受講者の出身地域の観光資源について 3	(学修内容) 受講者の出身地域の観光資源と場所についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第13回	受講者の出身地域の観光資源について 4	(学修内容) 受講者の出身地域の観光資源と場所についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第14回	受講者の出身地域の観光資源について 5	(学修内容) 受講者の出身地域の観光資源と場所についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめを行う
第15回	まとめ	(学修内容) これまでのまとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) これまでのまとめを行う

授 業 名	リハビリテーション論			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1703
英 文 名	Rehabilitation Theory			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	中平 剛志			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>リハビリテーションの理念を理解し、「障害」に対するリハビリテーションの視点を学びます。対象者の自立支援に向けた「リハビリテーション」の専門性に触れ、介護との接点を考えることが授業全体の共通したテーマになります。個人の考えを他者に伝え、考え方の多様性に触れることを目的として、グループワークやプレゼンテーションなども実施します。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) リハビリテーションに関連する職種を理解し、その専門性を説明することができる  2) 基本的な介護技術についてリハビリテーションの理論や技術を活用できる  3) 障害の構造について「ICF」モデルを用いて説明することができる  4) 事例を通じて「ICF」モデルを活用してアセスメントができる  5) 介護とリハビリテーションの連携について説明することができる</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (90%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (10%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	各授業で資料を配布します。								
参 考 書	<p>ICFの理解と活用 ~人が「生きること・生きることの困難(障害)」をどうとらえるか~  著者：上田 敏  出版社：きょうされん</p>								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、添削とコメントを記載して返却いたします。								
留意事項									
オフィス アワー	質問などは、メールで受け付けます。 takeshi.nakahira@ocr.ac.jp								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：現在、理学療法士(非常勤)として介護老人福祉施設に勤務しています。</p>								

授業名	リハビリテーション論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	リハビリテーションの理念・歴史・役割について	(学修内容) リハビリテーションの語源、リハビリテーションの歴史と定義、理学療法の定義について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第2回	A D L (日常生活活動)の基本的概念とリハビリテーションについて	(学修内容) A D Lの定義、A D Lの範囲、self care とIADL・APDLについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第3回	疾病と障害について	(学修内容) 疾病(疾患)と障害の関係について 一次障害と二次障害について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第4回	リハビリテーション・ゴールについて	(学修内容) ニーズの構造について リハビリテーションのゴール設定について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第5回	介護とリハビリテーションの連携(1)	(学修内容) 事例を提示して介護とリハビリテーションの連携について検討する 「長期臥床者へのリハビリテーションアプローチと介護の視点」 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第6回	介護とリハビリテーションの連携(2)	(学修内容) 事例を提示して介護とリハビリテーションの連携について検討する 「長期臥床者へのリハビリテーションアプローチと介護の視点」 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第7回	障害の構造について(1) ICDHモデルとICFモデルの歴史の変遷	(学修内容) I C I D Hから I C Fへの歴史の変遷について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第8回	障害の構造について(2) IDHモデルとICFモデルの概念	(学修内容) I C F 諸相の理解について (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第9回	障害の構造について(3) ICFモデルの実践事例検討	(学修内容) 事例検討としてV T Rを視聴して情報収集を実施する (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第10回	基本的動作の観察と分析・動作の介助技術(1)	(学修内容) 寝返り動作、起き上がり動作の観察と分析、動作の介助技術を習得します (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第11回	基本的動作の観察と分析・動作の介助技術(2)	(学修内容) 寝返り動作、起き上がり動作の観察と分析、動作の介助技術を習得します (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第12回	基本的動作の観察と分析・動作の介助技術(3)	(学修内容) 立ち上がり動作、移乗動作の観察と分析、動作の介助技術を習得します (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第13回	基本的動作の観察と分析・動作の介助技術(4)	(学修内容) 立ち上がり動作、移乗動作の観察と分析、動作の介助技術を習得します (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第14回	基本的動作の観察と分析・動作の介助技術(5)	(学修内容) 歩行補助具の理解、歩行動作の観察と分析、動作の介助技術を習得します (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと
第15回	総括	(学修内容) 1回～14回の授業内容を振り返り、共通したリハビリテーションの視点を整理する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 授業時に配布するプリント内容を復習しておくこと

授 業 名	介護過程			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CW1710
英 文 名	Nursing Care Process			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	高岡 理恵			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>利用者の望む生活の実現のためには、利用者ひとりひとりの生活上の課題を明確にし、根拠に基づいた介護実践が求められる。この授業では、その課題を解決していく介護過程について、基礎的知識を踏まえ事例を通して学んでいく。最後に、介護過程の展開事例をゲストスピーカーから聞き、専門職として介護を行う上での思考過程、実践過程に介護過程の展開が必須であることを学ぶものである。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1)介護過程の全体像を説明できる。 2)介護過程の各プロセスの思考方法を理解できる。 3)事例において、介護過程の展開を実施できる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	最新 介護福祉士養成講座 『介護過程』中央法規を使用します。 必要に応じてプリント配付。								
参 考 書	大川弥生 「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用 中央法規								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題は、コメントをつけて返却する。								
留意事項	授業で使用したプリントや作成したシートなどは、毎回持参してください。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：島本町社会福祉協議会 訪問介護、介護支援専門員として勤務。								



授業名	介護過程	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 介護過程の意義と目的	(学修内容) 授業概要についてシラバスをもとに説明。 介護を行う上で介護過程を学ぶ意味について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前 シラバスを確認しておいてください。 事後 配布資料を読み、理解しにくい箇所に下線を引く。
第2回	アセスメント1 アセスメント理解とバイタルサインの理解	(学修内容) バイタルサインの意味の理解を行い、自身のバイタルサインをよむ。 身体の正常・異常を知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 配付資料を読み、理解しにくい箇所に下線を引く。 事後 宿題の対象者の情報収集(できるところから)を行う。
第3回	アセスメント2 バイタルチェックの留意と観察	(学修内容) バイタルチェックの復習後、DVD(事例)を視聴し観察できた事柄をまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 宿題の対象者の情報収集(できるところから)を行う。 事後 観察した事柄を表にまとめる。
第4回	アセスメント3 事例を通じた観察	(学修内容) 主観的・客観的情報の違いについて理解した上で、DVDを再度視聴し観察を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 DVDを視聴し観察を行い表にまとめる。 事後 ICFの考え方を調べてくる。
第5回	ICFの考え方について理解する	(学修内容) アセスメントにおける専門的諸知識の統合についてICFの概念、考え方の理解を事例を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 ICFの考え方を調べてくる。 事後 ICFの考え方を自分の言葉で説明できるようにしておく。
第6回	アセスメント4 情報整理	(学修内容) ICFの考え方に沿って情報を整理し、対象の全体像を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 ICFの考え方を自分の言葉で説明できるようにしておく。 事後 事例の情報を表にして整理してくる。
第7回	アセスメント5 情報の解釈、関連付け、統合	(学修内容) 統合の意味や方法を理解し整理した情報に、他の科目で学習した知識を活用し、解釈、関連付けをする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 事例に情報を表にして整理してくる。 事後 情報の解釈に必要な知識を調べ解釈を行う。
第8回	アセスメント6 情報の解釈、関連付け、統合を深め全体像を把握する	(学修内容) 対象者の情報に解釈分析を加え発表を行う。ディスカッションを通して、事例の全体像を把握する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 情報の解釈に必要な知識を調べ解釈を行う。 事後 今日の授業で行った内容を整理し提出できるようにしておく。
第9回	アセスメント7 総括(情報収集、統合、関連付け、解釈)	(学修内容) 事後課題をもとにアセスメントを行う。ディスカッションを通して全体像を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 今日の授業で行った内容を整理し提出できるようにしておく。 事後 アセスメント表を提出できるようにしておく。
第10回	アセスメント8 解釈に必要な知識の整理とニーズの捉え方	(学修内容) 解釈に必要な知識を調べ、ニーズの理解を行い、ニーズの優先を決定する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 アセスメント表を提出できるようにしておく。 事後 ニーズの優先を考えてくる。
第11回	介護目標の理解と計画作成の留意点	(学修内容) 介護目標を立てるときの留意を理解し目標をたて、計画作成を行う。 事例の介護目標の設定、計画を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 ニーズの優先を考えてくる。 事後 長期・短期目標を考えてくる。
第12回	介護目標の優先と計画作成の実際	(学修内容) ニーズの優先第一位の短期目標計画を策定する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 長期・短期目標を考えてくる。 事後 介護計画表を完成させる。
第13回	介護目標の評価と評価観点、モニタリング	(学修内容) 行った目標の評価の方法を理解し次の新たな目標・終結の方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (15分) 事前 介護計画表を完成させる。 事後 実習に必要な書類の整理。
第14回	在宅で生活する利用者の介護過程の実際	(学修内容) 実習先での介護過程の展開を理解する。(ゲストスピーカー) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 実習に必要な書類の整理。 事後 感想文を書く。(800字以上)
第15回	施設で生活する利用者の介護過程の実際	(学修内容) 実習で行う介護過程の展開について時期や方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 感想文を書く。(800字以上) 事後 実習に必要な準備(必要書類の整理)を行う。

授 業 名	介護の基本			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1751
英 文 名	Fundamental Nursing Care			開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	高岡 理恵			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>本講義のねらいは、介護を必要とする人の理解 地域理解とフォーマル及びインフォーマルな社会資源の理解と活用方法 安全な介護を行うため、基礎的知識や事故への対応（リスクマネジメント）、介護従事者の安全の意義、管理方法、環境整備について理解を中心に行います。介護を必要とする人は在宅生活を継続させながら地域に多く存在します。その人の生活を理解し、地域に存在する社会資源を結びつける役割であることを念頭において、秋学期の在宅実習に繋がります。自分の住む地域の理解ができるよう市町村役所や社会福祉協議会に赴き、リーフレット等をもったり、広報誌に目を通すようにしてください。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1．地域理解とそこに住む対象者の生活を支えるフォーマル・インフォーマルサービスが理解できる 2．介護における安全の確保とリスクマネジメントの重要性が理解できる 3．介護従事者の安全の意義、管理方法、環境整備について理解できる</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 (		プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (			)
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会編『介護の基本』中央法規 2019年								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出物には、コメント等評価を添えて返却する。								
留意事項	授業の概要にも書いていますが、自分の住む地域の理解を行うために行政に足を運びリーフレットをもったり、行政の広報に目を通したりしながら地域理解を深めてください。施設実習時に介護におけるリスクとそれが起きやすい環境に目を向けて、書き留めておいてください。								
オフィス アワー	授業終了時及び研究室に在室時、対応します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として従事								

授業名	介護の基本	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 介護福祉を必要とする人の理解 1	(学修内容) 自分自身の生活を客観的に把握し、自分の生活に必要な要素を出し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: シラバスを読んでおくこと。 事後: 実習施設に入所されているかたの聞き取りをまとめておく。
第2回	介護福祉を必要とする人の理解 2 介護福祉士を必要とする人の暮らし	(学修内容) 聞き取りした内容を元に、ケアの必要な人の暮らしの理解をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 実習施設に入所されているかたの聞き取りをまとめておく。 事後: 授業の感想を書く。
第3回	介護福祉を必要とする人の理解 3 その人らしさと生活ニーズの理解	(学修内容) 映像教材からその人らしさと生活のニーズを抽出し、生活との関連を理解し、介護福祉士の役割を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 授業の感想を書く。 事後: 社会資源に関する資料収集をする。
第4回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 1 地域包括支援システムと地域理解	(学修内容) 京都市東山地域の理解を行い、地域包括支援システムの意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 社会資源に関する資料を収集する。 事後: 社会資源に関する資料をまとめる。
第5回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 2 生活を支えるフォーマルサービス	(学修内容) フォーマルサービスの概要について、スケッチブックを使用し具体的に地域の社会資源を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 社会資源に関する資料をまとめる。 事後: 社会資源に関する資料を発表資料としてまとめる。
第6回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 3 生活を支えるインフォーマルサービス	(学修内容) インフォーマルサービスの概要とサービスの開発について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 社会資源に関する資料を発表資料としてまとめる。 事後: 地域で調べる内容を確認しておく。
第7回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 4 実践的な取り組み	(学修内容) 地域の社会資源調査をフィールドワークにて実践的に学習する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 地域で調べる内容を確認しておく。 事後: 地域で調べた内容をまとめる。
第8回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 5 まとめ	(学修内容) 生活者としての視点から社会資源を検討する。成果をプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 地域で調べた内容をまとめる。 事後: 配付資料をよみ、わかりにくいところにラインを引く。
第9回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 6 判断能力が低下した人を支えるしくみ	(学修内容) 日常生活自立支援事業と成年後見制度を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 配付資料をよみ、わかりにくいところにラインを引く。 事後: テキスト「リスクマネジメントとは何か」を読む。
第10回	介護における安全の確保とリスクマネジメント 1 リスクマネジメント	(学修内容) リスクとリスクマネジメントについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト「リスクマネジメントとは何か」を読む。 事後: 実習でおきたヒヤリハットをまとめておく。
第11回	介護における安全の確保とリスクマネジメント 2 施設におけるヒヤリハットと事故記録	(学修内容) 施設におけるヒヤリハットについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 実習でおきたヒヤリハットをまとめておく。 事後: 施設の事故記録の書き方を読んでおく。
第12回	介護における安全の確保とリスクマネジメント 3 ヒヤリハット事例と観察	(学修内容) 事例をもとにディスカッションしながら、リスクマネジメントの方法を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 施設の事故記録の書き方を読んでおく。 事後: テキスト内、労働安全衛生法を読みまとめる。
第13回	介護従事者の安全 1 労働安全衛生法、労働基準法	(学修内容) 労働者を守るための法律について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: テキスト内、労働安全衛生法を読みまとめる。 事後: 施設における労働環境について整理しておく。
第14回	介護従事者の安全 2 労働環境の整備	(学修内容) 労働条件と労働環境について、調べたことについて発表し、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 施設における労働環境について整理しておく。 事後: 目指すべき介護福祉士像について自己の考えをまとめておく。
第15回	介護従事者の安全 3 目指す介護福祉士像	(学修内容) 保育士が介護を学ぶ意義と社会から期待されることについて、自己の考えをまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: 目指すべき介護福祉士像について自己の考えをまとめておく。 事後: レポートにできるようにまとめる。

授 業 名	こころとからだのしくみ			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1715
英 文 名	Structure of Mind and Body			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	早川 京子			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。								
学修成果 到達目標	こころのしくみが理解できる。 からだのしくみが理解できる。 介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる知識を理解する事ができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 第2版 堺 章 「新訂 目でみるからだのメカニズム」								
参 考 書	江連和久 村田栄子「看護学生のための解剖生理」								
課題に対する フィードバック の方法	小テストの実施及び前回の授業内容の要約プリント配布								
留意事項	介護をする上で、基本的なこころやからだのしくみの理解は非常に大切です。十分理解するために予習復習をしておきましょう。								
オフィス アワー	事前に申し出てください。								
実践的教育									

授業名	こころとからだのしくみ	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 「健康」とは	(学修内容) 授業の進め方・主な内容・評価方法についての説明 「健康」とは何か 健康を阻害する要因 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおくこと
第2回	人間の欲求の基本的理解 自己概念と尊厳	(学修内容) 基本的欲求、社会的欲求など 自己概念に影響する要因 自律の意欲と自己概念 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書をよく読んでおくこと
第3回	こころのしくみの理解	(学修内容) 脳とこころのしくみの関係 学習、記憶、思考のしくみ (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書をよく読んでおくこと
第4回	からだのしくみの理解(からだのつくり)	(学修内容) からだのつくりの理解 身体各部の名称 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書をよく読んでおくこと
第5回	からだのしくみの理解 (脳と神経)	(学修内容) 脳と神経を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書をよく読んでおくこと
第6回	からだのしくみの理解 (骨格系と筋系)	(学修内容) 骨格系、筋系を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書をよく読んでおくこと
第7回	からだのしくみの理解 (皮膚、感覚器系)	(学修内容) 皮膚、感覚器系(視覚器官、聴覚器官)を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書をよく読んでおくこと
第8回	からだのしくみの理解 (呼吸器系)	(学修内容) 呼吸器系を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書を読んでまとめておくこと
第9回	からだのしくみの理解 (循環器系)	(学修内容) 血液、循環器系(心臓機能、体循環と肺循環)を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書を確認しておくこと
第10回	からだのしくみの理解 (循環器系)	(学修内容) 血液、循環器系(動脈、静脈系)を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料・教科書を読んでおくこと
第11回	からだのしくみの理解 (消化器系)	(学修内容) 消化器系を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料・教科書を確認しておくこと
第12回	からだのしくみの理解 (腎・泌尿器系)	(学修内容) 腎・泌尿器系を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料・教科書を確認しておくこと
第13回	からだのしくみの理解 (生殖器系、内分泌系)	(学修内容) 生殖器系、内分泌系を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書を読んでおくこと
第14回	生命維持をするしくみ	(学修内容) 生命を維持するしくみ ホメオスタシス (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書を読んでおくこと
第15回	全体のまとめ	(学修内容) 配布資料のまとめ (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布した資料をすべて確認しておくこと

授 業 名	介護の基本		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1702
英 文 名	Fundamental Nursing Care I		開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	高岡 理恵		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>具体的には、一つに、介護福祉の歴史や法、介護福祉養成教育の変化をもとに、社会から求められる介護福祉士人材が変化していることについて学ぶとともに、介護福祉士の基本理念である「尊厳と自立」について学びを深める。</p> <p>二つに、国家資格である介護福祉士の諸規定から介護実践における倫理について理解するとともに、介護福祉士の活動の場と役割について理解する。</p> <p>この授業は、講義を主とするが、ディスカッションを行いながら進めていく。</p>							
学修成果 到達目標	<p>多様化・高度化する介護ニーズ、介護福祉を取り巻く状況について理解することができる。</p> <p>介護福祉士の専門性について理解できる。</p> <p>介護福祉士に求められる専門職としての態度が形成される。</p>							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (	
テキスト	新・介護福祉士養成講座『介護の基本』、中央法規							
参 考 書	適宜、紹介します。							
課題に対する フィードバック の方法	授業内レポートについては確認後返却します。							
留意事項	介護福祉を取り巻く状況等について、歴史的背景をおさえつつ、現在進行形である様々な課題について思考できるよう新聞やニュース等に目をむけてください。							
オフィス アワー	授業内でお知らせします。 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください。							
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務。							

授業名	介護の基本	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護の目的、基本的な役割	(学修内容) シラバスに沿って授業の進め方を知る。介護とは何か、ディスカッションを行いながら介護福祉士のイメージを膨らませる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 介護とは何か、介護福祉士の職務は何かを考え言語化しておく。 事後 ノーマライゼーションについて調べ発言できるようにしておく。
第2回	介護の歴史1 ノーマライゼーションの理念	(学修内容) ケアの変遷を映像を見ながら理解する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 ノーマライゼーションについて調べ発言できるようにしておく。 事後 基本的人権について調べ発言できるようにしておく。
第3回	介護の歴史2 基本的人権と尊厳の保持	(学修内容) 優生思想、戦争時における障がいを持つ人の歴史を知り、ノーマライゼーションや基本的人権、尊厳について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 基本的人権について調べ発言できるようにしておく。 事後 メアリー・リッチモンドについて調べてくる。
第4回	ケースワークと介護福祉	(学修内容) リッチモンドの問題提起をもとに介護福祉士という専門職は福祉であることを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 メアリー・リッチモンドについて調べてくる。 事後 テキスト p15～30を読みわからない語句に下線を引く。
第5回	日本の社会福祉史における介護福祉の位置づけ	(学修内容) 日本社会、家族機能の変化と高齢者に対する介護の変遷について学ぶ。 (施設介護、在宅介護) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキスト p15～30を読みわからない語句に下線を引く。 事後 テキスト p30～35 わかるように他の資料を調べる。
第6回	社会福祉政策と老人福祉法	(学修内容) 老人福祉法の前後の社会を理解しどのような考えのもとに老人福祉法が成立したかについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキスト p30～35 わかるように他の資料を調べる。 事後 ゴールドプラン、新ゴールドプランの内容を調べてくる。
第7回	介護福祉制度のなりたちと発展	(学修内容) 時代に伴う介護ニーズの変化と措置制度から契約制度への変化を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 ゴールドプラン、新ゴールドプランの内容を調べてくる。 事後 介護福祉士法第1条を調べ人に説明できるようにしておく。
第8回	介護保険制度の基本的な考え方	(学修内容) 社会保障制度の一つである介護保険制度を学び、契約のメリット、デメリットについて考える。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 介護福祉士法第1条を調べ人に説明できるようにしておく。 事後 介護福祉士法変遷について調べてくる。
第9回	介護福祉士の役割と機能1 法的根拠と介護福祉士法	(学修内容) 社会福祉士及び介護福祉士法の成立及び介護福祉士養成の変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 介護福祉士法変遷について調べてくる。 事後 介護福祉職の職業倫理について調べる。
第10回	介護福祉士の役割と機能2 専門職の倫理	(学修内容) ディスカッションをしながら介護福祉職の職業倫理や法遵守について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 介護福祉職の職業倫理について調べる。 事後 自身の考える「自立支援」とは何かを明確にしてくる。
第11回	介護福祉士の役割と機能3 介護福祉の基本理念	(学修内容) 介護福祉士の基本理念である「尊厳」「自立支援」を支える介護について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 自身の考える「自立支援」とは何かを明確にしてくる。 事後 もとめられる介護福祉士像10項目を調べておく。
第12回	介護福祉士の役割と機能4 求められる介護福祉士像	(学修内容) 求められる介護福祉士像についてディスカッションしながら理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 もとめられる介護福祉士像10項目を調べておく。 事後 テキスト p94～106を読み、必要な個所に下線を引く。
第13回	介護福祉士の役割と機能5 介護福祉士への期待	(学修内容) 介護福祉現場での中心的役割、チームリーダーとしての期待について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 テキスト p94～106を読み、必要な個所に下線を引く。 事後 介護福祉を取り巻く社会での課題について考えてくる。
第14回	介護福祉を取り巻く課題1 利用者の権利侵害	(学修内容) 高齢者虐待や身体拘束等、利用者の権利侵害がおこる状況を考える。成年後見制度の制度を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 介護福祉を取り巻く社会での課題について考えてくる。 事後 外国人介護人材の受け入れの違いについて調べてくる。
第15回	介護福祉を取り巻く課題2 介護人材不足	(学修内容) 外国人介護人材の受け入れについて考える。EPA、技能実習生、在留資格介護、特定技能の違い。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 外国人介護人材の受け入れの違いについて調べてくる。 事後 レポートを書くための準備をする。

授 業 名	認知症の理解			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CW1716
英 文 名	Study of Dementia			開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	早川 京子			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を生かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。								
学修成果 到達目標	認知症に伴う生活への影響と認知症ケアが理解できる。 地域での連携と協働が理解できる。 家族への支援ができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	最新 介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 中央法規出版株式会社								
参 考 書	認知症介護研究・研修東京センター編 三訂『認知症の人のためのケアマネジメント「センター方式の使い方・活かし方」』中央法規 (2012年) 本田美和子他編「ユマニチュード入門」医学書院 (2014年) 一般社団法人全国認知症介護指導者ネットワーク「実践事例でわかる認知症ケアの視点」中央法規出版 (2017年) 一般社団法人日本ユニットケア推進センター秋葉郁子「24Hシートの作り方・使い方」中央法規出版 (2013年)								
課題に対する フィードバック の方法	小テストを実施し解説します。								
留意事項	講義時使用するので、前期「認知症の理解1」の資料を持参してください。								
オフィス アワー	授業開始時に提示します。確認しておいてください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：臨床と地域福祉の現場で18年勤務								



授 業 名		認 知 症 の 理 解
授 業 計 画	学 修 項 目	学 修 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション パーソン・センタード・ケアとは	(学修内容) パーソン・センタード・ケアについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p154～163を読んでおく。
第2回	アセスメントツール センター方式	(学修内容) センター方式について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p164～171を読んでおく。
第3回	アセスメントツール ひもときシート	(学修内容) ひもときシートについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p172～190を読んでおく。
第4回	認知症の人とのコミュニケーション	(学修内容) 認知症の人とのコミュニケーションについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p191～196を読んでおく。
第5回	認知症の人へのケア	(学修内容) 認知症の人へのケアについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p197～224を読んでおく。
第6回	認知症の人へのアプローチ - ユマニチュード -	(学修内容) ユマニチュードについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p225～229を読んでおく。
第7回	認知症の人へのアプローチ - バリレーション等 -	(学修内容) バリレーションやその他各種アプローチについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p229～234を読んでおく。
第8回	認知症の人へのアプローチ - 回想法 -	(学修内容) 回想法について学ぶ。 自分のテーマに沿った、回想法の資料を作成をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p234～235を読んでおく。
第9回	認知症の人へのアプローチ - 回想法 -	(学修内容) ライフレビューの発表をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ライフレビューの発表準備をしておく。
第10回	認知症の人の終末期医療と介護と環境づくり	(学修内容) 認知症の人の終末期医療等について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p239～260を読んでおく。
第11回	家族への支援と介護職への支援	(学修内容) 介護者の現状とレスパイトケア、家族の会について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p264～281を読んでおく。
第12回	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア	(学修内容) 認知症ケアバス及び具体的なケアシステムについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p300～313を読んでおく。
第13回	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア	(学修内容) 自分の地域でのサービス、機関、地域づくりの実際について調べる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) パワーポイントにまとめておく。
第14回	認知症の人の地域生活支援	(学修内容) 前回まとめたものを発表する。 他の受講生との違いについてディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 発表の準備をする。
第15回	多職種連携と協働	(学修内容) 多職種連携と協働について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p314～330を読んでおく。

授 業 名	生活支援技術		開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CW1755
英 文 名	Livelihood Support Skills		開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	鈴木 みどり		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>多様な住まいにおいて、安全・安心・快適な生活環境確保のための居住環境の整備について理解する。また福祉用具の機能を理解し、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する技術を学び、これまでの暮らしを継続させるための視点や工夫を学ぶ。 実際に福祉用具を使用しながら体験的に学ぶ。また、多様な福祉用具の機能と活用方法を理解するために見学実習を行う。(見学ができない状況の場合は、動画などを活用する。) グループワークやディスカッションを行いながら授業を進める。</p>							
学修成果 到達目標	<p>1) 住まいの多様性を理解し自立支援のための居住環境の整備について理解する。 2) 対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用することができる。 3) 福祉用具利用時のリスクマネジメントができる。 4) 快適な生活環境を整備するためのアセスメントと住環境改善計画ができる。</p>							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 ( 60% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )	
テキスト	<p>新・介護福祉士養成講座 『生活支援技術』 春学期 「介護技術」 木村先生担当、 春学期 「生活支援技術」 高岡先生担当で使用したテキストと同じ テキストを使用します。</p>							
参 考 書	<p>授業にて指示する。 プリントも使用する。</p>							
課題に対する フィードバック の方法	<p>提出されたレポートについては、コメントを付けて返却します。口述については、その都度コメントを返します。</p>							
留意事項	<p>自分が車椅子で生活しているならば、どんなことがバリアになるか・生活している環境の中で想像してみてください。 バリアフリーやユニバーサルデザインも気にしてみてください。</p>							
オフィス アワー	<p>担当授業終了後に実施する。</p>							
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：福祉用具販売・レンタル、リフォームの会社の代表取締役。福祉用具専門相談員・2級建築士の実務経験をもとに多様な住まいや住環境整備、福祉用具についてお話しします。</p>							

授業名	生活支援技術	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 住まいについて	(学修内容) 授業の概要説明 色々な住まいについて考える (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておくこと。福祉用具や住環境の整備について、どんなことが学びたいか発表できるように纏めておく
第2回	自立に向けた住環境の整備：住環境の整備の意義と目的	(学修内容) 住まいの役割や住環境整備の身体的・心理的・文化的意義と目的、生活空間について理解できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、自分が高齢者で動作がしにくい状態であるという想定で、自宅内でバリアになることを書き出しておく
第3回	自立に向けた住環境の整備：自立に向けた住環境整備の視点	(学修内容) 快適な室内環境の整備(熱環境・通風・明るさ・音について) (事前事後学修課題の内容) (60分) 予習として、自宅の室内環境について発表できるように纏めておく
第4回	自立に向けた住環境の整備：住まいの変遷と住居の維持管理や災害に対する備えについて 制度を利用した住宅改修について	(学修内容) 快適な室内環境の整備、住居の維持管理や災害に対する備えについて理解する。介護保険など制度を利用した住宅改修について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、介護保険で利用できる住宅改修についてレポートにまとめて提出する
第5回	自立に向けた住環境の整備：ショールームなどで住宅設備等の見学	(学修内容) 実際の住宅設備等を見学体験しながら理解を深める (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、体験して気づいたことを発表できるようにノートにまとめておく
第6回	自立に向けた住環境の整備：ショールームなどで住宅設備等の見学	(学修内容) 実際の住宅設備等を見学体験しながら理解を深める (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、体験して気づいたことを発表できるようにノートにまとめておく
第7回	自立に向けた住環境の整備：住環境のアセスメント	(学修内容) 利用者の状況・状態に応じた住環境のアセスメントを事例を通じて理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、利用者の状況・状態に応じた住環境についてノートにまとめておく
第8回	自立に向けた住環境の整備：住環境のアセスメントと計画	(学修内容) 利用者の状況・状態に応じた住環境のアセスメントと改善計画をグループワークをして理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、アセスメントと改善計画をしてみの気づきをノートにまとめておく
第9回	福祉機器の意義と活用：福祉用具の概念と目的	(学修内容) 福祉用具活用の意義と目的、福祉用具の分類や介護ロボットについて理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、身近にある福祉用具を書き出しておく
第10回	福祉機器の意義と活用：利用者の能力に応じた福祉用具の機能と活用方法(ベッド関連・排泄関連・入浴関連他)	(学修内容) 福祉用具の機能やそれぞれのメリット・デメリットについて理解する(ベッド関連・排泄関連・入浴関連他) (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、福祉用具(ベッド関連・排泄関連・入浴関連他)のそれぞれの機能と活用についてレポートにまとめて提出する
第11回	福祉機器の意義と活用：利用者の能力に応じた福祉用具の機能と活用方法(移動移乗関連・コミュニケーション関連・自助具他) 制度を利用した福祉用具について	(学修内容) 福祉用具の機能やそれぞれのメリット・デメリットについて理解する(移動移乗関連・コミュニケーション関連・自助具他) (事前事後学修課題の内容) (60分) 復習として、福祉用具(移動移乗関連・コミュニケーション関連・自助具他)のそれぞれの機能と活用についてレポートにまとめて提出する
第12回	福祉機器の意義と活用：福祉用具見学	(学修内容) 福祉用具の体験をしながら理解を深める (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、福祉用具体験を通じて学んだことや感じたことを発表できるようにノートにまとめておく
第13回	福祉機器の意義と活用：福祉用具見学	(学修内容) 福祉用具の体験をしながら理解を深める (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、福祉用具体験を通じて学んだことや感じたことを発表できるようにノートにまとめておく
第14回	福祉機器の意義と活用：リスクマネジメント	(学修内容) 福祉用具のリスクとリスクマネジメントについてグループディスカッションを通じて理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、福祉用具を利用している時に起こり得る事故について想像し、ノートに書きだしておく
第15回	福祉機器の意義と活用と自立に向けた住環境の整備のまとめ	(学修内容) 事例を通して福祉用具導入や住環境改善にあたり、多職種連携や状態の変化に気づくことの大切さを学ぶ 全体の振り返り (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、福祉用具導入や住環境改善にあたり連携する職種を書き出しておく

授 業 名	介護過程			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1758
英 文 名	Nursing Care Process			開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	高岡 理恵			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法が理解できることを目的とします。一つ目は、夏季実習で行った介護過程の展開を見直し、目標と照らしながら個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるように、再度行った介護過程を見直します。二つ目は、事例を使用し、介護過程の展開を行います。介護過程の展開を通し、個別の事例から発展的に検討できるように進めていきます。介護過程の展開を行うためには、科学的根拠が必要となるため、様々な知識を必要とするので、授業以外にも専門書を読んでおくことが必要となります。</p>								
学修成果 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チームの一員として介護過程を展開することの意義を理解できる。</li> <li>2. 対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開ができる。</li> <li>3. 介護過程の展開について、根拠とともに人に説明することができる。</li> </ol>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	授業内容に沿ったワークシートと資料を必要に応じて配布する。								
参 考 書	適宜、紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	課題(事例)は確認後、コメントをいれ返却します。								
留意事項	テキストで紹介されている考え方や他の人の考えに左右されず、自分の考えや視点を明らかにし、その考えをわかりやすく人に説明できるようにして下さい。特に、介護過程では人間科学の視点が大きくその人に影響しますので、テキスト以外の本(特に歴史)も参考にし、様々な考えを知っていくようにしてください。								
オフィス アワー	授業内で提示します。 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務。								

授業名	介護過程	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護過程とチームアプローチ 実習の振り返り 介護過程とチームアプローチ 発表の準備	(学修内容) 夏季実習で行った介護過程の展開を再確認する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 再確認に必要な資料を集めておく。 事後 まとめたものを発表できるように資料を作成する。
第2回	介護過程とチームアプローチ 発表 介護過程とチームアプローチ 他の専門職のケアとの関係性	(学修内容) 介護過程を行う上でのチームとチームアプローチについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 まとめたものを発表できるように資料を作成する。 事後 発表する準備を行う。
第3回	介護過程とチームアプローチ チームとしての介護過程の展開 介護過程とチームアプローチ カンファレンスの持ち方についての理解	(学修内容) チームの目標設定とチームケアの必要性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 発表する準備を行う。 事後 カンファレンスの行い方について予習しておく。
第4回	介護過程の展開の理解 事例理解 事例に必要な知識・技術・価値 介護過程の展開の理解 事例理解 ICFの観点を考える	(学修内容) 夏季実習で行った介護過程の展開を再確認したものを資料を基にカンファレンスを体験する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 カンファレンスの行い方について予習しておく。 事後 発表後の教員からのコメント等を踏まえレポートにする。
第5回	介護過程の展開の理解 情報の統合・分析を行う 介護過程の展開の理解 事例を用い、ニーズの抽出と優先を考える	(学修内容) 事例を基に個の理解を深め、情報収集の理解をする。グループワークを行い成果物をプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 事例を読んでおく。 事後 情報の読み込みに必要な資料を集める。
第6回	介護過程の展開の理解 目標設定 介護過程の展開の理解 計画策定	(学修内容) 事例からICFへの分類を行い、ICFの理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 情報の読み込みに必要な資料を集める。 事後 ICFについて復習しておく。
第7回	介護過程とチームアプローチ 他の専門職のケアとの関係 介護過程とチームアプローチ チームとしての介護過程の展開	(学修内容) 事例を基に情報を統合し分析を行い、分析に必要な知識を再確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 ICFについて復習しておく。 事後 分析に必要な資料を集める。
第8回	介護過程とチームアプローチ カンファレンスの持ち方についての理解 介護過程の展開の理解 事例理解 事例に必要な知識・技術・価値	(学修内容) 事例からニーズを抽出しニーズの考え方、利用者主体について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 分析に必要な資料を集める。 事後 自身の介護過程の足りないところを追記しておく。
第9回	介護過程の展開の理解 事例理解 ICFの観点を考える 介護過程の展開の理解 情報の統合・分析を行う	(学修内容) 事例からその人の望む目標設定の考え方について学ぶ。短期目標、長期目標を考えかたを確認する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 自身の介護過程の足りないところを追記しておく。 事後 マズローの欲求段階を復習しておく。
第10回	介護過程の展開の理解 事例を用い、ニーズの抽出と優先を考える 介護過程の教授法 介護過程について整理する	(学修内容) 優先順位の高い目標設定を行い、実現可能となるための計画を策定する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 マズローの欲求段階を復習しておく。 事後 計画に必要な内容をまとめ模造紙に仕上げる。
第11回	介護過程の教授法 発表の練習 介護過程の教授法 レジメの作成	(学修内容) 介護過程の振り返りを行い、介護過程について理解し他者に発信する。反転授業を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 今までに配布した資料、参考になる図書をまとめ持参する。 事後 教授するために必要なレジメを作成する。
第12回	介護過程の教授法 実際 介護過程の教授法 実践の振り返りと修正	(学修内容) 介護過程を教えるため(言語化)にディスカッションを行いながら必要なレジメの作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 教授するために必要なレジメを作成する。 事後 レジメに必要な図書を集める。
第13回	介護過程の実際 シナリオづくり 事例の作成 介護過程の実際 資料収集	(学修内容) 介護過程を教えるため(言語化)に必要な根拠資料を収集するレジメを作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 レジメに必要な図書を集める。 事後 レジメを作成する。
第14回	介護過程の実際 発表準備 介護過程の実際 レジメにまとめる	(学修内容) プレゼンテーションを行うために、レジメを作成する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 事前 レジメを作成する。 事後 レジメを最後まで完成させる。
第15回	介護過程の実際 本授業のまとめ	(学修内容) 介護過程の教授法をプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前 発表に必要な物品等の準備を行う。 事後 事後指導された内容を含め振り返り制作物にして提出する。

授 業 名	チームマネジメント論			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1752
英 文 名	Theory of Team Management			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修		
担 当 者	高岡 理恵			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>介護実践は介護従事者のみならず保健医療等からなる包括的なチームによる実践です。この授業では、介護実践を行うために必要な組織の運営と管理、人材育成の活用、それらに必要なリーダーシップとフォロワーシップなどを学び、チームで働く力を養うためのマネジメントについて理解を深めます。介護実践は感情労働であることから、ストレスとストレスマネジメントの基礎的な知識を身につけます。</p> <p>本授業では講義の他、施設を訪問し、多様なメンバーでの会議や事業所組織の経営、事業所内研修等について学ぶ機会をもちます。</p> <p>講義では、反転授業を行うため、事前に行っておかなければならない学修課題については必須です。</p>								
学修成果 到達目標	<p>福祉サービスにおける組織の機能や構造を説明できる。</p> <p>チームでケアを展開するために必要なチームの構成や役割について説明できる。</p> <p>スーパービジョンの機能について説明できる。</p> <p>チームで働くためのストレスマネジメントについて自分自身のマネジメント方法を見つけることができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 ) ( )			
テキスト	新介護福祉士養成講座編集委員会『人間の理解』『介護の基本』中央法規								
参 考 書	古川久敬『グループマネジメント入門』日本介護協会出版会								
課題に対する フィードバック の方法	授業内レポートは確認後、コメントを入れ返却を行う。								
留意事項	様々な現場へ出向く機会があるので、積極的に質問できるように、予習をしてください。								
オフィス アワー	授業時に提示します。 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください。								
実践的教育									

授業名	チームマネジメント論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 実習から学ぶチームマネジメント	(学修内容) 介護実習施設において求められるチームの職種理解を行う。指導者の指導方法についてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 シラバスを読んでくる。 事後 テキスト p203~218で大切だと思う箇所に下線を引く。
第2回	介護実践におけるケアチームの実際	(学修内容) 1回目授業をもとに、実習で学んだことをディスカッションしながら、チームの目的とリーダーとフォロワーの役割について確認する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 テキスト p203~218で大切だと思う箇所に下線を引く。 事後 チームを構成するメンバー(実習において)を整理しておく。
第3回	施設や居宅で働く他職種の理解	(学修内容) チームで働く専門職の役割についてまとめてきたことを発表しあう。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 チームを構成するメンバー(実習において)を整理しておく。 事後 連携に必要な要素について考えてくる。
第4回	連携の目的と他職種との連携方法	(学修内容) ディスカッションを行い、連携の意味を捉え、専門職同士の具体的な連携方法について事例を通して考える。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 連携に必要な要素について考えてくる。 事後 配布プリントに目を通してくる。
第5回	介護従事者の心身の管理 1 介護労働と感情労働	(学修内容) 感情労働の意味と感情労働である介護福祉職の働き方を理解し、働き方への影響について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 配布プリントに目を通してくる。 事後 ストレスについて具体的な例を挙げ説明できるようにする。
第6回	介護従事者の心身の管理 2 ストレスとストレスマネジメント	(学修内容) 介護労働におけるストレス要因とマネジメント方法について自身のストレス軽減をもとにディスカッションを行いながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 ストレスについて具体的な例を挙げ説明できるようにする。 事後 防衛機制について調べたことをまとめてくる。
第7回	介護従事者の心身の管理 3 スーパービジョンの機能と役割	(学修内容) スーパービジョンの機能(教育的機能)について事例を通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 防衛機制について調べたことをまとめてくる。 事後 人間関係を構築するための基本的姿勢について調べる。
第8回	介護従事者の心身の管理 4 スーパービジョンの機能と役割	(学修内容) スーパービジョンの機能(支持的、管理的機能)について事例を通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 人間関係を構築するための基本的姿勢について調べる。 事後 施設で質問できるよう第3章4節に目をとおしておく。
第9回	チーム運営の基本 1 組織と運営管理	(学修内容) 協力施設へ赴き、介護サービス事業所における組織、施設の設定、備品、人材確保について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 施設で質問できるよう第3章4節に目をとおしておく。 事後 キャンパスライフ p7をみてどんな部署があるのかを知る。
第10回	チーム運営の基本 2 組織と運営管理の実際	(学修内容) 本学の組織図を参照し、前回学んだ組織体制について復習する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 キャンパスライフ p7をみてどんな部署があるのかを知る。 事後 テキスト第3章1節を読み、大切だと思うところに下線を引く。
第11回	チーム運営の基本 3 実践力を高めるためのチームマネジメント	(学修内容) 介護サービスの4つの特性や他のサービスとの相違点から介護現場で求められるチームマネジメントについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 テキスト第3章1節を読み、大切だと思うところに下線を引く。 事後 事例を読み役作りを行う。
第12回	人材の育成と管理 1 コーチングの基本的な考え方	(学修内容) コーチングの基本を理解し、事例をもとにロールプレイングを行いながら傾聴、話し方の工夫を行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 事例を読み役作りを行う。 事後 協力施設に聞きたいこと、質問内容を考えてくる。
第13回	人材の育成と管理 2 キャリア開発の仕組み	(学修内容) 協力施設に出向き、委員会やOJTが、どのように策定されているのかを学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 協力施設に聞きたいこと、質問内容を考えてくる。 事後 学んだ内容をまとめレポートにして提出する。
第14回	人材の育成と管理 3 プリセプター制度の意義、目的、方法	(学修内容) プリセプター制度の意義と目的、方法について具体的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 学んだ内容をまとめレポートにして提出する。 事後 学んだ内容をまとめレポートにして提出する。
第15回	社会人基礎力	(学修内容) 社会人基礎力をもとに、求められる社会人像を明確にし、人間関係を作るための傾聴力、情動のマネジメントについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 学んだ内容をまとめレポートにして提出する。 事後 になりたいリーダー像についてまとめレポートにする。

授 業 名	コミュニケーション技術			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CW1705
英 文 名	Communication Skills I			開講 時期	春学期	必修 選択	必修		
担 当 者	名賀 亨 (R6~)			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護に焦点をあてソーシャルワークの視点から、介護を必要とする人と支援する人の関係を良好なものにするために必要な「コミュニケーション」について、ロールプレイやグループワークなどを通してその理念を理解するとともに具体的スキルを修得することを目指す。								
学修成果 到達目標	1) 人間関係におけるコミュニケーションの意味と大切さを理解できる 2) 具体的に相手との適切なコミュニケーションを実践することができる 3) 相手の意識を高め自主性を高めるようなファシリテーションを理解し実践することができる								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 介護福祉士養成講座編集委員会 編集 中央法規出版								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	課題レポートや適宜行う発表に関してその内容を評価するとともに、関連事項を加味してその解説を行いそれぞれの学びを促す。								
留意事項	疑似体験やディスカッションなども含めて、参加型の内容を中心に授業を進めるので、自発的かつ主体的な授業参加を求める。								
オフィス アワー	別途 授業中に説明								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：ワークショップやグループワークの実践にも関わってきた中での経験値などを活用しながら、ワークショップなども用いて授業を進めていく。								



授業名	コミュニケーション技術	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	第1回 オリエンテーション	(学修内容) 授業内容や進め方評価方法など全体について説明する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: シラバスを確認しておく 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第2回	コミュニケーションの基本	(学修内容) 介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 介護場面でのコミュニケーションについてまとめておく。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第3回	援助関係とコミュニケーション	(学修内容) 対象者との援助関係を意識したコミュニケーションを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 援助関係におけるコミュニケーションについてまとめておく。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第4回	コミュニケーション態度に関する基本技術	(学修内容) 傾聴、受容、共感等基本的なスキルを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 傾聴、受容、共感に関して調べてまとめておく。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第5回	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	(学修内容) 言語・非言語・準言語などのコミュニケーション方法についてその内容と役割を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 言語・非言語・準言語についてまとめておく。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第6回	目的別のコミュニケーション技術	(学修内容) 利用者の意欲を高めるための動機付け、事実を共有するための技術、意思決定支援などについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキスト43頁を読みその内容をまとめておく。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第7回	集団におけるコミュニケーション技術	(学修内容) 集団の特徴や集団でのコミュニケーションの意義を、学生同士が実際にディスカッションをしながら理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: グループワークについてまとめておく。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第8回	コミュニケーション障害への対応の基本 P74～83 内容:	(学修内容) コミュニケーション障害について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: コミュニケーション障害についてまとめておく。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第9回	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 1	(学修内容) 視覚障害、聴覚障害、構音障害の人たちとのコミュニケーションについて学生同士が疑似体験を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 視覚障害、聴覚障害、構音障害についてまとめておく。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第10回	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 2	(学修内容) 失語症、認知症の人たちとのコミュニケーションについて、学生同士が疑似体験を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 失語症、認知症についてその特性をまとめておく。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第11回	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 3	(学修内容) うつ病、抑うつ状態の人、知的障害のある人、発達障害のある人などのコミュニケーションについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: うつ病、知的障害、発達障害についてまとめておく。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第12回	家族とのコミュニケーション	(学修内容) 家族との協働の支援について理解し、家族との関係づくりを考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 家族との協働関係の意味と必要性についてまとめておく。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第13回	チーム内でのコミュニケーションについて	(学修内容) チーム力を最大限に発揮するコミュニケーションについて、学生同士がディスカッションなどを通して理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: P192～P226を読みまとめておく。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第14回	グループでのコミュニケーションについて	(学修内容) 学生同士がディスカッション体験と振り返りを通して、コミュニケーション、相互作用について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 相互作用についてまとめておく。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第15回	まとめ	(学修内容) 演習を通してこれまでの授業内容を総括し、それぞれがまとめたものを発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: ここまでの授業を振り返り疑問点を洗い出しておく。 事後: その日の授業を整理するとともに、授業全体を整理しまとめる。

授 業 名	生活支援技術			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1756
英 文 名	Livelihood Support Skills			開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	福井 百合子・細辻 珠紀			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>生活に関わる知識は、健康な生活を営むうえでも、福祉の現場で働くうえでも必要である。介護の対象となる人(利用者)の個々の状態に応じた自立に向けた支援について学習する。介護予防、生活機能の維持、安全管理についての内容、家事を自立的に行うことを支援するために必要な基本的事象について以下の内容で講義する。理解を深めるために、適宜グループワークを実施する。</p> <p>1.利用者にとっての自立の意味を考え、本人主体の生活の豊かさの観点から、自立へ向けて具体的な支援行動が示せる。</p> <p>2.衣食住の基礎</p> <p>3.獲得した知識を、福祉の現場で役立てることができる。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1.生活に関わる基本的な知識を身につけ、実践することができる。</p> <p>2.介護の対象となる人が個々の状態に応じた家事を自立的に行えるよう支援できる。</p> <p>3.獲得した知識を、福祉の現場で役立てることができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	「最新 介護福祉士養成講座」介護福祉士養成講座編集委員会 編集(中央法規) 使用する巻は授業内で紹介する								
参 考 書	随時指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項	受け身ではなく、積極的な態度で授業に臨んでほしい。								
オフィス アワー	初回の授業で連絡する。								
実践的教育									

授業名	生活支援技術	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 要介護者の自立支援について	(学修内容) 自立支援の考え方、ICFについて学び、利用者の自己決定を尊重した支援について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書熟読。日常生活の中で自己決定している事を考えてみる。。ICFとICIDHについて調べておく。介護の基本 第4章1～2節
第2回	介護予防とリハビリテーション	(学修内容) 実際の健康教室見学から介護予防と高齢者支援について考える(ただし、見学施設の予定変更など見学が出来なくなった場合は学内授業) (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書熟読。バリアフリーとユニバーサルデザインについて調べておく。
第3回	介護の実践(心と体の健康、身体動作、認知、安全管理に配慮した援助)	(学修内容) 実際の歩道での車いす乗車による散策援助実践と体験 (事前事後学修課題の内容) (30分) 車いすの移送について教科書を読んでおく。登下校路の傾斜や段差、障害者用トイレ、エレベーターの状況など見ておく。
第4回	安全管理とリスクマネジメント	(学修内容) リスクとハザード、危険予知と危険回避、薬の服用、感染予防、事故防止について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書熟読。老化や機能低下予防の運動や習慣を各自2つ以上調べる。介護の基本 第4章第4節
第5回	介護実践の場での他職種連携	(学修内容) 教科書熟読。高齢者福祉に関わる業種と役割をまとめておく。介護実践の場での多職種協働について学ぶ。介護の基本 第4章 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書熟読。健康時と体調不良時の様子の違いについて考えてみる。介護の基本 第3章
第6回	介護者自身の健康管理、心と体の健康管理	(学修内容) 介護従事者にとつての心と体の健康管理について学び、自己の健康管理を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書熟読。ストレスサーについて調べておく。
第7回	中間授業の振り返り、知識の確認 前半のまとめ	(学修内容) 前半の振り返りとまとめ、小テストによる知識の確認。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前半全体の復習。
第8回	授業後半のガイダンス 食生活と栄養	(学修内容) 食生活とその意義を考える。 ・食生活の現状と課題についてグループワーク。 (事前事後学修課題の内容) (60分) ・教科書の関連部分をよく読んでおく。
第9回	栄養素の種類と消化・吸収・代謝	(学修内容) 五大栄養素について、その特徴と主な働きを見るときともに、それらがどのように消化・吸収され、代謝されるかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ・教科書の関連部分をよく読んでおく。
第10回	食事摂取基準 食材の特徴と使い方	(学修内容) 何をどれだけ食べればよいのか。(日本人の食事摂取基準) ・自分の食事のバランスは適正か否か。食材の旬や加工食品を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ・教科書の関連部分をよく読んでおく。 ・食材の旬や加工食品における食品表示部分の情報を収集しておく。
第11回	献立作成	(学修内容) 献立作成に必要な基本的知識と生活習慣病における留意点。 調理実習は数回に分けて実施。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ・教科書の関連部分をよく読んでおく。 ・家庭料理のレシピなどの情報を収集しておく。
第12回	栄養補給方法	(学修内容) 栄養補給方法について学ぶ。 ・経口栄養法、(強制栄養法)経腸栄養法・静脈栄養法の分類と特徴。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ・生活場面で入手可能な経腸栄養剤(食品)などの情報を収集しておく。
第13回	食の安全と食中毒	(学修内容) 食の安全をめぐる諸問題を学ぶ。 ・食中毒の種類や予防、食品衛生、環境衛生、人の衛生管理について。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ・教科書の関連部分をよく読んでおく。 ・食の安全をめぐる最近のニュース、情報を収集しておく。
第14回	健康と食生活 生活支援における食生活の振り返りとまとめ	(学修内容) 生活習慣病予防やサルコペニア予防の食生活を学ぶ。 ・要介護因子となる生活習慣病、サルコペニアについて。振り返りまとめ (事前事後学修課題の内容) (30分) ・教科書や新聞、ネット情報より関連部分の情報を収集しておく。 ・振り返りとまとめ。
第15回	授業全体の振り返り 定期試験についてのお知らせ	(学修内容) 授業全体の学修内容の確認 確認問題と解説、筆記試験問題にチャレンジ、 (事前事後学修課題の内容) (30分) 教科書を再度読み返して復習し、わからないところを明確にしておく

授 業 名	介護総合演習			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CW1711
英 文 名	Nursing Care Practce I			開講 時期	春学期	必修 選択	必修		
担 当 者	高岡 理恵・野田 隆生			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>介護実習に必要な知識・技術・態度等について習得することをねらいとする。介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。介護実習の教育効果を高めるため、介護実習に向けての心がまえ、動機付け、事前の実習する施設や事業所についての理解を行う。具体的には、専門職の倫理や施設理解のための講義を中心とするが、施設見学やディスカッションを通し、理解を深められるように進めていく。</p>								
学修成果 到達目標	<p>介護実習の目的や目標を理解し、それらに必要な事前の準備及び学習をすることができる。 介護福祉士が仕事とする対象の理解をすることができる。 実習のイメージを膨らませ、自身の実習目標や学習課題を整えることができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	新・介護福祉士養成講座『介護総合演習』、中央法規								
参 考 書	社会福祉小六法								
課題に対する フィードバック の方法	授業内レポートは確認後添削を行い返却する。 実習目標、実習記録、プロセスレコード等の実習課題についても同様である。								
留意事項	実習先では、知識や技術と同様、利用者や職員とのコミュニケーションや誠実な態度が求められます。授業においても積極的に教員とコミュニケーションをとるようにしてください。								
オフィス アワー	授業時に提示します。必要なときにはGメールを活用して連絡してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務。								

授業名	介護総合演習	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護実習の概要 介護総合演習の位置づけを理解する	(学修内容) シラバスを見ながら授業の内容を確認する。 介護実習の全体概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 シラバスを読んでおく 事後 テキスト(介護実習の意義・目的)を読み要約する。
第2回	介護実習の基本的理解 介護実習の意義と目標を理解する	(学修内容) 介護実習の意義と目的についてディスカッションしながら学ぶ。 介護実習の場について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキスト(介護実習の意義・目的)を読み要約する。 事後 配付した資料を読みわからない語句に下線を引いておく。
第3回	介護実践の研究 エビデンスの構築に繋がる実践研究の意義	(学修内容) 介護実践の意義と目的、研究方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 配付した資料を読みわからない語句に下線を引いておく。 事後 特別養護老人ホームの法的根拠を調べてくる。
第4回	介護実習の場の理解 1 入所施設の理解(高齢者施設)	(学修内容) 映像を利用し、特別養護老人ホーム、老人保健施設の基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 特別養護老人ホームの法的根拠を調べる。 事後 障害児(者)施設の法的根拠を調べる。
第5回	介護実習の場の理解 2 入所施設の理解(障がい児施設)	(学修内容) 障害児(者)施設の基本的な理解と利用者像について理解する。施設見学を行い実習での学ぶべきポイントを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 障害児(者)施設の法的根拠を調べる。 事後 見学実習を終えてレポート提出。(800字)
第6回	介護実習の場の理解 3 利用サービス事業所の理解(在宅3本柱)	(学修内容) ホームヘルプ事業、ショートステイの基本的な理解と利用者像について理解する。施設見学を行い実習での学ぶべきポイントを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 見学実習を終えてレポート提出。(800字) 事後 デイサービスの役割について調べてくる。
第7回	介護実習の場の理解 4 利用サービス事業所の理解(小規模多機能)	(学修内容) 小規模多機能型居宅介護、デイサービス事業の基本的な理解と利用者像について理解する。施設見学を行い学ぶべきポイントを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 デイサービスの役割について調べてくる。 事後 見学実習を終えてレポート提出。(800字)
第8回	事前学習の内容と方法 1 実習にあたっての心構えと注意点を理解する	(学修内容) 介護実習事前準備と事務手続きを行う。実習にあたっての心構え、注意点を再確認を行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 見学実習を終えてレポート提出。(800字) 事後 事務手続きを行う。
第9回	事前学習の内容と方法 2 実習記録の理解と方法、書きかたについて理解する	(学修内容) 介護実習記録の意義と目的、書き方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 事務手続きを行う。 事後 実習記録の書き方宿題。(授業中に広報)
第10回	事前学習の内容と方法 3 プロセスレコードの理解と方法、書きかたについて理解する	(学修内容) プロセスレコードを書く意味について理解し、書き方と活用法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 実習記録の書き方宿題の提出。 事後 プロセスレコードの宿題。(授業中に広報)
第11回	事前学習の内容と方法 4 事前オリエンテーションの持ち方と留意	(学修内容) 自身の実習する施設での事前オリエンテーションへの連絡や留意点について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 プロセスレコードの宿題提出。 事後 実習へ行く施設について調べてくる。
第12回	事前学習の内容と方法 5 実習目標の意義と考え方について理解する	(学修内容) 夏季実習施設の基本的理解を行い、ディスカッションを行い実習目標を作成する。自己の目標を明確化する。口述で確認。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 実習へ行く施設について調べてくる。 事後 実習目標の下書きを行う。
第13回	事前学習の内容と方法 6 実習目標指導	(学修内容) 個別指導 自己の目標を明確化したものを言語化しディスカッションを通し、実習目標を完成させる。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 実習目標の下書きを行う。 事後 実習目標を完成させる。
第14回	事前学習の内容と方法 7 介護実習の実践をイメージする	(学修内容) 卒業生に実習内容等を聞く機会をもち、実習に対する質問を行い不安を取り除く。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 実習目標を完成させる。 事後 授業を受けて感想。(800字)
第15回	総合演習のまとめ	(学修内容) 実習前に必要な記録物の確認及び作成を行う。総合演習のまとめを行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 記録物の整理を行う。 事後 介護実習記録への書き込める事項を書きこむ。

授 業 名	発達と老化		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1713
英 文 名	Development and Aging		開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	福井 百合子		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	人間の成長と発達過程と、ライフサイクル中の老年期の特徴を理解し、老化（加齢）に伴う身体的・心理的・社会的変化と、それらが高齢者の生活や日常生活動作に及ぼす影響について学ぶ。老年期の特徴に応じた生活支援を考え実践するための基礎的な知識を習得する。理解を深めるために、適宜、動画視聴、ワーク、ディスカッションやグループワークを実施する。また学習内容や理解度の確認のため、適宜、課題発表やプレゼンテーションの機会を設ける。							
学修成果 到達目標	発達段階における老年期の特徴と老化に伴う心身の変化を理解し、介護職に必要な知識を身につけ、高齢者に寄り添うところを養う。 人間の各発達段階の特徴と発達課題について知っており、老年期の特徴と発達課題を説明できる。 老化に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴と起こりやすい疾患について学び、生活および日常生活動作への影響を説明できる。 根拠に基づいた介護の実践につながる知識を身につけ、適切な支援を考えることが出来る。							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能				
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学习支援）		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( )			課題発見・解決能力			
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会 編「最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解」中央法規							
参 考 書	長谷川和夫・長嶋紀一・遠藤英俊 編「こころとからだのしくみ 発達と老化の理解 介護の視点からみる高齢者の心理と健康」建帛社							
課題に対する フィードバック の方法	授業後の小テストや課題に対して提出後、受講者間での発表やディスカッション、教員コメントバックなどにより学びや気付きを深める。							
留意事項	人間の成長と発達の過程と各段階での発達課題の特徴をおさえた基礎知識をもとに、老年期について理解を深め、支援を考えられるようになることが求められる。							
オフィス アワー	初回の授業で連絡する。							
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：病院での看護師・助産師の実務経験、大学での指導経験から、高齢者の様子や状況がイメージしやすいよう工夫しながら授業を進めていく。							

授業名	発達と老化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 発育の原則、成長（形態的な量の増加）と評価	（学修内容）授業についての説明。 人間の成長・発達の影響を及ぼす要因について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書熟読 第1章。成長発達の原則、身体・生理・精神機能の発達過程を復習しておく。
第2回	発達（機能的な分化）、運動機能 粗大運動と微細運動、五感の発達と脳神経の発達	（学修内容）各発達段階における発達課題と、発達理論について学ぶ（ピアジェ、エリクソン、ハヴィーガースト） （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書熟読 第2章。エリクソンとハヴィーガーストの発達段階と各段階の特徴をまとめておく。
第3回	生理的機能の発達（恒常性 体温、体内時計と睡眠、排泄機能）	（学修内容）身体的機能の成長と発達、運動機能の発達、心理的機能の発達、言語発達、社会的機能の発達について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（60分） 教科書熟読 第2章。発達過程と障害や疾患についてと、ピアジェの認知発達の過程を理解しておく。
第4回	加齢に伴う身体的変化とその影響（心肺機能、消化機能 歯・消化器）	（学修内容）老年期の定義、老化の特徴、老年期の発達課題、老年期の社会的変化と適応 尊厳と価値、喪失体験後の悲嘆への支援について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書熟読 第3章。様々な老化学説や発達理論について学習しておく。
第5回	加齢に伴う身体的変化とその影響（骨格筋、脳・神経系）	（学修内容）老化に伴う身体的変化とその影響について学ぶ（恒常性、骨格筋、脳・神経、感覚器、心肺機能、消化）。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書熟読 第4章。嚥下のしくみについて学習しておく。
第6回	加齢に伴う身体的変化とその影響（認知、感覚機能）	（学修内容）老化に伴う心理的变化とその影響について学ぶ（認知、パーソナリティ、意欲の変化、適応力）。各自担当課題の学習内容を伝授し合う。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書熟読 第4章。フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニアについて発表できる様に調べる。
第7回	加齢に伴う身体的変化とその影響（内分泌、代謝、免疫）	（学修内容）老化に伴う社会的変化とその影響について学ぶ（高齢者を取り巻く環境の変化、現状と課題、健康寿命を延ばす取組み）。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書熟読 第4章第3節、第5章第1節。各老化理論については各自よく読んで知っておく。
第8回	加齢に伴う身体的変化とその影響（パーソナリティ、意欲、適応力）	（学修内容）高齢者の骨格・筋、脳・神経の疾患と生活上の留意点について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書熟読 第5章第2～3節。高齢者の身体的特徴のポイントと廃用症候群をまとめる。
第9回	老年期の特徴と発達課題 知識の確認	（学修内容）高齢者の感覚器、循環器、呼吸器の疾患と生活上の留意点について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書熟読 第5章第2～3節。血圧と酸素飽和度の正常値を調べておく。 心不全の項をよく読む。
第10回	高齢者の特徴を踏まえた配慮と支援	（学修内容）高齢者対象の健康教室を見学し高齢者の特徴を踏まえた配慮と支援の実際を知る。（但し見学先の状況により見学に行けない場合は学内授業） （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書熟読 第5章。腎臓の働きを調べる。尿路感染症の症状をまとめておく。
第11回	高齢者の特徴を踏まえた配慮と支援	（学修内容）高齢者の特徴を踏まえた配慮と支援の方法について考える。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書熟読 第5章。糖尿病はどんな病気なのかと、低血糖時の症状をまとめておく。
第12回	他職種連携と協働	（学修内容）他職種（保健医療職）との連携について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書熟読 第5章。連携のために大切なことを考えておく。
第13回	高齢者世帯の実情 加齢、疾患による変化と支援 老化・疾患による変化について	（学修内容）ドキュメンタリー映画視聴し、高齢者世帯の実状を知る。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 認知症、包括支援について復習し知識を整理しておく。
第14回	高齢者世帯の実情 加齢・疾患に対する理解と寄り添う支援について	（学修内容）ドキュメンタリー映画視聴し高齢者世帯の支援を考える。互いにディスカッションし高齢者の家族と介護者の両方の目線で思考を深める。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 自らの考えや、感じたこと、気付いたことなどをまとめておく。
第15回	授業の振り返り、知識の確認、定期試験の案内	（学修内容）授業全体の学修内容の確認、確認問題と解説 定期試験についての方法などの説明。 （事前事後学修課題の内容）（30分） 教科書を再度読み返して復習し、わからないところを明確にしておく。

授 業 名	社会の理解			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1701
英 文 名	Understanding Society			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	野田 隆生			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>わたしたちは、生計が安定し、安心して安全な地域社会の中で暮らすことができれば、特段の不満は生まれません。しかし、日本経済の不況や自然災害による被災者の二次被害などが、容赦なく国民の生活を奈落の底へと誘っている現実がある。そうした時に、国は社会保障という枠組みで、国民の生活を立て直す施策を展開するという仕組みがある。本講では、国民一人ひとりに付与されている尊厳の保持や権利擁護の視点に基づきながら、地域の中で生きていくために必要とされる社会保障について理解することを目的とします。主なテーマとしては、わたしたちの暮らし、地域共生社会、社会保障制度の仕組み、高齢者に関する法制度などの問題を取り上げ、その現状と背景を分析しながら原因と解決策を考えていきたい。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養うことができる。  2) 対象者の生活を地域の中で支えていく視点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につけることができる。  3) さまざまな環境にある対象者への介護実践に対応できるように、社会保障の制度や施策についてその基礎的な知識を身につけることができる。  4) 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養うことができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 70% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	介護福祉士養成講座 第2巻『社会の理解』中央法規								
参 考 書	講義時に随時、文献・資料を紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	小レポートにはコメントを添えて返却する。 プレゼンテーションの後には、批評ならびにコメントを行う。								
留意事項	平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究するようにして下さい。								
オフィス アワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室 ( 1 R-404 ) に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内G-mailを利用して下さい。								
実践的教育									



授業名	社会の理解	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容) 本講の進め方や成績評価の方法について説明する。 (事前事後学修課題の内容)(15分) テキストのはしがきと目次を見ておくこと。
第2回	生活を考える	(学修内容) 「生活」についてグループディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第1章(pp.2-40)を読んでおくこと。
第3回	人と向き合うこと	(学修内容) 自分史を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回の内容をまとめておくこと。
第4回	地域で生活するということ	(学修内容) 現代社会における福祉的課題について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第2章(pp.42-65)を読んでおくこと。
第5回	地域包括ケアシステムについて	(学修内容) 地域共生社会や地域包括ケアシステムが、今、なぜ必要とされるのかについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 基本用語について各自で調べておくこと。 調べたことをノートに記述しておくこと。
第6回	社会保障の意義と役割とその機能	(学修内容) 社会保障が、なぜ必要とされるのかについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第3章(pp.66-78)を読んでおくこと。
第7回	社会保障制度の発達過程	(学修内容) 戦後の歴史的展開過程について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第3章(pp.79-90)を読んでおくこと。
第8回	社会保障制度のしくみ	(学修内容) 社会保険や公的扶助のしくみについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第3章(pp.91-118)を読んでおくこと。
第9回	高齢者保健福祉の動向	(学修内容) 現代社会における高齢者の動向とその課題についてディスカッションを通して考える。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第4章(pp.122-139)を読んでおくこと。
第10回	高齢者保健福祉に関連する法体系	(学修内容) 高齢者保健福祉に関連する法体系について、その理念を取り上げながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第4章(pp.140-147)を読んでおくこと。
第11回	介護保険制度のあゆみと現在の動向	(学修内容) なぜ介護保険制度が必要とされているのかについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第4章(pp.148-163)を読んでおくこと。
第12回	介護保険制度のしくみとサービス概要	(学修内容) 介護保険制度のサービスの種類とその内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第4章(pp.163-182)を読んでおくこと。
第13回	介護保険制度の改正とその内容	(学修内容) 介護保険制度の改正内容について学びながら、高齢者の生きる権利について考える。 (事前事後学修課題の内容)(45分) テキスト第4章(pp.183-204)を読んでおくこと。
第14回	高齢者の権利擁護について	(学修内容) 虐待や後見制度など、介護実践において重視される権利擁護について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) テキスト第6章(pp.260-318)を読んでおくこと。
第15回	まとめにかえて ～介護の魅力って、なに?～	(学修内容) 介護の魅力について、ディスカッションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 介護実践について、自身の意見をまとめておくこと。

授 業 名	医療的ケア		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1762
英 文 名	Medical Care		開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	中島 香織		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護福祉士の基礎的教育をベースとして、医療的ケア実施に関連する制度の概要及び医療低ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療職と介護職の連携の重要性」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」等についての基礎的な知識を理解する。							
学修成果 到達目標	個人の尊厳と自立、医療的ケアに関係する法律・制度について説明できる。 医療的ケアについて医療職と介護職の連携について説明できる。 感染について学び、予防方法を説明することができる。 医療的ケアの実施において、リスクマネジメントやヒヤリハットなど安全な療養生活について説明できる。							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 ( 60% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )	
テキスト	最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 中央法規出版							
参 考 書								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントをつけて返却します							
留意事項	・教科書中心に進めるので、事前学習・復習をして授業に臨んでください。 ・わからないことは調べたり、聞くなどして明らかにし、その都度理解しておいてください。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：済生会京都府病院 看護師 水無瀬訪問看護ステーション 管理者 水無瀬ケアプランセンター 管理者兼ケアマネジャー 島本町地域包括支援センター センター長兼看護師 実践事例をもとに介護について話します。							

授業名	医療的ケア	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	1、医療的ケア * 医療的ケアとは * 医行為との違い * 医療の倫理 * 個人の尊厳お自立	(学修内容) 医療的ケアと医行為の違い(介護福祉士が行ってよい行為)、医療の倫理と介護福祉士の倫理、個人の尊厳と自立を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 介護福祉士としての倫理を理解、レポート提出
第2回	2、喀痰吸引等制度 * 医療制度とその変遷 * 喀痰吸引等制度の概要 3、医療的ケアと喀痰吸引等の背景 * 喀痰吸引等の研修	(学修内容) 医療保険制度の変遷から、なぜ医療的ケアを学ぶようになったのかを理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習後、医療的ケアを学ぶ意義についてレポート提出
第3回	4、その他の制度 * 介護保険法 * 障がい者総合支援法 * 健康保険法 * その他の制度	(学修内容) 保健医療に関する制度と医療的ケア提供の場について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習後、制度の違いをまとめレポート提出
第4回	5、チーム医療と介護職の連携 * チーム構成員の役割 * 多職種連携(事例を通して)	(学修内容) チームの構成員の種類と役割についてグループワークする (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習後、事例の感想をレポート提出
第5回	1、安全な療養生活 * リスクマネジメント * ヒヤリハットとアクシデントの違い * リスクを予測する	(学修内容) リスクマネジメント及びヒヤリハットとアクシデントを理解する。リスクについてグループワークする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 予習としてヒヤリハットとアクシデントの違いを述べられるようにしておくこと。
第6回	2、救急蘇生 * 急変状態 * 救急蘇生の必要性と方法 3、救急蘇生法 演習	(学修内容) 急変状態及び救急蘇生を理解、実践としてAEDを使用して救急蘇生法を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 演習が出来るよう教科書P292「救急蘇生法の手引き」を理解しておく
第7回	1、清潔の保持と感染予防 * 感染について * 感染予防(スタンダードプリコーション)	(学修内容) 感染症及び感染予防(スタンダードプリコーション)を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 感染について事前に教科書を読みレポート提出
第8回	2、介護職員の感染予防 * 予防接種 * ガウンテクニック 3、消毒と滅菌について * 消毒方法	(学修内容) 介護職員の感染予防及び健康管理の必要性、滅菌と消毒の違いを理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習後、感染源と消毒方法についてレポートを提出
第9回	1、健康状態の把握 * 平常時の状態 * バイタルサイン	(学修内容) 健康状態の把握、バイタルサインや観察内容を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習後、健康状態について理解したことをレポート提出
第10回	喀痰吸引基礎的知識 * 呼吸器のしくみ * いつもと違う呼吸	(学修内容) 呼吸器各部位の名称やしくみを理解、通常の呼吸と異常の呼吸を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習後、呼吸器のしくみについて学んだことをレポートにまとめ提出
第11回	喀痰吸引基礎的知識 * 痰の吸引とは * 人工呼吸器と吸引	(学修内容) 痰を排出するしくみと痰貯留を示す状態、痰吸引の必要性を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習後、喀痰吸引に必要性について学んだことをレポートにまとめ提出
第12回	喀痰吸引基礎的知識 * 子どもの吸引 * 吸引を受ける利用者や家族の気持ち	(学修内容) 子どもの呼吸の状態観察と呼吸の異常の観察、吸引を受ける利用者や家族の気持ちを理解、対応を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に教科書を読んで大人と子供の違いをレポート提出
第13回	経管栄養基礎的知識 * 消化器のしくみと働き * 消化吸収と消化器の症状	(学修内容) 消化器各部位の名称やしくみを理解、消化吸収と消化器の症状を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習後、消化器のしくみについて学んだことをレポートにまとめ提出
第14回	経管栄養基礎的知識 * 経管栄養とは * 経管栄養の種類と栄養剤 * 経管栄養実施上の留意点	(学修内容) 経管栄養が必要な人を理解、経管栄養の種類・栄養剤及び実施上の留意点を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に教科書を読んで経管栄養の必要性についてレポート提出
第15回	経管栄養基礎的知識 * 子どもの経管栄養とは * 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ち	(学修内容) 高齢者と子どもの食事摂取から消化吸収の違いを理解、又、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちを考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 学習後、経管栄養について学んだことをレポートにまとめ提出

授 業 名	医療的ケア			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CW1763
英 文 名	Medical Care			開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	中島 香織			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護福祉士の基礎的教育をベースとして医療的ケアを安全・適切に実施するための、専門的知識を習得する。医療的ケアを安全かつ感染防止をふまえ、演習を通して技術を習得する。								
学修成果 到達目標	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 評価基準に沿って、シュミレータを用いて喀痰吸引を実施することができる。 評価基準に沿って、シュミレータを用いて経管栄養を実施することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (実技)	プレゼンテーション能力 ( )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 中央法規出版 「医療的ケア」と同じテキストを使用します。								
参 考 書	随時紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートはコメントを付けて返却します。								
留意事項	実技については「医療的ケアの実施手順」を事前にアプリで観てもらい、手順を理解してから行います。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：済生会京都府病院 看護師 水無瀬訪問看護ステーション 管理者 水無瀬ケアプランセンター 管理者兼ケアマネジャー 島本町地域包括支援センター センター長兼看護師								

授業名	医療的ケア	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	経管栄養実施手順 * 経管栄養の器具・器材とそのしくみ * 挿入部の清潔	(学修内容) 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ及び挿入部の清潔方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習後、挿入部の異常と清潔方法について学んだことをレポート提出
第2回	経管栄養実施手順 * 経管栄養の技術と留意点	(学修内容) 注入方法の違いによる留意点を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習後、注入方法の違いをレポート提出
第3回	経管栄養実施手順 * 経管栄養に伴うケア * 感染予防、事故発生時の対応	(学修内容) 介護福祉士として行うケア、感染予防、事故発生時の対応を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に経管栄養に必要なケアについてレポート提出
第4回	経管栄養実施手順 * YouTube視聴 * 記録、報告方法	(学修内容) YouTubeを視聴しながら経管栄養の実施研修評価票の流れを理解する 記録の意義・内容、報告の内容及び必要性 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書のA Rの経管栄養を視聴、経管栄養の評価項目に合わせた手順を理解しておく
第5回	喀痰吸引手順 * 喀痰吸引の器具・器材とそのしくみ	(学修内容) 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみを理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 学習後、浸漬法と乾燥法の違いをレポート提出
第6回	喀痰吸引手順 * 喀痰吸引の技術と留意点	(学修内容) 吸引部位(口・鼻・気管)の違いによる技術と留意点を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に吸引前の観察項目について口腔内と気管カニューレ内の違いについてレポート提出
第7回	喀痰吸引手順 * 喀痰吸引に伴うケア * 感染予防 * 事故発生時の対応	(学修内容) 介護福祉士として行うケア、感染予防、事故発生時の対応を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に喀痰吸引に必要なケアについてレポート提出
第8回	喀痰吸引手順 * YouTube視聴 * 記録、報告	(学修内容) YouTubeを視聴、喀痰吸引の実施研修評価票の流れを理解する 記録の意義・内容、報告の内容及び必要性 (事前事後学修課題の内容)(30分) 教科書のA Rの喀痰吸引を視聴、喀痰吸引の評価項目に合わせた手順を理解しておく
第9回	喀痰吸引演習(口・鼻・気管)	(学修内容) グループで手順の確認、評価票に基づき喀痰吸引を5回以上実施 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に喀痰吸引の評価項目に合わせた手順を理解しておく
第10回	喀痰吸引演習(口・鼻・気管)	(学修内容) 評価票に基づき喀痰吸引を5回以上実施 (事前事後学修課題の内容)(30分) 終了後、自身の評価を記入提出
第11回	喀痰吸引演習(口・鼻・気管)	(学修内容) 評価票に基づき間違えることなく喀痰吸引が5回出来る (事前事後学修課題の内容)(30分) 終了後、自身の評価を記入提出
第12回	経管栄養演習(胃瘻・経鼻)	(学修内容) グループで手順の確認、評価票に基づき喀痰吸引を5回以上実施 (事前事後学修課題の内容)(30分) 経管栄養の評価項目に合わせた手順を理解しておく
第13回	経管栄養演習(胃瘻・経鼻)	(学修内容) 評価票に基づき経管栄養を5回以上実施 (事前事後学修課題の内容)(30分) 終了後、自身の評価を記入提出
第14回	経管栄養演習(胃瘻・経鼻)	(学修内容) 評価票に基づき経管栄養を5回以上実施 (事前事後学修課題の内容)(30分) 終了後、自身の評価を記入提出
第15回	医療的ケアについてまとめ	(学修内容) 医療的ケアの概論及び実施手順・留意点について再確認する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に理解できていない内容を提出

授 業 名	介護ソーシャルワーク論			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1704
英 文 名	Theory of Nursing Care			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	吉島 紀江			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護福祉士の役割は、ひとり一人の生活の安定としあわせを願いながら、介護が必要な人の生活、人生、生き方に関わり、支えていくことです。本講義では、しあわせな生活や安定した生活とその支援について、思想的・理論的に学んでいきます。ソーシャルワークの考えをベースにした介護実践ができるよう実際の事例を用いて学びを深めていきます。								
学修成果 到達目標	1) ソーシャルワークの基礎理念が自分の言葉で説明できる。 2) ソーシャルの実践原則を理解し、介護場面での活用ができる。 3) ソーシャルワークの価値・倫理・知識・技術の基本的事項が理解でき、介護場面での活用がイメージできる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 授業態度・参加意欲 ( )			プレゼンテーション能力		課題発見・解決能力 ( ) ( )		
テキスト	必要に応じてプリント、資料等を配布する。								
参 考 書	・宮沢賢治『雨ニモマケズ風ニモマケズ-宮沢賢治の言葉(「生きる言葉」シリーズ)』求龍堂・2011 ・吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫・1982								
課題に対する フィードバック の方法	提出課題(レポート等)については口頭でコメントもしくは、コメントを記入して現物を返却する。								
留意事項	介護をどのように捉えるか、固定概念にとらわれることなく積極的意見交流を望んでいます。								
オフィス アワー	研究室に掲示し、授業時に口頭でも伝える。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士資格を所持 高齢者施で勤務経験があるで勤務経験がある								

授業名	介護ソーシャルワーク論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・ソーシャルワークの意義	(学修内容) 社会福祉の概念理解と介護福祉士を目指す学生がソーシャルを学ぶが意義を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 シラバスの内容を読む 事後 新聞記事の収集をする
第2回	ソーシャルワークが求められる社会的状況	(学修内容) 新聞記事を整理し、新聞記事の内容についてディスカッションを通して社会状況とソーシャルワークの関係を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 新聞記事の切り抜きをする 事後 社会福祉士及び介護福祉士法における相談援助の定義を調べる
第3回	ソーシャルワークの概念	(学修内容) ソーシャルワークの定義と専門性について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 社会福祉士及び介護福祉士法における相談援助の定義を調べる 事後 ソーシャルとアプローチと実践モデル・アプローチを調べる
第4回	ソーシャルワークの歴史的展開	(学修内容) ソーシャルワークの萌芽から日本のソーシャルワークの発展について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 ソーシャルとアプローチと実践モデル・アプローチを調べる 事後 ノーマライゼーションについて調べる
第5回	ソーシャルワークの基本理念	(学修内容) ソーシャルワークの基本理念について実践的に理解する。授業の前半は、反転授業とする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 ノーマライゼーションについて調べる 事後 カント哲学を調べる
第6回	ソーシャルワークの価値・理念価値と手段的価値	(学修内容) ソーシャルワークの価値について、議論を踏まえ理解を深める。授業の前半は、反転授業とする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 カント哲学を調べる 事後 バイステックの7原則を調べる
第7回	ソーシャルワークの実践原則	(学修内容) バイステックの7原則、ソーシャルワークの基本原則を実践事例を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 バイステックの7原則を調べる 事後 配布プリントを読み分らない用語や関連する法律を調べる
第8回	ソーシャルワークの展開過程	(学修内容) ワークシートを活用し、本人及び家族の援助過程としてのソーシャルワーク実践を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 配布プリントを読み分らない用語や関連する法律を調べる 事後 介護福祉士倫理綱領を読む
第9回	ソーシャルワークの倫理	(学修内容) 専門職倫理と倫理的ジレンマについて、事例を用いてディスカッションし理解を深める (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 介護福祉士倫理綱領を読む 事後 配布プリントを読み分らない用語や関連する法律を調べる
第10回	ソーシャルワークの体系	(学修内容) ソーシャルワークの共通基盤について、事例を用いて理解を深める (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 配布プリントを読み分らない用語や関連する法律を調べる 事後 専門職について調べる
第11回	ソーシャルワークに関わる専門職	(学修内容) ソーシャルワークに関わる専門職の概念と範囲、その活動について整理し理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 専門職について調べる 事後 非コミュニケーションについて調べる
第12回	ソーシャルワークにおける援助関係	(学修内容) 基本姿勢や援助関係の構築について、具体的方法を演習を通して理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 非コミュニケーションについて調べる 事後 成年後見制度について調べる
第13回	ソーシャルワークにおける権利擁護	(学修内容) ソーシャルワークにおける権利擁護の実践と権利擁護システムの活用について実践事例を基に理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 成年後見制度について調べる 事後 社会福祉協議会について調べる
第14回	総合的・包括的な援助と多職種連携	(学修内容) 映像教材を使用し、総合的・包括的援助と多職種連携について、理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 社会福祉協議会について調べる 事後 社会福祉基礎構造改革について調べる
第15回	生活を基盤にした地域を支える援助活動	(学修内容) 誰もが安心して暮らせる地域にするための課題や援助活動の実際を映像を通して知る (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 社会福祉基礎構造改革について調べる 事後 講義に出てきた用語及び法律を整理する

授 業 名	介護技術		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1707
英 文 名	Nursing Care Work Skills		開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	木村 あい		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>科学的根拠を踏まえながら、居住環境の整備、移動の介護、身支度の介護技術を実践する。学生自身が援助者・モデルになり、利用者の気持ちの理解を深める。また、利用者の気持ちを知ること、介護実践に活かせるよう工夫をする。ICFの視点に基づいたアセスメントを行い、対象者の能力を活用・発揮できるようからの動きを理解した上で、基本的な介護技術を学ぶ。また、住環境や最新の福祉用具を学ぶために、フィールドワークとしてバリアフリー展に参加する。</p>							
学修成果 到達目標	<p>介護実践の根拠を説明できる 基本的な介護技術を身につける。 される側(介助を受ける側)の気持ちを理解できる</p>							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (	
テキスト	<p>最新 介護福祉士養成講座6『生活支援技術』中央法規：春学期「生活支援技術」-高岡先生担当、秋学期「生活支援技術」-鈴木先生担当でも使用 最新 介護福祉士養成講座7『生活支援技術』中央法規：春学期「介護技術」-高岡先生担当でも使用 最新 介護福祉士養成講座8『生活支援技術』中央法規：秋学期「介護技術」-高岡先生担当でも使用</p>							
参 考 書	適宜紹介する							
課題に対する フィードバック の方法	次の授業時にフィードバックを行う。							
留 意 事 項	予習・復習をしっかりと行ってください。 介護技術を実践しますので、上靴と動きやすい服装を準備してください。授業内で確認します。							
オフィ ス ア ワ ー	初回の授業で説明する。							
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：障害者の入所施設で生活指導員として勤務 シリアダマスカス脳性麻痺教育センターに青年海外協力隊員として派遣</p>							



授業名	介護技術	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 介護技術の進め方と考え方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認しておくこと
第2回	自立に向けた環境の整備 ベッドメイキング	(学修内容) 住環境の意義、居住環境のアセスメント、掃除について (事前事後学修課題の内容) (60分) 住環境の意義、居住環境のアセスメント、掃除の予習をしておくことノートをまとめておく
第3回	自立に向けた環境の整備 シーツ交換	(学修内容) シーツ交換、物品整理について バリアフリー展参加 (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめとシーツ交換、物品整理予習
第4回	自立に向けた移動の介護 移動の意義と目的、ボディメカニクス	(学修内容) 移動の意義と目的、ボディメカニクスについて (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回のまとめと移動の意義と目的、ボディメカニクスの予習
第5回	自立に向けた移動の介護 ICFの視点に基づくアセスメントと移動・移乗の介護	(学修内容) ICFの視点に基づくアセスメントと移動・移乗の介護について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習
第6回	自立に向けた移動の介護 ベッド上での移動	(学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 ベッド上での移動について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習とベッド上での移動の予習
第7回	自立に向けた移動の介護 車いすへの移乗	(学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 車いすへの移乗について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と車いすへの移乗の予習
第8回	自立に向けた移動の介護 福祉用具を活用した移乗	(学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 福祉用具を活用した移乗について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と福祉用具を活用した移乗の予習
第9回	自立に向けた移動の介護 フィールドワーク 歩行等移動	(学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 歩行等移動について フィールドワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と歩行等移動の予習
第10回	自立に向けた身支度の介護 生活習慣と装いの楽しみを支える介護	(学修内容) 生活習慣と装いの楽しみを支える介護について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と生活習慣と装いの楽しみを支える介護について教科書を読んでおく
第11回	自立に向けた身支度の介護 整容	(学修内容) 整容(爪きり、化粧、髭剃り、洗顔、整髪、耳掃除等)について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と整容についての予習
第12回	自立に向けた身支度の介護 衣服の着脱	(学修内容) 衣服の着脱について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と衣服の着脱についての予習
第13回	自立に向けた身支度の介護 衣服(着物)の着脱	(学修内容) 衣服(着物)の着脱と着物のたたみ方について (事前事後学修課題の内容) (60分) 前回までの復習と衣服(着物)の着脱と着物のたたみ方
第14回	演習課題 事例	(学修内容) 事例をもとにアセスメントし介護技術を実践する (事前事後学修課題の内容) (120分) 前回までの復習
第15回	総括	(学修内容) 全15回の授業の振り返り (事前事後学修課題の内容) (120分) 復習

授 業 名	介護技術			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1708
英 文 名	Nursing Care Work Skills			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	高岡 理恵			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	対象者の能力を活用し、自立を支援するための生活支援技術（食事・排泄・清潔保持等）の基本を習得する。自分が行った技術について、科学的に説明できる能力を身につけるための学習とする。この授業は、2コマを利用し、理論と実践を行う。実践については、学内では映像で技術を確認し、自分自身が対象者になる実体験を行うとともに、協力施設に出向いて行うこともある。								
学修成果 到達目標	1) 基本的な生活支援技術を身につける。 2) 実践の根拠について説明できる。 3) 介護を受ける側の気持ちを理解できる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	最新 介護福祉士養成講座7 『生活支援技術』 『生活支援技術』 中央法規 最新 介護福祉士養成講座7 『生活支援技術』 中央法規のテキストについては、下記の授業でも使用します。 春学期 「介護技術」 - 木村先生担当								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	毎回行う小テストは、確認後コメントをいれて返却を行う。 提出されたレポート等においても同様。								
留意事項	なぜ、この方法をとっているのかということを常に頭におきながら介護技術を行ってください。 メモを取りながら見学を行い、実践時には積極的に行ってください。 授業は着替えをし、髪を整え、上靴に履き替えておこないますので準備をしてから授業に臨んでください。								
オフィス アワー	授業内で発表する。 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務。								

授業名	介護技術	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 感染予防	(学修内容) 授業の概要説明、介護実習室の使用方法を理解する。感染予防の技術を身に付ける。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前 シラバスを読んでおくこと。 事後 自身の食文化について人に説明できるようにしておく。
第2回	自立にむけた食事の介護 食事介助の基本	(学修内容) 食事をする意義(生理的、心理的、社会的、文化的)についてディスカッションしながら理解する。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 自身の食文化について人に説明できるようにしておく。 事後 テキスト p 2 ~ 40でわからない語句を調べノートにまとめる。
第3回	自立にむけた食事の介 用具の選択と食事形態	(学修内容) バリアフリー展へ行き、食事に必要な様々な用具を見学する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキスト p 2 ~ 40でわからない語句を調べノートにまとめる。 事後 バリアフリー展で学んだ内容をレポートにする。
第4回	自立にむけた食事の介護 障害に応じた食事介護	(学修内容) 視覚障害、片マヒ、内部障害者への食事介護の技術を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 バリアフリー展でのレポート作成。 事後 テキスト p41 ~ 80でわからない語句を調べノートにまとめる。
第5回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔の介護の意義と目的	(学修内容) 入浴・清潔保持の意義(生理的、精神的、社会的、文化的)をディスカッションしながら理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキスト p 41 ~ 80でわからない語句を調べノートにまとめる。 事後 テキスト p 81 ~ 150でわからない語句を調べノートにまとめる。
第6回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の基本的介護	(学修内容) 「清潔保持」ための準備、環境整備を行い、介護技術を実践(実習)する。足浴、手浴の実践。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 テキスト p 81 ~ 150でわからない語句を調べノートにまとめる。 事後 テキスト p 151 ~ 220でわからない語句を調べノートにまとめる。
第7回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の基本的介護 入浴におけるリスクとリスクマネジメント	(学修内容) 入浴における事故と対応を学ぶ。全身清拭の実践。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 テキスト p 151 ~ 220でわからない語句を調べノートにまとめる。 事後 テキスト p 221 ~ 270でわからない語句を調べノートにまとめる。
第8回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の基本的介護 洗髪介護	(学修内容) 「清潔保持」を行うための準備、環境整備を行い、洗髪の実践をする。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 テキスト p 221 ~ 270でわからない語句を調べノートにまとめる。 事後 テキスト p 271 ~ 330でわからない語句を調べノートにまとめる。
第9回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 心身の状態に応じた入浴・清潔保持の介護 特殊入浴を行う利用者	(学修内容) 入浴介護での留意に配慮し入浴体験及び入浴介護を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキスト p 271 ~ 330でわからない語句を調べノートにまとめる。 事後 配付資料を読む
第10回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 心身の状態に応じた入浴・清潔保持の介護 最新の特殊入浴を行う利用者	(学修内容) 協力施設の見学実習を行い、新しい入浴機器と入浴方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 配付資料を読む 事後 見学レポートを書き発表できるようにする。
第11回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 口腔ケアの介護	(学修内容) 口腔ケアの意義や目的、方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 見学レポートを書き(800字にまとめる)発表できるようにする 事後 テキスト p 330 ~ でわからない語句を調べノートにまとめる。
第12回	自立にむけた排泄の介護 排泄介護の意義と目的	(学修内容) 排泄介護の意義(生理的、精神的、社会的、文化的)についてディスカッションしながら理解する。 (事前事後学修課題の内容)(45分) 事前 テキスト p 330 ~ でわからない語句を調べノートにまとめる。 事後 テキスト排泄の介護を読み、わからない語句を調べてくる。
第13回	自立にむけた排泄の介護 排泄の基本的介護	(学修内容) 「排泄介護」を行うための準備、環境整備を行い、介護技術を実践する用具を使用した排泄介護(ポータブルトイレ、便器、おむつ)。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキスト排泄の介護を読み、わからない語句を調べてくる。 事後 ストマについて調べてくる。
第14回	自立にむけた排泄の介護 心身の状態に応じた排泄介護	(学修内容) 内部障害のある人(ストマのある方)への排泄介護について学ぶ。 DVD鑑賞含む (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 ストマについて調べてくる。 事後 実技テストのための練習をする。
第15回	実技テストと振り返り	(学修内容) 実技テストを行い、その後振り返りディスカッションを行う。なぜその方法をとったのかということの説明する。 (事前事後学修課題の内容)(90分) 事前 実技テストの準備として練習を行う。 事後 実技テストに必要な知識について用紙にまとめ提出する。

授 業 名	介護技術		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1757
英 文 名	Nursing Care Work Skills		開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	木村 あい		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	対象者の能力を活用し、対象者の状態・状況に応じた自立を支援するための生活支援技術、医療との連携や人生の最終段階の介護方法を習得する。また、実践の根拠について説明できる能力を身につける。 この授業は、2コマ連続で、理論と実技を同時に行います。介護技術の総まとめですので、他の授業で学んだ知識を活かし、テキストを読み込みわからない語句がないようにノートに調べまとめておくようにしてください。毎授業時、小テストがあります。							
学修成果 到達目標	医療との連携において介護福祉士としての役割を明確にし、それを言語化することができる。 基本的な介護技術を習得することができる。 実践の根拠について他者に説明できる。							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学习支援）		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (	
テキスト	テキストは 最新 介護福祉士養成講座8 『生活支援技術』中央法規を使用します。 しかし、この授業内で行う事前事後学習には『生活支援技術』中央法規を使用します。 したがって毎回授業はじめに行う小テストは『生活支援技術』テキストの範囲から出されます。							
参 考 書	宮崎総一郎・佐藤尚武『睡眠と健康』、放送大学教育振興会、2013							
課題に対する フィードバック の方法	小テスト及び振り返りシートレポートには、コメントを入れて返却します。							
留 意 事 項	実践時には、メモを取りながら積極的に行ってください。							
オフィ ス ア ワ ー	授業最初にお知らせします。 必要な時にはGメールを活用して連絡をしてください。							
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務。							

授業名	介護技術	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護技術 〃 の復習	(学修内容) 授業の進め方の理解を行う。 介護技術 〃 の復習を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 介護技術 〃 で学んだことを見直しておくこと。 事後 実習で学んだ介護技術と根拠についてまとめレポートにする。
第2回	心身の状態に応じた休息・睡眠の介護 睡眠が心身に及ぼす影響	(学修内容) 休息と睡眠の介護の意義(生理的、精神的、社会的、文化的)について ディスカッションしながら理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 実習で学んだ介護技術と根拠についてまとめレポートにする。 事後 テキスト2~30を読み、わからない語句を調べる。
第3回	心身の状態に応じた休息・睡眠の介護 良質な睡眠と睡眠障害	(学修内容) 良質な睡眠のための方法をディスカッションを行い根拠とともに考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキスト2~30を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp31~45を読み、わからない語句を調べる。
第4回	心身の状態に応じた休息・睡眠の介護の実際 良質な睡眠を得るための環境整備	(学修内容) 良質な睡眠のための環境整備についてディスカッションを行い他者の考 え方にふれる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp31~45を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp45~62を読み、わからない語句を調べる。
第5回	心身の状態に応じた休息・睡眠の介護の実際 褥瘡予防と安楽な体位	(学修内容) 褥瘡の発生要因を学び予防方法を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp45~62を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp63~90を読み、わからない語句を調べる。
第6回	心身の状態に応じた休息・睡眠の介護の実際 心身を安楽にするリラクゼーションの方法	(学修内容) 施設へ赴きリラクゼーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp63~90を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp91~120を読み、わからない語句を調べる。
第7回	心身の状態に応じた休息・睡眠の介護の実際 適切な電法の用い方	(学修内容) 症状を軽減させるために家庭で行っている温電法と冷電法の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp91~120を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp121~157を読み、わからない語句を調べる。
第8回	医療と介護 介護福祉士と医療行為、医療的ケアの違いを学ぶ	(学修内容) 医師法第17条に基づく内容の理解を行い、介護福祉士が医療的ケアを行 う法的、歴史的意味について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (600分) 事前 テキストp121~157を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp158~195を読み、わからない語句を調べる。
第9回	医療と介護 家庭でおきやすい緊急時の対応	(学修内容) 異常時の発見と在宅における緊急時の対応について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp158~195を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp196~228を読み、わからない語句を調べる。
第10回	医療と介護 心肺蘇生法	(学修内容) 心肺蘇生法やAEDの使い方を学び、普通救急救命を取得する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp196~228を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp246~294を読み、わからない語句を調べる。
第11回	医療と介護 薬剤の知識と介護福祉士が行う薬剤使用の留意点	(学修内容) 介護福祉士が行う薬剤使用の方法、留意点について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 テキストp246~294を読み、わからない語句を調べる。 事後 ティーチングするための資料作成を行う。
第12回	人生の最終段階における介護 死を迎える人の介護への関わり方	(学修内容) 人生の最終段階の意義とその段階にある人への介護の視点を理解し、 臨終に向かうプロセスと生活支援について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 ティーチングするための資料作成を行う。 事後 ティーチングするための資料作成を行う。
第13回	人生の最終段階における介護 死後のからだを整える	(学修内容) 死後に行う介護や家族支援、グリーフケアについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 ティーチングするための資料作成を行う。 事後 介護技術試験の作成をする。
第14回	知識と技術の統合 介護技術試験の作成	(学修内容) 介護技術試験を考え作成する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 作成に必要な根拠となる資料を集めておく。 事後 介護技術試験を仕上げ発表できるようにしておく。
第15回	知識と技術の統合 介護技術試験発表と振り返り	(学修内容) 介護技術試験のプレゼンテーションを行い、内容を振り返りディスカッ ションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 作成した試験を行えるよう準備しておく。 事後 行ったあとの振り返りをレポートにして提出する。

実 習 名	介護実習 (CW1712)	対象学生	専攻科介護専攻
担 当 者	野田 隆生・高岡 理恵		
実習の概要	<p>1. 実習の目的 講義、演習、学内実習で学んだ理論と技術を実際に活用し、利用者への総合的な介護が実践できるための基礎能力を習得する。実習指導者の指導を受けながら、実習目標に沿った介護計画のたてかたや記録について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を養い、介護福祉士の役割について理解を深めることを目的とする。</p> <p>2. 実習内容の区分及び形態 「実習施設・事業等（ ）」及び「実習施設・事業等（ ）」に区分して、210時間の介護実習を実施する。 「実習施設・事業等（ ）」 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて、利用者、家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践・多職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置く。 秋学期に「介護総合演習」を配当し「実習施設・事業等（ ）」において5日間の実習を行う。1日8時間。</p>		
備 考	<p>実習先でオリエンテーションを受け、実習担当職員からの指導・助言を受けながら実習を行います。 介護総合演習を履修していなければ介護実習ができません。 個人情報保護法違反を行った時、介護総合演習で注意される態度を取ったとき、感染予防に配慮できなかった等、実習施設に不利益を与えてしまったときには実習中止となり介護福祉士資格を取ることはできません。</p>		

授 業 名	ターミナルケア論			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1753
英 文 名	Thory of Terminal Care			開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	野田 隆生			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>「死」とは何か? 「いのち」って何だろう? この問いにははっきりとした応えはあるのだろうか。人は必ず死ぬという事実は、知識としてみなさんは理解しています。しかし、あなた自身や親しい人が余命いくばくもないと告知を受けたとしたら、あなたはどのような思いを抱きますか。</p> <p>本講では、まず現代社会における「死」の様相を明らかにし、次いで「死にゆく人」への関わりについて社会福祉なかならず介護においてどのような視点で捉えていくことが必要とされるのかについて考察を深めていきたい。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 現代社会における「死」と「生」について意見を述べるができる。</p> <p>2) 自らの死生観を養うことができる。</p> <p>3) 介護における終末期の関りについて「こころ」と「からだ」の両面より支援する技術と創造力を身につけることができる。</p> <p>4) 「生きること」への執着ではなく人生観を見出すことができる。</p> <p>5) 安楽死や尊厳死の違いについて説明することができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	随時資料を配布する。								
参 考 書	講義時に随時、文献・資料を紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	小レポートにはコメントを添えて返却する。								
留意事項	平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究することができるようにして下さい。								
オフィス アワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。								
実践的教育									

授業名	ターミナルケア論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～「死」とは何なのか？～	(学修内容) 講義の進め方、成績評価の方法について説明する。 「死」に関してディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(15分) シラバスより学びの道筋をイメージしておく。
第2回	現代社会における誕生と死	(学修内容) 統計資料に基づき誕生と死の現状を把握し、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 『国民の福祉と介護の動向』『国民衛生の動向』や人口動態統計のサイトを閲覧しておく。
第3回	社会問題としてのターミナル・ケア	(学修内容) ターミナル・ケアが社会問題となっている背景について学び、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 時事問題の中から学修項目に照らした気になる話題を選択しておく。
第4回	ターミナル・ケアの歴史 ～ホスピス・PCUの成立過程～	(学修内容) ターミナル・ケアの歴史をその語義よりたどりながら、ホスピスならびにPCUへと変遷する過程について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 紹介した書籍を読んでおく。
第5回	ターミナル・ケアの歴史 ～ビハラの誕生と成立過程～	(学修内容) 仏教と基礎としたターミナル・ケアの成立過程について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 紹介した書籍を読んでおく。
第6回	全人的ケアについて ～4つの痛みへのアプローチ～	(学修内容) 全人的痛みの理解とその援助について事例を通じて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 紹介した書籍を読んでおく。
第7回	ホスピス病棟の実際 ～がん看護専門看護師を通じて～	(学修内容) ビデオ鑑賞；ホスピス病棟では、どのようなケアが展開されているのかを知り、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。
第8回	ビハラ病棟の実際 ～病と向き合う僧侶を通じて～	(学修内容) ビデオ鑑賞；ビハラ病棟では、僧侶がどのようなケアを展開し、患者と向き合っているのかを知り、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。
第9回	痛みを緩和する ～寄り添うケアに向けて～	(学修内容) ビデオ鑑賞；終末期の患者をアセスメントし、シートに記入する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、アセスメントシートに患者のニーズを記入し、どのようなケアを展開する必要があるのかをまとめる。
第10回	痛みを緩和する ～遺されるものへのケア～	(学修内容) ビデオ鑑賞；遺族の気持ちに寄り添いながら展開される緩和ケアについて知り、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。
第11回	生死をめぐる諸問題 ～生殖補助医療とその課題～	(学修内容) 生殖補助医療の現状と代理出産の現実から主題に迫っていく。 資料をよく読み込んだ上で、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配布したワーク・シートを作成しておくこと。
第12回	生死をめぐる諸問題 ～安楽死と尊厳死～	(学修内容) 安楽死と尊厳死の違いを理解し、現場にて齟齬なく意見を述べるができるよう事例を通して学び、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前に配布したワーク・シートを作成しておくこと。
第13回	満足な看取りは可能か？ ～福祉施設での看取り～	(学修内容) ビデオ鑑賞；福祉施設での看取りについて考え、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。
第14回	満足な看取りは可能か？ ～在宅緩和ケアの現場より～	(学修内容) ビデオ鑑賞；在宅での緩和ケアの現場を取り上げ、家で看取ることについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後、小レポート(文字数800字)を課題とする。
第15回	まとめにかえて ～「生ききる」ことを支える介護とは～	(学修内容) 「生ききる」ことを支えることのできる地域社会の構築について考え、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容)(30分) これまでの学びについて各回の要点をまとめておくこと。



授 業 名	障害の理解			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1761
英 文 名	Study of Disability			開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	武田 康晴			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>本講義のタイトルは「障害の理解」ではあるが、単に医学レベルでの障害の理解ではなく、社会モデルとしての障害理解を重視し、また障害をもちながら営む「生活」という視点で障害について理解を深めていく。障害に関する考え方は医学モデルから生活モデル、社会モデルへと変遷し、介護福祉士は介護という専門性を用いて生活支援に取り組むソーシャルワーカーだからである。具体的には、障害概念の変遷、主観としての障害、障害者福祉の制度、障害種別と生活、障害種別と介護等について扱っていく。単なる知識の習得だけではなく実践に活用できる応用力・実践力の獲得を目指すため、学生同士、教員と学生による対話、ディスカッションを取り入れながら授業を進める。</p>								
学修成果 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 障害者福祉の基本理念であるノーマライゼーションについて、成り立ちを含め説明することができる。</li> <li>2) 障害概念について、医学モデルと生活モデル、社会モデルの違いについて明確に説明することができる。</li> <li>3) 自立支援について、介護場面における具体例をあげて説明することができる。</li> <li>4) 各種の障害（身体障害、知的障害、精神障害、発達障害など）について、特徴を説明することができる。</li> <li>5) 各種の障害特性と介護の留意点について、基礎的な事柄を説明することができる。</li> <li>6) その他、介護福祉士国家試験において合格ラインをクリアする水準を到達目標とする。</li> </ol>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学习支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会『介護福祉士養成講座14 障害の理解』中央法規出版								
参 考 書	授業の中で随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポート等に関してはコメントの記入、口頭での解説で対応する。								
留意事項	実戦を想定して授業を実施するので、常に自分の考えを持ちながら授業に参加する。								
オフィス アワー	研究室前に掲示し、授業中に口頭でも伝える。								
実践的教育									

授業名	障害の理解	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 障害に対するイメージ	(学修内容) シラバスを活用しながら授業計画について説明する。 障害に対するイメージについて、講師と学生がディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: シラバスの内容を確認しておく。
第2回	障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーションについて	(学修内容) 障害者福祉の基本理念のうちノーマライゼーションについて、定義、内容、達成過程、現代的意義について解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめておく。事後: ノーマライゼーション達成過程の具体例についてまとめる。
第3回	障害者福祉の基本理念 自立と自立支援	(学修内容) 障害者福祉の基本理念である自立と自立支援について、概念成立の背景から福祉分野での意味について具体例を交えながら解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 自立と自立支援に関する自分なりの考えをまとめておく。事後: 自立と自立支援について、介護現場での具体例を書き出してみる。
第4回	障害とは 医学モデルと生活モデル	(学修内容) 医学モデルから生活モデルへの価値の転換という視点から、国際障害分類及び国際生活機能分類について具体例を交えて解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、分かったことをまとめておく。事後: ICFを活用した介護支援の例について書き出してみる。
第5回	障害とは 法制度に見る障害の定義	(学修内容) 障害者基本法など各種法制度に位置付けられた障害の定義について、法律の成立や改正の背景も含めて解説する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、障害の定義にあたる部分に線を引いてくる。事後: 各障害について、特徴の概要についてノートにまとめる。
第6回	障害とは 障害が及ぼす心理的影響(障害の主観的側面)	(学修内容) 障害をもつ人の側に立ち、障害の心理的・主観的側面について基本事項を解説し、ディスカッションにより共感的理解に近づけていく。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 書籍またはインターネットで障害者の記事を探し、気持ちに着目して呼んでくる。事後: ディスカッションで感じたことをまとめる。
第7回	障害の理解とその援助 身体障害(肢体不自由・内部障害)の理解と援助	(学修内容) 身体障害のうち肢体不自由と内部障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第8回	障害の理解とその援助 進退障害(視覚障害・聴覚障害)の理解と援助	(学修内容) 身体障害のうち視覚障害と聴覚障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第9回	障害の理解とその援助 知的障害の理解と援助	(学修内容) 知的障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第10回	障害の理解とその援助 発達障害の理解と援助	(学修内容) 発達障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第11回	障害の理解とその援助 精神障害の理解と援助	(学修内容) 精神障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第12回	障害の理解とその援助 難病の理解と援助	(学修内容) 難病について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後: 介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第13回	事例研究 障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討	(学修内容) これまで学んできた知識を総括的に活用し、障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討しディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: これまでの学修内容を振り返り、不明な点は解決しておく。事後: ディスカッションの内容をまとめる。
第14回	事例研究 障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討	(学修内容) これまで学んできた知識を総括的に活用し、障害者の事例について介護福祉の視点から分析、検討しディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 事前: これまでの学修内容を振り返り、不明な点は解決しておく。事後: ディスカッションの内容をまとめる。
第15回	授業の総括と質疑応答	(学修内容) 全ての授業内容を総括的に振り返りながらまとめ、学生の質問に質疑応答形式で答えながら内容をさらに深めていく。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: これまでの授業を振り返り、質問事項をまとめておく。

授 業 名	生活支援技術		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1706
英 文 名	Livelihood Support Skills I		開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	吉島 紀江		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	本講義では、「生活支援の理解」「住環境の整備」「自立に向けた家事の介護」生活を支える基盤の家事の基本を学びます。さらに、高齢者が暮らす施設や介護予防事業で行われているレクリエーション活動や介護予防運動を実施するためのアセスメントの視点、素材の選び方と展開の方法をペアワークやディスカッションを行いながら実践に活用できるように学習をします。							
学修成果 到達目標	1) 介護福祉士が行う生活支援の基本的な考え方を説明することができる。 2) 生活の意欲を引き出す介護予防活動を企画できる。 3) 生活を行うための家事支援が実践できる。							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (	
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会、介護福祉士養成講座7「生活支援技術」2019、中央法規 最新 介護福祉士養成講座6『生活支援技術』中央法規のテキストについては、下記の授業でも使用します。 春学期「介護技術」- 木村あい先生担当、秋学期「生活支援技術」 鈴木みどり先生担当							
参 考 書	楽しさを通じた心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法 公益財団法人 日本レクリエーション協会 2017							
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポート等については、コメントを付けて返却します。実技については、その都度コメントを返します。							
留 意 事 項	家庭での家事支援の実践をします。平日頃から家事の実践や新聞広告に目を通す、身近なスーパーマーケットでの買い物など意識的に行ってください。							
オフィ ス ア ワ ー	担当授業の終業後に実施する。研究室入室時に対応します。							
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士資格を所持 高齢者施設、児童福祉施設勤務経験あり							

授業名	生活支援技術	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 生活と介護福祉士が行う生活支援の理解	(学修内容) 授業概要の説明、生活とは何かを概説する 個人ワーク (事前事後学修課題の内容)(20分) 事前 シラバスを読んでくる 事後 祖父母・親世代が20代の頃あったものなかったもの
第2回	社会の変化に伴う生活の変化についての理解1 ライフサイクルと心の豊かさについて	(学修内容) 事前課題の口頭発表とディスカッションの準備をする (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前 親世代が20代の頃あったもの、なかったものについてインタビュー
第3回	社会の変化に伴う生活の変化についての理解2 生活習慣と生活支援	(学修内容) 事前課題の口頭発表とディスカッションを通して、生活習慣を理解し介護福祉士が行う生活支援について考える。 (事前事後学修課題の内容)(40分) 事前 1日に行われる家事、食文化についてのワークシートを埋める
第4回	自立生活を支える家事1 生活の自立と家事支援	(学修内容) 介護保険の介護サービスを踏まえて、生活が自立するための生活支援とサービスについて理解する。実際に買い物を行う (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 介護保険、介護サービス「生活援助」の内容を調べてくる 事後 テキストP216～228を読み、わからない語句を調べてくる
第5回	自立生活を支える家事2 調理の介助方法	(学修内容) ICFに基づき、調理に関する一連の流れを理解し、在宅で行う調理の基本を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストP216～228を読み、わからない語句を調べてくる 事後 テキストP228～232を読み、わからない語句を調べてくる
第6回	自立生活を支える家事3 家計管理の介助方法(クーリングオフを含む)	(学修内容) ICFに基づき、家計管理を行うときの視点や介助手順を理解し、家計管理の方法を知る (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストP228～232を読み、わからない語句を調べてくる 事後 テキストP235～236を読み、わからない語句を調べてくる
第7回	自立生活を支える家事4 洗濯の介助方法	(学修内容) 衣類の洗濯表記を理解し、洗濯の方法やシミの取り方、アイロンの方法を理解する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストP235～236を読み、わからない語句を調べてくる 事後 テキストP233～234を読み、わからない語句を調べてくる
第8回	自立生活を支える家事5 裁縫の介助方法	(学修内容) ICFに基づき、衣類の補修の方法、縫い方を理解し、実際に縫う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 テキストP233～234を読み、わからない語句を調べてくる 事後 介護保険の変遷について調べてくる
第9回	自立生活を支える家事6 室内環境と掃除の介助方法	(学修内容) ICFに基づき、掃除やごみ捨ての基本を理解し、セルフネグレクトの問題についてグループワークを通して考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 介護保険の変遷について調べてくる 事後 フレイルとサルコペニア、ロコモの語句を調べてくる
第10回	介護予防1 介護予防の実践	(学修内容) 介護予防の実践と介護予防の実践方法について理解する(計画を含む) (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 フレイルとサルコペニア、ロコモの語句を調べてくる 事後 介護予防の実践している活動を調べる
第11回	介護予防2 施設における生活意欲を引き出す取り組み	(学修内容) 通所施設における活動についてディスカッションしながらプログラムやプログラムの実際を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 介護予防の実践している活動を調べる 事後 地図より災害時に想定される課題を抽出する
第12回	介護予防3 地域における様々な介護予防及び災害時の準備	(学修内容) 地域における様々な介護予防及び災害時に向けて準備をフィールドワークを通して災害予防の実際に触れる (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 地図より災害時に想定される課題を抽出する 事後 フィールドワークでの結果を整理し、発表準備をする
第13回	介護予防4 災害に時の準備と想定される課題と予防方法	(学修内容) フィールドワークの結果報告と課題抽出をし、介護が必要な人の災害時の支援を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 フィールドワークでの結果を整理し、発表準備をする 事後 災害時派遣福祉チーム(DWAT)について調べる
第14回	介護予防5 災害時派遣福祉チームの取り組み	(学修内容) ゲストスピーカーを迎え災害時の福祉施設の実践的な取り組みを理解し、介護福祉士の役割を知る (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 災害時派遣福祉チーム(DWAT)について調べる 事後 介護施設で起こる事故について調べる
第15回	生活支援における介護福祉士の役割・生活支援技術のまとめ	(学修内容) 災害の介護福祉士の役割と対応について、これまでの学びを踏まえてプレゼンテーションし、理解を深める (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前 介護施設で起こる事故について調べる 事後 15回分の学びの整理をする

授 業 名	コミュニケーション技術			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CW1754
英 文 名	Communication Skills			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修		
担 当 者	木村 あい			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>様々な障がいのある人と円滑な援助関係の構築のために、障害に応じた基本的知識と具体的なコミュニケーション方法について学ぶ。また、介護を必要とする人の家族や他の職種に対するコミュニケーション方法、さらには介護福祉士として自分の意見や感情を述べる力を身につける。</p> <p>介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を身につける。</p> <p>授業の方法としてはコミュニケーションに障害のある人との援助関係形成について、ビデオ等の視聴覚教材や事例、ロールプレイ、グループワーク、ディスカッションを用いて演習形式で学習する。</p>								
学修成果 到達目標	<p>障害に応じたコミュニケーション方法を身につけることができる。</p> <p>自分の考えを整理して他者に伝えることができる。</p> <p>介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解できる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	コミュニケーション技術 ( 中央法規出版 )								
参 考 書	適宜紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	コメントをつけて返却する。								
留意事項									
オフィス アワー	初回の授業で説明する。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：障害者の入所施設で生活指導員として勤務 シリアダマスкас脳性麻痺教育センターに青年海外協力隊員として派遣</p>								

授業名	コミュニケーション技術	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方 介護実習の振り返り (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの内容を確認しておくこと 介護実習について説明できるように準備をしておくこと
第2回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 実習からの気づき	(学修内容) 実習で困った場面をピックアップして、それをロールプレイで再現する。 ビデオ撮影をする。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習の振り返りを行う。
第3回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 実習からの気づき	(学修内容) ビデオを視聴し、自身のコミュニケーションの特徴を知り、よりよい方法を考える(ディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 実習での自らの課題について振り返りを行うこと。
第4回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 視覚障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) 視覚障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫について考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 傾聴、共感についてを復習しておく
第5回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 聴覚障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) 聴覚障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫について考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 非言語コミュニケーションについてを復習しておく。
第6回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 言語障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) 言語障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫を考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 非言語コミュニケーションを復習しておく。
第7回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 コミュニケーション障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) コミュニケーション障がいのある人の事例でロールプレイを行う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) コミュニケーションについてを復習しておく。
第8回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 精神障がい、発達障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) 発達障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫を考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 受容について復習しておく。
第9回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 知的障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) 知的障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫を考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 受容についてを復習しておく。
第10回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 重度障害児とのコミュニケーション	(学修内容) 重度障害児とのコミュニケーションの留意点や工夫を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 受容についてを復習しておく。
第11回	介護における家族とのコミュニケーション 配慮・気遣い	(学修内容) 家族とのコミュニケーションにおいて、配慮すべき事項や・気遣いについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) コミュニケーションの技法を復習しておく。
第12回	介護における家族とのコミュニケーション 利用者本人と家族の意向の調整を図る技法	(学修内容) 利用者本人と家族の意向の調整を図る技法を事例を通して実践する。 (ロールプレイ) (事前事後学修課題の内容) (30分) コミュニケーションの技法を復習しておく。
第13回	介護における家族とのコミュニケーション 相談、助言、指導	(学修内容) 家族とのコミュニケーションにおける、相談、助言、指導について学ぶ (グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 相談援助についてを復習しておく。
第14回	介護におけるチームのコミュニケーション 報告、連絡、相談 チーム運営の基本(チームの機能と構成、リーダーの機能と役割、リーダーシップとフォロワーシップ、課題発見と解決の過程PDCA)	(学修内容) その人を支えるチーム内のコミュニケーションにおいて、報告、連絡、相談の重要性について事例を通して考える。(ロールプレイ) (事前事後学修課題の内容) (30分) 相談援助を復習しておく。
第15回	介護におけるチームのコミュニケーション アサーティブコミュニケーション	(学修内容) アサーティブコミュニケーションについて グループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) コミュニケーションのまとめ

授 業 名	介護過程		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1709
英 文 名	Nursing Care Process I		開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	杉原 優子		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>利用者の望む生活の実現のためには、利用者ひとりひとりの生活上の課題を明確にし、根拠に基づいた介護実践が求められる。この授業では、演習やディスカッションを取り入れながら、利用者の課題解決の思考過程としての介護過程について理解する。</p>							
学修成果 到達目標	<p>1. 介護過程の意義を理解し、介護過程の全体像を説明できる。  2. 諸科目で学んだ知識・技術を統合し、利用者の状態像に合わせて介護過程を展開することを理解する。  3. 場面ごとの介護実践に根拠があり、それを説明できるようになることが求められていることを理解する。  4. 把握すべき情報を統合、課題を明確化でき、介護実践に結びつく計画が立てられる。</p>							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解		汎用的技能					
	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 (双方向型授業)		グループワーク I C T 活用 (自主学習支援)		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) (	
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新 介護福祉士養成講座9 介護過程」中央法規 2019年3月刊行							
参 考 書	適宜紹介する。							
課題に対する フィードバック の方法	授業の中で、補足・講評を行う							
留意事項	授業で使用したプリントや作成したシートは、毎回持参してください。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。また、随時、メールでの質問を受け付ける。							
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：大学卒業後、特別養護老人ホームの介護職員として従事。その後、介護支援専門員、老人短期入所施設施設長、認知症高齢者グループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所管理者等を経験。現在は地域密着型高齢者施設の複数の拠点の統括施設長。</p>							

授 業 名		介 護 過 程
授 業 計 画	学 修 項 目	学 修 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション 生活とは何か	(学修内容) 科目オリエンテーション・生活とは何かを振り返る 生活はどんな要素から成り立っているのかを理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) ・事前に自分自身がどのような生活を送っているか振り返り授業に出席する。 ・テキストの第1章を読んで出席する。
第2回	介護過程の意義と目的 介護過程のプロセス	(学修内容) 生活上の課題を、実体験に即して考える 日常生活の問題解決の思考過程から介護過程の展開の重要性を理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回授業で示したテキストの該当箇所を読んで授業に出席すること
第3回	アセスメント 情報収集「事実のとらえ方」	(学修内容) 事実をどのようにとらえるか 人のものの見方の特徴・記録の仕方(動画による演習) (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回授業で示したテキストの該当箇所を読んで授業に出席すること
第4回	<施設見学実習> 情報収集「情報の収集の方法」	(学修内容) 利用者とのコミュニケーション場面、関わりの中で得た情報を収集することを、実際に高齢者施設を見学し、方法や留意点を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回授業で示したテキストの該当箇所を読んで授業に出席すること
第5回	アセスメント ICFの視点	(学修内容) 事実のとらえ方をICFの視点で整理する (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回授業で示したテキストの該当箇所を読んで授業に出席すること
第6回	アセスメント 情報収集「情報の解釈・関連付け・統合化」	(学修内容) 情報のとらえ方、理解の仕方について考える 利用者の生きてきた時代と私の生きてきた時代の比較 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回授業で示したテキストの該当箇所を読んで授業に出席すること
第7回	アセスメント 情報収集「情報の解釈・関連付け・統合化」	(学修内容) 情報のとらえ方、理解の仕方について考える 在宅で暮らす高齢者、施設で暮らす高齢者、幅広い対象者増の比較 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回授業で示したテキストの該当箇所を読んで授業に出席すること
第8回	アセスメント 情報収集「課題の明確化」	(学修内容) 生活課題とは何か。課題の優先度について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回授業で示したテキストの該当箇所を読んで授業に出席すること
第9回	介護計画の立案	(学修内容) 「目標」とは何か。「目標設定の仕方」について学ぶ。期間、実現可能性など (事前事後学修課題の内容)(30分) 前回授業で示したテキストの該当箇所を読んで授業に出席すること
第10回	介護計画の立案	(学修内容) 援助内容、方法について 社会資源についての理解 家族の理解 (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回授業で示したテキストの該当箇所を読んで授業に出席すること
第11回	実施・評価	(学修内容) 計画を実施するうえでのチームアプローチ・多職種連携の必要性について知る。評価の方法と重要性について理解する (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回授業で示したテキストの該当箇所を読んで授業に出席すること
第12回	介護過程の展開の理解(事例検討) 施設の利用の事例	(学修内容) 施設における自立支援、自己決定について考える。これまでの生活を繋ぐ視点を学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回授業で示したテキストの該当箇所を読んで授業に出席すること
第13回	介護過程の展開の理解(事例検討) 在宅の利用者の事例	(学修内容) 在宅生活継続のために求められる支援のポイントについて考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回授業で示したテキストの該当箇所を読んで授業に出席すること
第14回	介護過程の展開の理解(事例検討) 地域密着型サービスの事例検討	(学修内容) 地域での生活継続に必要な社会資源を知り介護過程の展開を考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 前回授業で示したテキストの該当箇所を読んで授業に出席すること
第15回	介護過程の実際 まとめ	(学修内容) これまでの授業の振り返り 生活の主体者への視点を構築する。チームアプローチについて考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業で使用した配布資料、テキストの該当箇所を振り返り授業に出席する



授 業 名	介護総合演習			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CW1759
英 文 名	Nursing Care Practce			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修		
担 当 者	高岡 理恵・野田 隆生			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	<p>質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義と方法について理解できることをねらいとする。一つは、夏季実習の振り返りを行い、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養う。二つは、在宅実習へ向けて事前学習を行うとともに、明確になった自己の課題を克服し、実習から得られた介護観を形成する。三つは、介護実習を振り返るとともに、今までに学んだ授業と関連付け、介護実践研究課題を見つけ探究する。具体的には前半に、夏季実習の振り返りとカンファレンス、中期は、在宅実習へ向けての準備、後半は研究をすすめていくこととする。</p>								
学修成果 到達目標	<p>介護の知識や技術を実践と結び付けることができる。 自己の課題を明確にし、言語化することができる。 エビデンスの構築につながる実践研究を行うことができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	新・介護福祉士養成講座『介護総合演習』、中央法規								
参 考 書	適宜、紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	実習評価についてはルーブリックで示す。実習施設から返却された評価については個別面談にて評価を確認する。								
留意事項	介護福祉士養成の締めくくりとして、他の教科で学んだ内容と実習からの学びを統合し、実践研究を行います。エビデンスの構築につながるように、研究テーマにしたがって文献を収集し自主的に研究を行ってください。								
オフィス アワー	授業時に提示します。 必要などときにはGメールを活用して連絡してください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として勤務。								

授 業 名		介護総合演習
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護実習事後指導 1	(学修内容) 秋学期授業の進め方とルーブリックを使用して夏季実習の自己評価を行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 実習の自己評価を行う。 事後 夏季実習の報告をまとめておく。
第2回	介護実習事後指導 2 カンファレンス準備	(学修内容) 夏季実習の振り返りをまとめ、カンファレンスの準備を行う。資料の作成を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 夏季実習の報告をまとめておく。 事後 実習報告資料作成。
第3回	介護実習事後指導 3 カンファレンスの実際	(学修内容) 施設職員と共に、カンファレンスを行い、それぞれの学びを理解し自己の学びを深める。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 実習報告資料作成。 事後 実習施設の概要について調べてくる。資料持参すること。
第4回	事前学習の内容と方法1 実習施設の理解	(学修内容) 居宅介護実習の理解を行い目標を設定の準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 実習施設の概要について調べてくる。資料持参すること。 事後 事務手続きに必要なものを準備する。
第5回	事前学習の内容と方法2 在宅実習事務手続き	(学修内容) 実習に必要な書類や課題について整理しマナーやルールについて確認を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 事務手続きに必要なものを準備する。 事後 実習に必要な書類を完成させておく。
第6回	事前学習の内容と方法3 実習目標の作成	(学修内容) 実習目標を整え清書を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 実習に必要な書類を完成させておく。 事後 実習記録に実習目標を清書しておく。
第7回	在宅実習事前オリエンテーション	(学修内容) 実習へ行く前の準備と守秘義務等についての再確認を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 実習記録に実習目標を清書しておく。 事後 自己の評価を主観的に評価する。
第8回	実習の振り返り 1 実習での学びを振り返る	(学修内容) 実習で学んだことを目標に沿って振り返り記録にとどめる。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事後 介護実習記録に施設の概要等を記録する。 事後 介護実習の振り返りを発表できるよう資料を作成する。
第9回	実習の振り返り 2 実習での学びを共有する	(学修内容) 目標に沿った振り返りを発表しディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 介護実習の振り返りを発表できるよう資料を作成する。 事後 自己の評価を主観的に評価する。
第10回	実習評価の確認と自己覚知	(学修内容) 客観的・主観的に居宅実習評価を行い、自己覚知を行う。(個別指導) (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前 自己の評価を主観的に評価する。 事後 学校での学びから探究したい事柄についてテーマを考える。
第11回	介護実践探求 1 研究を行う意義と方法	(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶとともに、春学期に選定した自己のテーマに沿って文献を収集し研究をすすめる。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 事前 テーマに即した必要な文献等を収集する。 事後 「はじめに」を完成させる。
第12回	介護実践探求 2 執筆作業 (個別)	(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ。 文献の取り扱いや表記の方法について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 「はじめに」を完成させる。 事後 配布した資料(研究方法)を読み研究を進める。
第13回	介護実践探求 3 執筆作業 (個別)	(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ。 章立てに基づいて研究を行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前 配布した資料(研究方法)を読み研究を進める。 事後 必要な文献を探す。
第14回	介護実践探求 4 執筆作業	(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ。 発表資料を作成する。 (事前事後学修課題の内容) (120分) 事前 必要な文献を探す。 事後 事例研究をまとめる。
第15回	介護実践探求 5 研究発表	(学修内容) 自身の介護実践研究をプレゼンテーションする。 他の発表者の研究を聞く。 (事前事後学修課題の内容) (45分) 事前 事例研究をまとめる。 事後 質疑応答した内容をまとめて提出する。

授 業 名	認知症の理解			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1714
英 文 名	Study of Dementia			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	早川 京子			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	認知症の人の身体的な機能、心理的・社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。認知症の医学的側面の理解、診断、治療、予防のための知識を学ぶ。								
学修成果 到達目標	脳の仕組みが理解できる。 認知症の症状、治療、予防が理解できる。 認知症の方の生活を理解し、支援ができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( ) ( )			課題発見・解決能力				
テキスト	最新介護福祉士養成講座 1 3 認知症の理解 第2版 中央法規出版株式会社								
参 考 書	井藤英喜 認知症の人の「想い」からつくるケア - 在宅ケア・介護施設・療養型病院編 - 株式会社インターメディアカ 長谷川和夫・加藤伸司 改定長谷川式簡易知能評価 中央法規 川畑 智 認知症の人が見ている世界 文響社 丹野智文 笑顔で生きる 文芸春秋 長谷川和夫 認知症でも心は豊かに生きている 中央法規								
課題に対する フィードバック の方法	小テストを実施し、解説します。								
留意事項	ニュースや新聞等の情報に目を通しておいってください。								
オフィス アワー	事前に掲示します。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：臨床と地域福祉の現場で18年勤務								

授 業 名		認 知 症 の 理 解
授 業 計 画	学 修 項 目	学 修 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション 認知症の基本的理解 認知症とは何かー	(学修内容) 認知症のある高齢者の現状と今後及び認知症の定義、全体像を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p 2 ~ 13を読んでおく
第2回	認知症の医学的側面の基本的理解 脳のしくみー	(学修内容) 脳のしくみについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト P 14 ~ 26を読んでおく
第3回	認知症の心理的側面の基本的理解 認知症の人の心理 -	(学修内容) 認知症の人の心理について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p 27 ~ 31を読んでおく
第4回	認知症の症状 - 中核症状 -	(学修内容) 中核症状の理解について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p 34 ~ 41を読んでおく
第5回	認知症の症状 生活障害 -	(学修内容) 生活障害の理解について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p 42 ~ 48を読んでおく
第6回	認知症の症状 BPSD -	(学修内容) B P S D の理解について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p 49 ~ 64を読んでおく
第7回	認知症の診断 - 認知症の診断と重症度 -	(学修内容) 認知症の診断と重症度について学ぶ HDS-Rを演習する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p 65 ~ 77を読んでおく
第8回	認知症の診断 - 認知症の原因疾患と症状 -	(学修内容) 認知症の原因疾患と症状・生活障害の資料を作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト P 78 ~ 95を読んでおく
第9回	認知症の診断 - 認知症の原因疾患と症状 -	(学修内容) 認知症の原因疾患と症状・生活障害についてパワーポイントを使って発表する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 認知症の症状と経過の理解するためのシートに目を通しておく
第10回	認知症の治療と予防	(学修内容) 認知症の治療薬と予防を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p 96 ~ 107を読んでおく
第11回	認知症の人を取り巻く状況	(学修内容) 認知症を取り巻く状況について年表を作成する (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p 110 ~ 120を読んでおく
第12回	認知症ケアの理念と視点	(学修内容) 認知症ケアの理念と視点について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p 121 ~ 135を読んでおく 実習施設の理念を事前に検索しておく
第13回	認知症当事者の視点からみえるもの	(学修内容) 認知症当事者の視点を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (30分) テキスト p 136 ~ 151を読んでおく
第14回	認知症当事者の視点からみえるもの	(学修内容) 配布資料をもとにディスカッションをする (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前に配布した資料を読んでおく
第15回	認知症当事者の視点からみえるもの	(学修内容) 「本人ガイド」をまとめる (事前事後学修課題の内容) (30分) 本人ガイドの準備しておく

授 業 名	こころとからだのしくみ			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1716
英 文 名	Structure of Mind and Body			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	早川 京子			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ及び機能低下が生活に及ぼす影響について理解する。								
学修成果 到達目標	基礎で学んだからだ及びこころのしくみを応用することができる。 それぞれの生活上の場面に応じたからだ及びこころのしくみを理解できる。 人生の最終段階のケアに応じたからだ及びこころのしくみを理解できる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 第2版 中央法規出版								
参 考 書	新訂 目でみるからだのメカニズム 医学書院 東京都健康長寿医療センター研究所島田千穂・伊藤美緒「認知症・超高齢者の看取りケア実践」日総研(2016年) 「死」が教えてくれた 幸せの本質 瀬戸崇史 株式会社ユサブル 「死ぬ瞬間」E・キューブラー・ロス 読売新聞社								
課題に対する フィードバック の方法	小テスト及びワークシートで学びを深めます。								
留意事項	基礎的なことに加えて、専門用語を多く用います。事前事後学習をしっかりとっておいてください。								
オフィス アワー	随時表示します。確認しておいてください。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：臨床と地域福祉の現場で18年勤務								

授業名	こころとからだのしくみ	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 移動に関連したからだのメカニズム	(学修内容) 授業の進め方・主な内容・評価方法についての説明 移動に関連したからだのメカニズムについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスをよく読んでおくこと
第2回	心身の機能低下が移動に及ぼす影響、変化の気づきと対応	(学修内容) 心身の機能低下が移動に及ぼす影響、変化の気づきと対応 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第3回	身じたくのしくみ	(学修内容) 身じたくのしくみについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第4回	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響、変化の気づきと対応	(学修内容) 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響、変化の気づきと対応について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第5回	食事のしくみ	(学修内容) 人間に必要な栄養素及び食事のしくみについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと。食事ワークシートを準備する。
第6回	心身の機能低下が食事に及ぼす影響、変化の気づきと対応	(学修内容) 心身の機能低下が食事に及ぼす影響、変化の気づきと対応について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第7回	入浴・清潔保持のしくみ	(学修内容) 入浴・清潔保持のしくみを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第8回	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響、変化の気づきと対応	(学修内容) 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響、変化の気づきと対応について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第9回	排泄のしくみ	(学修内容) 排泄のしくみについて学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第10回	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響、変化の気づきと対応	(学修内容) 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響、変化の気づきと対応について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 排尿日誌を準備する。テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと。排尿日誌を準備する。
第11回	休息・睡眠のしくみ	(学修内容) 休息・睡眠のしくみを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第12回	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響、変化の気づきと対応	(学修内容) 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響、変化の気づきと対応について学ぶ。 睡眠シートを準備する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第13回	人生の最終段階に関する「死」の捉え方	(学修内容) 「死」のとらえ方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第14回	「死」に対する心の理解	(学修内容) 「死」に対する心の理解を学ぶ。DVDを視聴する。 (事前事後学修課題の内容)(30分) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと。
第15回	終末期から危篤状態、死後のからだの理解及び医療職との連携	(学修内容) 終末期から危篤状態、死後のからだの理解及び医療職との連携について学ぶ。前回視聴のDVDについてディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 今までの資料すべてに目を通しておくこと

授業名	京都体験			開講学年	2回生	単位数	1単位	科目コード	
英文名	Kyoto Experiences			開講時期	春学期	必修選択	選択		
担当者	工藤 美和子			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	京都を舞台に事前学習をふまえた上でフィールドワークを実施する。事後学習では成果を発表し学外へ発信していく。								
学修成果到達目標	1) 京都の歴史や文化への興味・関心を深めることができる。 2) 学生自ら京都体験の企画を立案し課題解決への力を高めていく。								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	特に使用しない。適宜授業で資料を配付する。								
参考書	授業内で紹介する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出課題にはコメントを付して返却する。発表にはアドバイスをする。								
留意事項	フィールドワークを行う授業である。積極的な参加を求める。 フィールドワークを行うときは、授業時間外で日程の調整をするときがある。								
オフィスアワー	授業内で指示する。 【備考】オフィスアワーの時間であっても会議等で不在の場合があるため、事前にGmailで連絡をとることが望ましい。								
実践的教育									

授業名	京都体験	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業のすすめ方について説明。体験型授業に関する基本的事項を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認する。
第2回	第1回フィールドワーク事前調査 テーマを決める	(学修内容) フィールドワークのテーマや行き先、目的を決める。行程の計画を立てる(グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワーク先の行程計画を見直す(グループワーク)。
第3回	事前調査 発表	(学修内容) フィールドワーク先と行程の計画について発表する(グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークの行程計画を見直す。
第4回	フィールドワークの実施(第4回・5回と合同)	(学修内容) 事前調査にもとづいたフィールドワークを実施する。(第4・5回と合同) (事前事後学修課題の内容) (60分) 学外学習で学んだことをまとめ発表の準備をする。
第5回	フィールドワークの実施(第4回・5回と合同)	(学修内容) 事前調査にもとづいたフィールドワークを実施する。(第4回・5回と合同) (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークを通して発見したことをまとめる。
第6回	発表の準備	(学修内容) グループで調査したことをまとめて発表の準備をする(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークを通して発見したことをまとめる。
第7回	発表	(学修内容) グループで発表をする(PowerPoint)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者は発表準備をする。発表者以外の学生は気づいたことや感想をまとめる。
第8回	第2回フィールドワーク事前調査 テーマを決める	(学修内容) 各自でフィールドワークのテーマを決める。調査方法を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワーク先について考える。行程計画を見直す。
第9回	事前調査 テーマを発表	(学修内容) テーマと目的、調査方法を発表する(個人発表)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークの行程計画を見直す。
第10回	事前調査 テーマを発表	(学修内容) テーマと調査方法を発表する(個人発表)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークの行程計画を見直す。
第11回	フィールドワークの実施(第10回・第11回と合同)	(学修内容) 事前調査にもとづいたフィールドワークを実施する(第10・11回と合同)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークを通して学んだことをまとめる。
第12回	フィールドワークの実施(第10回・第11回と合同)	(学修内容) 事前調査にもとづいたフィールドワークを実施する(第10・11回と合同)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークを通して学んだことや発見したこと、新たな課題をまとめる。
第13回	発表の準備	(学修内容) 個人発表の準備をする(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者は発表準備をする。発表者以外の学生は気づいたことや感想をまとめる。
第14回	発表	(学修内容) 個人で調査・まとめたことを発表する(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者は発表準備をする。発表者以外の学生は気づいたことや感想をまとめる。
第15回	発表 授業の振り返り	(学修内容) 個人で調査・まとめたことを発表する(PowerPoint) (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表者は発表準備をする。発表者以外の学生は気づいたことや感想をまとめる。授業の振り返り定期試験の準備をする。



授 業 名	人物史			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	IC2331
英 文 名	History of Great People			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	工藤 美和子			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	本講義では、歴史上著名な人物を取り上げ、彼らが生前何を語っていたのか、そして死後どのように描かれたのかについて史資料を用いて考えていきたい。								
学修成果 到達目標	1) 現代に生きるわれわれにとって、取り上げた人物から彼らの時代的な意義を掴むことができる。 2) 時代と人物との関係を把握することができる。 3) 人物と思想を考える。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (80%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	使用しない。授業内で資料を配付する。								
参 考 書	適宜、講義内で紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	配布資料に関する解説、学生への考えにコメントを付け返却する。								
留意事項	歴史用語等、不明なことは事前に調べるが講義後に聞くこと。また、史料は講義中に読んでもらうので予習をしっかりとっておくこと。								
オフィス アワー	講義内で指示する。 【備考】オフィスアワーの時間内でも会議等で不在の場合がある。事前にメール等で予約することがのぞましい。								
実践的教育									

授業名	人物史	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 人物史とは何か (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認する。自身の好きな歴史的人物について調べておく。
第2回	聖徳太子 『日本書紀』	(学修内容) 『日本書紀』に描かれた聖徳太子像を知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 聖徳太子について調べる。配付資料を読んでおく。
第3回	聖徳太子 『聖徳太子絵伝』と太子信仰	(学修内容) 『聖徳太子絵伝』からみる太子信仰の諸相を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配付資料を読んでおく。授業内容を整理する。
第4回	行基 『続日本紀』 『日本霊異記』	(学修内容) 『続日本紀』と『日本霊異記』にみる行基像を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 行基について調べ、配付資料を読んでおく。授業内容を整理する。
第5回	鑑真 『東征伝絵巻』	(学修内容) 『東征伝絵巻』にみる鑑真像を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 鑑真について調べ、配付資料を読んでおく。授業内容を整理する。
第6回	藤原道長 『御堂関白記』 『栄花物語』	(学修内容) 日記や物語を通して藤原道長像について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 藤原道長について調べ、配付資料を読んでおく。授業内容を整理する。
第7回	藤原道長 『紫式部絵日記』	(学修内容) 『紫式部絵日記』に登場する藤原道長像を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 『紫式部絵日記』について調べ、配付資料を読んでおく。授業内容を整理する。
第8回	フィールドワーク	(学修内容) フィールドワーク (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自、誰を調べ何に注目するのか、注目した点について調べる。発表準備をする。
第9回	発表	(学修内容) 各自発表する (PowerPoint) (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自が設定した人物についてレジュメを作成しPowerPointを使って発表する。授業内容を整理する。
第10回	平清盛 『平家物語絵巻』および浮世絵	(学修内容) 『平家物語絵巻』や浮世絵に描かれた平清盛像を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 平清盛について調べ、配付資料を読んでおく。授業内容を整理する。
第11回	法然 御法語	(学修内容) 御法語から法然像を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 法然上人について調べ、配付資料を読んでおく。授業内容を整理する。
第12回	法然 『法然上人絵伝』	(学修内容) 『法然上人絵伝』に描かれた法然像を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 法然上人について調べ、配付資料を読んでおく。授業内容を整理する。
第13回	親鸞 『親鸞聖人伝絵』	(学修内容) 法然上人との関わりを通して親鸞像を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 親鸞について調べ、配付資料を読んでおく。授業内容を整理する。
第14回	一遍 『一遍聖絵』	(学修内容) 『一遍聖絵』にみる一遍像を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 一遍について調べ、配付資料を読んでおく。授業内容を整理する。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業のふり返り。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業をふり返り、定期試験の準備をする。

授 業 名	日本の文学と心		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC2213
英 文 名	Japanese Literature and Mind		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	平間 尚子		対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	この授業では、日本の文学のなかでも古典文学を主に扱う。古典文学作品を通して、現代をいきる私たちと共通する、もしくは異なる文化・思想・心情について考察する。近代や現代の作家が描く古典文学作品との比較検討についても行いたい。作品を理解するために、映像を見たり、グループワークやディスカッションを行いながら授業を進める。							
学修成果 到達目標	1) 日本文学の概要と特質を説明することができる。 2) 作品を読み、分からない言葉等を調べ、知識を習得することができる。 3) あらすじと読了後の感想や批評をまとめることができる。							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能				
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 ( 60% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (	
テキスト	授業内で、資料プリントを適宜配付する。							
参 考 書	黒田日出男『吉備大臣入唐絵巻の謎』(小学館、2005年)。その他、適宜、授業内で紹介する。							
課題に対する フィードバック の方法	発表や感想についてフィードバックを行う。 提出された課題にはコメントを記して返却する。							
留意事項	予習として作品を読んでおくこととともに、発表に対して積極的な質問・感想を求める。受講者数によって個人かグループかは変化はするが、発表があるので十分に準備をしておくのもほしい。							
オフィス アワー	研究室前に日時を掲示する。それ以外の時間でも研究室に在室していれば対応する。急ぎの場合は事前にメールで連絡すること。 【備考】オフィスアワーの時間帯であっても、会議等で在室できない場合がある。							
実践的教育								

授業名	日本の文学と心	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の概要と進め方について理解する。 上代から近世の日本文学の流れを知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: シラバスを読んで、わかりにくい点があればメモをしておく。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第2回	作品の鑑賞 古典文学における異界 『竹取物語』から「かくや姫の物語」への展開	(学修内容) 『竹取物語』の成立と内容を理解する。高畑勲監督「かくや姫の物語」に描かれたもの、そうでないものを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第3回	作品の鑑賞とディスカッション 古典文学における異界 映画「かくや姫の物語」に描かれたもの	(学修内容) 原作『竹取物語』と映画「かくや姫の物語」に描かれたもの、そうでないものを比較検討するなど、受講者同士で議論を交え考察を深める。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第4回	古典文学における愛 『伊勢物語』・『大和物語』	(学修内容) 伊勢物語・大和物語の成立と内容を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 発表準備をする。レジュメを作成する。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第5回	作品の鑑賞とディスカッション 古典文学における愛 (絵巻を読む) 『道成寺縁起』	(学修内容) 道成寺縁起の内容について理解する。受講者同士で議論を交え考察を深める。印象に残った場面について発表をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: レジュメを準備し配付する。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第6回	作品の鑑賞とディスカッション 古典文学における病 (絵巻を読む) 『病草子』	(学修内容) 病草子の内容について理解する。受講者同士で議論を交え考察を深める。印象に残った場面について発表をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: レジュメを準備し配付する。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第7回	古典文学における仏・菩薩 観音菩薩・地藏菩薩の救済	(学修内容) 観音菩薩・地藏菩薩の靈験譚について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 作品を読み、分からない言葉は各自調べておくこと。 事後: リアクションペーパーを提出する。
第8回	古典文学における仏・菩薩 阿彌陀仏の救済	(学修内容) 阿彌陀仏の靈験譚について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 作品を読み、分からない言葉は各自調べておくこと。 事後: リアクションペーパーを提出する。
第9回	作品の鑑賞とグループワーク 古典文学における人と動物 『一遍上人絵伝』に描かれたもの 作品の鑑賞と調査	(学修内容) 絵巻に登場する動物について、グループに分かれて調査を行い考察をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 作品を読み、分からない言葉は各自調べておくこと。 事後: リアクションペーパーを提出する。
第10回	作品の鑑賞とグループワーク 古典文学における人と動物 『一遍上人絵伝』に描かれたもの 作品の調査と発表	(学修内容) 絵巻に登場する動物について、具体的にまとめ、発表する。中世の人と動物の関わり方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 作品を読み、分からない言葉は各自調べておくこと。 事後: リアクションペーパーを提出する。
第11回	古典文学における夢 『宇治拾遺物語』 『更級日記』ほか	(学修内容) 古典文学における夢の役割について学ぶ。また、夢を主題とした作品を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 作品を読み、分からない言葉は各自調べておくこと。 事後: リアクションペーパーを提出する。
第12回	古典文学における超能力 (絵巻をよむ) 『吉備大臣入唐絵巻』	(学修内容) 吉備大臣入唐絵巻の内容について理解する。印象に残った場面について発表をする。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 作品を読み、分からない言葉は各自調べておくこと。 事後: リアクションペーパーを提出する。
第13回	古典文学における偉人 吉備大臣と安倍仲麻呂	(学修内容) 古典文学に描かれる吉備大臣と安倍仲麻呂について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 作品を読み、分からない言葉は各自調べておくこと。 事後: リアクションペーパーを提出する。
第14回	古典文学における笑い 落語鑑賞「崇徳院」ほか	(学修内容) 古典文学における「笑い話」から現代の落語への流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 作品を読み、分からない言葉は各自調べておくこと。 事後: リアクションペーパーを提出する。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業のまとめ。印象に残った作品について議論する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前事後: これまでの授業をふり返り。

授 業 名	装いの文化			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	IC2323
英 文 名	Clothing Culture			開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	馬場 まみ			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>人々の装いは、時代により、また地域により変化してきた。本講義では、日本と西洋の女性の装いの変化と現代の服飾文化を概観し、装いの文化の豊かさ、多様性を理解する。さらに、人々が装いによって何を表現してきたのかを考える。理解を深めるために、適宜映像を鑑賞する。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1. 日本の服飾文化の変化を理解することができる。 2. 西洋の服飾文化を理解することができる。 3. 現代の装いの文化について理解できる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	使用しない。適宜資料を配付する。								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項									
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。								
実践的教育									

授業名		装いの文化
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 講義内容と授業の進め方について (事前事後学修課題の内容)(10分) (事前) シラバスを読んで読んで学びの目標を理解する
第2回	社会と装い	(学修内容) 様々な社会の装いと多様性を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 興味ある地域の装いについて調べてくる
第3回	平安時代の装い: 貴族の装い	(学修内容) 平安時代の身分階級と貴族の装いを理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 平安時代の貴族の生活について調べておく
第4回	平安時代の装い: 文様と色彩	(学修内容) 平安時代時代の装いと文様・色彩について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 平安時代の服装について予習する
第5回	安土・桃山時代の装い	(学修内容) 安土・桃山時代の染織品と装いを理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 安土・桃山時代の生活について予習する
第6回	江戸時代の装い: きものの文様と色彩	(学修内容) 女性の装いときものの文様、色彩を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) きものの文様について予習する
第7回	江戸時代の装い: きもの・帯・化粧	(学修内容) 女性の装いときもの・帯・化粧について (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 江戸時代の女性の装いについて予習する
第8回	近代の装い: 洋服と和服	(学修内容) 洋服の導入と和服について理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 近代における洋服の導入について予習する
第9回	近代の装い: 和服文様の近代化	(学修内容) 近代的な和服文様について (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 配付資料を読んで近代の和服文様について予習する
第10回	西洋のファッション: 近代までの歴史	(学修内容) 近代までの西洋ファッションの歴史 (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 洋服の歴史について調べておく
第11回	西洋のファッション: 近代的洋服の成立	(学修内容) 社会の変化と近代的洋服の成立について (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 配付資料を読んで洋服の変化を予習しておく
第12回	西洋のファッション: シャネル	(学修内容) シャネルの生涯とファッション (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) シャネルについて調べてくる
第13回	西洋のファッション: 戦後の装いとディオール	(学修内容) ディオールのファッション (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) ディオールについて調べてくる
第14回	日本人デザイナー	(学修内容) 日本人デザイナーの活動を理解する (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 日本人デザイナーを一人とりあげて調べてくる
第15回	現代の装いの文化	(学修内容) 装いの文化の多様性を理解し、現代の装いの特徴を考える (事前事後学修課題の内容)(30分) (事前) 様々な社会の装いをまとめておく

授 業 名	日本の歳時と年中行事			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	IC1401
英 文 名	Seasonal and Annual Events			開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	伊藤 茂樹			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	日本は様々な行事があります。例えば、正月、節分、夏祭り。季節に相応した特色ある行事が存在します。講義では、伝統ある日本の行事を広く学ぶことを目的とします。行事の意義をそれぞれを正確に理解し文献を探索し、フィールドワークではその一端を体験します。また授業内で各自が選んだ課題に取りくんでその成果を発表し、プレゼンテーション能力を高めます。								
学修成果 到達目標	1) 四季にまつわる日本の諸行事を理解する 2) 地域における習慣の相違を学び、地域文化を尊重することを目指す 3) 様々な文献を駆使して積極的に調べる方法を身につける								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 60% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	必要資料をこちらで配布します。								
参 考 書	授業内で適宜、紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートを回収後、コメントをして返却します。								
留意事項	関連する本、例えば祭り、暦、日本の習俗についての本を積極的に読んでください。								
オフィス アワー	後日、研究室に掲示します。								
実践的教育									

授業名	日本の歳時と年中行事	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、本講義で学ぶ内容を説明します。桜見学。	(学修内容) 講義の内容を説明します。また、近辺の桜の見学に行きます。 (事前事後学修課題の内容) (20分) シラバスをじっくりと読んでください。
第2回	京都東山の春行事 - 知恩院の御忌	(学修内容) 京都の春の行事ともいえる知恩院の御忌について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ノートをしっかりとまとめてください。配布プリントを参照してください。
第3回	知恩院御忌の参拝 - フィールドワーク	(学修内容) 衣装比べと呼ばれる知恩院の御忌を参拝して、行事を拝観してもらいます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回のノートを参照すること。授業後、感想文を書くこと。
第4回	元号について	(学修内容) 日本の元号について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ノートをまとめてください。配布プリントを参照してください。
第5回	日本の暦について	(学修内容) 日本の暦について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (20分) ノートをまとめる。配布プリントを参照する。
第6回	フィールドワーク - 京都御所	(学修内容) 京都御所を拝観します。 (事前事後学修課題の内容) (50分) フィールドワークで発見したことや感じたことをまとめてもらいます。
第7回	日本の年中行事	(学修内容) 日本古来からの行事。また近年はやりだした行事などをグループワークで探ります。内容を検討し皆でディスカッションします。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 皆さんが関心を持つ近年の行事や地元の祭りを探りましょう。
第8回	疫病について	(学修内容) 人々を苦しめてきた疫病について。歴史的に概説します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容をまとめ、整理してもらいます。
第9回	疫病と闘う祈り	(学修内容) 疫病に勝つために行う祈りの行事について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 京都や地方の疫病退散行事を調べる。
第10回	発表方法とレジュメの作成	(学修内容) 関心を持った日本の行事(祭り)について、その魅力を発表してもらいます。レジュメの作成と発表方法を講義します。 (事前事後学修課題の内容) (90分) レジュメの作成
第11回	発表 - 第一グループ	(学修内容) 調べた内容を発表してもらいます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 発表した内容を提出。また、他人の発表の評価をしてください。
第12回	発表 - 第二グループ	(学修内容) 調べた内容を発表してもらいます。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 発表した内容を提出。また、他人の発表の評価をしてください。
第13回	討論会	(学修内容) それぞれの発表の良い点・悪い点を検討します。 (事前事後学修課題の内容) (40分) 検討した内容をまとめて提出してください。
第14回	フィールドワーク - 祇園祭りゆかりの場所	(学修内容) 祇園祭りのゆかりの場所にフィールドワークに行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークについて感想や発見したことをまとめてもらいます。
第15回	講義のまとめ	(学修内容) これまでの内容をふり振り返りまとめます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ノートやプリントを整理し、関心のあったところをまとめてレポート提出してください。



授 業 名	芸術と文化			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1302
英 文 名	Art and Culture			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	伊藤 茂樹			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>芸術とは、人間の生活に潤いをもたらします。芸術には様々な分野があります。それぞれ先人の苦悩や努力があらわされており、学ぶことがたくさんあります。本講義では、そのような芸術と文化の関連を学んでゆく事を目的とします。具体的には、京都（特に東山区）の中にある様々な芸術的な事象（たとえば仏像、庭園、建築物）について学び、フィールドワークを通して知見を得ます。文化的な意義に踏みこみ深く学んでゆきます。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 芸術が私たちの生活にもたらす意義は何か具体的に指摘出来る。  2) 正確な知識をもって鑑賞出来る。  3) 鑑賞において自らの見解を持つことが出来る。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	必要な資料を配布します。								
参 考 書	必要に応じて紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントをつけて返却します。								
留意事項	フィールドワークについては、授業の進展や社会状況により変更する場合があります。								
オフィス アワー	講義中に指示します。								
実践的教育									

授業名	芸術と文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容)本講義で講義する内容を説明します。日本文化における芸術の意義を概説します。 (事前事後学修課題の内容)(20分) まずは、シラバスをよく読んでください。講義の内容をしっかりと把握すること。
第2回	仏像について(1)起源と意義	(学修内容)仏像とは何か。仏像の起源や意義を学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布したプリントをよく読み返してください。内容をまとめること。
第3回	仏像について(2)作製技法と種類	(学修内容)仏像作製における技法や像の種類を学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントやノートをよく見返しておくこと。
第4回	仏師について(1)定朝を中心に	(学修内容)仏像を作製する仏師について学びます。特に定朝を中心とします。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布プリントを整理し、ノートをよく見返しておくこと。
第5回	仏師について(2)運慶を中心に	(学修内容)仏像を制作する仏師について学びます。特に運慶を中心とします。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを整理し、ノートをよく見返しておくこと。
第6回	仏師について(3)快慶を中心に	(学修内容)仏像を制作する仏師について学びます。特に快慶を中心とします。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントを整理し、ノートをよく見返しておくこと。
第7回	フィールドワーク	(学修内容)華頂学園周辺の名刹寺院を参拝し仏像を拝観します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) フィールドワークで発見した内容や感想をまとめること。
第8回	フィールドワーク事後学習	(学修内容)フィールドワークで得た知見を発表してもらいます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表内容を整理しまとめて提出してください。
第9回	建築物について一仏殿・神殿を中心に	(学修内容)京都に存在する建造物について学びます。仏殿・神殿を中心とします。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 身近な建築物を調べてください
第10回	建築物について一門を中心に	(学修内容)京都に存在する建造物について学びます。門を中心に学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 身近な建築物を調べてください。
第11回	フィールドワーク - 三十三間堂 -	(学修内容)これまで学んだ知識を駆使して三十三間堂を参拝します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) フィールドワークで発見した内容や感想をまとめること。
第12回	フィールドワーク事後学習	(学修内容)フィールドワークで得た知見を発表してもらいます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) レポートを作製します。
第13回	舞台芸術について	(学修内容)落語、歌舞伎等の舞台芸術を学びます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 配布プリントとノートを整理してください。
第14回	フィールドワーク - 歌舞伎・落語の関連施設	(学修内容)京都内における歌舞伎や落語に関連のある施設にフィールドワークに行きます。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 発見・感想をまとめてください。
第15回	舞台芸術の鑑賞	(学修内容)DVDで歌舞伎・落語等を鑑賞します。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 内容をまとめてください。講義のあとレポートにすること。

授 業 名	京都の歴史と文化を考える			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1201
英 文 名	History and Culture of Kyoto			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	工藤 美和子			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	政治・文化・宗教の中心であった京都の歴史と文化を、史資料を用いながら理解を深めていく。								
学修成果 到達目標	1) 京都の歴史と文化の歴史の変遷を知ることができる。 2) 京都の歴史と文化について説明することができる。 3) 今後の京都の歴史や文化のあり方について考えを養うことができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 80% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	特に使用しない。授業内で資料を配付する。								
参 考 書	・京都商工会議所編『新版京都・観光文化検定』(淡交社) ・吉川真司・他著『京都府の歴史(新版県史)』(山川出版社、2010年)								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題にはコメントを記して返却する。								
留意事項	配付する史資料のなかで、分からない語句等があれば辞書を用いて調べること。								
オフィス アワー	研究室前に日時を掲示する。それ以外の時間でも研究室に在室していれば対応する。急ぎの場合は事前にメールで連絡すること。 【備考】オフィスアワーの時間帯であっても、会議等で在室できない場合がある。								
実践的教育									

授 業 名		京都の歴史と文化を考える
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業内容とすすめ方について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: シラバスを読んでおくこと。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第2回	平安京の成立	(学修内容) 平安京が造られた理由を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第3回	宗教空間都市の京都	(学修内容) 宗教都市京都について知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第4回	古代の京都の歴史と文化 平安貴族の生活	(学修内容) 平安貴族の日記等を用いて、衣食住の生活様式について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第5回	古代の京都の歴史と文化 宗教観	(学修内容) 平安貴族の日記等を用いて、仏教信仰について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 見学先について調べる。 事後: 課題のレポートをまとめる。
第6回	中世の京都の歴史と文化	(学修内容) 鎌倉・室町時代の京都の歴史と文化について知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第7回	織豊時代の京都大改造	(学修内容) 織田信長や豊臣秀吉が行った京都改造計画について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第8回	描かれた京都(1) 『洛中洛外図屏風』と京都	(学修内容) 『洛中洛外図屏風』について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第9回	描かれた京都(2) 名所図会にみる京都 見学	(学修内容) 京都案内記『都名所図会』『拾遺都名所図会』に描かれた名所をいくつか取りあげて実際に訪れて調べる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第10回	描かれた京都(3) 名所図会にみる京都 発表	(学修内容) 名所図会に描かれた場所について調べたことを発表する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。発表レジュメを作る。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第11回	京都の近代化(1) 幕末の京都	(学修内容) 幕末の京都の動きについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第12回	京都の近代化(2) 首都「東京」誕生と京都	(学修内容) 明治以降、首都「東京」の誕生がもたらした京都への影響を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第13回	京都とさまざまな祭礼	(学修内容) 京都に伝わる祭礼について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第14回	京都の年中行事と食文化	(学修内容) 京都の年中行事と関連した食文化について知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業のふり返り。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: これまでの授業内容を確認する。

授 業 名	日本の歴史と文化			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1202
英 文 名	History and Culture of Japan			開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	工藤 美和子			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>高校までの歴史学習ではなく、「歴史とは何か」を考える。各時代を理解するために、基礎的史資料をもとにいくつかの事象をとりあげ、現在までに明らかになっている歴史的知見がどのような過程で見出されてきたのかを学び、主体的に知識を獲得していくための考えや方法を理解する。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 「歴史」や「文化」について理解することができる。  2) 各時代における社会の特性を説明することができる。  3) 自国の歴史や文化と他国の歴史や文化を公平にみる視点を養うことができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 80% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	特に使用しない。授業内で資料を配付する。								
参 考 書	授業内で適宜紹介するが、高校の日本史教科書を読んでおくことをすすめる。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題はコメントを記して返却する。								
留意事項	歴史用語等は辞書で調べること。								
オフィス アワー	研究室前に日時を掲示する。それ以外の時間でも研究室に在室していれば対応する。急ぎの場合は事前にメールで連絡すること。 【備考】オフィスアワーの時間帯であっても、会議等で在室できない場合がある。								
実践的教育									

授業名	日本の歴史と文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の概要と進め方について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: シラバスを読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第2回	古代 飛鳥時代	(学修内容) 飛鳥時代の歴史と文化について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をまとめる。
第3回	古代 奈良時代(1) 天皇と仏教	(学修内容) 天皇と仏教の関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をまとめる。
第4回	古代 奈良時代(2) 天平文化	(学修内容) 天平文化を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をまとめる。
第5回	古代 平安時代(1) 摂関政治	(学修内容) 摂関政治を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をまとめる。
第6回	古代 平安時代(2) 浄土信仰	(学修内容) 平安時代の仏教信仰について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をまとめる。
第7回	中世 鎌倉時代(1) 京都と武家社会	(学修内容) 武家社会の成立について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をまとめる。
第8回	中世 鎌倉時代(2) 鎌倉仏教文化	(学修内容) 鎌倉時代の仏教信仰について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をまとめる。
第9回	中世 室町時代(1) 室町幕府と京都	(学修内容) 室町幕府の成立を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をまとめる。
第10回	中世 室町時代(2) 応仁の乱と京都	(学修内容) 応仁の乱が京都にもたらした影響を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をまとめる。
第11回	近世 安土桃山時代と織豊政権	(学修内容) 織田信長と豊臣秀吉の動きについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をまとめる。
第12回	近世 江戸時代(1) 三大幕政改革	(学修内容) 江戸幕府の代表的な幕政改革を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をまとめる。
第13回	近世 江戸時代(2) 元禄・化政文化	(学修内容) 江戸時代の町人文化を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をまとめる。
第14回	近代 近代化と日本	(学修内容) 近代化を目指した日本の動きを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をまとめる。
第15回	まとめ 昭和から現代へ	(学修内容) 20世紀、日本人が歩んだ戦時下の歴史観および現代の歴史・文化に対する課題について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をまとめる。

授 業 名	京都の伝統産業			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1311
英 文 名	Traditional Industry of Kyoto			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	工藤 美和子			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	現在の京都は、18世紀末の天明の大火以後の姿であり、京都の伝統産業は何度も途切れてきたのが現状である。明治以降、京都の伝統産業は様々な形で近代化の波に直面するが、これら伝統産業が中断と継続を繰り返すなかで、どのように移り変わっていったのかについて考える。								
学修成果 到達目標	1) 主な京都の伝統産業について知識を得ることができる。 2) 京都の伝統産業の歴史的背景について説明することができる。 3) 京都の伝統産業に関する今日的課題を知り理解を深めることができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (80%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 (		
テキスト	特に使用しない。授業内で資料を配付する。								
参 考 書	適宜、授業内で紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題にはコメントをつけて返却する。								
留意事項	授業に関する施設や史跡などを紹介するので、各自足を運んでほしい。								
オフィス アワー	授業時に指示する。それ以外の時間でも研究室に在室していれば対応する。急ぎの場合は事前にメールで連絡をとること。 【備考】オフィスアワーの時間帯であっても、会議等で在室していない場合がある。								
実践的教育									

授業名	京都の伝統産業	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業概要を知る。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスの確認。授業内容をノートにまとめる。
第2回	京都と首都「東京」誕生の影響	(学修内容) 明治時代、東京に首都機能が移った後、京都が抱えた問題は何かを考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：前回授業の復習 事後：授業内容をノートにまとめる。
第3回	京都の近代産業(1) 琵琶湖疏水計画	(学修内容) 琵琶湖疏水事業計画について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配布資料を読み、分からない用語は調べる。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第4回	京都の近代産業(2) 琵琶湖疏水がもたらしたものの	(学修内容) 琵琶湖疏水関連産業について知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配布資料を読み、分からない用語は調べる。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第5回	フィールドワーク	(学修内容) フィールドワークを実施する(見学先未定・日程調整あり)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：フィールドワーク先について調べる。 事後：フィールドワークで学んだことをレポートにまとめる。
第6回	京都の窯業 京焼・清水焼の歴史(1) 明治以前	(学修内容) 京焼・清水焼の歴史を知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配付資料を読み、分からない用語は調べる。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第7回	京都の窯業 京焼・清水焼の歴史(2) 明治から昭和初期	(学修内容) 明治以降の京焼・清水焼の歴史を知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配付資料を読み、分からない用語は調べる。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第8回	京都の窯業 京焼・清水焼の歴史(3) 戦時下から現代	(学修内容) 太平洋戦争時下から現代までの京焼・清水焼の歴史や課題を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配布資料を読む。分からない用語は調べる。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第9回	京都の茶産業(1) 茶の歴史	(学修内容) 中国から日本に伝来した茶の歴史を知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配布資料を読み、分からない用語は調べる。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第10回	京都と茶産業(2) 宇治と茶	(学修内容) 京都の宇治周辺にみる茶産業のはじまりと発展について知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配付資料を読み、分からない用語は調べる。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第11回	京都と茶産業(3) 日本と海外の抹茶産業	(学修内容) 日本と海外の抹茶に対する理解やどのような産業があるかを知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配付資料を読み、分からない用語は調べる。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第12回	京都と菓子産業(1) 菓子の歴史	(学修内容) 京都の菓子産業史を知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配布資料を読み、分からない用語は調べる。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第13回	京都と菓子産業(2) 年中行事と菓子	(学修内容) 京都に伝わる年中行事と関わりの深い菓子の関係性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配付資料を読み、分からない用語は調べる。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第14回	京都と菓子産業(3) 現代の菓子	(学修内容) 京都の菓子業者の様々な取り組みについて知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配付資料を読み、分からない用語は調べる。 事後：授業内容をノートにまとめる。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業のふり返り (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前：配付資料を読む。 事後：授業内容をノートにまとめ定期試験にそなえる。



授業名	京都のくらしとすまい			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	IC1312
英文名	Living and Housing in Kyoto			開講時期	秋学期	必修選択	選択		
担当者	関口 太樹			対象学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>「人の暮らし」という壮大なテーマを扱う住居学に関連する科目です。人は暮らしに対してどのようなことを考え、葛藤し、工夫してきたのか、空間・建築・文化・歴史の体験を通じて学びます。</p> <p>基本はフィールドワーク毎に、事前の自己学習とプレゼン、実際の空間や街並み体験、体験を踏まえたレポート提出のセットを数回サイクルします。フィールドワークを中心とした参加型の授業になりますので、受講生には自発的かつ積極的に授業に参加する意識と姿勢が必要です。授業の内容や順番、試験内容、グループワークの有無、プレゼンテーションの回数は、受講者の人数、施設の公開状況、社会情勢、気象、講義内のディスカッションの結果、受講生のプレゼンテーション内容などにより変更となる可能性があります。フィールドワークは日程調整により土日祝日への日時変更の可能性がります。</p>								
学修成果到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 様々な媒体を用いて自ら情報収集し、積極的な自己学習をすることができる。</li> <li>2) 歴史・文化・空間・建築の知識を、フィールドワークを通して身体性を持って理解することができる。</li> <li>3) 他者の発表や意見に対し、客観的視点を持ち、敬意を持ちつつコメントやアドバイスができる。</li> <li>4) 授業内容を自分の暮らしにフィードバックし、自らの考えを持ち意見を述べる事ができる。</li> </ol>								
学位授与の方針との関連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ラーニング対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	適宜、資料や情報を配布または共有。								
参考書									
課題に対するフィードバックの方法	プレゼンテーション、ディスカッション、レポート、提出物などに対し、適宜コメントします								
留意事項	重要文化財等の見学では、迷惑行為、飲食は厳禁、各自責任を持った行動をお願いします。フィールドワーク対象は、授業内のディスカッションなどによって変更になる可能性があります。カメラやメモ等の用意が必要になります。授業の状況や、フィールドワークの訪問先の都合等によって、土曜や日曜などに授業日を振り替える可能性があります。履修者の数により授業内容が変わる可能性があります。フィールドワークでは入館料等が必要になりますが、京都市キャンパス文化パートナーズ制度によるアプリ「KYO-DENT」の登録と学生証の提示により、費用を低く抑えられる場合があります。								
オフィスアワー	授業後に対応。 必要であれば直接申し出るか、メールで連絡するようにして下さい。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：一級建築士の取得								

授業名	京都のくらしとすまい	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	導入	(学修内容) 授業の意図と方向性の共有、フィールドワークのスケジュール調整。 (事前事後学修課題の内容) (30分) フィールドワークの日程調整のため、学期中の自分のスケジュールを把握しておく。シラバスの内容を確認する。
第2回	住居学概論	(学修内容) 住居学のオリエンテーリング。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 指定された住居学についての試験問題の対策。
第3回	フィールドワーク担当割テスト	(学修内容) 各自の担当フィールドワークの決定。 (事前事後学修課題の内容) (90分) 指定された住居学についての試験問題の対策。
第4回	空間と庭	(学修内容) 空間や庭のあり方と文化や歴史の関係について。 (事前事後学修課題の内容) (30分) フィールドワークAの対象地について事前学習。
第5回	フィールドワークA(歴史的別邸)	(学修内容) 空間・文化・歴史についてフィールドワークを行う。(対象地A) (事前事後学修課題の内容) (30分) 決められた集合時間、場所へのアクセス方法、スケジュールをしっかりと確認しておく。
第6回	プレゼン&コメントA	(学修内容) フィールドワークで、感じたこと、学んだことをプレゼンする。自分以外の人のプレゼンに対して、コメントやアドバイスを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンの準備。
第7回	まとめA	(学修内容) フィールドワークでの体験と事前学習をもとに、自分の意見を整理しレポートにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンの準備。
第8回	プレ発表B	(学修内容) フィールドワーク対象について事前学習したことをプレゼンする。自分以外の人のプレゼンに対して、コメントやアドバイスを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンの準備。
第9回	フィールドワークB	(学修内容) 空間・文化・歴史についてフィールドワークを行う。(対象地B) (事前事後学修課題の内容) (30分) 決められた集合時間、場所へのアクセス方法、スケジュールをしっかりと確認しておく。
第10回	プレ発表C	(学修内容) フィールドワーク対象について事前学習したことをプレゼンする。自分以外の人のプレゼンに対して、コメントやアドバイスを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) プレゼンの準備。
第11回	フィールドワークC	(学修内容) 空間・文化・歴史についてフィールドワークを行う。(対象地C) (事前事後学修課題の内容) (30分) 決められた集合時間、場所へのアクセス方法、スケジュールをしっかりと確認しておく。
第12回	まとめBC	(学修内容) フィールドワークでの体験と事前学習をもとに、自分の意見を整理しレポートにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワーク体験を通じた写真やメモの整理。レポート制作や試験対策に向け必要に応じてPCなど必要な機材の用意。
第13回	暮らしの中の思考	(学修内容) アート思考を通して、暮らしの「当たり前」について今一度再考する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 推奨された資料等の学習や授業のまとめ。
第14回	暮らしと美術館	(学修内容) 人々の日常の暮らしに寄り添い、市民の憩いの場としての機能を持つ、京都市京セラ美術館でのフィールドワーク。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 決められた集合時間、場所へのアクセス方法、スケジュールをしっかりと確認しておく。
第15回	総括	(学修内容) フィールドワークでの体験と事前学習をもとに、自分の意見を整理しレポートにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワーク体験を通じた写真やメモの整理。レポート制作や試験対策に向け必要に応じてPCなど必要な機材の用意。

授 業 名	ことばと文化			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Language and Culture			開講 時期	春学期	必修 選択		選択	
担 当 者	平間 尚子			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	上代から近世までの「日本文学史」を通観しながら、各古典作品が、どのような時代に作られ、読者に何を伝えようとしたのか理解する。文学作品を学ぶことにより、日本文化の知識と理解を深めていきたい。作品を理解するために、映像を見たり、グループワークやディスカッションを行いながら授業を進める。								
学修成果 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、日本古典文学の読み方や考え方を身につけることができる。</li> <li>2、古典文学における基礎的な知識を身につけることができる。</li> <li>3、古典文学における人々の生き方や考え方をすることができる。</li> <li>4、日本の文化・思想・歴史を幅広く学び、理解を深めることができる。</li> <li>5、作品のあらすじと感想をまとめることができる。</li> </ol>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用（双方向型授業）		グループワーク I C T活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	秋山虔・三好行雄編：シグマ新日本文学史 増補版[文英堂、2016、¥715]								
参 考 書	適宜、授業中に紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	発表や感想についてフィードバックを行う。 提出された課題にはコメントを記して返却する。								
留意事項	古典が苦手だったという方も、そのことは忘れて受講して下さい。ただし、学ぼうという意欲は必要です。授業中によく話を聞いて、しっかり復習して下さい。きっと、古典の世界や日本の文化が違ふものに見えてくることでしょう。								
オフィス アワー	初回授業時に伝えます。								
実践的教育									

授業名	ことばと文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業内容とすすめ方について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前学修: シラバスを読んでおく。 事後学修: 授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第2回	上代文学 『万葉集』 『日本霊異記』	(学修内容) 『万葉集』と『日本霊異記』の成立と内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの該当範囲を読み予習を行い、疑問点を確認しておく。 事後: 授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第3回	中古文学 『竹取物語』	(学修内容) 『竹取物語』の成立と内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの該当範囲を読み予習を行い、疑問点を確認しておく。 事後: 授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第4回	中古文学 『伊勢物語』 『大和物語』	(学修内容) 『伊勢物語』 『大和物語』の成立と内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの該当範囲を読み予習を行い、疑問点を確認しておく。 事後: 授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第5回	中古文学 『源氏物語』	(学修内容) 『源氏物語』の成立と内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの該当範囲を読み予習を行い、疑問点を確認しておく。 事後: 授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第6回	中古文学 女流日記文学	(学修内容) 女流日記文学の成立と内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの該当範囲を読み予習を行い、疑問点を確認しておく。 事後: 授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第7回	中古文学 説話集 『今昔物語集』	(学修内容) 『今昔物語集』の成立と内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの該当範囲を読み予習を行い、疑問点を確認しておく。 事後: 授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第8回	中世文学 軍記物語 『平家物語』	(学修内容) 『平家物語』の成立と内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの該当範囲を読み予習を行い、疑問点を確認しておく。 事後: 授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第9回	中世文学 説話集 『宇治拾遺物語』 『宝物集』	(学修内容) 『宇治拾遺物語』 『宝物集』の成立と内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの該当範囲を読み予習を行い、疑問点を確認しておく。 事後: 授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第10回	中世文学 随筆 『枕草子』 『方丈記』 『徒然草』	(学修内容) 『枕草子』 『方丈記』 『徒然草』の成立と内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの該当範囲を読み予習を行い、疑問点を確認しておく。 事後: 授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第11回	中世文学 和歌 「小倉百人一首」	(学修内容) 「小倉百人一首」の成立と内容について学ぶ。「小倉百人一首」の遊び方も学び、かるた取りを実践する。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの該当範囲を読み予習を行い、疑問点を確認しておく。 事後: 授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第12回	中世文学 説経節 「つきしま」「かるかや」	(学修内容) 説経節「つきしま」「かるかや」の成立と内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの該当範囲を読み予習を行い、疑問点を確認しておく。 事後: 授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第13回	中世文学 能・狂言 「恋重荷」・「附子」	(学修内容) 能「恋重荷」と狂言「附子」の内容を理解して、狂言「附子」を鑑賞する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの該当範囲を読み予習を行い、疑問点を確認しておく。 事後: 授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第14回	近世文学 紀行文 『奥の細道』 ほか	(学修内容) 『奥の細道』の成立と内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの該当範囲を読み予習を行い、疑問点を確認しておく。 事後: 授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第15回	総括	(学修内容) 本授業のふりかえりを行う。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前学修: これまでの授業内容を振り返り、疑問点を確認しておく。 事後学修: 授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。

授 業 名	伝統芸能と大衆文化			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	IC1411
英 文 名	Traditional Performing Arts and Popular Culture			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	工藤 美和子			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	古来、日本はアジア諸国より様々な芸能が伝わった。それらから派生した能・狂言・歌舞伎・落語等の様々な芸能を取りあげ、歴史的背景や現在の芸能文化に与えた影響について考察する。								
学修成果 到達目標	1) 伝統芸能の歴史の変遷に関する知識を得ることができる。 2) 仏教と深い関わりがある様々な芸能について理解し説明することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (80%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	特に使用しない。授業内で資料を配付する。								
参 考 書	適宜、授業内で紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題にはコメントを記して返却する。								
留意事項	授業に関する施設や祭事などを紹介することがある。受講生は機会があれば足を運んでもらいたい。								
オフィス アワー	研究室前に日時を掲示する。それ以外の時間でも研究室に在室していれば対応する。急ぎの場合は事前にメールで連絡すること。 【備考】オフィスアワーの時間帯であっても、会議等で在室できない場合がある。								
実践的教育									

授業名		伝統芸能と大衆文化
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の概要やすすめ方を知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: シラバスを読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第2回	芸能とは何か	(学修内容) 人間社会と芸能との関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第3回	大陸伝来の芸能 散楽・雅楽	(学修内容) アジア地域から伝わった芸能について知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第4回	能楽のはじまり	(学修内容) 能楽の歴史を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第5回	世阿弥と『風姿花伝』	(学修内容) 世阿弥と『風姿花伝』の内容を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 鑑賞後の感想をレポートにまとめ提出する。
第6回	能と狂言の鑑賞	(学修内容) 能と狂言の作品を鑑賞する(視聴覚教材)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第7回	歌舞伎と人形浄瑠璃	(学修内容) 歌舞伎と人形浄瑠璃の歴史を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 鑑賞後の感想をレポートにまとめ提出する。
第8回	歌舞伎と人形浄瑠璃の鑑賞	(学修内容) 歌舞伎と人形浄瑠璃の作品を鑑賞する(視聴覚教材)。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第9回	仏教芸能の歴史と文化	(学修内容) 仏教芸能について知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第10回	仏教芸能(1) 唱導	(学修内容) 唱導について知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第11回	仏教芸能(2) 安楽庵策伝と落語	(学修内容) 策伝と落語の誕生について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第12回	仏教芸能(3) 『醒睡笑』を読む	(学修内容) 策伝『醒睡笑』からいくつかの笑話を観賞する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第13回	仏教芸能(4) 落語の観賞	(学修内容) 落語を観賞する(視聴覚教材を使用) (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 鑑賞後の感想をまとめる。
第14回	仏教芸能(5) 六斎念仏	(学修内容) 京都の郷土芸能六斎念仏を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業のふり返り。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 配付資料を読む。 事後: 授業内容をノートにまとめる。

授 業 名	日本の民俗			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Japanese Folklore			開講 時期	春学期	必修 選択		選択	
担 当 者	工藤 美和子			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	民俗学とは、人間が誕生し死ぬまでの間、習俗や慣習などを体験し社会とのつながりや、自分と他者の関係を考える学問である。本講義では、さまざまな仏教民俗を史資料で紹介するとともに、民俗学の今日的意義を考察する。								
学修成果 到達目標	1) 民俗学について説明することができる。 2) 仏教信仰と民俗との関係を学び、民俗文化を伝えていく視点を養うことができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (70%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	特に使用しない。授業内で資料を配付する。								
参 考 書	授業内で適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	授業内の発表にはアドバイスをする。課題にはコメントを付して返却する。								
留意事項	民俗学に関する展覧会や行事等を紹介する。興味をもって積極的に足を運んでほしい。								
オフィス アワー	授業内で指示する。 【備考】オフィスアワー内でも会議等で不在のときがあるため、事前にメール等で連絡をとることが望ましい。								
実践的教育									

授業名	日本の民俗	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業のすすめ方について説明。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを確認する。
第2回	民俗学・歴史学・文化人類学	(学修内容) 民俗学と歴史学や文化人類学を比較し課題を考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業内容を整理する。
第3回	暦と時間	(学修内容) 旧暦と新暦について知る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付資料を読む。授業内容を整理する。
第4回	仏教民俗 灌仏会	(学修内容) 『三宝絵』下巻「灌仏」より灌仏会(花まつり)と釈尊誕生について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 灌仏を調べ、配付資料を読む。授業内容を整理する。
第5回	仏教民俗 涅槃会	(学修内容) 『三宝絵』下巻「涅槃会」より釈尊入滅の仏教法会について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 涅槃会を調べ、配付資料を読む。授業内容を整理する。
第6回	仏教民俗 修正会	(学修内容) 『三宝絵』下巻「修正月」より修正会について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 修正会を調べ、配付資料を読む。授業内容を整理する。
第7回	仏教民俗 修二会	(学修内容) 『三宝絵』下巻「修二月」を読み修二会について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 修二会を調べ、配付資料を読む。授業内容を整理する。
第8回	仏教民俗 盂蘭盆会	(学修内容) 『三宝絵』下巻「盂蘭盆」を読み盆行事について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 盂蘭盆会を調べ、配付資料を読む。授業内容を整理する。
第9回	仏教民俗 施餓鬼	(学修内容) 施餓鬼に関する経典や仏教説話集を読み施餓鬼会とは何かを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 施餓鬼会を調べ、配付資料を読む。授業内容を整理する。
第10回	仏教民俗 地藏盆	(学修内容) 京都の地藏信仰と地藏盆について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 地藏菩薩を調べ、配付資料を読む。授業内容を整理する。
第11回	仏教民俗 六斎念仏会	(学修内容) 京都の六斎念仏会について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 六斎念仏を調べ、配付資料を読む。授業内容を整理する。
第12回	仏教民俗 彼岸会	(学修内容) 彼岸会とは何かについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 彼岸を調べ、配付資料を読む。授業内容を整理する。
第13回	仏教民俗 十夜会	(学修内容) 十夜会について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 十夜会を調べ、配付資料を読む。授業内容を整理する。
第14回	日本人の死生観と他界観	(学修内容) 死生観や他界観に関して考察し各自の意見をまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配付資料を読む。授業内容を整理する。
第15回	発表 まとめ	(学修内容) 前回の講義で考えた死生観や他界観について各自の意見を発表する。 授業のふり返り。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自意見や考察したところをまとめ発表する。



授 業 名	京都の食文化			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	
英 文 名	Food Culture of Kyoto			開講 時期	秋学期	必修 選択		選択	
担 当 者	平 正人			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>2013年12月に和食がユネスコの無形文化遺産に登録されている。京都にはその風土と四季に育まれた旬の食材や「ケ」の食とされる「おぼんざい」がある。京料理が生み出された歴史や文化と日々の暮らしで培われた「始末の心得」を学び、時代と共に変化し伝承されてきた「京都の食文化」から、食べる楽しみや健康づくりまでを視野において推考し、座学に留まらず京野菜など食材の今をフィールドワークにより探求する。調理実習では和食の基本となる「出し・ご飯・味噌汁」を体感し、食文化をテーマとしたグループワークで学びを深める。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 京都の食文化における特徴を気候風土、食材、加工法、調理法、食べ方などから捉えることができる。  2) 京都の食文化を歴史的観点、社会的背景などからも考察することができる。  3) 京都の食文化と和食の優れた点をフィールドワークや調理実技で体験し、今後役に立てることができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 60% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( 思考力、創造力 )			課題発見・解決能力 ( 協調力 )				
テキスト	京都の食文化：佐藤洋一郎 著 ( 中公新書 )								
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本からみた世界の食文化：鈴木志保子 著 ( 第一出版 )</li> <li>・開き書 日本の食生活全集 京都の食事：畑明美・他 著 ( 農山漁村文化協会 )</li> <li>・新版 京都・観光文化検定試験公式テキストブック：森谷剋久 監修 ( 京都商工会議所 )</li> </ul>								
課題に対する フィードバック の方法	提出課題へのコメントを授業内で共有します。								
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何をどう食べるかだけでなく食べ方や歴史と風土、文化などから食べる楽しみや健康づくりに役立つ「食と工夫」について複眼的に捉え理解することが大切です。</li> <li>・京都検定の受験なども目指し、授業を進めます。</li> <li>・受講人数や時間割により、内容調整や変更が有ります。</li> </ul>								
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育	<p>実践的教育  教員の実務経験など：・私立病院、官公立病院の栄養部門で栄養士・管理栄養士として勤務。  ・クリニックにおける栄養食事指導に従事。  ・日本栄養士会、北河内地域栄養士会、行政 ( 保健所 ) を通じ、病院食の災害対応に関わる活動など。</p>								

授業名	京都の食文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、食文化とは何でしょう！	(学修内容) 授業概要の説明 身近な食文化についての情報交流 (事前事後学修課題の内容) (60分) 皆さんの住まいや家族が関係する地域における食文化の情報をまとめて持ち寄り、紹介・交流する。
第2回	京の風土と四季 : 京の季節と水の都	(学修内容) 京の特徴である「夏の酷暑と冬の底冷え」と、伏流水からもたらされる食の恵みを考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp 1~26を読んでおくこと。 気候が食文化にどう関係するかを考え、提出してもらいます。
第3回	京の風土と四季 : 京の地形と川の恵み	(学修内容) 京盆地の特徴ある風土と川からの恵みを考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp27~58を読んでおくこと。 水が食文化にどう関係するかを考え、提出してもらいます。
第4回	京と京都人 : 歴史と発酵食品、食の始末	(学修内容) 京の歴史と発酵食品(漬物・酢・酒)、始末屋の心得「もったいない」を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp59~76を読んでおくこと。身近な発酵食品について調べてくる。関心のあった内容をレポート課題とします。
第5回	京と京都人 : おばんざいと京野菜	(学修内容) 「ハレ」の食と「ケ」の食から生まれたおばんざいと京野菜の今とこれからを考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp77~100を読んでおくこと。おばんざいについて調べてくる。関心のあった点をレポート課題とします。
第6回	京と京都人 : パンと喫茶、学生の街	(学修内容) パン食が多い! その理由と喫茶について、学生の街、麵・中華料理店も多いとされる理由を探る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp101~128を読んでおくこと。 皆さんが興味のあるパン、喫茶、学生の街について調べてくる。
第7回	京料理 : 京の季節感と行事食	(学修内容) 旬の食材を生かした料理と、それを取り入れた行事食と工夫について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp129~142を読んでおくこと。 関心のあった内容をレポート課題とします。
第8回	京料理 : 京料理と公家料理・武家料理	(学修内容) 京料理と五体系について学び、その根流にある公家料理、武家料理を探求する。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp143~151を読んでおくこと。 皆さんが興味のある京料理について調べてくる。
第9回	京料理 : 精進料理、擬き料理を学ぶ	(学修内容) 精進料理の歴史とその特徴を考える。精進料理に秘められた擬き料理の工夫について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp152~164を読んでおくこと。 皆さんが興味のある精進料理・擬き料理について調べてくる。
第10回	京料理 : 京のお茶と菓子	(学修内容) 京のお茶にまつわる歴史とその活用法から、菓子との組み合わせやその特徴について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp165~184を読んでおくこと。 皆さんが興味のあるお菓子について調べてくる。
第11回	人々を魅了する京都 : 京都というブランドと鯖街道	(学修内容) 京都というブランドとその現状を探る。北前船と鯖街道からもたらされた食材について考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp185~199を読んでおくこと。 京都のブランドと、鯖街道で興味ある点を調べてくる。
第12回	人々を魅了する京都 : 京都の食文化実体験	(学修内容) 出し汁、ご飯、味噌汁という和食の基本を調理実習をととして体感し、食文化の原点を探る。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp200~220を読んでおくこと。 調理実習で感じたこと、発見したことをまとめてもらいます。
第13回	京の食文化 : 京の食文化の現状を探索	(学修内容) フィールドワーク(京の食文化ミュージアム探索)を通じて食文化と食材の今を学ぶ。尚、調整により行き先や実施日に変更あり。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp221~230を読んでおくこと。 フィールドワークでの発見や感じた点をまとめてもらいます。
第14回	京の食文化 : 食文化を支える食材や器	(学修内容) 食材、料理、器、料理人から「京の食文化」とその課題を考える。 (事前事後学修課題の内容) (60分) テキストp231~241を読んでおくこと。 関心のあった内容をレポート課題とします。
第15回	京の食文化 : 未来の食文化	(学修内容) 食にまつわる様々な現実と未来の食文化を模索する。 授業のまとめ、模擬試験。 (事前事後学修課題の内容) (60分) まとめ、定期試験に向けた準備

授 業 名	メディアコンテンツ			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	
英 文 名	Media Contents			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	積 高之			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	本演習では、メディアコンテンツの概要を学び、実際に静的メディアと動画を実際に制作することで、企画から制作、発表までの流れを体験し、メディアコンテンツ制作の基礎を習得することを目的とする。								
学修成果 到達目標	メディアコンテンツ企画の基礎知識を習得する。 ターゲットに合わせた企画立案、構成、表現方法を学ぶ。 撮影、編集、デザイン等の技術を習得する。 チームワークによる制作の重要性を理解する。 制作したコンテンツを発表し、評価を受ける。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	使用しない。スライド、資料閲覧など								
参 考 書	随時紹介する								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説する								
留意事項	PC・スマートフォン必携								
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：SNSマネージャーとして運用コンサルティング、実運用を10年間経験								

授業名		メディアコンテンツ
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) シラバス説明、メディアコンテンツ制作の基礎知識 (事前事後学修課題の内容) (10分) (事後) ワーク: 趣味や好きなこと、仮想の会社やサービス・ブランドを題材として想定する
第2回	ターゲット・ペルソナの考え方	(学修内容) デザインでも同じで、その人に合ったコミュニケーションの形が必要であり、伝える相手がどんな人かを想定することを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) (事後) ワーク: どんな人に向けるか、実際にペルソナを作成する
第3回	メディアの種類	(学修内容) メディア・コンテンツの内容の解説とトレンドの紹介 (事前事後学修課題の内容) (20分) (事後) ワーク: コンテンツを探す
第4回	コンセプトの策定	(学修内容) 扱う題材のコンセプトを定める重要性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) (事後) ワーク: コンセプトを作成する
第5回	シナリオ・台本執筆	(学修内容) シナリオ/台本の書き方、表現技法、セリフや字幕 (事前事後学修課題の内容) (20分) (事後) 授業内容のまとめ
第6回	デザインツールの活用	(学修内容) 基本的なデザインツールの使用方法を理解する。 ワーク: 静的デザインの作成 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後) 授業中にできなかった場合の作業
第7回	プレゼンテーションA-1	(学修内容) 制作したデザイン発表とフィードバック (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後) フィードバックの反映
第8回	プレゼンテーションA-2	(学修内容) 制作したデザインの発表とフィードバック (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後) フィードバックの反映
第9回	デザインのための素材の理解	(学修内容) さまざまな素材を紹介し、人の手による写真やイラストなどとともに、ネットにおいても手軽に利用しやすい素材があることを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) (事後) 素材を探す
第10回	コピーライティングの理解	(学修内容) コピーやテキストの考え方と表現の方法 (事前事後学修課題の内容) (20分) (事後) 授業内容のまとめ
第11回	コラボレーションデザインツールの活用	(学修内容) より緻密なデザインを作成するためのツールの理解、実習。テキストを始め写真やイラストなどの配置方法などを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) (事後) 授業内容のまとめ
第12回	動画制作実習A	(学修内容) グループで動画を作成し、公開する。 ワーク: 内容の検討 コンセプトとターゲットの特定 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後) 授業中にできなかった場合の作業
第13回	動画制作実習B	(学修内容) グループで動画を作成し、公開する。 ワーク: 内容の検討 コンセプトとターゲットの特定 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後) 授業中にできなかった場合の作業
第14回	プレゼンテーションB-1	(学修内容) 制作した動画の発表とフィードバック (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後) フィードバックの反映
第15回	プレゼンテーションB-2	(学修内容) 制作した動画の発表とフィードバック (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後) フィードバックの反映

授 業 名	女性史			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	IC2333
英 文 名	History of Women			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	馬場 まみ			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	近世から現代の女性の生活と社会的位置づけについて学ぶ。近世から近代に女性が社会的にどのような状況にあったのか史料から読み取る。さらに、戦後の女性を取り巻く社会状況と生活がどのように変化したのかを概観し、現代社会における女性に関わる課題を考える。								
学修成果 到達目標	1. 近世から近代における女性の社会的位置づけを理解できる。 2. 戦後における、女性を取り巻く社会の変化と女性の状況を理解できる。 3. 現代社会における女性に関わる課題を指摘することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 70% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 30% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	使用しない。適宜資料を配付する。								
参 考 書	随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。								
留意事項									
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。								
実践的教育									

授 業 名		女性史
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 講義の概要と目的 (事前事後学修課題の内容) (20分) (事前) シラバスを読み、これまでに学んだ女性の歴史について振り返る
第2回	女性史における課題	(学修内容) 女性史の発展と女性史が取り上げる課題を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 配付資料を読んで女性史の課題を予習する
第3回	近世社会と女性	(学修内容) 江戸時代の女性の身分と階層を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 江戸時代の身分制について調べておく
第4回	近世社会と女性：女訓書とは	(学修内容) 女訓書の成立と概要を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 女訓書とは何か調べておく
第5回	近世社会と女性：女訓書を読む	(学修内容) 近世の女訓書を読み記述内容を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 女訓書を読んで疑問点をあげておく
第6回	近世社会と女性：女訓書にみる女性像	(学修内容) 女訓書に記載されている女性の役割を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 配付資料を読んで女性の役割が何かを考える
第7回	近代社会と女性：良妻賢母教育	(学修内容) 近代において女性に対して良妻賢母教育が行われたことを理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 配付資料を読んで良妻賢母教育の予習をする
第8回	近代社会と女性：家政書にみる女性像	(学修内容) 近代の家政書を読み女性の役割を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 配付資料を読んで女性の役割を考えてくる
第9回	近代社会と女性：明治民法と女性	(学修内容) 明治民法における女性の位置づけを理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 明治民法の家族に関する項目を調べてくる
第10回	近代社会と女性：近代の女性観	(学修内容) 近世と近代の女性観の違いについてディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 配付資料から女性観の違いについて考えてくる
第11回	現代社会と女性：女性と教育	(学修内容) 戦後における女性に対する教育について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 戦後の女子教育について予習する
第12回	現代社会と女性：女性と労働	(学修内容) 戦後における女性の労働について理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 配付資料を読んで女性が従事していた仕事について予習する
第13回	現代社会と女性：女性差別撤廃条約	(学修内容) 女性差別撤廃条約の内容と批准 (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 女性差別撤廃条約について調べておく
第14回	現代社会と女性：男女共同参画社会	(学修内容) 男女共同参画社会基本法がめざす社会像を理解する (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) 男女共同参画社会基本法について調べておく
第15回	現代の課題と今後の展望	(学修内容) 現代の課題と今後の展望についてディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前) これまでの授業内容を振り返り現代における課題を考えてくる

授 業 名	マンガ・アニメ・ゲーム文化			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	IC2325
英 文 名	Manga, Anime, and Game Culture			開講 時期	春学期	必修 選択	必修 選択	選択	
担 当 者	小林 翔			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>本授業では、マンガ・アニメ・ゲーム文化について、主に歴史的な観点、産業としての観点、表現についての観点の3つの視点から学んでいきます。 自身とマンガ・アニメ・ゲーム文化との関わり方を意識して考えられるようになることを目標としています。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) マンガ・アニメ・ゲーム文化に対する理解を深める。 2) 自身とマンガ・アニメ・ゲーム文化との関わり方を意識して考えられるようになる。 3) グループワーク、ディスカッション、発表などに主体的に取り組むことができるようになる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク	ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)	グループワーク ICT活用(自主学習支援)	プレゼンテーション					
評価方法	定期試験 (60%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (	課題発見・解決能力 (				)
テキスト	使用しません。								
参 考 書	<p>津堅信之『新版 アニメーション学入門』平凡社、2017年。 吉村 和真、ジャクリーヌ・ベルント編『マンガ・スタディーズ』人文書院、2020年。</p>								
課題に対する フィードバック の方法	グループワークや発表、レポートなどに関して、全体的な講評を行う。								
留意事項	事前学習は必要ありませんが、授業の復習を心がけてください。また、受講する学生の興味・関心、授業の流れや進捗状況によってシラバスの内容から変更する場合があります。								
オフィス アワー	授業時間前後に限り、控え室などに在室します。 その他、授業関連の相談などにはメールにて対応いたします。								
実践的教育									

授業名	マンガ・アニメ・ゲーム文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容、学修成果・到達目標、評価方法などについての説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) シラバスを読んでおくこと
第2回	アニメ文化その1 アニメーションとはなにか	(学修内容) アニメーションという表現・作品について、具体的な事例を参照しつつその成立について学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 振り返りレポートの作成
第3回	アニメ文化その2 日本初のアニメーション	(学修内容) 日本におけるアニメーション制作の最初期の事例を具体的な作品を参照しつつ学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 振り返りレポートの作成
第4回	アニメ文化その3 アニメと手塚治虫	(学修内容) 今日のテレビアニメーション放送の成立について、マンガ家・手塚治虫によるアニメ制作を中心に学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 振り返りレポートの作成
第5回	アニメ文化その4 アニメブームとオタクの成立	(学修内容) アニメ作品が若者の支持を得て社会現象となる最初期の事例と、それらの消費者としてのオタクの成立について学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 振り返りレポートの作成
第6回	アニメ文化その5 声優論	(学修内容) 日本のアニメ作品制作に欠くことのできない声優という職業の成立と発展の歴史について学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 振り返りレポートの作成
第7回	グループ学習1	(学修内容) アニメ文化について、グループでの調べ学習と発表、ディスカッションを行います。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表資料の作成
第8回	マンガ文化その1 マンガとはなにか	(学修内容) マンガという表現・作品について、具体的な事例を参照しつつその成立について学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 振り返りレポートの作成
第9回	マンガ文化その2 近代マンガ史	(学修内容) 現在主に読まれているマンガが成立する以前のマンガ的な表現・作品の歴史について、具体的な事例を参照しつつ学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 振り返りレポートの作成
第10回	マンガ文化その3 現代マンガ史	(学修内容) 現在主に読まれているストーリーマンガの成立の発展について、具体的な事例を参照しつつ学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 振り返りレポートの作成
第11回	マンガ文化その4 マンガ表現論	(学修内容) 現在主に読まれているストーリーマンガについて、読み方・描き方といった表現の観点から学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 振り返りレポートの作成
第12回	ゲーム文化その1 ビデオゲームの成立	(学修内容) 最初期のビデオゲームの開発と誕生について、メディアやテクノロジーとのかわりという観点から学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 振り返りレポートの作成
第13回	ゲーム文化その2 ゲームの「攻略」について	(学修内容) ゲームを遊ぶ上で重要な「攻略」という考え方について、その成立と文化的意義について学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 振り返りレポートの作成
第14回	ゲーム文化その3 ゲームを「見る」という体験	(学修内容) Youtubeなどで流行している「ゲーム配信」について、ゲームを「見る」という体験が持つ意味について学びます。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 振り返りレポートの作成
第15回	グループ学習2	(学修内容) マンガ文化、ゲーム文化についてグループでの調べ学習と発表、ディスカッションを行います。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表資料の作成



授 業 名	サブカルチャー			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1315
英 文 名	Subculture			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	渡邊 秀司			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>「サブカルチャー」という言葉で表される文化現象は、多様な視点から論じられています。この講義では「サブカルチャー」の始まりとされる1950年代のアメリカ文化について考えることから始め、1960年代の若者文化、1970年代から1980年代のポップカルチャーと呼ばれる文化現象を考え、最終的には2000年代以降の文化現象として「サブカルチャー」を考えます。その流れの中でアニメ、ゲームやその主たる消費者であり、担い手でもある「オタク」と称される人たちと「サブカルチャー」についても考えます。</p>								
学修成果 到達目標	<p>サブカルチャーの多義性について理解することができる。 サブカルチャーと言われる文化現象と、それと対比される文化現象の関係について理解する。 アニメ・ゲームなどとサブカルチャーの関係性を理解することができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 80% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	特に指定しません。								
参 考 書	宮沢章夫、NHK「ニッポン戦後サブカルチャー史」制作班編著、2014年『ニッポン戦後サブカルチャー史』NHK出版								
課題に対する フィードバック の方法	GoogleClassroom、またはメールにて対応いたします。 gfhq3011@gmail.com								
留意事項	事前学習は必要ありませんが、授業の復習を心がけてください。また、授業の流れや進捗状況によってシラバスの内容と異なることもあります。								
オフィス アワー	授業時間前後に限って、控え室などに在室します。 その他、授業関連の相談などには、メールにて対応いたします。								
実践的教育									

授業名	サブカルチャー	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに - ゲームは「サブカルチャー」なのか？	(学修内容) 実際にカードゲーム、ボードゲームを遊びながら、ゲームは「サブカルチャー」なのか考えてみます。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「サブカルチャー」について授業の内容をふまえながら考えてみること。
第2回	サブカルチャーのはじまりはいつ? - 戦後日本、1960年代まで	(学修内容) 1945年8月の敗戦以後、アメリカ文化の流入および学生運動の話など話します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容を復習し、自身の意見をまとめること。
第3回	60年代以後の日本 - ヒッピー、70年代、YMO	(学修内容) 1960年代以後のカウンター・カルチャーの流れ、当時の音楽、テクノなどについてお話しします。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容を復習し、自身の意見をまとめること。
第4回	ゲーム1 - アナログゲーム、会話型ロールプレイングゲームなど	(学修内容) ゲームのうち、電源を用いないゲームについて、1980年代から90年代初頭における状況を話します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容を復習し、自身の意見をまとめること。
第5回	ゲーム2 - コンピュータRPGについて	(学修内容) コンピュータを用いて遊ぶRPGについてその始まりの頃の話をしてします。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容を復習し、自身の意見をまとめること。
第6回	ゲーム3 - 90年代以降のソーシャルゲームなど	(学修内容) アドベンチャーゲームと呼ばれたコンピューターゲームの始まりや、2000年代のソーシャルゲーム、ブラウザゲームなどについて話します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容を復習し、自身の意見をまとめること。
第7回	SF (サイエンス・フィクション) について	(学修内容) サイエンスフィクションと呼ばれる文芸ジャンルについて、講師の趣味を含めながらお話しします。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容を復習し、自身の意見をまとめること。
第8回	新海誠と宮崎駿	(学修内容) 新海誠の初期作品『ほしのこえ』と宮崎駿の『もののけ姫』の1シーンを視聴していただいたうえで、簡単に考察した話をします。 (事前事後学修課題の内容) (50分) 授業の内容を復習し、自身の意見をまとめること。第7回までの授業内容について改めて整理すること。
第9回	やさしい関係	(学修内容) アニメ『時をかける少女』の前半の部分を視聴していただいたから、現代社会における「やさしい関係」という考え方について話します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容を復習し、自身の意見をまとめること。
第10回	アニメが描き出す社会	(学修内容) 9回目の話をふまえつつ、アニメが描き出す社会について話します。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容を復習し、自身の意見をまとめること。
第11回	『魔法少女まどか マギカ』について語る	(学修内容) 『魔法少女まどか マギカ』というアニメについて話しながら、アニメ作品における社会の描き方などをお話しします。ネタバレ注意。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容を復習し、自身の意見をまとめること。
第12回	オタクについて	(学修内容) オタクとされる層について、一つの見方を提示する話をします。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容を復習し、自身の意見をまとめること。
第13回	ファンの消費活動	(学修内容) ファンと呼ばれる人たちがただ消費するだけの人ではなく、文化活動にどのような意義を持っているのだろうかという話をします。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容を復習し、自身の意見をまとめること。
第14回	補論: アイドル	(学修内容) 日本におけるアイドルについて、70年代のアイドルから現代のアイドルについて概観した話をします。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 授業の内容を復習し、自身の意見をまとめること。
第15回	まとめ	(学修内容) サブカルチャーについての議論をいくつか紹介したうえで、今までの授業を総括した話をします。 (事前事後学修課題の内容) (50分) 授業の内容を復習し、課題レポートに向けて自分の意見を整理しておくこと。

授 業 名	現代の音楽		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1303
英 文 名	Contemporary Music		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	山中 信子		対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	本講義では、現代の音楽の諸相について概観するとともに、社会やメディアとの関連性を含めて考察する。そして私たちの身の回りにおける音楽の「意味」と「意義」について考える。							
学修成果 到達目標	1) 私たちにとって音楽が持つ意味について考えることができる。 2) 音楽現象を幅広い視野から捉えられる。 3) 既成の音楽観を一旦解体し、再構築する視点を獲得する。							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能				
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (	
テキスト	プリントを配布する。							
参 考 書	授業時に指定する。							
課題に対する フィードバック の方法	小レポートは回収後、次回の授業に還元する。							
留意事項	常に問題意識をもって授業に臨むこと。							
オフィス アワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。							
実践的教育								

授業名		現代の音楽
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	現代の音楽とは何か 問題提起	(学修内容)現時点で各々の考える「現代の音楽」とは何かを発表し、グループで共有する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 学修内容について各自で予備的考察をしておく。
第2回	学校音楽	(学修内容)学校音楽教育の経験を振り返る。準備したワークシートをもとにグループで意見交換する。学校音楽について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 配布資料を参照しながら、学校音楽について検討を加える。
第3回	コンサートホールの音楽	(学修内容)コンサートホールの音楽について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業前に配布資料を読み、授業後はコンサートホールの音楽について小レポートを作成し、提出すること。
第4回	ポップスおよびコマーシャルソング(1)日本	(学修内容)ポップスおよびコマーシャルソングについてのディスカッションとグループ発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) いくつかのポップスおよびコマーシャルソングについて調べる。授業後はそれらについて小レポートを作成し、提出すること。
第5回	ポップスおよびコマーシャルソング(2)海外	(学修内容)ポップスおよびコマーシャルソングについてのディスカッションとグループ発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業前に配布資料を読み、授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第6回	楽音と非楽音 ケージとシェーファー	(学修内容)音楽と音との境界について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業前に配布資料を読み、授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第7回	サウンドスケープとは何か	(学修内容)サウンドスケープの意味について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業前に配布資料を読み、授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第8回	サウンドスケープの実際(1) 自然の音	(学修内容)サウンドスケープの実際として自然の音・音楽について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業前に配布資料を読み、授業後は自然の音・音楽について小レポートを作成し、提出すること。
第9回	サウンドスケープの実際(2) 街中の音	(学修内容)サウンドスケープの実際として街中の音・音楽について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業前に配布資料を読み、授業後は街中の音・音楽について小レポートを作成し、提出すること。
第10回	サウンドスケープの実際(3) 寺社の音	(学修内容)サウンドスケープの実際として寺社の音・音楽について考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業前に配布資料を読み、授業後は寺社の音・音楽について小レポートを作成し、提出すること。
第11回	フィールドワーク・発表(1) キャンパス内および周辺	(学修内容)キャンパス内および周辺の音・音楽について探求する。それについてディスカッションと発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業前に予備的考察を試み、授業後はキャンパス内および周辺の音楽について小レポートを作成し、提出すること。
第12回	フィールドワーク・発表(2) 各自住居周辺	(学修内容)各自住居周辺の音・音楽について探求する。それについてディスカッションと発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 授業前に予備的考察を試み、授業後は各自の住居周辺の音・音楽について小レポートを作成し、提出すること。
第13回	視覚と聴覚の融合メディア(1)	(学修内容)絵本に基づいて音表現の分析を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自、音表現に相応しい絵本について調べておく。
第14回	視覚と聴覚の融合メディア(2)	(学修内容)絵本に基づいて音表現の制作および発表を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 各自選んだ絵本の音表現について構想を練る。
第15回	まとめと考察	(学修内容)本講義の内容を踏まえて、「現代の音楽」とは何かについて、特に新たに獲得した考えを中心に自分の考えをまとめ、発表する。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 5~10分程度発表準備をする。

授 業 名	ホスピタリティ			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	IC2422
英 文 名	Hospitality			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	佐藤 善信			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>将来、ホスピタリティ産業(ホテル・旅行・航空・プライダル・レジャー・介護施設・レストランなど)に就職を考えている学生の皆さんへ、ホスピタリティ・マインド(おもてなしの心)とホスピタリティ産業で求められる基礎能力を育成する。ホスピタリティ各業界の現状とその仕事を紹介し、応対実践事例も考察する。</p>								
学修成果 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもてなしやホスピタリティ産業(ホテル・旅行・航空・プライダル・レジャー・介護施設・レストランなど)で求められる基礎能力を育成できる。</li> <li>・ホスピタリティ産業の現状を理解することができる。</li> <li>・効率的な情報検索方法を身につけることができる。</li> <li>・ホスピタリティ産業へのキャリアデザインを考えるスタートとなる。</li> </ul>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	授業で使用するPPTファイルのPRDバージョンを授業前に共有します。								
参 考 書	相島淑美・佐藤善信『おもてなし研究の新次元：日本型マーケティングの源流』, 神戸学院大学出版会, 2024年. その他、授業中に適宜、紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出していただいたレポート、授業中の気づきや質問には、コメントを付けて返却します。								
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来を考える場として積極的に参加し、学んだことを日常生活で実行できるよう心掛ける。</li> <li>・おもてなしの仕事は言葉遣い・時間・期限・連絡などマナーに厳しいため、それを理解した上で受講のこと。</li> <li>・新聞やニュース等で社会の動き、特にホスピタリティ産業に関心を持つようにすること。</li> </ul>								
オフィス アワー	担当授業前後に実施する								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：これまで様々な企業や団体の経営アドバイザーを務めてきました。現在もそうです。授業中にはその様な経験知も紹介します。</p>								

授業名	ホスピタリティ	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション ホスピタリティとホスピタリティ産業について	(学修内容) 授業概要とシラバスの内容、授業の進め方説明 ホスピタリティの語源とホスピタリティ産業の構造について (事前事後学修課題の内容) (30分) (事前)シラバスの内容確認とサービスとホスピタリティの違いを考える (事後)サイト検索PC操作と提出Form記入方法の確認
第2回	ホスピタリティと日本のおもてなしとの異同性について	(学修内容) リッツカールトンホテルでのホスピタリティ・マインドと和倉温泉の加賀屋のおもてなしマインドの異同性について理解します (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後)興味のあるホテル・旅館について調べる
第3回	茶の湯をベースにした日本のおもてなしの源流について	(学修内容) 万葉人の宴とカラオケ接待の「おもてなしの暗黙のルール」の相似性について歴史的、理論的に理解します (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前)茶の湯のおもてなしの資料に目を通して来る (事後)日本のおもてなしの源流を歴史的、理論的に理解する
第4回	ホスピタリティ業界のビジネスモデルの特徴について	(学修内容) サービス・プロフィット・チェーン (SPC) モデルに基づいてホスピタリティ業界の理想的な経営戦略について理解します (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後)SPCモデルについて理解を深める
第5回	SPCの事例研究：1	(学修内容) SPCのフレームワークに沿って加賀屋のケースを学習します (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後)旅館業におけるSPCの特徴を理解する
第6回	SPCの事例研究：2	(学修内容) SPCのフレームワークに沿って旭山動物園のケースを学習します (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後)旭山動物園のビジネスモデルの特徴を深く理解する
第7回	SPCの事例研究：3	(学修内容) SPCのフレームワークに沿って介護施設のケースを学習します (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後)介護施設のビジネスモデルの特徴を深く理解する
第8回	ホスピタリティ業界で活躍できる人材の特徴： ケーススタディ	(学修内容) 『コギャルだった私が、クリスマス新幹線販売員になれた理由』という書物に基づき新幹線クリスマス販売員の技巧を学習します (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後)新幹線クリスマス販売員はどのような工夫をしているのかを振り返る
第9回	ホスピタリティ業界で活躍できる人材の特徴：理 論的考察	(学修内容) ホスピタリティ業界で活躍している人たちに共通している要因を「非認知的能力」に焦点を合わせて学習します (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後)自分の非認知的能力の強みと弱みについて省察する
第10回	旅行業界の最近の傾向について：1	(学修内容) マスツーリズムからの脱却傾向について学習します (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後)オーバーツーリズム現象の問題点について整理する
第11回	旅行業界の最近の傾向について：2	(学修内容) コミュニティ・ベスト・ツーリズム (CBT) の動向について学習します (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後)CTBの特徴をマス・ツーリズムとの比較で整理する
第12回	旅行業界の最近の傾向について：3	(学修内容) 文字通り「自分探しの旅」であると考えられるトランスフォーマティブ・ツーリズムの動向について学習する (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後)トランスフォーマティブ・ツーリズムの特徴をマス・ツーリズムとの比較で整理する
第13回	ホスピタリティ業界におけるコミュニケーション 能力の涵養：ソーシャル・スタイル理論について	(学修内容) お客様のタイプをソーシャル・スタイル理論をベースに知り、その対応を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後)ソーシャル・スタイル理論の4タイプの特徴について整理する
第14回	ホスピタリティ業界におけるコミュニケーション 能力の涵養 (続)：ソーシャル・スタイル理論に ついて	(学修内容) 交流分析から来客対応を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) (事後)アルバイトや日常生活で、人との交流の仕方を学んだ内容から振り返り、活用する
第15回	ホスピタリティ・マネジメント まとめ (レポート説明)	(学修内容) トランスフォーマティブ・ホスピタリティ・サービス概念を紹介します また、最終レポートの書き方を説明します (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後)興味を持ったホスピタリティ産業の企業研究レポートの構成を考える

授 業 名	現代社会を考える			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1203
英 文 名	Contemporary Society			開講 時期	春学期	必修 選択	必修		
担 当 者	新矢 昌昭			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	社会学を通して考えると、さまざまな社会に起こっている現象はどのように見えてくるのだろうか。この講義では、わたしたちの身近なできごとから現代社会の特徴を考えるとともに、わたしたちがいかに社会に左右される存在なのか、について考えていく。主として、現代社会における家族を見て行くが、現代社会に対する複眼的な目を養って欲しい。								
学修成果 到達目標	1) 現代社会を理解することができる 2) 複眼的な視野を養うことができる 3) 社会と人間の関係を考えることができる								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			汎用的技能				
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )	グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )	プレゼンテーション				
評価方法	定期試験 ( 80% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (	課題発見・解決能力 ) (				
テキスト	使用しない								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	配布資料についての解説、グループワーク発表などにコメントを加える								
留意事項	わからないことは講義後に聞くように。講義中に意見を求めるので、自身の考えをしっかりと持つこと。なお、施設見学については、調整するため講義回数について変更の可能性がある。								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する								
実践的教育									

授業名		現代社会を考える
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	近代家族の誕生－西欧	(学修内容) 西欧近代家族の形成過程 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく
第3回	近代家族の誕生－日本	(学修内容) 日本の家族史 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読んでおく
第4回	現代家族の行方	(学修内容) 現代家族の特徴、家族の未来 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第5回	恋愛結婚	(学修内容) 恋愛結婚の可能性と行方 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第6回	ジェンダー	(学修内容) 現代社会とジェンダー (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第7回	「見えない貧困」	(学修内容) 現代社会における貧困問題について (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第8回	若者論	(学修内容) 現代社会における若者の生きづらさ (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第9回	グループワーク	(学修内容) 若者論を疑う (事前事後学修課題の内容) (60分) グループワークで使用するプリントを予め読んでおくこと
第10回	「わたし」とは何か	(学修内容) アイデンティティの確立は可能か (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第11回	「世間」とは何か	(学修内容) 日本は社会ではなく、「世間」ではないのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、考えをまとめておく
第12回	「空気」とは何か	(学修内容) 「空気」に敏感なわたしたち (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、考えをまとめておく
第13回	閉塞感を感じる社会	(学修内容) 何故、わたしたちは閉塞感を感じてしまうのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布資料を読み、考えをまとめておく
第14回	施設見学	(学修内容) 授業に関連する博物館などの見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 講義に関連する博物館などを見学する。行先は、講義中で決める。その博物館などの施設について事前学習しておくこと
第15回	全体のまとめ	(学修内容) 学期間のまとめ (事前事後学修課題の内容) (60分) 博物館などの施設見学について感想文の提出



授 業 名	情報モラル			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1204
英 文 名	Information Ethics			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	堀出 雅人			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	その場の雰囲気、ウケると思っつついっついノリで、やってしまったSNSの発信がネット上で刻印されるいわゆるデジタル・タトゥーがいま社会的な問題となっている。例え、若年層が起こしたネットトラブルであっても刑罰や訴訟となるケースも散見される。本授業を通して、安心安全な情報社会とするためのモラルとそこで求められる私たち一人ひとり規範意識とは何かを、様々な事例を基に考え、話し合いながら、説明できることを目指す。								
学修成果 到達目標	以下の点を中心に社会人に求められる情報モラルに関する基礎知識を習得し、ルールやマナーを守る態度を涵養する。 1) 著作権を理解した上でインターネット上の情報を利用する 2) インターネット上の特定の情報のみを信じずその真偽を確かめる術を得る 3) SNS上の迷惑行為が及ぼす影響や加害者への制裁を理解する 4) インターネット上でトラブルに遭った時の対応を説明できる								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	noa出版 『情報倫理ハンドブック改訂版』株式会社ワークアカデミー、2024年								
参 考 書	必要に応じて補助プリントを配布する。								
課題に対する フィードバック の方法	平常試験の一環で実施したプレゼンテーションや小レポートや発表用スライド資料に関しては授業中に講評を行うとともに一人ひとりや発表グループ単位にコメント等を返す								
留意事項	指定した教科書を必ず購入すること。 教科書に沿って毎回の授業を進めるため。								
オフィス アワー	授業期間中の毎週水曜日のお昼休み								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：京都府警察本部サイバー犯罪対策課のネット安心アドバイザーとして 京都府消費生活安全センターによるコンシューマーボランティアのアドバイザーとして 小中高校生を対象に情報モラルに関連する啓発活動に取り組んでいる。								

授業名	情報モラル	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	情報モラルの意味	(学修内容) 情報モラルの意味について説明できる(教科書pp.1-2) (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の指定範囲を読んでくる 授業の感想を提出する
第2回	フェイクニュースの実際	(学修内容) フェイクニュースとはどんなニュースを指すのかを説明できる(教科書pp.44) (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の指定範囲を読んでくる 実際にトラブルが起こったフェイクニュースを調べてくる
第3回	フェイクニュースが拡がる仕組み	(学修内容) エコーチェンバーとフィルターバブルと呼ばれるネットの現象を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 自分が調べたフェイクニュースを発表するため要約する
第4回	フェイクニュースへの対策	(学修内容) フェイクニュースによるトラブルに遭わないために対策を説明できる(教科書pp.14-17) (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の指定範囲を読んでくる 授業の感想を提出する
第5回	動画などSNS上での迷惑行為の実際	(学修内容) SNS上の迷惑行為について説明できる(教科書pp.42-43) (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の指定範囲を読んでくる 青少年によるSNS上の迷惑行為について調べてくる
第6回	SNS上で迷惑行為が起こる背景	(学修内容) なぜSNS上の迷惑行為が起こるのかを説明できることのできる(教科書p.10-13) (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の指定範囲を読んでくる 自分が調べたSNS上の迷惑行為を発表するため要約する
第7回	SNS上の迷惑行為への対策	(学修内容) SNS上の迷惑行為、特に青少年が起こす迷惑行為を減らすための啓発のあり方を考える(教科書pp.20-22) (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の指定範囲を読んでくる 授業の感想を提出する
第8回	著作権侵害の実際	(学修内容) 近年報道される著作権侵害の被害について説明できる(教科書pp.46-47) (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の指定範囲を読んでくる 授業後ネット上で起こるその他の著作権侵害の事例を調べてくる
第9回	著作権とは	(学修内容) 著作権侵害を防ぐためにまず著作権とは何か説明することができる(教科書pp.4-6) (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の指定範囲を読んでくる 自分が調べた著作権侵害の事例を発表するため要約する
第10回	著作権侵害への対策	(学修内容) 著作権侵害を防ぐための取り組みを説明することができる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 著作権侵害を防ぐ取り組みを調べ発表するため要約する 授業の感想を提出する
第11回	情報商材のトラブルの実際	(学修内容) 情報商材に関するトラブルを説明できる(教科書pp.48) (事前事後学修課題の内容)(60分) 教科書の指定範囲を読んでくる 情報商材に関するトラブル事例を調べてくる
第12回	情報商材を購入する消費者の心理(話題提供予定: 京都府消費生活安全センター専門員)	(学修内容) 情報商材による詐欺にひっかかる消費者の心理を説明できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 情報商材のトラブルについて調べた内容を整理する 授業の感想を提出する
第13回	情報商材による詐欺への対策	(学修内容) 情報商材による詐欺を防ぐための啓発方法を考える(教科書p.22) (事前事後学修課題の内容)(60分) SNS上の1対不特定多数のやりとりの長所と短所を整理する 授業の感想を提出する
第14回	高校生・大学生へ向けた情報モラル教育の具体案の検討	(学修内容) これまで学んだ成果をもとに高校生を対象にした情報モラル教育を企画することができる (事前事後学修課題の内容)(60分) 高校生を対象とした情報モラル教育の企画を考える 授業で話し合った内容を整理しまとめる
第15回	【プレゼンテーション】ネットトラブルを防ぐ啓発方法の発表	(学修内容) グループで考案した情報モラル教育を発表し授業担当者や他の受講生から評価を受け内容を改善できる (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表資料をまとめる 評価をもとに企画を改善する

授 業 名	社会心理			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1313
英 文 名	Social Psychology			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	新矢 昌昭			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>わたしたちが考え行動する時、常に周りの人々との関係をもっています。例えば、「わたし」が化粧するのは、「わたし」のためではなく「周りの目」があるからなのです。つまり、「わたしの心」には、他者や社会が大きく関係しているのです。このように社会心理学は、人間の社会的行動を明らかにする学問です。簡単に言いますと、「わたしの心」が他人や社会とどのような関係を持ち、影響しあっているのかを考える学問です。この講義では、人間関係や社会の当然さを疑いながら、「わたしの心」を考えていきたいと思えます。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 「わたし」と社会の関係を考える 2) 社会的存在としての「わたし」を考える 3) 「わたし」を見つめる</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 80% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	使用しない								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	適宜コメントを加える								
留意事項	わからない箇所は、講義後に聞くこと。								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示								
実践的教育									

授業名		社会心理
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 講義内容の説明 (事前事後学修課題の内容) (15分) シラバスを読んでおく
第2回	社会的性格	(学修内容) 社会心理学の考え方 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第3回	社会的自己	(学修内容) 「わたし」って何? (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第4回	対人認知	(学修内容) 「わたし」はどのようにして他人を知るのだろう (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第5回	ステレオタイプ	(学修内容) 偏見を生む「こころ」 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第6回	ナチズム	(学修内容) 何故、人々はナチスを受け入れたのか (事前事後学修課題の内容) (30分) 感想を書く
第7回	自己呈示と自己開示	(学修内容) 友人と親友の使い分け (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第8回	対人魅力	(学修内容) 「わたし」はどんな人に魅力的を感じるのだろう (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第9回	社会的交換理論	(学修内容) 損得勘定という視点 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第10回	集団	(学修内容) 日本的社會心理 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第11回	グループワーク	(学修内容) 日本人の集団性を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第12回	群集心理	(学修内容) 集団思考の危険性 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第13回	流行	(学修内容) 流行の特徴 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第14回	同調行為	(学修内容) 何故、同調するのか (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第15回	「わたし」と社会心理	(学修内容) 自らが関心を持ったテーマの発表 (事前事後学修課題の内容) (30分) レジュメの作成

授 業 名	情報リテラシー			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1314
英 文 名	Information Literacy			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	堀出 雅人			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	IoT ( Internet of Things )、あらゆるモノをインターネットに接続する技術がわたしたちの生活を大きく変えようとしています。スマートフォンをはじめ、タブレット端末を操作することでさまざまなモノを遠隔操作できるようになりました。消費者として生活の利便性を享受するだけでなく、本授業を通してその仕組みを理解することでより自分の使い方に適した情報通信機器の選択、ネットワークのセキュリティ対策ができるようになります。また、WebサイトやSNS上で発信される情報の真偽を判断する力を本授業を通して高めることで自ら情報の取捨選択することが可能となりデマや偽情報に惑わされない生活を送ることを目指します。								
学修成果 到達目標	社会生活において求められる以下の点の基礎的な情報リテラシーを習得できる 1) コンピューターの歴史・特徴・種類を説明できる 2) ハードウェアの構成と役割を説明できる 3) ソフトウェアの役割と種類を説明できる 4) コンピューターネットワークの特徴と基礎を説明できる 5) 情報セキュリティと情報モラルの重要性を具体的に説明できる								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	草野真一 『メールはなぜ届くのか』 講談社新書ブルーブックス、2014								
参 考 書	そのほか授業時にプリントを配布する								
課題に対する フィードバック の方法	平常試験の一環で実施した小レポートやプレゼンテーションに関しては授業中に講評を行い、個別にもコメントを返したり助言を与えたりする。								
留意事項	指定した教科書を必ず購入すること。 教科書に沿って毎回の授業を進めるため。								
オフィス アワー	授業実施期間中の毎週水曜日のお昼休み								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：2009年から5年間程度、特定非営利活動法人学習開発研究所の所員として、アナログ回路・デジタル回路の技術者のスキルアップをめざした学習システムの開発と実践に携わる。								

授 業 名		情報リテラシー
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	情報リテラシーとは	(学修内容) 情報リテラシーの意味を説明することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) シラバスを読んでくる 授業後にキーワードを復習する
第2回	コンピュータとインターネットの誕生	(学修内容) コンピュータとインターネットが誕生した経緯を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書5章前半を事前に読み、キーワードをインターネット等で調べる 授業後にキーワードを復習する
第3回	コンピュータとインターネットの発展	(学修内容) コンピュータとインターネットの発展の経緯を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書5章後半を事前に読み、キーワードをインターネット等で調べる 授業後にキーワードを復習する
第4回	アナログデータとデジタルデータ	(学修内容) 2つのデータの違いを説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書1章前半を事前に読み、キーワードをインターネット等で調べる 授業後にキーワードを復習する
第5回	インターネットとプロトコル	(学修内容) インターネット通信に欠かせないプロトコルについて説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書1章後半を事前に読み、キーワードをインターネット等で調べる 授業後にキーワードを復習する
第6回	ウェブページの閲覧とプロトコル	(学修内容) ウェブページを閲覧を可能とするプロトコルについて説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書2章序盤を事前に読み、キーワードをインターネット等で調べる 授業後にキーワードを復習する
第7回	電子メールとプロトコル	(学修内容) 電子メールの送受信を可能とするプロトコルについて説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書2章中盤を事前に読み、キーワードをインターネット等で調べる 授業後にキーワードを復習する
第8回	メーラからウェブメールへ	(学修内容) 電子メールがメーラからウェブメールが主流となる過程を説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書2章終盤を事前に読み、キーワードをインターネット等で調べる 授業後にキーワードを復習する
第9回	クラウドコンピューティング	(学修内容) ウェブメールをはじめブラウザ上のウェブサービスを支えるクラウドコンピューティングについて説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書3章前半を事前に読み、キーワードをインターネット等で調べる 授業後にキーワードを復習する
第10回	クラウドコンピューティングのメリット・デメリット	(学修内容) クラウドコンピューティングのメリットとデメリットを説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書3章後半を事前に読み、キーワードをインターネット等で調べる 授業後にキーワードを復習する
第11回	パケット通信とは	(学修内容) データが実際にどのように運ばれるのかを説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書4章序盤を事前に読み、キーワードをインターネット等で調べる 授業後にキーワードを復習する
第12回	IPアドレスの問題	(学修内容) IPアドレスについて、またIPアドレスが不足している現状について説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書4章中盤を事前に読み、キーワードをインターネット等で調べる 授業後にキーワードを復習する
第13回	プロトコルを分類する	(学修内容) OSI参照モデルを説明できる (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書4章終盤を事前に読み、キーワードをインターネット等で調べる 授業後にキーワードを復習する
第14回	【プレゼン準備】授業の学修成果の整理	(学修内容) 授業を通して学修した内容で興味関心をもち自主的に調べたものをスライド資料にまとめることができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 自分が取り上げるテーマを決めておく 次の授業までにスライド資料を完成させる
第15回	【プレゼン発表】授業の学修成果の共有	(学修内容) 授業の学修成果を発表することができる (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表のふりかえりを行う 他者の発表も踏まえ期末試験のレポート作成に活かす

授 業 名	トータルファッション			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	IC1402
英 文 名	Total Fashion			開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	矢次 千尋			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	ファッションとメイクは、自分自身のオリジナリティを磨きその人らしさを表現するツールとして必要不可欠である。服装、メイク、小物それぞれに数ある商品をいかに組み合わせ、どのような個性を出していくか。そして、それは自身のライフステージとリンクしているかを見極めることが大切である。自身の個性を生かし、自己表現していく際には、自分が他者に与えている印象を理解し、色、素材、形など基本的な項目の組み合わせを考えていく。トレンドを知り、自分らしさを生かすTPO別メイクアップを理解する。								
学修成果 到達目標	1. ファッションを通して“自分らしさ”を表現する力を養う。 2. ファッションやメイクの基礎知識を理解できる。 3. 各人の個性にあったファッションやメイクを理解し、実践する力を養う。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)		グループワーク I C T活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	資料を適宜配布する。								
参 考 書	授業中に随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	レポートについては、コメントをつけて返却します。								
留意事項	新聞や雑誌、書籍などからだけでなく、日常生活でもファッションやメイクについて関心を寄せてください。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：プロのメイクアップアーティストが実務経験をもとにファッションやメイクに関する話と実践をおこないます。								

授業名	トータルファッション	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 現代の日本女性にとってのファッションとメイクとは何か	(学修内容) 授業概要の説明。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、自分にとってのファッションとメイクの意味を考え、レポートにまとめて提出。
第2回	自分の外見の印象(個性)分析と体形にあった洋服の形(デザイン)	(学修内容) 自分の持っている外見の印象(個性)を分析するとともに体形にあった洋服の形を選ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習としてクローゼットにある自分の洋服が自分の体形に合っているかを確認する。
第3回	ファッションと色の関係 色彩心理 パーソナルカラー	(学修内容) 色彩心理(色が人間に与えている印象)とパーソナルカラー(自分の髪、目、肌の色に調和して健康的にいきいきと見せてくれる色)の理解。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 雑誌などから4シーズンの写真を選んで切り抜き、提出する。
第4回	イメージとコーディネート	(学修内容) ファッションイメージ(エレガント、キュート、スポーティなど)を理解し、“自分らしさ”をコーディネートで表現できるようになる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 身の回りのもものイメージを分析する。
第5回	TPOにあったファッションと小物の効果的な使い方	(学修内容) ビジネス、フォーマル、遊びなどTPOにふさわしい装いを理解する。アクセサリーやストール、スカーフなどの使い方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、配布資料を読み、自身の過ごす時間を考えてどのような装いがふさわしいかを考える。
第6回	ファッションを引き立てる立ち居振る舞い	(学修内容) 良い姿勢と立ち居振る舞いの意義を理解し、自身のファッションに活かす。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、授業で学んだ立ち居振る舞いを日常でも実践する。
第7回	これからの時代に合ったファッションを考える	(学修内容) SDGs視点からこれからのファッションを考えることでファッションの視野を広げる。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、持続可能な世界とファッションを結び付け、自分にできることをファッションを通して考える。
第8回	ライフステージによるコーディネート	(学修内容) ビジネス、フォーマル、スポーツ、遊びなど場面による装いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、配布資料を読み、自身の過ごす場面をイメージしてどのような装いがふさわしいかを考える。
第9回	自分の魅力を引き出すメイクアップ実技	(学修内容) メイクの基本となる基礎化粧品について、その種類や使い方を知る。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 予習として、普段の自分はどんな基礎化粧品を使っているか確認してくる。
第10回	自分の魅力を引き出すメイクアップ実技	(学修内容) ベースメイクの種類とその使い方を知る。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、配布資料を読む。また授業で学んだ実技ができる機会があれば実践する。
第11回	自分の魅力を引き出すメイクアップ実技	(学修内容) アイシャドウ、アイブロウなどのアイメイク種類を知り、自分に似合う色や眉の形などを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、配布資料を読む。また授業で学んだ実技ができる機会があれば実践する。
第12回	自分の魅力を引き出すメイクアップ実技	(学修内容) チークとリップの種類や色を知り、自分に似合うものを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、配布資料を読む。また授業で学んだ実技ができる機会があれば実践する。
第13回	自分の魅力を引き出すためのヘアスタイリング	(学修内容) 髪型や髪色の種類を知り、自分に似合うものを見つける。 (事前事後学修課題の内容) (20分) 復習として、配布資料を読む。また授業で学んだ実技ができる機会があれば実践する。
第14回	自身のファーストインプレッションをあげるために	(学修内容) 感じのいいファッションやメイクとはどんなものか、どこに注意すればいいかを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 復習として、配布資料を読み、自分なりに感じのいいメイクやファッションを考え、レポートをまとめる。
第15回	メイクと健康の関係(QOLを高めるファッションとメイク)	(学修内容) ファッションと健康、また近年の話題である美容整形やLGBTQについてその課題を理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習として、美容整形のコマーシャルをピックアップし、そのコマーシャルがどんなメッセージを発しているのかを自分なりにまとめる。



授 業 名	観光と地域再生			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	IC1412
英 文 名	Tourism and Regional Revitalization			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	新矢 昌昭			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	現在、特に地方では過疎化が進み、地域が揺らいでいる。観光は、地域再生の一つとして注目されている。また、地域だけではなく、日本も観光立国を看板に掲げている。本講義では、地域再生に成功した観光地の事例を紹介し、また観光に取り組んでいる地域を考え、地域再生と観光振興について考えたい。さらに、フィールドワークを通して、地域資源と観光についても考える。								
学修成果 到達目標	1) 観光について学ぶ 2) 地域再生の可能性 3) 観光資源の発掘								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	プリントを配布する								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	グループワーク、発表へのコメントを加える								
留意事項	わからないことは講義後に聞くように。講義中に意見を求めるので、自身の考えをしっかりと持つこと								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する								
実践的教育									

授 業 名		観光と地域再生
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイドンス	(学修内容) どのような講義をするのか (事前事後学修課題の内容) (15分) シラバスを読んでおく
第2回	観光学とは何か	(学修内容) 観光学の考え方、視点 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第3回	地域の捉え方	(学修内容) 地域とは何か (事前事後学修課題の内容) (30分) 地域の特性について調べる
第4回	観光地の歴史	(学修内容) 名所図会から江戸時代の観光を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 名所図会を読んでおく
第5回	京都の観光地の歴史	(学修内容) 名所図会から京都の観光を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 京都名所図会を読んでおく
第6回	大坂の観光地の歴史	(学修内容) 名所図会から大坂の観光を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 大坂名所図会を読んでおく
第7回	観光資源	(学修内容) 観光資源とは何か (事前事後学修課題の内容) (30分) 観光資源の例を考えておく
第8回	グループ1による事前発表	(学修内容) グループ1による観光地の事前発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメを作成する
第9回	フィールドワーク1回目	(学修内容) 観光地のフィールドワーク1回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 担当グループは、案内地と解説を考えておく
第10回	グループ1による事後発表/グループ2による事前発表	(学修内容) グループ1による観光地の事後発表/グループ2による観光地の事前発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメを作成する
第11回	フィールドワーク2回目	(学修内容) 観光地のフィールドワーク2回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 担当グループは、案内地と解説を考えておく
第12回	グループ2による事後発表/グループ3による事前発表	(学修内容) グループ2による観光地の事後発表/グループ3による観光地の事前発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメを作成する
第13回	観光地のフィールドワーク3回目	(学修内容) 観光地のフィールドワーク3回目 (事前事後学修課題の内容) (60分) 担当グループは、案内地と解説を考えておく
第14回	グループ3による事後発表	(学修内容) グループ3による観光地の事後発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 担当グループは、案内地と解説を考えておく
第15回	全体のまとめと講評	(学修内容) 春学期のまとめとフィールドワークの講評 (事前事後学修課題の内容) (30分) 各自、事後発表で訂正したレジュメを用意する

授 業 名	平和を考える			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Peace Studies			開講 時期	秋学期	必修 選択			
担 当 者	新矢 昌昭			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	この講義では、平和について戦争を通して考えていきます。近・現代社会における戦争は、国際関係の暴力的な縮図と言えるでしょう。そしてその上に平和があると言ってもいいでしょう。平和と戦争について近・現代社会との関係について考えていきます。特に、「総力戦」「メディア」をキーワードとして考えていきます。								
学修成果 到達目標	1) 戦争はなくなるのか？ 2) 平和とは何か 3) 「わたし」はどうするのか								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 80% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	使用しない								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	適宜コメントを加える								
留意事項	わからないところは、講義後に聞くこと								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する								
実践的教育									

授業名		平和を考える
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義はどのようなことをするのか (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	暴力と戦争	(学修内容) 暴力と戦争はどのように違うのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第3回	前近代の戦争 その1	(学修内容) 前近代の戦争の特徴 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第4回	前近代の戦争 その2	(学修内容) 前近代の戦争技術 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第5回	前近代の平和	(学修内容) 平和条約、和睦 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第6回	近代国家と戦争	(学修内容) 近代国家の戦争の特徴 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第7回	近代国家と国民	(学修内容) 戦争と工業、徴兵制 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第8回	総力戦の時代	(学修内容) 総力戦とは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第9回	第一次世界大戦	(学修内容) 第一次世界大戦の特徴 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第10回	第二次世界大戦	(学修内容) 第二次世界大戦の特徴 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第11回	国際連盟と国際連合	(学修内容) 平和としての機能 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第12回	事前学習	(学修内容) 博物館への学習についての事前発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメを用意する
第13回	学外学習	(学修内容) 博物館見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自のテーマについて調べる
第14回	事後学習	(学修内容) 事後発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメを用意する
第15回	平和は可能か	(学修内容) 平和はどのようにすれば、実現できるのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく

授 業 名	現代の人権			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Human Rights in the Modern World			開講 時期	春学期	必修 選択		選択	
担 当 者	新矢 昌昭			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>一般に、人権とは、誰もが生まれながらにもっている自分らしく幸せに生きる権利とされています。そして、人権は基本的人権として憲法に掲げられています。にもかかわらず、差別・偏見は一向になくなりません。それは何故なのでしょう？ この講義では、わたしたちの身近にある、外国人、ホームレス、性など、さまざまな差別・偏見について考えていきます。また、この講義の目標として、こうした差別・偏見が「わたし」の心の中にあるかもしれないことを自覚していきます。そのための一環として、グループによる発表・討論を取り入れる予定です。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 人権を理解する 2) 人権を自身の問題にする 3) 人権は可能か</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 80% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	使用しない								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	適宜コメントを加える								
留意事項	わからないところは、講義後に聞くこと								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する								
実践的教育									

授 業 名		現代の人権
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義はどのようなことをするのか (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	ちがいのちがいを	(学修内容) 思い込みをみつめる (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第3回	人権とは何か	(学修内容) 人権の基礎的理解 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第4回	人権に対する疑い	(学修内容) 人権への疑いを通して人権を考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第5回	偏見	(学修内容) 偏見はどのように生まれるのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第6回	差別	(学修内容) 差別はどのように生まれるのか (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第7回	性差	(学修内容) 男女差別についてかんがえる (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第8回	ホームレス	(学修内容) ホームレス問題の理解 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第9回	事前発表	(学修内容) 人権に関する博物館の事前発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメを用意しておく
第10回	学外授業	(学修内容) 当該博物館の見学 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後発表に向けた各自のテーマを調べる
第11回	事後発表	(学修内容) 人後に関する博物館の事前発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメを用意しておく
第12回	ダイバーシティ	(学修内容) 多様性の理解 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第13回	人権を考えるための発表 その1	(学修内容) 各自が取り挙げたテーマについての発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメを用意しておく
第14回	人権を考えるための発表 その2	(学修内容) 各自が取り挙げたテーマについての発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) レジュメを用意しておく
第15回	人権の可能性	(学修内容) 人権の今後を考える (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく

授 業 名	社会的包摂			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Social Inclusion			開講 時期	春学期	必修 選択		選択	
担 当 者	新矢 昌昭			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	この講義では、社会的包摂とは何かについて、対局概念である社会的排除の視点から考えていきます。社会的包摂は、多様な社会の中で、誰一人たりとも社会の一員として認めることと言えます。しかし、人々の中には排除されている人々が多くいます。例えば、ホームレス、貧困状態、性、民族などによってです。この講義では、様々な問題点を考えながら、社会的包摂の可能性について考えていきます。								
学修成果 到達目標	1) 社会的包摂を理解する。 2) 社会的排除を理解する。 3) 社会的包摂の可能性について考える。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 80% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 20% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	使用しない								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	発表や考えについてコメントを述べる								
留意事項	わからないところは、講義後に聞くこと								
オフィス アワー	研究室の扉に貼付								
実践的教育									

授業名		社会的包摂
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義はどのようなことをするのか (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読んでおく
第2回	社会的包摂とは何か	(学修内容) 概念の理解 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第3回	社会的排除とは何か	(学修内容) 概念の理解 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第4回	社会的排除とホームレス問題	(学修内容) ホームレス問題とは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第5回	社会的排除と貧困問題 その1	(学修内容) 貧困問題とは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第6回	社会的排除と貧困問題 その2	(学修内容) 貧困問題の現状 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第7回	社会的排除と民族問題	(学修内容) 民族問題とは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第8回	社会的排除と性	(学修内容) 様々な性の理解 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第9回	社会的排除と暴力	(学修内容) 社会的排除と暴力の関係について (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第10回	事前発表	(学修内容) フィールドワーク先についての事前発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自が設定したテーマについてのレジメの用意
第11回	フィールドワーク	(学修内容) フィールドワークでの調査 (事前事後学修課題の内容) (60分) 各自が設定したテーマを中心に学習する
第12回	事後発表	(学修内容) フィールドワーク先についての事後発表 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークかた学んだ各自が設定したテーマについてのレジメの用意
第13回	本質主義	(学修内容) 本質主義とは何か (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第14回	社会的排除、包摂、後期近代	(学修内容) 現代社会での社会的排除、包摂の関連性 (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく
第15回	社会的包摂は可能か	(学修内容) 社会的包摂の可能性について (事前事後学修課題の内容) (60分) 配布プリントを読んでおく



授 業 名	ベーシック韓国語		開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	IC1403
英 文 名	Basic Korean		開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	盧 珠妍		対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	韓国語とはいったいどんな言語なのか。韓国語を初めて学習する人を対象に、韓国語の文字(ハングル)の読み方、書き方から始める。つぎに、初歩的な文型などを用いた挨拶や会話文を学習する。音読や聞き取りなどの反復練習を通して学習内容を身に付け、初歩的実践的表現能力の習得を目指す。							
学修成果 到達目標	1) 韓国語の文字を読む、書くことができる。 2) 基礎的な文法を習得することができる。 3) 初歩的な語彙、語句、文型を身に付けることができる。 4) 学習した語彙や文法を応用し、文を作ることができる。 5) 韓国語で挨拶、自己紹介、簡単な会話ができる。							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能				
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 ( 60% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )	
テキスト	新大久保語学院 李志暎 『新装版 できる韓国語 初級 』アスク DEKIRU出版。							
参 考 書	韓日・日韓辞典。 授業時に適宜紹介する。							
課題に対する フィードバック の方法	小テストや課題については、翌週の授業時に解説・コメントする。							
留意事項	積極的に授業に参加する。 授業中の私語および携帯電話使用は禁止とする。							
オフィス アワー	研究室に日時を掲示するので、確認すること。							
実践的教育								

授業名	ベーシック韓国語	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 韓国語の文字「ハングル」について	(学修内容) 授業の内容、方法、評価等について説明。ハングルの由来およびハングルの仕組み等について。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前: シラバスを確認し授業全体の流れを理解する。事後: 配布資料と教科書p6の内容を復習する。
第2回	文字と発音(1) 基本母音と子音(平音)について	(学修内容) 基本母音10個と基本子音について確認。書き方と発音練習。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書p5、pp8-14内容確認しながら復習する(書く、読む)。
第3回	文字と発音(2) 子音(激音と濃音)について	(学修内容) 子音(激音と濃音)の書き方や発音練習。基本母音と子音で作られる単語について。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 基本母音と子音(平音)について復習しておく。 事後: 教科書p5、pp15-19の内容を読み書きしながら確認する。
第4回	文字と発音(3) 終音(パッチム)と合成母音	(学修内容) パッチムの仕組み、パッチムの発音と代表音について。合成母音について。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 子音(激音と濃音)について復習しておく。 事後: 教科書pp20-28の内容を読み書きしながら確認する。
第5回	名詞文の丁寧な文末語尾(1) 「～イムニダ」体と連音化	(学修内容) 助詞(～は)と文末語尾「～です」「～ですか」を「～イムニダ」文型で表現する。発音の変化: 連音化について。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 終音(パッチム)と合成母音について復習しておく。 事後: 教科書pp40-43、p173の内容を読み書きしながら確認する。
第6回	名詞文の丁寧な文末語尾(2) 名詞文の否定形と助詞「～が」	(学修内容) 名詞文の否定「～ではありません」について。否定文演習。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 「～イムニダ体」について復習しておく。 事後: 教科書pp44-47の内容を読み書きしながら確認する。
第7回	名詞文の丁寧な文末語尾(3) 「～ヨ」体と指定詞	(学修内容) 文末語尾「～です」「～ですか」「～ではありません」を「～ヨ」文型で表現する。指定詞について。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 否定文について復習しておく。 事後: 教科書pp50-55の内容を読み書きしながら確認する。
第8回	小テストおよび解説 会話	(学修内容) 第1回～第7回までの内容について小テストと解説を行う。 p40,p44,p50の会話リスニングと音読。会話練習。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 第2回～第7回までの内容を復習しておく。 事後: 小テストの内容を確認整理しておく。
第9回	存在に関する表現	(学修内容) 「あります・います」「ありません・いません」と助詞「～で」について。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 教科書pp56-61内容を読み書きしながら確認する。
第10回	場所・位置に関する表現	(学修内容) 「～にあります・います」と助詞「～に」、場所・位置を表す言葉について。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 存在に関する表現と助詞「～で」について復習しておく。 事後: 教科書pp62-66内容を読み書きしながら確認する。
第11回	用言(動詞、形容詞)の基本形と丁寧な文末語尾	(学修内容) 用言(動詞、形容詞)の基本形と丁寧な文末語尾活用について。助詞「～を」について。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 場所を表す表現と単語について復習しておく。 事後: 教科書pp68-73内容を読み書きしながら確認する。
第12回	並列「～して、くて」	(学修内容) 並列語尾の活用について。並列語尾を使って文章をつくる。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 用言(動詞、形容詞)の基本形と文末語尾の活用について復習しておく。事後: 教科書pp70-71内容を読み書きしながら確認する。
第13回	丁寧な文末語尾 用言の否定形と助詞「～から」「～まで」	(学修内容) 用言(動詞、形容詞)の否定形について。 助詞「～から」「～まで」: 時間と場所を表す助詞について。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 並列語尾「～して、くて」について復習しておく。 事後: 教科書pp74-79内容を読み書きしながら確認する。
第14回	数詞 漢数詞と固有数詞	(学修内容) 漢数詞と固有数詞の違いについて。数詞の使い方と固有数詞の使い方について。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 用言の否定形および時間と場所を表す助詞について復習しておく。事後: 教科書pp80-85内容を読み書きしながら確認する。
第15回	総復習	(学修内容) 文法および会話の全体についてまとめ。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: 授業全体を振り返り、質問などを考えておく。 事後: 定期試験に向けて復習する。

授 業 名	ジェンダー論			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Gender Studies			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	上田 有里奈			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>「女性である」「男性である」ということは、あまりに当たり前すぎて日常的に意識化されないことが多い。しかし、人は生まれた瞬間から女性または男性いずれかのカテゴリーに入れられ、文化的・社会的にふさわしい行動が期待される。本講義ではまず、どのような過程を経て、女性、男性になっていくのかを「社会化」という視点からとらえ、「ジェンダー（文化的・社会的性差）」を相対化することを試みる。そして、ジェンダーは現実の生活の中でどのような課題を含んでいるのかを探っていく。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) ジェンダーとは何かについて理解することができる。  2) 現代社会におけるジェンダー差の課題について理解することができる。  3) ジェンダーの課題について、自分事として捉え、考えることができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	授業時に随時紹介します。								
参 考 書	『初めて学ぶジェンダー論』伊田広行著(大月書店)、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子ほか編著(ミネルヴァ書房)、『未来をひらく男女共同参画-ジェンダーの視点から』西岡正子編(ミネルヴァ書房)、『働く女子の運命』濱口桂一郎(文春新書)、『炎上CMでよみとくジェンダー論』瀬地山角(光文社新書)、『「男女格差後進国」の衝撃 無意識のジェンダー・バイアスを克服する』治部れんげ(小学館新書)ほか、随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして、リアクションペーパーに対してコメントをします。								
留意事項	ジェンダーについて、遠くの誰かの問題ではなく、自分自身の問題として考えてください。グループディスカッションを行う予定です。受講者は授業への積極的な参加が求められます。								
オフィス アワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください。								
実践的教育									

授業名	ジェンダー論	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション セックスとジェンダーの違い	(学修内容) 今後の授業スケジュール等について説明する。 セックスとジェンダーの概念について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) シラバスを読み、授業計画の全体像を把握しておく。
第2回	「らしさ」とは何か	(学修内容) 社会的・文化的に作られる「男らしさ/女らしさ」について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の授業について復習する。
第3回	作られる<男らしさ><女らしさ>	(学修内容) メディアや学校教育などがジェンダーに与える影響について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の授業について復習する。
第4回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラムとは	(学修内容) 自分の経験をもとに、隠れたカリキュラムの実態について考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の授業について復習する。
第5回	教育とジェンダー：ジェンダー平等の視点に立った教育のために	(学修内容) 教育現場におけるジェンダー格差の歴史を学び、ジェンダー平等の視点に立った教育のために何が必要かを考える。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 前回の授業について復習する。
第6回	「お姫様」とジェンダー(その )	(学修内容) 「お姫様」を扱った物語の映像を分析する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 事前にグリム童話について調べておくこと。「お姫様」を扱った物語の映像を分析し、考えたことをレポートにまとめる。
第7回	「お姫様」とジェンダー(その )	(学修内容) 「お姫様」を扱った物語の映像を分析する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 「お姫様」を扱った物語の映像を分析し、自分なりに感じたこと思ったことをレポートにまとめる。
第8回	「お姫様」とジェンダー(その )	(学修内容) レポートについて、グループで意見を共有し合う。 (事前事後学修課題の内容) (30分) グループでの話し合いの中から生じた気付きや新たな課題等について、まとめる。
第9回	デートDV・性犯罪とジェンダー	(学修内容) ジェンダーと性犯罪の関連について考える。デートDVのメカニズムについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 性暴力・性犯罪について、自分事として知識を身に付ける。
第10回	家庭生活におけるジェンダー格差	(学修内容) 家庭生活における男女格差の実態について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 家庭生活における男女格差の解消のためには何が必要かを自分なりに考える。
第11回	就労とジェンダー	(学修内容) 男女で大きく異なる働き方の実態や労働環境の実態について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 男女双方によるワーク・ライフ・バランスの実現のために何が必要かを自分なりに考えてみる。
第12回	ジェンダーの視点からみた子育ての課題	(学修内容) ジェンダーの視点から、日本社会の子育ての課題について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) ジェンダーの視点からみて、子育てにはどのような問題があるか調べておく。
第13回	長時間労働と男性の生きづらさ	(学修内容) 女性だけではなく男性の生きづらさについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 男女平等政策について、多角的に考える。
第14回	真の男女平等政策とは	(学修内容) 男女双方の生きづらさを学び、真の平等政策とは何かを理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 真の平等政策を考える上で、自分ができることについて考える。
第15回	多様な性をめぐる課題	(学修内容) 男性・女性を越境する多様な性を生きる人たちが直面している課題について理解する。 (事前事後学修課題の内容) (30分) 誰もが生きやすい社会を作っていくにはどうすれば良いかを自分なりに考える。

授 業 名	やさしい日本語			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	
英 文 名	Plain Japanese			開講 時期	春学期	必修 選択		選択	
担 当 者	松尾 章子			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	日本に住む外国人が増え、2023年の統計では在留外国人数が過去最高の195カ国322万人となっています。日本に3か月以上滞在する彼らと交流するときに「やさしい日本語」の使用が有効とされています。では、「やさしい日本語」とはどのようなものでしょうか。私たちが使用する日本語とどのように異なるのでしょうか。この授業では、「やさしい日本語」誕生の歴史や「やさしい日本語」の作り方、どのような人々に使用することができるかなどを学びます。								
学修成果 到達目標	1) 「やさしい日本語」とは何かを説明できる。 2) 「やさしい日本語」変換へのルールを説明できる。 3) 「やさしい日本語」を心がけて使用することができる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	吉開章著 『増補版 入門・やさしい日本語 外国人と日本語で話そう』 アスク出版 2023年								
参 考 書	庵功雄他著 『やさしい日本語のしくみ改訂版：日本語学の基本』 くろしお出版 2020年 吉開章著 『ろうと手話』 筑摩書房 2021年								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については、返却時にコメントを付して返却します。								
留意事項	積極的な授業参加を期待します。								
オフィス アワー	研究室前に日時を掲示しますので確認してください。								
実践的教育									

授業名	やさしい日本語	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション バーンガ体験	(学修内容) 授業の進め方の説明、バーンガ体験、自己紹介  (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前: シラバスを読む 事後: 振り返りを書く
第2回	第1章: やさしい日本語とは	(学修内容) やさしい日本語とは何か、やさしい日本語誕生の歴史  (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 振り返りを書く、課題提出
第3回	第2章: 外国語としての日本語	(学修内容) 母語、母国語、公用語、第二言語とは何か  (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 振り返りを書く、課題提出
第4回	第3章: 柳川やさしい日本語ツーリズムの誕生	(学修内容) やさしい日本語を使ってできること  (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 振り返りを書く、課題提出
第5回	第4章: コツ 文の「構造」をかたんに	(学修内容) 文の構造とツール活用  (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 振り返りを書く、課題提出
第6回	第5章: コツ ワセダ式ハサミの法則	(学修内容) ルールを学んでやさしい日本語に書き換え  (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 振り返りを書く、課題提出
第7回	第6章: AI翻訳活用術	(学修内容) 様々なツールと使用時の問題点  (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 振り返りを書く、課題提出
第8回	第7章: 練習してみよう	(学修内容) やさしい日本語書き換えの練習  (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 振り返りを書く、課題提出
第9回	第8章: 外国語学習への応用	(学修内容) やさしい日本語に整えるとは、外国語の文字  (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 振り返りを書く、課題提出
第10回	第9章: 日本人にも必要なやさしい日本語	(学修内容) 日本人とは、やさしい日本語を必要とする日本人とは  (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 振り返りを書く、課題提出
第11回	第10章: 「第三者返答」～「言語」より大きい「態度」の問題～	(学修内容) 第三者返答とは何か  (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 振り返りを書く、課題提出
第12回	第11章: みんなで「やさしいせかい」をつくろう	(学修内容) やさしい日本語の広がり  (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 振り返りを書く、課題提出
第13回	ゲストスピーカー(調整により、内容・日時に変更有)	(学修内容) やさしい日本語に関する活動をしているゲストスピーカーの話を聞く  (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 振り返りを書く、課題提出
第14回	やさしい日本語によるプレゼンテーション(調整により、日程に変更有)	(学修内容) やさしい日本語を使用したプレゼンテーション(受講人数により、発表形態を調整する)  (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後: 振り返りを書く、課題提出
第15回	総復習	(学修内容) プレゼンテーションの振り返りと授業内容の総復習  (事前事後学修課題の内容)(80分) 事後: 振り返りを書く、レポートを書く

授 業 名	観光英会話		開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	IC1413
英 文 名	Tourism Orientated English Conversation		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	竹中 宏文		対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>リーディングとスピーキング、観光や旅行の際に必要とされる初歩的な語彙や英会話表現を中心に学習する。特に、スピーキングに重点を置き、京都観光を英語で案内できるくらいの知識を身に付け、京都のトピックを用いて英会話力を高める。</p> <p>観光英会話力の習得を目標とするため、授業中はグループワークやプレゼンテーションを取り入れ、また、英語でのコミュニケーション力を高めるフィールドワークも実施する。</p>							
学修成果 到達目標	<p>1) 観光に関連するシチュエーションで、必要とされる事項を平易な英語で理解し伝えることができるようになる。</p> <p>2) 京都に関する見識を深め、京都や日本の歴史や文化に関わる知識を英語で伝えることができるようになる。</p> <p>3) プレゼンテーションやフィールドワークを通して、英会話力に自信をつけ、海外からの観光客に声をかけ、困っていれば助けをあげることができるようになる。</p>							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解		汎用的技能				
		態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)	グループワーク ICT活用(自主学習支援)	プレゼンテーション			
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テキスト	広瀬直子著『1分間英語で京都を案内する』KADOKAWA 2014年 600円+税							
参 考 書	授業にて、適宜、指示する							
課題に対する フィードバック の方法	定期試験は、定期試験返却期間中に希望者に返却する。 授業内発表・小テストは、返却時または実施後に解説を行う。							
留意事項	テキストの内容を何度も声に出して読み練習してください。 演習授業のため、積極的な授業参加とともに授業外での練習も期待します。 30分以内の遅刻は0.5回の欠席扱い、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。							
オフィス アワー	授業の前後に教室にて実施							
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：京都教育大学教育学部附属京都中学校 文部教官教諭、学校法人立命館 一貫教育部長、立命館 慶祥中学校・高等学校 教諭、教頭、副校長、初芝立命館中学校・高等学校 校長、大阪初芝学園 常務理事、立命館中学校・高等学校 副校長、高等学校長、池坊短期大学 学長補佐 など 平成9年度文部省検定済教科書 中学校外国語用 Everyday English共同執筆</p>							

授業名	観光英会話	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、ビジネス自己紹介 第1章「京都のきほん」 京都のきほん、古都、暮盤の目、歩き方、盆地の気候	(学修内容) 授業の進め方や事前・事後学修方法について説明、英語の自己紹介演習 京都のきほんについて学び、英会話練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後) テキストのp.18、p.20、p.22、p.24、p.26をそれぞれ10回以上声に出して読む。次回、いずれかを暗唱で発表。テスト勉強。
第2回	道案内の基本 第1章「京都のきほん」 神社仏閣、仏像の種類、うなぎの寝床、芸妓はんと舞妓はん	(学修内容) 道案内の英会話表現について復習と練習 京都のきほんについて学び、英会話練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回範囲の暗唱の練習 (事後) テキストのp.28、p.30、p.32、p.34を10回以上声に出して読む。次回、暗唱で発表。テスト勉強。
第3回	道案内の練習 第1章「京都のきほん」 旅館、お茶屋と料亭、ならわし、京都人、京ことば、京都のおもてなし	(学修内容) 道案内の英会話表現について実地演習 京都のきほんについて学び、英会話練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回範囲の暗唱の練習 (事後) テキストのp.36、p.38、p.40、p.42、p.44、p.46を10回以上音読。次回、暗唱で発表。テスト勉強。
第4回	プレゼンテーションの基本 第2章「京都の味」 京都の水、京野菜、京懐石、精進料理、おばんざい	(学修内容) 英語でのプレゼンテーションの方法について学ぶ 京都の「食」についての知識を身につけ、英会話練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回範囲の暗唱の練習 (事後) テキストのp.50、p.52、p.54、p.56、p.58を10回以上声に出して読む。次回、発表。テスト勉強。
第5回	プレゼンテーションの練習 第2章「京都の味」 箱寿司、鱧料理、京漬物、生麩、豆腐、ゆば	(学修内容) 英語でのプレゼンテーションについて練習 京都の「食」についての知識を身につけ、英会話練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回範囲の暗唱の練習 (事後) テキストのp.60、p.62、p.64、p.66、p.68、p.70を10回以上音読。次回、発表。テスト勉強。
第6回	応用的プレゼンテーション 第2章「京都の味」 京だし、白みそ、七味と山椒、和菓子、緑茶、日本酒	(学修内容) 英語でのプレゼンテーションの演習 京都の「食」についての知識を身につけ、英会話練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回範囲の暗唱の練習 (事後) テキストのp.72、p.74、p.76、p.78、p.80、p.82を10回以上音読。次回、発表。テスト勉強。
第7回	観光MAPづくり 第3章「京都の厳選ルート」 清水寺、地主神社、錦市場、祇園、他	(学修内容) 各自の京都での行きたいところ・おススメのスポットについて調べる 京都の名所について、英語で学び、英会話練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回範囲の暗唱の練習 (事後) テキストの第3章から各自で選んだページをそれぞれ10回以上声に出して読む。次々回、発表。
第8回	フィールドワーク Sign Collecting Challenge (天候・その他の理由により、日程が多少前後することがある)	(学修内容) 知恩院から清水寺まで、看板を探しながら歩き、看板の英語での説明をメモや写真で記録する 各自で探してきた看板の内容を交流する (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後) 各自、探して記録をとった看板の英語の意味を調べ、日本語でも英語でも説明できるようにしておく。テスト勉強。
第9回	フィールドワーク Sign Collection 成果発表 第4章「京都の行事」 葵祭、祇園祭、五山の送り火、時代祭、能と狂言	(学修内容) 各自で探してきた看板をプレゼンテーションで発表して交流する 京都の行事について、英語で学び、英会話練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) プレゼンテーション準備。 (事後) テキストの第4章から各自で選んだページをそれぞれ10回以上声に出して読む。次回、発表。
第10回	接客サービス(コンビニやレストランなど)での英会話 第5章「京都を体験」 友禅染、西陣織、清水焼、茶の湯、華道	(学修内容) コンビニやレストランなどで使える英会話表現を学び、英会話練習 京都のできる体験について、学び、英会話練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回範囲の暗唱の練習 (事後) テキストのp.158、p.160、p.162、p.164、p.166を10回以上音読。次回、発表。テスト勉強。
第11回	交通機関の券売機や電化製品の使用方法の説明 第5章「京都を体験」 座禅、尼僧体験、保津川下り、鞍馬の温泉、おみくじ	(学修内容) 各種「取扱説明書」の英語を読んで表現を学ぶ 京都のできる体験について、学び、英会話練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回範囲の暗唱の練習 (事後) テキストのp.168、p.170、p.172、p.174、p.176を10回以上声に出して読む。次々回、発表。
第12回	フィールドワーク Interview Challenge (天候・その他の理由により、日程が多少前後することがある)	(学修内容) グループで京都市内にて外国人にインタビューを行う インタビューして聞き取った内容をメモしておく (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) インタビューで話したい・聞きたい内容・英文を10個書き出しておく。 (事後) 聞き取った内容を記録しておく
第13回	フィールドワーク Interview Challenge 成果発表 YouTube視聴によるリスニング練習	(学修内容) 各グループのインタビュー内容を発表して交流する YouTube等を活用した英語学習法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) インタビューで聞いた内容をまとめておく (事後) 前々回の範囲の「覚えておきたい語句・表現」のテスト勉強。
第14回	英語レポートの基本 第6章「京都のおみやげ」 和服、風呂敷、陶磁器、漆器、扇子、お香	(学修内容) 英語でのレポートの書き方の基本を学ぶ 京都のおみやげについて知り、英会話練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事後) テキストのp.180、p.182、p.184、p.186、p.188、p.190をそれぞれ10回以上声に出して読む。次回、発表。テスト勉強。
第15回	英語レポートの練習 第6章「京都のおみやげ」 竹細工、骨董品、和紙、お守り、藍染	(学修内容) 京都の名所や名産品で各自の好きなものについて、英語で書く練習 京都のおみやげについて知り、英会話練習 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回範囲の暗唱の練習 (事後) テキストのp.192、p.194、p.196、p.198、p.200を10回以上音読。試験に向けてレポートの練習。



授 業 名	アジアの文化			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	IC2335
英 文 名	Asian Culture			開講 時期	秋学期	必修 選択	必修 選択		
担 当 者	伊藤 茂樹			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	私たちの日本は、東アジアに位置しています。まわりが海に囲まれた島国日本も、アジア各国の様々な文化が伝来しています。歴史的な見地からアジアの文化を学びます。								
学修成果 到達目標	1) アジアの文化の意義を考える。 2) 文化交流史を理解する。 3) アジア文化における日本の地位を理解する。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 60% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 40% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	必要に応じてプリントで配布します。								
参 考 書	授業中に適宜紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	作成したレジュメにコメントや訂正を加える。また、フィールドワークでは適宜補足や説明を行う								
留意事項	わからない事は積極的に質問してください。またフィールドワーク先は、社会状況や行先の都合で変更する場合があります。								
オフィス アワー	後日研究室の扉に掲示します。								
実践的教育									

授業名	アジアの文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	アジアの文化とは何か？	(学修内容) アジアの文化とは何かを概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第2回	東アジアについて	(学修内容) 日本を含む東シナ海周囲の国々は東アジアとされます。東アジアを特色づけるものは何か。その特色を概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 授業の内容を整理し、関心のある内容を探してください。
第3回	仏教東漸	(学修内容) 仏教はインドで生まれ、シルクロードを通し、中国、朝鮮半島を経由し日本に伝来しました。仏教伝来について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第4回	仏教伝来について	(学修内容) 日本への仏教伝来の過程について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第5回	フィールドワーク 四天王寺	(学修内容) 四天王寺にフィールドワークで行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) フィールドワーク先を調べてください (事後) フィールドワークでの発見をまとめてください。
第6回	フィールドワーク(事後学習)	(学修内容) F Wで発見したことや関心の持ったことをまとめて発表してもらいます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表した内容を確認し、レポートで提出してもらいます。
第7回	アジア文化交流史	(学修内容) シルクロードを通して、中国へは世界の様々な文化が伝来しました。シルクロードを通じた文化交流史を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第8回	日中交流史 遣隋使	(学修内容) 隋の誕生と遣隋使について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第9回	日中交流史 遣唐使	(学修内容) 唐の誕生と遣唐使について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第10回	フィールドワーク	(学修内容) 日中交流史に関連のある場所にフィールドワークに行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) フィールドワークで得た知見をまとめてください。
第11回	冊封体制について	(学修内容) 古代東アジアについて学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第12回	唐滅亡後の東アジア文化	(学修内容) 唐滅亡後の東アジア文化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第13回	国風文化	(学修内容) 894年の遣唐使廃止後、日本は独自の文化を発達させていきます。国風文化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第14回	フィールドワーク	(学修内容) 国風文化に関連のある場所にフィールドワークで行きます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) (事前) 行き先を調べる (事後) フィールドワークで得た知見をまとめる
第15回	授業の総括	(学修内容) これまでの授業の内容をまとめます。 (事前事後学修課題の内容) (60分) 関心のあることをまとめてレポートで提出してもらいます。

授 業 名	国際理解			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	IC2327
英 文 名	International Understanding			開講 時期	春学期	必修 選択	選択		
担 当 者	秋山 裕之			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>グローバル化の進む現在、世界全体が一つのシステムに統合されつつあるように見える局面がある。しかし、今なお国家、あるいは近隣国家群（地域）において、それぞれの風土、歴史、民族、宗教、文化などに由来する独自性が息づいている。本講義ではそれらを地域別に概観し、世界の多様性に関する知識を得て、諸外国に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>とくに植民地時代の宗主国の影響に焦点を当てる。</p> <p>学期の終盤でグループワークによるプレゼンテーションを行う。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 世界の諸国・諸地域の現状について、歴史的な経緯を含めた教養を身につける。  2) 様々な事柄について、国際的な視野のもとで考えることができる。  3) 調べ学習を通して、世界の多様性についての理解を深めることができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 (		課題発見・解決能力 ) ( )		
テキスト	なし。毎回資料を配付する。								
参 考 書	適宜紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	メール等で質問を受け付け、次回授業で返答する。								
留意事項	グループワーク等への積極的な関わりを求めます。毎回事前学習としてキーワードの予習をしてもらいます。毎回しっかり予習して平常点を得ることにより、単位取得が容易になります。								
オフィス アワー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は3号館4階学生演習室にて掲示。								
実践的教育									

授業名	国際理解	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：知識の確認	(学修内容)世界の国々に関するクイズ (事前事後学修課題の内容)(10分) シラバスをしっかりと読んでくる
第2回	国とは	(学修内容)国の定義、国境、民族、言語などの関係 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：国家
第3回	東アジア	(学修内容)東アジアの近現代、台湾情勢 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：漢字文化圏、台湾
第4回	東南アジア	(学修内容)東南アジアの近現代 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：ASEAN
第5回	オセアニア	(学修内容)オセアニアの歴史と現在 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：ポリネシア、ミクロネシア、メラネシア
第6回	インド・イスラム	(学修内容)インドとイスラムを取り巻く国際情勢 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：イスラム教、インド・パキスタン関係
第7回	サハラ以南アフリカ	(学修内容)アフリカの歴史と現在 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：アフリカ分割、奴隷貿易
第8回	中南米	(学修内容)中南米の近現代 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：ラテンアメリカ、インカ帝国
第9回	北米	(学修内容)アメリカの成り立ち (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：アメリカ独立戦争、南北戦争
第10回	ヨーロッパ(1)	(学修内容)ヨーロッパの国々の概要 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：北欧、旧東欧
第11回	ヨーロッパ(2)	(学修内容)冷戦後のヨーロッパ情勢 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：NATO、EU
第12回	戦争・紛争	(学修内容)人類と戦争、その歴史と現在 (事前事後学修課題の内容)(30分) キーワード予習：戦争、紛争
第13回	世界のことについて調べ学習	(学修内容)グループに分かれて国際的な多様性を知るための調べ学習を行う。グループのテーマ決定、役割分担、下調べなど。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事前：調べ学習のテーマをいくつか考えてくる
第14回	復習テスト	(学修内容)これまでの授業で取り上げた事柄をクイズ形式で出題、その解答と解説 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前：これまでの総復習
第15回	発表「多様な世界」	(学修内容)グループワークの成果をパワーポイントを用いて発表 (事前事後学修課題の内容)(120分) 事前：発表用の資料を完成させて、担当者にメール添付にて送信

授 業 名	比較文化			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1206
英 文 名	Comperative Culture			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	秋山 裕之			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	文化の定義を概観したのち、いくつかのトピックを通してそれらがいかに多様であるかを示す。学生どうしでのディスカッションを通して多様性への理解を深め、自身の視点を相対化・客体化できるようになることを目指す。文化について包括的に考察し、その多様性を尊重することができるようになるための材料を提示したい。								
学修成果 到達目標	1) 価値観の多様性や文化的偏見について理解を深める。 2) 文化を比較することで得られる知見にどのような意義があるかを見出すことができる。 3) 多様な物差しがあることを意識したうえで価値判断ができるようになる。								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	指定しない。配付資料あり。								
参 考 書	電通総研日本リサーチセンター（編）『世界主要国価値観データブック』同友館 2008年								
課題に対する フィードバック の方法	コミュニケーションペーパーやメール等で寄せられた質問に対して次回授業で回答する。								
留意事項	事前課題はClassroomに掲出するFormで提出することが多い。 最後はグループでGoogleスライド（予定）を用いた発表を行う予定だが、受講生が少数の場合は個人による発表となる。								
オフィス アワー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は現代家政学科学学生演習室にて掲示。								
実践的教育									

授業名	比較文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 文化とは何か	(学修内容) 講義スケジュール、文化の定義 (事前事後学修課題の内容) (10分) シラバスをしっかりと読んで理解し、質問事項があれば準備する
第2回	小さな比較の実践	(学修内容) 小グループでディスカッション (事前事後学修課題の内容) (30分) 比較するテーマを考える
第3回	名付けの文化1 海外の名付け	(学修内容) ブッシュマンの名付け、諸外国の名付け (事前事後学修課題の内容) (30分) 自分の名前の由来を確認する
第4回	名付けの文化2 日本の名付け	(学修内容) 日本の名付けのバリエーションと変化について (事前事後学修課題の内容) (30分) 子にどんな名を付けたいか考える
第5回	混ざり合う文化1 明治期の日本文化	(学修内容) 明治期の日本文化にみられる諸外国の影響 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習キーワード: 文明開化、脱亜入欧、和魂洋才
第6回	混ざり合う文化2 明治期の芸術分野	(学修内容) 現代日本文化 <から/へ> の影響 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習キーワード: ジャポニスム、アール・ヌーヴォー
第7回	植民地主義と文化侵略	(学修内容) アフリカにおける植民地主義の影響 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習キーワード: 帝国主義、植民地主義
第8回	文化の画一化	(学修内容) 文化のグローバリゼーション (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習キーワード: アメリカニゼーション、ソフト・パワー
第9回	海外文化とステレオタイプ	(学修内容) 外国文化に対するステレオタイプと偏見 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習キーワード: 自文化中心主義、文化相対主義
第10回	文化の盗用	(学修内容) 文化盗用と支配-被支配の歴史 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習キーワード: 文化の盗用
第11回	価値観の多国間比較1 重要度	(学修内容) 生活における重要度の多国間比較(グループ討議) (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習キーワード: 世界価値観調査
第12回	価値観の多国間比較2 信頼度	(学修内容) 信頼度の多国間比較(グループ討議) (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習キーワード: 一般的信頼
第13回	価値観の多国間比較3 家庭教育で重視すべきこと	(学修内容) 幸福度・満足度・家庭教育の多国間比較(グループ討議) (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習キーワード: 幸福度、生活満足度
第14回	比較文化を行うために	(学修内容) 定量データと定性データ、グループ発表の準備 (事前事後学修課題の内容) (30分) 予習キーワード: 定量データ、定性データ(30分)
第15回	比較文化グループ発表	(学修内容) グループごとに比較文化した内容を発表する (事前事後学修課題の内容) (60分) 発表準備(Googleスライド)

授 業 名	多文化共生を考える			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1205
英 文 名	Intercultural Cohesion			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	松尾 章子			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>総務省（2006）は、「多文化共生」を「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」としている。交通手段や通信の飛躍的な発展に伴い、日本と世界との距離はとて近くなり、日本社会で暮らす外国人も増えている。本授業では、主に異文化コミュニケーションの基礎知識を学び、それを毎日の生活に活用するという視点から多文化共生を考えていく。周りの日本人とのコミュニケーション自体が異文化であることにも気づいてもらいたい。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 多文化共生・異文化コミュニケーションの基礎概念について簡単に説明できる。  2) 多文化共生社会を目指す日本の課題を指摘することができる。  3) 多文化共生を目指す地域社会のあり方や課題について意見を述べることができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	原沢伊都夫著 『異文化理解入門』 研究社 2013年								
参 考 書	必要に応じて授業内で紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については、コメントを付して返却します。								
留意事項	積極的な授業参加を期待します。								
オフィス アワー	研究室前に日時を掲示しますので確認してください。								
実践的教育									

授業名	多文化共生を考える	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	日本のグローバル化と多文化共生	(学修内容) 授業の進め方・到達目標の説明・自己紹介 人の移動と文化・社会の多様性 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの1章を読む。 事後: 授業内容を振り返りまとめる。
第2回	文化・異文化・多文化とは	(学修内容) 冰山モデル、トータルカルチャーとサブカルチャー (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの2章、3章を読む。 事後: 授業内容を振り返りまとめる。
第3回	異文化適応	(学修内容) カルチャーショック、U字・W字曲線 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの4章を読む。 事後: 授業内容を振り返りまとめる。
第4回	シミュレーション	(学修内容) パーキング体験 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 授業内容を振り返り、感想を書いて提出する。
第5回	違いに気づく	(学修内容) 自文化中心主義、文化相対主義 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの6章を読む。 事後: 授業内容を振り返りまとめる。
第6回	異文化の認識	(学修内容) 固定概念、ステレオタイプ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの7章を読む。 事後: 授業内容を振り返りまとめる。
第7回	差別を考える	(学修内容) イメージ、ステレオタイプ、偏見 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの8章を読む。 事後: 授業内容を振り返りまとめる。
第8回	世界の価値観	(学修内容) 価値観、対立 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの9章を読む。 事後: 授業内容を振り返りまとめる。
第9回	異文化トレーニング	(学修内容) ケースステディ、ロールプレイ他 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 授業内容を振り返り、感想を書いて提出する。
第10回	異文化受容	(学修内容) 異文化受容の5つのステージ (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの11章を読む。 事後: 授業内容を振り返りまとめる。
第11回	自分を知る	(学修内容) アイデンティティ、ジョハリの窓 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの12章を読む。 事後: 授業内容を振り返りまとめる。
第12回	コミュニケーション	(学修内容) 非言語コミュニケーション、高コンテキスト文化・低コンテキスト文化 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキストの13章を読む。 事後: 授業内容を振り返りまとめる。
第13回	アサーティブ・コミュニケーション	(学修内容) グループワーク (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 授業内容を振り返り、感想を書いて提出する。
第14回	「やさしい日本語」(調整により、日時の変更有)	(学修内容) 「やさしい日本語」の内容と表現 (事前事後学修課題の内容) (60分) 事後: 授業内容を振り返り、感想を書いて提出する。
第15回	多文化共生社会の実現に向けて	(学修内容) 授業で学んで内容を振り返り、多文化共生社会の実現に向けて考える (事前事後学修課題の内容) (60分) 事前: テキスト第15章を読む。 事後: レポート試験に向けて準備する。



授 業 名	多文化交流体験			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	IC2433
英 文 名	Multicultural Exchange Experience			開講 時期	秋学期	必修 選択		選択	
担 当 者	松尾 章子			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	<p>変化の激しい現代社会を理解するには、基礎的・専門的な知識を身につけるだけでなく、それらを活用し応用する能力が必要となる。グローバル化の進む現在、様々な背景や文化を持つ人々と円滑にコミュニケーションをとるスキルが求められ、異文化に対する理解や協調性・柔軟性が不可欠となるため、多文化交流を体験し現代社会で必要とされるスキルを身につける。</p>								
学修成果 到達目標	<p>1) 「やさしい日本語」を意識して話すことができる。 2) 文化的背景が異なる人と交流し、話を続けることができる。 3) 世界の異なる文化を3つ紹介することができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (		
テキスト	なし。必要に応じて資料を配布します。								
参 考 書	必要に応じて授業内で紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については都度コメントをします。								
留意事項	人とのコミュニケーションが中心となる授業ですので、積極的な授業参加を期待します。								
オフィス アワー	研究室前に掲示しますので確認してください。								
実践的教育	<p>実践的教育 教員の実務経験など：海外在住歴9年</p>								

授業名	多文化交流体験	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 異文化、多文化とは	(学修内容)「異文化」「多文化」の言葉の違い、交流内容について説明 (事前事後学修課題の内容)(30分) 事後:授業内容の振り返りとまとめ
第2回	「やさしい日本語」	(学修内容)「やさしい日本語」の練習 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:「やさしい日本語」復習 事後:「やさしい日本語」書き換え練習
第3回	交流準備 コミュニケーション	(学修内容)コミュニケーションスタイルや異文化コミュニケーションについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:授業内容の振り返りとまとめ
第4回	多文化交流 (調整により、日程変更の可能性有)	(学修内容)多文化交流体験 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:交流についての意見・感想提出
第5回	交流振り返り 交流後の意見・感想の共有(交流実施日より、日程変更の可能性有)	(学修内容)交流体験(特にコミュニケーション)について共有し考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:交流振り返り、授業での共有内容検討 事後:交流についての意見・感想提出
第6回	世界の文化(調べる)	(学修内容)世界の異なる文化について調べる。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:授業内容のまとめ提出
第7回	世界の文化(プレゼン準備)	(学修内容)発表する内容をまとめ、資料を作成する。 (事前事後学修課題の内容)(80分) 事後:発表内容まとめと資料作成
第8回	交流準備 アイデンティティ	(学修内容)移動する人々と国籍、アイデンティティについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:授業内容の振り返りとまとめ
第9回	多文化交流 (調整により、日程変更の可能性有)	(学修内容)多文化交流体験 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:交流についての意見・感想提出
第10回	交流振り返り 交流後の意見・感想の共有(交流実施日より、日程変更の可能性有)	(学修内容)交流体験(特にアイデンティティ)について共有し考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:交流振り返り、授業での共有内容検討 事後:交流についての意見・感想提出
第11回	世界の文化(プレゼンテーション)	(学修内容)世界の文化について発表 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:発表準備 事後:資料を修正して提出
第12回	交流準備 現代の移民政策	(学修内容)日本の移民政策について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:授業内容の振り返りとまとめ
第13回	多文化交流 (調整により、日程変更の可能性有)	(学修内容)多文化交流体験 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事後:交流についての意見・感想提出
第14回	交流振り返り 交流後の意見・感想の共有(交流実施日より、日程変更の可能性有)	(学修内容)交流体験(特に在住資格)について共有し考える。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:交流振り返り、授業での共有内容検討 事後:交流についての意見・感想提出
第15回	まとめ	(学修内容)総復習を行う。 (事前事後学修課題の内容)(60分) 事前:授業で学んだ内容の復習 事後:レポート提出の準備

授 業 名	エスニシティと共生			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1316
英 文 名	Ethnic Diversity and Social Cohesion			開講 時期	秋学期	必修 選択	選択		
担 当 者	全 炳昊			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	<p>エスニシティは、それが使われる国や地域、集団、時代に応じて指し示す意味内容が違ってくる、多義的な概念である。エスニシティの多義性について理解してもらうために、授業では、在日コリアンの歴史と文化、そして現在を中心テーマに設定している。日本社会におけるサブ異文化集団（マイノリティーor非主流or周辺人）としての生活を余儀なくされた在日コリアンの歴史を通して、彼ら独自の生活様式や文化が如何にしてサブカルチャーとして定着したのか、その展開過程に注目する。授業の流れとしては、導入としてのエスニシティに対する理解を図るための理論的背景から、在日コリアンの歴史と文化、そして彼らの生活様式がどのように維持・変化してきたかについて考察する。合わせて後半に至っては、様々な異文化（ブラジル・中国・ベトナム）の様相を比較・考察することで、日本社会における「多文化共生」の可能性について考えてみたい。</p>								
学修成果 到達目標	<p>エスニシティの多義性について理解することができる。 在日コリアンの歴史と文化、生活様式について理解することができる。 多文化共生の可能性に対する自分なりの見解を示すことができる。</p>								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用（双方向型授業）		グループワーク I C T 活用（自主学習支援）		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 授業態度・参加意欲 ( 自発的に発言すること )			課題発見・解決能力 ( 論理的に文章を書くこと )				
テキスト	特に指定しません。								
参 考 書	伊奈正人(1999)『サブカルチャーの社会学』世界思想社 尹健次(2015)『「在日」の精神史1・2・3』岩波書店								
課題に対する フィードバック の方法	GoogleClassroom、またはメールにて対応いたします。 postjeon@gmail.com								
留意事項	事前学習は必要ありませんが、毎回の講義時に出されるワークシートは自分の言葉で作成し、必ず提出すること。								
オフィス アワー	授業時間前後に限って、控え室などに在室します。 その他、授業関連の相談などには、メールにて対応いたします。								
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：映画配給会社にて、日本語と韓国語の翻訳・通訳に関する企画および運用の統括として勤務。 企業と行政の現場における通訳業務に携わる。								

授業名	エスニシティと共生	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・「エスニシティ」が意味するもの：講義概要と進行の流れ	(学修内容)なぜ、「在日コリアン」に注目するのか。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日常的な関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第2回	エスニシティとは何か - エスニシティの正体	(学修内容)様々なサブカルチャーの様相 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日常的な関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第3回	エスニシティとは何か - 理論的アプローチ	(学修内容)「イデオロギー」としてのエスニシティ 「ポスト・モダン」なエスニシティ (事前事後学修課題の内容)(30分) 日常的な関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第4回	エスニシティとは何か - 実態としてのエスニシティ	(学修内容)エスニシティの担い手は誰なのか。 地域と集団、そして時代から考えるエスニシティの実像 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日常的な関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第5回	「在日」を生きる - オールドカマーとニューカマー	(学修内容)在日コリアンの歴史を考える。 (グループワークで思いを共有する) (事前事後学修課題の内容)(30分) 日常的な関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第6回	「在日」を生きる - 映しだされる「在日」(1) : 映画の中の在日「表象」	(学修内容)映画の素材としての「在日」を考える。 (DVD教材などを使った鑑賞会を行う) (事前事後学修課題の内容)(30分) 日常的な関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第7回	「在日」を生きる - 映画解説および分析	(学修内容)映画の素材としての「在日」を語る。 (グループワークで思いを共有する/プレゼンを行う) (事前事後学修課題の内容)(30分) 映画に対するコメントを用意すること。(A4-1枚程度)
第8回	「在日」を生きる - 映しだされる「在日」(2) : 映画の中の在日、家族、そして日本社会	(学修内容)映画の素材としての「在日」を考える。 (DVD教材などを使った鑑賞会を行う) (事前事後学修課題の内容)(30分) 日常的な関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第9回	「在日」を生きる - 映画解説および分析	(学修内容)映画の素材としての「在日」を語る。 (グループワークで思いを共有する/プレゼンを行う) (事前事後学修課題の内容)(30分) 映画に対するコメントを用意すること。(A4-1枚程度)
第10回	「在日」を生きる - 在日コリアンの文化と生活様式	(学修内容)地域文化としての「在日」 民族教育はいかに継続するのか。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日常的な関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第11回	「在日」を生きる - 日本人と韓国・朝鮮人と在日	(学修内容)在日コリアンにとって、「アイデンティティ」とは何か。 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日常的な関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第12回	「在日」の様相 - 在日ブラジル人の場合	(学修内容)地域と集団、そして文化 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日常的な関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第13回	「在日」の様相 - 在日中国人の場合	(学修内容)地域と集団、そして文化 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日常的な関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第14回	「在日」の様相 - 在日ベトナム人の場合	(学修内容)地域と集団、そして文化 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日常的な関わりについて、毎回、コメントの準備をしておくこと。
第15回	成果報告および総括	(学修内容)「在日」との出会いから見えるもの(課題および報告会) (GWの成果としてプレゼンを行う) (事前事後学修課題の内容)(60分) 報告会の準備をしておくこと。

授 業 名	社会参加とボランティア			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1304
英 文 名	Social Participation and Volunteering			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	新矢 昌昭			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	現在、ボランティアを通して、社会問題を考えることや地域を考えることに繋がると捉えられている。本講義では、ボランティアとは何かを解説し、事例としてのボランティアを紹介する。また、実際にボランティアへ参加することを通して、社会や地域の問題を考える。								
学修成果 到達目標	1) ボランティアとは何かを考える 2) ボランティアと社会や地域を学ぶ 3) ボランティアを体験する								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能					
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	PBL 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート ICT活用(双方向型授業)		グループワーク ICT活用(自主学習支援)		プレゼンテーション		
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )		課題発見・解決能力 ( )		
テキスト	使用しない								
参 考 書	プリントを配布する								
課題に対する フィードバック の方法	グループワーク、発表へのコメントを加える								
留意事項	単位は、実際にボランティアに参加しないと授与できない ボランティアの参加地や日時は、調整が取れ次第報告するので、講義回数について変更の可能性はある。								
オフィス アワー	研究室の扉に掲示								
実践的教育									

授業名	社会参加とボランティア	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義は、どのようなことをするのか (事前事後学修課題の内容) (15分) シラバスを読んでおく
第2回	ボランティアの歴史	(学修内容) ボランティアの誕生 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第3回	ボランティアと現代社会	(学修内容) 何故、ボランティアは必要なのか (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第4回	ボランティアの事例(震災)	(学修内容) 震災ボランティアについて (事前事後学修課題の内容) (30分) 震災について調べておく
第5回	ボランティアの事例(貧困問題)	(学修内容) 貧困問題とボランティア (事前事後学修課題の内容) (30分) 貧困問題について調べておく
第6回	社会参加とは何か	(学修内容) 社会参加と社会的排除 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第7回	社会貢献とボランティア	(学修内容) 企業の社会貢献活動 (事前事後学修課題の内容) (30分) 社会貢献をしている企業のホームページを読んでおく
第8回	ボランティア実施地の概要	(学修内容) 実際に行うボランティアの解説 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第9回	ボランティア実施と注意点	(学修内容) ボランティアを行う際の注意点 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第10回	事前学習1回目	(学修内容) グループ1による事前発表 (事前事後学修課題の内容) (30分) レジュメの作成
第11回	ボランティア活動の参加1回目	(学修内容) ボランティアの参加、体験1回目 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第12回	事後学習1回目	(学修内容) グループ1による事後発表 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第13回	事前学習2回目	(学修内容) グループ2による事前発表 (事前事後学修課題の内容) (30分) レジュメの作成
第14回	ボランティア活動の参加2回目	(学修内容) ボランティアの参加、体験2回目 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく
第15回	事後学習2回目	(学修内容) グループ2による事後発表 (事前事後学修課題の内容) (30分) 配布プリントを読んでおく

授 業 名	世界遺産		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1317
英 文 名	World Heritage		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	久保 美智代		対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	世界遺産は、美しい自然、歴史ある町や建物、人々の営みから生まれた景観など、「顕著で普遍的な価値」をもつもので、人類共通の財産として守り、未来へ引き継がなければならない。この世界遺産条約がどのようにして誕生し、どのような基準や価値で登録されているのか、なぜ守っていく必要があるのか、どのような課題に直面しているかを国内外の事例を取り上げながら学習する。パワーポイントや現地の映像を用いながら、講義形式で解説。理解を深めるために、グループワークを実施し、発表する。フィールドワークとして、近くの世界遺産に出かける予定。							
学修成果 到達目標	1) 世界遺産についての基本的な知識を習得する 2) 世界遺産がどのような経緯で生まれたのか、なぜ守る必要があるのかを説明できる 3) 世界遺産が直面している課題を、具体的な事例で説明し、解決策を提案できる 4) 世界遺産の活用と保存のバランスを考え、自分なりの未来像を述べるができる							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	知識・理解			汎用的技能				
	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T 活用 ( 双方向型授業 )		グループワーク I C T 活用 ( 自主学習支援 )		プレゼンテーション	
評価方法	定期試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 ( 50% )	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲		コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 ) (		課題発見・解決能力 ) (	
テキスト	「きほんを学ぶ世界遺産100 第4版」マイナビ出版 1600円＋税 978-4-8399-8268-3							
参 考 書	必要があれば、講義内で紹介する							
課題に対する フィードバック の方法	提出物については、確認して返却する							
留意事項	身近にある世界遺産に積極的に足を運び、学習意欲を高めてほしい							
オフィス アワー	担当授業後に質問を受け付ける							
実践的教育	実践的教育 教員の実務経験など：世界遺産をテーマにした講演会を教育機関で開く							

授業名	世界遺産	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	世界遺産とは何か？	(学修内容)世界遺産条約誕生のきっかけと基礎知識  (事前事後学修課題の内容)(30分) テキストの第一章「世界遺産の基礎知識」について読んでおく 好きな世界遺産とその理由を書く
第2回	日本の世界遺産のあゆみ	(学修内容)日本が世界遺産条約に批准した経緯について学ぶ 自分が好きな世界遺産と理由をグループで発表 (事前事後学修課題の内容)(30分) 日本の世界遺産を選び、その価値と理由について考える
第3回	文化的景観について	(学修内容)文化的景観という考え方について学ぶ 調べた内容を紹介し、グループで共有する (事前事後学修課題の内容)(30分) 身近な文化的景観について調べる
第4回	産業遺産について	(学修内容)産業遺産の紹介と直面している課題について学ぶ 調べた内容を紹介し、グループで共有する (事前事後学修課題の内容)(30分) 産業遺産にはどのようなものがあるか調べる
第5回	「古都京都の文化財」について フィールドワークのための事前学習 (状況により内容の変更あり)	(学修内容)「古都京都の文化財」について学ぶ フィールドワークに向けてのテーマやグループ分けなどして準備をする (事前事後学修課題の内容)(30分) 「古都京都の文化財」について調べる
第6回	フィールドワーク (状況・調整により、実施場所・日時の変更有)	(学修内容)フィールドワークを実施する  (事前事後学修課題の内容)(30分) 自分のテーマと課題を決めてまとめておく
第7回	フィールドワーク (状況・調整により、実施場所・日時の変更有)	(学修内容)フィールドワークを実施する  (事前事後学修課題の内容)(30分) グループで発表できる用意をする
第8回	フィールドワークの事後学修 (プレゼンテーション、実施日の変更有)	(学修内容)レジュメやスライドを作成し、発表する  (事前事後学修課題の内容)(60分) 発表に向けて練習する 発表後の振り返りをおこなう
第9回	自然遺産について	(学修内容)自然遺産と環境保全を学ぶ 調べたことを共有し、知識を深める (事前事後学修課題の内容)(30分) 自然遺産はどのようなものがあり、どのように守っているのか調べる
第10回	危機遺産について	(学修内容)危機遺産とは何か？実例をあげて解説する 調べたことを共有し、知識を深める (事前事後学修課題の内容)(30分) 危機遺産にはどのようなものがあり、なぜ危機に瀕しているのか調べる
第11回	負の遺産について	(学修内容)負の遺産とは何か？実例をあげて解説する 調べたことを共有し、知識を深める (事前事後学修課題の内容)(30分) 負の遺産にはどのようなものがあり、どのような理由なのか調べる
第12回	SDGsと世界遺産について (ゲストスピーカー招致の可能性あり)	(学修内容)SDGsの観点から世界遺産の取り組みについて学ぶ 調べた内容を共有し、知識を深める (事前事後学修課題の内容)(30分) 項目の中から興味のあるテーマを選び、それを解決するツアーを考える
第13回	世界遺産ツアーのチラシを作る	(学修内容)自分だけの世界遺産ツアーを考える  (事前事後学修課題の内容)(30分) 旅の行程を調べたり、ツアーの内容を考える
第14回	チラシを分かりやすくデザインする	(学修内容)調べた内容をまとめ、分かりやすくデザインする  (事前事後学修課題の内容)(60分) 世界遺産ツアーのチラシを仕上げ提出する
第15回	チラシを用いて発表	(学修内容)グループに分かれてプレゼンテーションする  (事前事後学修課題の内容)(30分) 発表に向けて練習する



授 業 名	世界の食文化		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Food Culture in the World		開講 時期	春学期	必修 選択		選択	
担 当 者	細辻 珠紀		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	グローバル化が進む現代社会において、世界各国の多様な食文化を理解することは、重要なことである。諸外国の食文化を理解し、和食の伝統的文化を再認識することを目的とする。							
学修成果 到達目標	1) 世界各国をアジア、オセアニア、中東、アフリカ、北米、中南米、ヨーロッパ、ロシアの各地域に分けて、代表的な国の食文化を理解する。 2) 歴史的な背景・地域の風土・食材・食事と食習慣等を知り、食文化についての理解を深める。 3) 世界の食文化を理解し、日本の和食文化を見直し、和食文化の継承についての問題点と取り組みを考える。							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解		汎用的技能				
		態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	P B L 実習・フィールドワーク		ディスカッション・ディベート I C T活用(双方向型授業)	グループワーク I C T活用(自主学習支援)	プレゼンテーション			
評価方法	定期試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50%)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価 観点	知識・理解 授業態度・参加意欲	コミュニケーション能力 (	プレゼンテーション能力 )	課題発見・解決能力 (	)		
テキスト	特に使用しない。 適宜プリントを配布する。							
参 考 書	世界の食文化全21巻(全20巻+別巻) 出版:農文協							
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは確認のうえ、返却する。							
留意事項	DVDを利用して、授業の中で視聴する場合がある。							
オフィス アワー	初回到授業で指示する。							
実践的教育								

授業名	世界の食文化	
授業計画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方、世界の食文化について考える (事前事後学修課題の内容)(60分) 韓国の食文化を調べる
第2回	アジアの食文化 韓国の食文化	(学修内容) 韓国の食文化を歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学び、発表する (事前事後学修課題の内容)(60分) 中国の食文化を調べる
第3回	アジアの食文化 中国・モンゴルの食文化	(学修内容) 中国・モンゴルの食文化を歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 東南アジアの食文化を調べる
第4回	アジアの食文化 東南アジアの食文化	(学修内容) 東南アジア(タイ、インドネシア、ベトナム等)の食文化を歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) オーストラリア・ニュージーランドの食文化を調べる
第5回	オセアニアの食文化 オーストラリアの食文化 ニュージーランドの食文化	(学修内容) オセアニア(オーストラリア・ニュージーランド)の食文化を歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) インドの食文化、トルコの食文化について調べる
第6回	中東の食文化 インドの食文化 トルコの食文化	(学修内容) 世界の三大食文化の一つのトルコの食文化とインドの食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) アフリカの食文化について調べる
第7回	アフリカの食文化	(学修内容) アフリカの食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 北米の食文化について調べる
第8回	北米の食文化 アメリカの食文化	(学修内容) 北米の食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 中南米の食文化について調べる
第9回	中南米の食文化	(学修内容) 中南米の食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) イタリアの食文化について調べる
第10回	ヨーロッパの食文化 イタリアの食文化	(学修内容) イタリアの食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) フランスの食文化について調べる
第11回	ヨーロッパの食文化 フランスの食文化	(学修内容) フランスの食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) スペインの食文化について調べる
第12回	ヨーロッパの食文化 スペインの食文化	(学修内容) スペインの食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) イギリス・ドイツの食文化について調べる
第13回	ヨーロッパの食文化 イギリスの食文化 ドイツの食文化	(学修内容) イギリス・ドイツの食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) ロシアの食文化について調べる
第14回	ロシア・極北の食文化	(学修内容) ロシア・極北の食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(60分) 和食文化について世界との違いをまとめる
第15回	世界から見た和食文化	(学修内容) 世界の食文化を土台として和食文化を継承の課題について学ぶ (事前事後学修課題の内容)(30分) 今、なぜ、和食文化の継承に危機感がもたれているか、われわれが今後なすべきことは何かを考える